

2004年度

英語学科シラバス

獨協大学

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

英語学科のカリキュラムは入学年度により3種類に分かれています。「2001年度以前入学者」「2002年度入学者」「2003年度以降入学者」です。各自の入学年度に従い、目次を確認してください。

シラバスの見方は次のとおりです。

入学年度による。

① 適用年度 適用年度 適用年度	② 科目名 科目名 科目名	③ 担当者
④ ◆講義目的 講義概要		⑦ ◆授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
【 春学期 】		
⑤ ◆評価方法		
⑥ ◆テキスト 参考文献		

*上段は、春学期科目です。

- ①② 入学年度により科目が異なります。
- ③ 担当教員氏名
- ④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
- ⑤ a 科目は春学期終了時に成績評価が出ます。
b 科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。
- ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
- ⑦ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。

適用年度 適用年度 適用年度	科目名 科目名 科目名	担当者
◆講義目的 講義概要		◆授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
【 秋学期 】		
◆評価方法		
◆テキスト 参考文献		

*下段は、秋学期科目です。
各項目については、春学期と同一です。

目 次 (2003 年度以降入学者)

学科基礎科目

英語部門 <a,b セット履修!>

Speech Communication a,b	各担当教員	1
Advanced Speech Communication a,b	各担当教員	2
英語ライティング・ストラテジーズ a,b	各担当教員	3
英語パワハラライティング a,b	各担当教員	4
英語リーディング・ストラテジーズ a,b	各担当教員	5
Reading Comprehension a,b	各担当教員	6
Honors English 1 a,b	各担当教員	9
Honors English 2		
a,b	E.CARNEY	10
a,b	J.J.DUGGAN	11
a,b	N.H.JOST	12
a,b	T.HILL	13
a,b	T.MURPHEY	14
英語専門講読入門		
a,b	浅岡 千利世	15
a,b	上野 直子	16
a,b	大西 雅行	17
a,b	川崎 潔	18
a,b	北澤 滋久	19
a,b	工藤 和宏	20
a,b	児嶋 一男	21
a,b	佐藤 唯行	22
a,b	園部 明彦	23
a,b	高橋 雄一郎	24
a,b	原 成吉	25
a,b	福井 嘉彦	26
英語学概論		
a,b	清水 由理子	27
a,b	長谷川 欣祐	28
a,b	府川 謹也	29
{ a	安井 美代子	30
{ b	阿部 一	30
英語圏の文学・文化概論		
{ a	北澤 滋久	31
{ b	高橋 雄一郎	31
{ a	佐藤 勉	32
{ b	島田 啓一	32
{ a	島田 啓一	33
{ b	佐藤 勉	33
{ a	高橋 雄一郎	34
{ b	北澤 滋久	34

文化コミュニケーション概論

{ a	柿田 秀樹	35
{ b	町田 喜義	35
{ a	鍋倉 健悦	36
{ b	柿田 秀樹	36
{ a	町田 喜義	37
{ b	鍋倉 健悦	37

国際コミュニケーション概論

{ a	金子 芳樹	38
{ b	永野 隆行	38
{ a	永野 隆行	39
{ b	八丁 由比	39
{ a	八丁 由比	40
{ b	金子 芳樹	40

英語音声学

.....	(半) 大竹 孝司	43
.....	(半) 大西 雅行	44

スピーチ・クリニック

.....	(半) 浅岡 千利世	45
.....	(半) 大西 雅行	46
(2年生以上用)【定員】20人	(半) 清水 由理子	47

ペーシック・カルツ・グラマー

.....	(半) 上野 直子	48
.....	(半) 川崎 潔	49
.....	(半) 白鳥 正孝	50

学科共通科目

「英語」部門 <a,bセット履修!>

LEVEL*はTOEIC*・TOEFL*のスコアによって次の3つのレベルに決められています。

LEVEL A・・・TOEIC* 700 点以上・TOEFL* 520 点以上を取得している者

LEVEL B・・・TOEIC* 600 点以上・TOEFL* 480 点以上を取得している者

LEVEL C・・・TOEIC* 500 点以上・TOEFL* 440 点以上を取得している者

LEVELが【既修条件】となっている科目を履修する場合は、TOEIC* または TOEFL*のスコアを証明する書類のコピーを教務課外国語学部担当係まで提出してください。

英語専門講読 a,b <2003 年度入学者>

【既習条件】

英語リディング・ステージズ a,b および Reading Comprehension
a,b または Honors English 1a,b を修得していること。

【定員】32 人

(英・米文学)	E.CARNEY	51
(英米文化)	J.J.DUGGAN	52
(James Joyce)	M.B.HOOD	53
(Language and the Brain)	N.H.JOST	54

(英語学).....	T.HILL.....	55
(Exploring Learning).....	T.MURPHEY.....	56
(英米文化).....	W.J.BENFIELD.....	57
(米国の東アジア政策).....	阿部 純一.....	58
(アメリカ詩—エミリー・ディキンソン—).....	石塚 あおい.....	59
(Reading the Yasukuni Shrine Controversy).....	板場 良久 (秋学期開講).....	60
(カリブの英語作家たち).....	上野 直子.....	61
(T.S.Eliot 精読).....	遠藤 朋之.....	62
(W.P.Kinsella の Indian Stories を読む).....	大木 理恵子.....	63
(英語音声の理論と実践).....	大竹 孝司.....	64
(英語学).....	大西 雅行.....	65
(アメリカにおける黒人文化の流れ).....	岡田 誠一.....	66
(映画批評と哲学).....	柿田 秀樹.....	67
(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係).....	金子 芳樹.....	68
(The Authorized Version を読む).....	川崎 潔.....	69
(異文化コミュニケーション).....	川島 浩美.....	70
(イギリス文学).....	北澤 滋久.....	71
(日本文化とコミュニケーション).....	工藤 和宏.....	72
(オーストラリアの詩).....	国見 晃子.....	73
(英米の現代劇).....	児嶋 一男.....	74
(英語史).....	児玉 仁士.....	75
(アメリカのエスニックヒストリー).....	佐藤 唯行.....	76
(物語を読む).....	佐藤 勉.....	77
(現代アメリカ小説).....	島田 啓一.....	78
(イギリス児童文学).....	白鳥 正孝.....	79
(各種英文ビジネス文書の読み方と実務).....	杉山 晴信.....	80
(Language Teaching).....	鈴木 真奈美.....	81
(一ドライデン).....	園部 明彦.....	82
(日系アメリカ女性作家の声).....	高田 宣子.....	83
(パフォーマンス研究の諸相).....	高橋 雄一郎.....	84
(現代の国際関係).....	竹田 いさみ.....	85
(シェイクスピア).....	東畑 圭信.....	86
(現代国際関係).....	永野 隆行.....	87
(歴史・文化).....	中村 粲.....	88
(実践英語).....	鍋倉 健悦.....	89
(国際関係).....	八丁 由比.....	90
(アメリカ現代詩).....	原 成吉.....	91
(時事英語).....	原口 友子.....	92
(認知言語学入門).....	府川 謹也.....	93
(英米文化).....	福井 嘉彦.....	94
(コミュニケーション論)(異文化間コミュニケーション論).....	町田 喜義.....	95
(英語で日本語の構造を学ぶ).....	安井 美代子.....	96
(現代スコットランド文学).....	山田 修.....	97
(音声学入門).....	米山 聖子.....	98

英作文 a,b <2003 年度入学者>

【既修条件】

英語ライティング・ストラテジーズ a,b または **LVILC** を修得していること。

【定員】 28 人

.....	永野 隆行.....	99
.....	遠藤 朋之.....	100
.....	金谷 優子.....	101
.....	金子 節也.....	102
.....	川崎 潔.....	103
.....	工藤 和宏.....	104
.....	国見 晃子.....	105
.....	鈴木 真奈美.....	106
.....	瀬戸 千尋.....	107
.....	園部 明彦.....	108
.....	東畑 圭信.....	109
.....	中村 粲.....	110
.....	米山 聖子.....	111

英語ライティング a,b <2003 年度入学者>

【既修条件】

英語パラグラフライティング a,b、英作文 a,b または **LVILB** を修得していること。

【定員】 28 人

.....	D.L.BLANKEN.....	112
.....	E.CARNEY.....	113
.....	E.J.NAOUMI.....	114
.....	L.K.HAWKINS.....	115
.....	M.B.HOOD.....	116
.....	P.M.HORNESS.....	117
.....	P.McEVILLY.....	118
.....	R.DURHAM.....	119
.....	R.JONES.....	120

翻訳 a,b <2003 年度入学者>

【既修条件】

英語リーディング・ストラテジーズ a,b 及び Reading Comprehension a,b
または Honors English 1a,b、または **LVILC** を修得していること。

【定員】 25 人

.....	遠藤 朋之.....	121
.....	金谷 優子.....	122
.....	工藤 政司.....	123
.....	高田 宣子.....	124

カレッジ・グラマーa,b <2003年度入学者>

【既修条件】

英語リーディング・ステージズ a,b及びReading Comprehension a,b
 またはHonors English 1a,b、または
レベルCを修得していること。

【定員】 32人

.....	児玉 仁士.....	125
.....	佐藤 勉.....	126
.....	府川 謹也.....	127
.....	山田 修.....	128

Communicative English I a,b <2003年度入学者>

【既修条件】

Speech Communication a,bまたは
レベルCを修得していること。

【定員】 28人

.....	C.B.IKEGUCHI.....	129
.....	D.BRADLEY.....	130
.....	D.McCANN.....	131
.....	E.J.NAOUMI.....	132
.....	J.J.DUGGAN.....	133
.....	K.MEEHAN.....	134
.....	M.DEL VECCHIO.....	135
.....	PAPPS.....	136
(水1履修者).....	R.DURHAM.....	137
(水2履修者).....	R.DURHAM.....	138
.....	R.JONES.....	139
.....	R.M.PAYNE.....	140
.....	T.HILL.....	141
.....	W.J.BENFIELD.....	142

Communicative English II a,b <2003年度入学者>

【既修条件】

Advanced Speech Communication a,b, Communicative
 English Ia,b または**レベルB**を修得していること。

【定員】 25人

.....	A.R.FALVO.....	143
.....	C.B.IKEGUCHI.....	144
.....	D.L.BLANKEN.....	145
.....	D.McCANN.....	146
.....	J.J.WALDMAN.....	147
.....	K.MEEHAN.....	148
.....	M.DEL VECCHIO.....	149
.....	N.HAMILTON.....	150
.....	PAPPS.....	151
.....	P.McEVILLY.....	152
.....	R.J.BURROWS.....	153
.....	S.J.CHRISTIE.....	154

Discussion a,b <2003 年度入学者>

【既修条件】

Advanced Speech Communication a,b, Communicative English Ia,,b または **LEVELB** を修得していること。

【定員】 20 人

.....	N.H.JOST	155
.....	R.JONES	156
.....	W.J.BENFIELD	157

Public Speaking I a,b

【既修条件】

Advanced Speech Communication a,b, Communicative English Ia,,b または **LEVELB** を修得していること。

【定員】 25 人

.....	A.R.FALVO	158
.....	E.CARNEY	159
.....	N.H.JOST	160

Public Speaking II a,b <2003 年度の入学者>

【既修条件】

Advanced Speech Communication a,b, Communicative English Ia,,b または **LEVELA** を修得していること。

【定員】 25 人

.....	T.MURPHEY	161
-------	-----------	-----

Debate I a,b

【既修条件】

Advanced Speech Communication a,b, Communicative English I a,b または **LEVELB** を修得していること。

【定員】 25 人

.....	N.H.JOST	162
.....	P.M.HORNESS	163

通訳 I a,b

【既修条件】

Advanced Speech Communication a,b, Communicative English I a,b または **LEVELB** を修得していること。

【定員】 25 人

.....	原口 友子	164
-------	-------	-----

通訳 II a,b <2003 年度の入学者>

【既修条件】

通訳 I または **LEVELA** を修得していること。

【定員】 25 人

.....	原口 友子	165
-------	-------	-----

英語ビジネス・コミュニケーション I a,b <2003 年度入学者>

【既修条件】

英語リーディング・ストラテジーズ a,b および Reading Comprehension a,b または Honors English I a,b, または **LEVELC** を修得していること。

【定員】 50 人

(火 3 履修者).....	海老沢 達郎	166
(金 3 履修者).....	海老沢 達郎	167

(水2履修者)	杉山 晴信	168
(木3履修者)	杉山 晴信	169
.....	信 達郎	170

英語ビジネス・コミュニケーションⅡ a,b <2003年度入学者>

【既修条件】

英語リーディング・ストラテジーズ a,b および Reading Comprehension a,b または Honors English 1、または **レベルB** を修得していること。

【定員】45人

.....	杉山 晴信	171
-------	-------------	-----

メディア英語Ⅰ a,b <2003年度入学者>

【既修条件】

英語リーディング・ストラテジーズ a,b および Reading Comprehension a,b または Honors English 1 a,b、または **レベルC** を修得していること。

【定員】40人

.....	W.J.BENFIELD	172
.....	新井 妥門	173
.....	海老沢 達郎	174
.....	金子 節也	175
.....	工藤 政司	176

メディア英語Ⅱ a,b <2003年度入学者>

【既修条件】

英語リーディング・ストラテジーズ a,b および Reading Comprehension a,b または Honors English 1 a,b、または **レベルB** を修得していること。

【定員】40人

.....	A.R.FALVO	177
.....	新井 妥門	178
.....	川島 浩美	179

シネマ英語 a,b <2003年度入学者>

【既修条件】

英語リーディング・ストラテジーズ a,b および Reading Comprehension a,b または Honors English 1 a,b、または **レベルB** を修得していること。

【定員】35人

(月2履修者)	岡田 誠	180
(月3履修者)	岡田 誠	181
.....	高橋 雄一郎	182

学科専門科目

「言語コミュニケーション」部門

言語情報処理Ⅰ a,b 【定員】55人	長崎 等	189
	吉成 雄一郎	190
言語情報処理Ⅱ a,b 【定員】40人	吉成 雄一郎	191
統語論 a,b	安井 美代子	192
意味論 a	府川 謹也	193
意味論 b	阿部 一	193
音声・音韻論 a,b	大竹 孝司	194
英語史 a,b	児玉 仁士	195

「文学コミュニケーション」部門

英語圏の詩 a	園部 明彦	197
英語圏の詩 b	原 成吉	197
英語圏の演劇 a,b	児嶋 一男	198
英語圏の社会と思想 a,b	福井 嘉彦	202
英語圏の歴史 a,b	佐藤 唯行	203
英語圏のエリアスタディーズ a	高橋 雄一郎、他	204
英語圏のエリアスタディーズ b	児嶋 一男、他	204

「異文化コミュニケーション」部門

異文化間コミュニケーション論 a,b	石井 敏	205
異文化間コミュニケーション論 a,b	鍋倉 健悦	206
マス・コミュニケーション論 a,b	佐々木 輝美	207
スピーチ・コミュニケーション論 a,b	板場 良久 (秋学期開講)	208
スピーチ・コミュニケーション論 a,b	柿田 秀樹	209

「国際コミュニケーション」部門

国際社会論 a	竹田 いさみ	212
国際社会論 b	金子 芳樹	212
国際社会論 a	金子 芳樹	213
国際社会論 b	竹田 いさみ	213
国際関係史 a	八丁 由比	214
国際関係史 b	永野 隆行	214
国際開発協力論 a	竹田 いさみ	215
国際開発協力論 b	金子 芳樹	215

特別セミナー (CAEL)	(半) 安井 美代子	219
---------------	------------	-----

目 次 (2002 年度以前入学者)

学科基礎科目

* 英語部門*

[] の科目は2001 年度以前入学者の科目です。

Speech Communication [英語Ⅲ(SC)]	各担当教員	1
Advanced Speech Communication [英語Ⅲ(ASC)]	各担当教員	2
英語ライティング・ステージーズ [英語Ⅳ(W.S)]	各担当教員	3
英語パラグラフ・ライティング [英語Ⅳ(P.W)]	各担当教員	4
英語リーディング・ステージーズ [英語Ⅰ(R.S)]	各担当教員	5
Reading Comprehension [英語Ⅰ(R.S)]	各担当教員	6
[英語Ⅱ]	中村 稔	7
	福井 嘉彦	8
Honors English 1	各担当教員	9
Honors English 2		
	E.CARNEY	10
	J.J.DUGGAN	11
	N.H.JOST	12
	T.HILL	13
	T.MURPHEY	14
英語専門講読入門		
	浅岡 千利世	15
	上野 直子	16
	大西 雅行	17
	川崎 潔	18
	北澤 滋久	19
	工藤 和宏	20
	児嶋 一男	21
	佐藤 唯行	22
	園部 明彦	23
	高橋 雄一郎	24
	原 成吉	25
	福井 嘉彦	26
英語学概論		
	清水 由理子	27
	長谷川 欣祐	28
	府川 謹也	29
	(春) 安井 美代子	30
	(秋) 阿部 一	
英米文学概論		
	(春) 北澤 滋久	31
	(秋) 高橋 雄一郎	
	(春) 佐藤 勉	32
	(秋) 島田 啓一	

.....	(春) 島田 啓一	33
.....	(秋) 佐藤 勉	
.....	(春) 高橋 雄一郎	34
.....	(秋) 北澤 滋久	
国際コミュニケーション概論(再履修コマ)			
.....	(春) 柿田 秀樹	41
.....	(秋) 永野 隆行	
.....	(春) 永野 隆行	42
.....	(秋) 柿田 秀樹	
英語音声学			
.....	(半) 大竹 孝司	43
.....	(半) 大西 雅行	44
スピーチ・クリニック			
(2年生以上用) 【定員】20人	(半) 清水 由理子	47
学科共通科目			

* 「英語」部門*

LEVEL*はTOEIC*・TOEFL*のスコアによって次の3つのレベルに決められています。

LEVEL A...TOEIC* 700 点以上・TOEFL* 520 点以上を取得している者

LEVEL B...TOEIC* 600 点以上・TOEFL* 480 点以上を取得している者

LEVEL C...TOEIC* 500 点以上・TOEFL* 440 点以上を取得している者

*【既修条件】の科目を修得していない者が、**LEVEL***を【既修条件】として履修登録する場合は、履修登録前にTOEIC*またはTOEFL*のスコアを証明する書類のコピーを教務課外国語学部担当係まで提出してください。

英語専門講読 <2002 年度入学者>

専門講読 <2001 年度以前の入学者>

【既習条件】

<2002 年度入学者> : 英語リーディング・ストラテジーズ及び Reading Comprehension または Honors English 1 を修得していること。

<2001 年度以前の入学者> : 英語 I (Reading Strategies) または (講読) 及び英語 I (Reading Comprehension) または (Reading) を修得していること。

【定員】32 人

(英・米文学)	E.CARNEY	51
(英米文化)	J.J.DUGGAN	52
(James Joyce)	M.B.HOOD	53
(Language and the Brain)	N.H.JOST	54
(英語学)	T.HILL	55
(Exploring Learning)	T.MURPHEY	56
(英米文化)	W.J.BENFIELD	57
(米国の東アジア政策)	阿部 純一	58
(アメリカ詩—エミリー・ディキンソン—)	石塚 あおい	59
(Reading the Yasukuni Shrine Controversy)	板場 良久 (秋学期開講)	60
(カリブの英語作家たち)	上野 直子	61
(T.S.Eliot 精読)	遠藤 朋之	62

(W.P.Kinsella の Indian Stories を読む).....	大木 理恵子.....	63
(英語音声の理論と実践).....	大竹 孝司.....	64
(英語学).....	大西 雅行.....	65
(アメリカにおける黒人文化の流れ).....	岡田 誠一.....	66
(映画批評と哲学).....	柿田 秀樹.....	67
(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係).....	金子 芳樹.....	68
(The Authorized Version を読む).....	川崎 潔.....	69
(異文化コミュニケーション).....	川島 浩美.....	70
(イギリス文学).....	北澤 滋久.....	71
(日本文化とコミュニケーション).....	工藤 和宏.....	72
(オーストラリアの詩).....	国見 晃子.....	73
(英米の現代劇).....	児嶋 一男.....	74
(英語史).....	児玉 仁士.....	75
(アメリカのエスニックヒストリー).....	佐藤 唯行.....	76
(物語を読む).....	佐藤 勉.....	77
(現代アメリカ小説).....	島田 啓一.....	78
(イギリス児童文学).....	白鳥 正孝.....	79
(各種英文ビジネス文書の読み方と実務).....	杉山 晴信.....	80
(Language Teaching).....	鈴木 真奈美.....	81
(一ドライデン).....	園部 明彦.....	82
(日系アメリカ女性作家の声).....	高田 宣子.....	83
(パフォーマンス研究の諸相).....	高橋 雄一郎.....	84
(現代の国際関係).....	竹田 いさみ.....	85
(シェイクスピア).....	東畑 圭信.....	86
(現代国際関係).....	永野 隆行.....	87
(歴史・文化).....	中村 粂.....	88
(実践英語).....	鍋倉 健悦.....	89
(国際関係).....	八丁 由比.....	90
(アメリカ現代詩).....	原 成吉.....	91
(時事英語).....	原口 友子.....	92
(認知言語学入門).....	府川 謹也.....	93
(英米文化).....	福井 嘉彦.....	94
(コミュニケーション論)(異文化間コミュニケーション論).....	町田 喜義.....	95
(英語で日本語の構造を学ぶ).....	安井 美代子.....	96
(現代スコットランド文学).....	山田 修.....	97
(音声学入門).....	米山 聖子.....	98

英作文

【既修条件】

- <2002 年度入学者> : 英語ライティング・ストラテジーズまたは **LEWIC** を修得していること。
 <2001 年度以前の入学者> : 英語IV (Writing Strategies) または (文法・作文) を修得していること。

【定員】 28 人

.....	永野 隆行.....	99
.....	遠藤 朋之.....	100
.....	金谷 優子.....	101
.....	金子 節也.....	102

.....	川崎 潔	103
.....	工藤 和宏	104
.....	国見 晃子	105
.....	鈴木 真奈美	106
.....	瀬戸 千尋	107
.....	園部 明彦	108
.....	東畑 圭信	109
.....	中村 粂	110
.....	米山 聖子	111

英語Iッセイ・ライティング <2002年度入学者>

エッセイ・ライティング <2001年度以前の入学者>

【既修条件】

<2002年度入学者>：英語Iの「ラ」ライティング、英作文または

LEVELを修得していること。

<2001年度以前の入学者>：英語IV (Paragraph Writing) 若しくは (バラ) または英作文を修得していること。

【定員】 28人

.....	D.L.BLANKEN	112
.....	E. CARNEY	113
.....	E.J.NAOUMI	114
.....	L.K.HAWKINS	115
.....	M.B.HOOD	116
.....	P.M.HORNESS	117
.....	P.McEVILLY	118
.....	R.DURHAM	119
.....	R.JONES	120

英日翻訳 <2002年度入学者>

翻訳I <2001年度以前の入学者>

【既修条件】

<2002年度入学者>：英語リーディング・ストラテジーズ及び Reading Comprehension または Honors English 1、または**LEVEL**を修得していること。

<2001年度以前の入学者>：なし

【定員】 25人

.....	遠藤 朋之	121
.....	金谷 優子	122
.....	工藤 政司	123
.....	高田 宣子	124

カレッジ・グラマー <2002年度入学者>

英文法 <2001年度以前の入学者>

【既修条件】

<2002年度入学者>: 英語リーディング・ステージズ及び Reading Comprehension まはは Honors English 1、または **LEVELC** を修得していること。

<2001年度以前の入学者>: なし

【定員】 32人

.....	児玉 仁士	125
.....	佐藤 勉	126
.....	府川 謙也	127
.....	山田 修	128

Communicative English I <2002年度入学者>

Conversation I <2001年度以前の入学者>

【既修条件】

<2002年度入学者>: Speech Communication または **LEVELC** を修得していること。

<2001年度以前の入学者>: 英語Ⅲ (SC) または (IC) を修得していること。

【定員】 28人

.....	C.B.IKEGUCHI	129
.....	D.BRADLEY	130
.....	D.McCANN	131
.....	E.J.NAOUMI	132
.....	J.J.DUGGAN	133
.....	K.MEEHAN	134
.....	M.DEL VECCHIO	135
.....	PAPPS	136
(水1履修者).....	R.DURHAM	137
(水2履修者).....	R.DURHAM	138
.....	R.JONES	139
.....	R.M.PAYNE	140
.....	T.HILL	141
.....	W.J.BENFIELD	142

Communicative English II <2002年度入学者>

Conversation II <2001年度以前の入学者>

【既修条件】

<2002年度入学者>: Advanced Speech Communication, Communicative English I または **LEVELB** を修得していること。

<2001年度以前の入学者>: 英語Ⅲ (ASC) 若しくは (AC) または Conversation I を修得していること。

【定員】 25人

.....	A.R.FALVO	143
.....	C.B.IKEGUCHI	144
.....	D.L.BLANKEN	145
.....	D.McCANN	146
.....	J.J.WALDMAN	147
.....	K.MEEHAN	148
.....	M.DEL VECCHIO	149

.....	N.HAMILTON.....	150
.....	PAPPS.....	151
.....	P.McEVILLY.....	152
.....	R.J.BURROWS.....	153
.....	S.J.CHRISTIE.....	154

Discussion

【既修条件】

<2002 年度入学者> : Advanced Speech Communication,
Communicative English I または **レベルB** を修得していること。

<2001 年度以前の入学者> : 英語Ⅲ (ASC) 若しくは (AC)
または Conversation I を修得していること。

【定員】 20 人

.....	N.H.JOST.....	155
.....	R.JONES.....	156
.....	W.J.BENFIELD.....	157

Public Speaking I <2002 年度入学者>

スピーチ <2001 年度以前の入学者>

【既修条件】

<2002 年度入学者> : Advanced Speech Communication,
Communicative English I または **レベルB** を修得していること。

<2001 年度以前の入学者> : 英語Ⅲ (ASC) 若しくは (AC)
または Conversation I を修得していること。

【定員】 25 人

.....	A.R.FALVO.....	158
.....	E.CARNEY.....	159
.....	N.H.JOST.....	160

Public Speaking II <2002 年度の入学者>

スピーチ <2001 年度以前の入学者>

【既修条件】

Advanced Speech Communication a,b, Communicative
English Ia,b または **レベルA** を修得していること。

【定員】 25 人

.....	T.MURPHEY.....	161
-------	----------------	-----

Debate I <2002 年度入学者>

ディベート <2001 年度以前の入学者>

【既修条件】

<2002 年度入学者> : Advanced Speech Communication,
Communicative English I または **レベルB** を修得していること。

<2001 年度以前の入学者> : 英語Ⅲ (ASC) 若しくは (AC)
または Conversation I を修得していること。

【定員】 25 人

.....	N.H.JOST.....	162
.....	P.M.HORNESS.....	163

通訳 I

【既修条件】

<2002 年度入学者> : Advanced Speech Communication, Communicative English I または **レベル B** を修得していること。

<2001 年度以前の入学者> : 英語 III (ASC) 若しくは (AC) または Conversation I を修得していること。

【定員】 25 人

..... 原口 友子 164

通訳 II

【既修条件】

<2002 年度入学者> : 通訳 I または **レベル A** を修得していること。

<2001 年度以前の入学者> : 通訳 I を履修していること。

【定員】 25 人

..... 原口 友子 165

英語ビジネス・コミュニケーション I <2002 年度入学者>

ビジネス英語 I <2001 年度以前の入学者>

【既修条件】

<2002 年度入学者> : 英語リディング・ストラテジーズ および Reading Comprehension または Honors English 1、または **レベル C** を修得していること。

<2001 年度以前の入学者> : なし

【定員】 50 人

(火 3 履修者) 海老沢 達郎 166

(金 3 履修者) 海老沢 達郎 167

(水 2 履修者) 杉山 晴信 168

(木 3 履修者) 杉山 晴信 169

..... 信 達郎 170

英語ビジネス・コミュニケーション II <2002 年度入学者>

ビジネス英語 II <2001 年度以前の入学者>

【既修条件】

<2002 年度入学者> : 英語リディング・ストラテジーズ および Reading Comprehension または Honors English 1、または **レベル B** を修得していること。

<2001 年度以前の入学者> : なし

【定員】 45 人

..... 杉山 晴信 171

メディア英語 I <2002 年度入学者>

時事英語 I <2001 年度以前の入学者>

【既修条件】

<2002 年度入学者> : 英語リディング・ストラテジーズ および Reading Comprehension または Honors English 1、または **レベル C** を修得していること。

<2001 年度以前の入学者> : なし

【定員】 40 人

..... W.J.BENFIELD 172

..... 新井 妥門 173

..... 海老沢 達郎 174

..... 金子 節也 175

..... 工藤 政司 176

メディア英語Ⅱ <2002年度入学者>

時事英語Ⅱ <2001年度以前の入学者>

【既修条件】

<2002年度入学者>:英語リーディング・ステージズ および Reading Comprehension または Honors English 1、または **レベルB** を修得していること。

<2001年度以前の入学者>:なし

【定員】40人

.....	A.R.FALVO177
.....	新井 妥門178
.....	川島 浩美179

シネマ英語 <2002年度入学者> (<2001年度以前の入学者>は履修出来ません。)

【既修条件】

<2002年度入学者>:英語リーディング・ステージズ および Reading Comprehension または Honors English 1、または **レベルB** を修得していること。

【定員】35人

(月2履修者).....	岡田 誠一180
(月3履修者).....	岡田 誠一181
.....	高橋 雄一郎182

第二外国語

ドイツ語会話Ⅰ.....	I.ALBRECHT183
フランス語Ⅲ.....	藤田 朋久184
フランス語会話Ⅰ.....	B.P.LEURS185
.....	C.A.PERISSERO186
スペイン語Ⅲ.....	喜多 延鷹187
スペイン語会話Ⅰ.....	J.FERRERAS188

言語情報処理Ⅰ a,b 【定員】55人.....	長崎 等189
.....	吉成 雄一郎190
言語情報処理Ⅱ a,b 【定員】40人.....	吉成 雄一郎191
統語論 a,b.....	安井 美代子192
意味論 a.....	府川 謹也193
意味論 b.....	阿部 一193
音声・音韻論 a,b.....	大竹 孝司194
英語史 a,b.....	児玉 仁士195
英語学特殊講義 a,b.....	府川 謹也196

「文学文化」部門

英米の詩 a.....	園部 明彦197
英米の詩 b.....	原 成吉197
英米の演劇 a,b.....	児嶋 一男198
英語圏文学特殊講義 a,b.....	高橋 雄一郎199
英語圏文化特殊講義 a,b.....	上野 直子200
英語圏文学文献研究 a,b 【定員】25人.....	白鳥 正孝201
英米の社会と思想 a,b.....	福井 嘉彦202
英米の歴史 a,b.....	佐藤 唯行203

英米事情 a	高橋 雄一郎、他	204
英米事情 b	児嶋 一男、他	204

* 「国際コミュニケーション」部門*

国際政治論 a	竹田 いさみ	212
国際政治論 b	金子 芳樹	212
国際政治論 a	金子 芳樹	213
国際政治論 b	竹田 いさみ	213
国際関係史 a	八丁 由比	214
国際関係史 b	永野 隆行	214
国際開発協力論 a	竹田 いさみ	215
国際開発協力論 b	金子 芳樹	215
国際関係論特殊講義 a,b	永野 隆行	216
国際関係論文献研究 a,b 【定員】 25 人	阿部 純一	217
国際関係論文献研究 b 【定員】 25 人	竹田 いさみ	218
異文化間コミュニケーション論 a,b	石井 敏	205
異文化間コミュニケーション論 a,b	鍋倉 健悦	206
双・コミュニケーション論 a,b	佐々木 輝美	207
スピーチ・コミュニケーション論 a,b	板場 良久 (秋学期開講)	208
スピーチ・コミュニケーション論 a,b	柿田 秀樹	209
コミュニケーション論特殊講義 a,b	柿田 秀樹	210
コミュニケーション論文献研究 a,b 【定員】 25 人	石井 敏	211

特別セミナー (CAEL)	(半) 安井 美代子	219
---------------	------------	-----

03年度以降 02年度	Speech Communication a Speech Communication	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' <u>basic</u> presentation (expository and persuasive) skills for communication. Students should (1) get experience in making and delivering a short speech in English, (2) become familiar with how to describe visual materials or to use visual aids to explain events, phenomena or concepts, and (3) learn to be responsive listeners, commentators, and/or questioners in the audience, rather than passive auditors.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 02年度	Speech Communication b Speech Communication	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' <u>basic</u> presentation (expository and persuasive) skills for communication. Students should (1) get experience in making and delivering a short speech in English, (2) become familiar with how to describe visual materials or to use visual aids to explain events, phenomena or concepts, and (3) learn to be responsive listeners, commentators, and/or questioners in the audience, rather than passive auditors.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>		<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度	Advanced Speech Communication a Advanced Speech Communication	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills and suggests that the course be designed accordingly. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' presentation (expository and persuasive) skills for communication.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate, and ability.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>		<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度	Advanced Speech Communication b Advanced Speech Communication	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills and suggests that the course be designed accordingly. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' presentation (expository and persuasive) skills for communication.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate, and ability.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>		<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度	英語ライティング・ストラテジーズ a 英語ライティング・ストラテジーズ	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>基本的な単語や文法を用い、文章構成の基本を学びながら身近でやさしいトピックについて具体的に目的を持った短い文章が書けるようになることを目標とする。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な文法項目等を復習する 2. 日常使われる手紙の基本形式を学び、実際に短い手紙を書いてみる（お祝の手紙、入学／就職希望の手紙、英文履歴書等） 3. パラグラフの基本について学ぶ <ol style="list-style-type: none"> (1) パラグラフとはなにか (2) トピック、センテンスについて (3) トピック、センテンスをサポートする、他 4. 以上の作文技術を学習した後、各教員が指定した教材を使用し作文力の向上を図る。場合によっては上記の作文技術と文法・作文用の教材を交えながら年間を通じて学んでいくこともあり得る。 <p>◆ 評価方法</p> <p>平常点、試験、レポート等による。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>各担当教員が指示する。</p>		<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度	英語ライティング・ストラテジーズ b 英語ライティング・ストラテジーズ	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>英語ライティング・ストラテジーズ a の延長。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>平常点、試験、レポート等による。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>各担当教員が指示する。</p>		<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度	英語パラグラフ・ライティング a 英語パラグラフ・ライティング	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(目的)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英文パラグラフにおけるいくつかのパターンを理解する。 2. 論理的な流れのあるパラグラフを書くことができる。 3. 日本語の作文と英語の作文の違いを理解する。 <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パラグラフとは何か 2. トピックとトピック・センテンスについて 3. トピック・センテンスのサポートの仕方 4. 表現の言い換えと盗用について 5. 要約の仕方、他 6. 以上の技術を学習した後、各教員が指定した教材を使用しライティング力の向上を図る。 <p>◆ 評価方法</p> <p>平常点、試験、レポート等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>各担当教員が指示する。</p>		<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度	英語パラグラフ・ライティング b 英語パラグラフ・ライティング	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>英語パラグラフ・ライティング a の延長。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>平常点、試験、レポート等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>各担当教員が指示する。</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 02年度	英語リーディング・ストラテジーズ a 英語リーディング・ストラテジーズ	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>最初の数週間は現在の高度情報化社会において必要とされている情報収集のための技術を学ぶ。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パラグラフ・リーディング：パラグラフの構成原理を理解し、トピック・センテンスの置かれている位置をすばやく判断する技術。 2. スキミング：長めのパッセージを読む際、付随的な情報に惑わされずにメイン・アイデアだけを探して大意をつかむ技術。 3. スキャニング：案内用のパンフレットやホームページなどを含むさまざまな媒体から、読み手が必要とする特定の情報だけを正確かつ迅速に探す技術。 <p>その後は、各担当教員が決めた教材を使用しながら、年間を通じて読解力および読解技術の養成をおこなう。</p>			
◆ 評価方法			
平常点、試験、レポート等による。			
◆テキスト、参考文献			
各担当教員が指示する。			

03年度以降 02年度	英語リーディング・ストラテジーズ b 英語リーディング・ストラテジーズ	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英語リーディング・ストラテジーズ a の延長。</p>			
◆ 評価方法			
平常点、試験、レポート等による。			
◆テキスト、参考文献			
各担当教員が指示する。			

03 年度以降 02 年度	Reading Comprehension a Reading Comprehension	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The Department has set the following macro-level objectives for this reading course to be taught by native-speaker instructors:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students learn to think English 2. To enlarge students' vocabulary 3. To give students insights into Western culture and literature 4. To help prepare students for study in an English-speaking country 5. To help students learn new ideas, and have new learning experiences. <p>Instructors are free to select their own texts (inside and outside readers) and to use them as they think fit. However, in addition to the set texts, the Department would like the students in this class to be taught basic reading skills. The teaching of the skills may be done at the beginning of each class throughout the year or, alternatively, it may be done for a month or so at the beginning of the course.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>		<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度	Reading Comprehension b Reading Comprehension	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The Department has set the following macro-level objectives for this reading course to be taught by native-speaker instructors:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students learn to think English 2. To enlarge students' vocabulary 3. To give students insights into Western culture and literature 4. To help prepare students for study in an English-speaking country 5. To help students learn new ideas, and have new learning experiences. <p>Instructors are free to select their own texts (inside and outside readers) and to use them as they think fit. However, in addition to the set texts, the Department would like the students in this class to be taught basic reading skills. The teaching of the skills may be done at the beginning of each class throughout the year or, alternatively, it may be done for a month or so at the beginning of the course.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>		<p>◆授業計画</p>	

01 年度以前 英語Ⅱ (再)	担当者	中村 繁
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>歴史・文化方面のテキストを使用する予定。 授業では指名して音読と和訳をさせる。 毎回十二分の準備予習をして授業に臨む ことが受講の絶対要件である。好い加減 な気持ちの者は、再履修と云えども容赦なく 落とすので予め承知されたい。</p> <p>◆受講者への要望</p> <p>始業時には大きな声で挨拶すること。 授業中の私語、飲食等厳禁。茶髪、 金髪は感心しない。</p> <p>◆評価方法</p> <p>平常の勤怠、授業への姿勢及び定期 試験。出席を特に重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>未定。</p>	◆授業計画	

01 年度以前 英語Ⅱ (再)	担当者	中村 繁
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上。</p> <p>◆評価方法</p> <p>同上。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>未定。</p>	◆授業計画	

01 年度以前	英語Ⅱ (再)	担当者	福井 嘉彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>これ以上、再度の履修がないように、基本的英文読解力を養う。 また、問題集のテキストも同時に併用する。</p> <p>なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席の少ない者は不合格とする。授業時での発表と小テストの結果を評価の基本として、必要があれば定期試験で更なる評価をなす。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>English and Many Cultures</p>		<p>◆授業計画</p> <p>テキストの文章の難易度と学生の予習準備に応じて進めていく。</p>	

01 年度	英語Ⅱ (再)	担当者	福井 嘉彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期に準ずる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>春学期に準ずる。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>春学期に同じ。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>春学期に準ずる。</p>	

03年度以降 02年度	Honors English1 a Honors English1	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The purpose of this Honors English course is to help students who already have a solid command of English develop a deeper understanding of specific content areas, and to be able to demonstrate that understanding through oral presentations and classroom discussions. Students will be required to give formal as well as informal presentations according to a schedule set at the beginning of the course and to complete all outside reading assignments. By the end the course, students will have developed a greater understanding of the content areas focused on, and will have further developed in their ability to look at issues more critically and to discuss them with greater authority.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Grades will be based on attendance, classroom presentations, quizzes, and mid-term and final exams.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Outside reading material, provided by the instructor,</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 02年度	Honors English1 b Honors English1	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The purpose of this Honors English course is to help students who already have a solid command of English develop a deeper understanding of specific content areas, and to be able to demonstrate that understanding through oral presentations and classroom discussions. Students will be required to give formal as well as informal presentations according to a schedule set at the beginning of the course and to complete all outside reading assignments. By the end the course, students will have developed a greater understanding of the content areas focused on, and will have further developed in their ability to look at issues more critically and to discuss them with greater authority.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Grades will be based on attendance, classroom presentations, quizzes, and mid-term and final exams.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Outside reading material, provided by the instructor,</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 Honors English 2 a 02年度 Honors English 2	担当者	E.CARNEY
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Aims: A class for ambitious students who are eager to discuss, learn, listen, adapt, teach something even, and enjoy the present day.</p> <p>Stimulating discussion materials will be used to help generate useful communication situations(How should I deal with that?).</p> <p>Students are asked to be aware. Aware of everything they can be and should be, perhaps aware especially in those areas where they show culpable ignorance.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Grading by end of term exam</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>The widest range of materials.</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, Introductions 2. What's going on?. Tell us about it. 3. Discuss and analyze 4. Communicating ideas 5. Teach your skill 6. Deal with problems 7. Preparation for a "moral" discussion 8. Discussing it 9. Ways to improve communication techniques 10. Why are you so "narrow minded?" Who? Me? 11. Presentation with a difference. 12. Testing preparations and testing 	

03年度以降 Honors English 2 b 02年度 Honors English 2	担当者	E.CARNEY
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><i>As above.</i></p> <p>◆評価方法</p> <p><i>As above</i></p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>As above</i></p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Learn from the masters 2: This is me. Can you understand me? 3. How's your logic? 4. Fun and games shouldn't kill you. 5. You mean some people don't do drugs? 6. Speculate on the future. If there is one. 7. Gadgetry versus pastoral 8. brainstorming 9. What have I learned, improved, done? 10. Is this what you want for your child? 11. Laugh and grow fat 12. How did we do, then? 	

03 年度以降 02 年度	Honors English 2 a Honors English 2	担当者	J. J. Duggan
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The aim of this course is to give those students with a solid command of English the opportunity to further develop reading and comprehension skills. In the first semester, we will work on a three-week cycle reading, researching, discussing, and informally presenting content-based material of a topical nature from the New York Times and other similar sources.</p> <p>I will be selecting the articles and preparing the tasks and activities. It is the students' responsibility to read and further research into the topic as well as to complete the assigned tasks outside of class so as to be ready to participate in discussing and sharing your ideas in class. In this way, we can make the best use of the time we have available to help you, the student, improve your reading and comprehension skills, as well as develop a greater understanding of issues and events happening in the world around you.</p> <p>As this class is centered around participation, attendance is a must. If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>◆ 評価方法</p> <p>Students will be evaluated based on preparation (assigned reading, homework, research), class participation (class discussion, informal presentations), and a final assessment.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Handouts/online reading of articles from the New York Times and other selected sources.</p> <p>◆授業計画</p> <p>Week 1: Course description & explanation Week 2: Selection A assignments & comprehension study Week 3: Selection A assignments & activities Week 4: Selection A assignments & discussion study Week 5: Selection B assignments & comprehension study Week 6: Selection B assignments & activities Week 7: Selection B assignments & discussion study Week 8: Selection C assignments & comprehension study Week 9: Selection C assignments & activities Week 10: Selection C assignments & discussion study Week 11: Setup for second semester presentations Week 12: First semester consolidation & review</p>	

03 年度以降 02 年度	Honors English 2 b Honors English 2	担当者	J. J. Duggan
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The aim of this course is to give those students with a solid command of English the opportunity to further develop reading and comprehension skills. In the second semester, we will work on a one-week cycle reading, researching, discussing, and formally presenting content-based material of a topical nature from newspapers and news magazines.</p> <p>Students, working in pairs or small groups, making use of the resources provided by the teacher, will be selecting articles of their own choosing and of interest not just to them but to the class as a whole. You will then be expected to further research into your chosen material, and to give a formal presentation to the class as well as lead the discussion following.</p> <p>As this class is centered around participation, attendance is a must. If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>◆ 評価方法</p> <p>Students will be evaluated based on preparation (assigned reading, homework, research), class participation (class discussion, a formal presentation), and a final assessment.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Student-chosen handouts and articles.</p> <p>◆授業計画</p> <p>Second semester class preparation Selection D presentation & discussion Selection E presentation & discussion Selection F presentation & discussion Selection G presentation & discussion Selection H presentation & discussion Selection I presentation & discussion Selection J presentation & discussion Selection K presentation & discussion Selection L presentation & discussion Selection M presentation & discussion Second semester consolidation & review</p>	

03 年度以降 02 年度	Honors English 2 a Honors English 2	担当者	N.H. Jost
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their speaking, listening, reading, writing and critical thinking skills. The material chosen for this class will look at some of the controversial issues that face us today. Students in this class will have to the opportunity to discuss and debate the issues covered in the reading and listening material. Additionally, students will give individual and group presentations. The group presentations will be in the form of posters session, which are similar to those given at professional conferences. Students will have warm-up presentations with their partners at the start of each class. Students are required to have a vocabulary notebook for this class.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Grades will be based on class participation, attendance and evaluations</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Debating the Issues by Motegi, Hesse, and Suzuki MacMillan Language House</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Week 1: Introduction; getting to know each other.</p> <p>Week 2: Second Language vs Foreign Language</p> <p>Week 3: Traditional or trendy lifestyle</p> <p>Week 4: Love or arranged marriage</p> <p>Week 5: Continuation and catch-up</p> <p>Week 6: Discipline or abuse</p> <p>Week 7: Movie/Video Project w/ Mr. Murhpey's class</p> <p>Week 8: Follow-up on Video Project</p> <p>Week 9: Poster Sessions</p> <p>Week 10: Right to life or right to choose</p> <p>Week 11: Review exercises</p> <p>Week 12: Final class open</p>	

03 年度以降 02 年度	Honors English 2 b Honors English 2	担当者	N.H. Jost
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Continuation of the first semester.</p> <p>In both the first semester and second semester, this class will join Mr. Murphey's class for a movie and video project. Students will work together and video tape their discussions on a decided outside movie.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Grades will be based on class participation, attendance and evaluations</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Debating the Issues by Motegi, Hesse, and Suzuki MacMillan Language House</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Week 1: Overview of 2nd semester</p> <p>Week 2: Right to die or duty to live?</p> <p>Week 3: Continuation</p> <p>Week 4: Life imprisonment or death penalty?</p> <p>Week 5: Continuation</p> <p>Week 6: Judges and Jury</p> <p>Week 7: Movie/Video Project w/ Mr. Murhpey's class</p> <p>Week 8: Follow-up on Video Project</p> <p>Week 9: Poster Sessions</p> <p>Week 10: Human Organs or animal organs</p> <p>Week 11: Surrogate mothers or natural mothers</p> <p>Week 12: Final class open</p>	

03 年度以降 02 年度	Honors English 2 a Honors English 2	担当者	T. HILL
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course has been designed to help students develop their own opinions on topics of personal and social significance and express them in understandable English. In this class, we will discuss and debate issues such as A Traditional or Trendy Lifestyle? Discipline or Abuse? Right to Life or Right to Choose? Judges or Jury? Human organs or Animal organs? Surrogate Mothers or Natural Mothers? Students will be expected to prepare well for each class and to come ready to participate actively in the class activities and discussion.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Evaluation will be based on attendance, class participation and individual presentations.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Debating the Issues. H. Motegi, S. Hesse, D. Suzuki. Macmillan Language House</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1.& 2. Second language or foreign language?</p> <p>3.& 4. A traditional or trendy lifestyle?</p> <p>5.& 6 Love or arranged marriage?</p> <p>7& 8. Discipline or abuse?</p> <p>9& 10 Right to life or right to choose?</p> <p>11 Review</p> <p>12 Poster presentations</p>	

03 年度以降 02 年度	Honors English 2 b Honors English 2	担当者	T. HILL
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course has been designed to help students develop their own opinions on topics of personal and social significance and express them in understandable English. In this class, we will discuss and debate issues such as A Traditional or Trendy Lifestyle? Discipline or Abuse? Right to Life or Right to Choose? Judges or Jury? Human organs or Animal organs? Surrogate Mothers or Natural Mothers? Students will be expected to prepare well for each class and to come ready to participate actively in the class activities and discussion.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Evaluation will be based on attendance, class participation and individual presentations.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Debating the Issues. H. Motegi, S. Hesse, D. Suzuki. Macmillan Language House</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1.& 2. Right to die or duty to live?</p> <p>3.& 4. Life imprisonment or death penalty?</p> <p>5.& 6 Judges or jury?</p> <p>7& 8. Human organs or animal organs?</p> <p>9& 10 Surrogate mothers or natural mothers?</p> <p>11 Review</p> <p>12 Poster presentations</p>	

03 年度以降 Honors English 2 a 02 年度 Honors English 2	担当者	T. Murphey
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>YOU are the main material for this class. Starting the second week <u>you can be recorded</u> having conversations on video and audio cassettes. At the end of each semester you will have about 10 five-minute video-recordings of yourself and can write a paper comparing your first conversations with your later ones to show how you improved We will have a variety of interesting topics. You can also choose some of the topics and you will give weekly feedback to the teacher on the class.</p> <p>You can learn a variety of communication strategies to enhance your conversation skills and to improve your ways of learning. Especially, we will look at how we can ENJOY learning more in many ways, in and out of class. For example, we may have some classes OUTSIDE, learn to JUGGLE, call each other on our cell phones and get used to USING English outside of class in our everyday lives.</p> <p><i>Evaluation:</i> Students will be evaluated each week from their participation and action logs. A paper at the end of each semester and an interview with the teacher will also support your grade. 1/3 absent or missed work = automatic "F" No final exam.</p>	<p>Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction - Weekly study schedule 2. Video 1 Five things I like to do 3. Video 2 Friends & Family 4. Video 3 Learning New Words 5. Video 4 Extensive Reading 6. Video 5 Mistake stories 7. Video 6 MOVIE Discussion 8. Video 7 Topics to be determined 9. Video 8 Topics to be determined 10. Video 9 Topics to be determined 11. Video 10 Topics to be determined 12. Video 11 My Progress This Semester <p>Because I adjust to student feedback, the above schedule is tentative and approximate. Students will read about a chapter or two in the text each week. Somewhere in the middle of the semester we will have a joint class with Jost-sensei's Honors class to discuss a movie that everyone has seen.</p> <p>Text: <i>Language Hungry!</i> T. Murphey, MacMillan LanguageHouse 1998</p>	

03 年度以降 Honors English 2 b 02 年度 Honors English 2	担当者	T. Murphey
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>SAME AS ABOVE ... plus Please note:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. This class has an "English Mostly" policy — students are expected to try to use mostly English, as much as possible, and to achieve 100% English classes half the time during each semester. Mistakes are OK. They show you are trying. Your present level is not important, but your WILLINGNESS to speak in English is. You can learn a lot when you speak a lot! 2. The reading load for this class is 5 to 10 pages a week, but it's all relatively easy. <p><u>Comment from a student last year</u> "Videoing our conversations in English is a great way to improve our English. This class also got me used to using English in my everyday life. After 90 minutes in English, it just comes naturally after class. You gave us a lot of work. I did most of it and I learned a lot."</p> <p>SAME EVALUATION SYSTEM and TEXTS AS ABOVE</p>	<p>◆授業計画</p> <p>September (Fall Semester) Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Video 1 Summer vacation 2. Video 2 Jobs 3. Video 3 Extensive Reading 4. Video 4 Being Someone Else 5. Video 5 Topics to be determined 6. Video 6 MOVIE Discussion Rapa Nui 7. Video 7 Topics to be determined 8. Open Variation 9. Video 8 Class Reunion 10. Video 9 Random Acts of Kindness 11. Video 10 Language Hungry Review 12. Video 11 My Progress This semester <p>Because I adjust to student feedback, the above schedule is approximate. Students will read and write a good bit each week. Somewhere in the middle of the semester we will have a joint class with Jost-sensei's Honors class to discuss a movie that everyone has seen.</p>	

03年度以降 02年度	英語専門講読入門 a 英語専門講読	担当者	浅岡 千利世
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course will introduce the range of issues relating to language, particularly the social and political dimensions of language use. Students are encouraged to reflect on their own use of, or feelings about, language, and collect data from other sources around them, such as the newspapers or television. They will be able to do these tasks alone or some need group discussion. All the coursework including pair work and group work will be conducted in English.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>in-class work (attendance, participation, presentations, quizzes), end-of-the-term paper</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><u>Language, Society and Power</u>, L.Thomas & S. Wareing, Routledge 講義支援システムも使用。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course 2. What is language and what does it do? 3. Language, thought and representation 4. Language and politics 5. Language and the media 6. Language and gender 7. Group presentations 8. Group presentations 9. Group presentations 10. Group presentations 11. Group presentations 12. Wrap-up activity 	

03年度以降 02年度	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	浅岡 千利世
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course will introduce the range of issues relating to language, particularly the social and political dimensions of language use. Students are encouraged to reflect on their own use of, or feelings about, language, and collect data from other sources around them, such as the newspapers or television. They will be able to do these tasks alone or some need group discussion. All the coursework including pair work and group work will be conducted in English.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>in-class work (attendance, participation, presentations, quizzes), end-of-the-term paper</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><u>Language, Society and Power</u>, L.Thomas & S. Wareing, Routledge 講義支援システムも使用。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Language and ethnicity 3. Language and age 4. Language and class 5. Language and identity 6. The standard English debate 7. Attitudes to language 8. Presentations 9. Presentations 10. Presentations 11. Presentations 12. Presentations 	

03年度以降 02年度	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門 (あたらしい世界のかたち)	担当者	上野直子
<p>□講義目的、講義概要</p> <p>10年後の自分が、どこでどんなふう暮らしているかを想像してみたことがありますか。おおかたの人が、日本のどこかで、それぞれの苦勞と楽しみとともに、まあまあフツーに暮らしているだろうと漠然と思っているのではないのでしょうか。しかし私たちが「フツー」と思っている生活とはかけはなれた日常を生きる(生きざるをえない)人々が、世界にはたくさん存在します(もちろん日本にも)。英語文献の講読を通じて、日々の生活のなかでは気づくことの少ない、あたらしい世界のかたちに触れ、自分の「いまとここ」が「歴史と世界」のなかにあることを確認してください。</p> <p>新しい世紀、私たちの住む社会は急速に見慣れぬ顔をのぞかせ始めています。テクノロジーの発達で、モノと人と情報の大規模で素早い移動と交換が可能になり、その一方、中世さながらの部族抗争が先進国でも途上国でも繰り広げられています。その結果、人々はますます国境を越えて行き交い、異なる文化の出会い、衝突、混淆が加速しています。そして行きかう人々の(下につづく)</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>平常点(小テストを行うかも)、プレゼンテーション、レポートを総合的に判断します。</p> <p>□テキスト、参考文献</p> <p>随時プリントを配布します。安価なテキストを購入していただくかもしれません。</p>		<p>□授業計画</p> <p>(授業の進め方) グループによるプレゼンテーションを中心に進めます。原則としてひとつのテキストに2回の授業をあて、1回目は担当者の発表と質疑応答、2回目は討論とします。より詳しい授業の進め方、プレゼンテーションの仕方については開講時に説明します。</p> <p>(扱うテキスト) Up to date な内容にしたいため、随時新聞・雑誌などからもあたらしい記事を選ぶ予定です。また受講者からの提案も歓迎します。前期の半分強までは、あらかじめこちらで以下のように指定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション+Caryl Phillips, "A New World Order" 2 & 3. Jamaica Kincaid, "Flowers of Evil" 4 & 5. Arundhati Roy, "the algebra of infinite justice" 6 & 7. Ruud Lubbers, "After September 11: New Challenges to Refugee Protection" <p>◆また開講時に次のテキストを配布しますので、基礎知識として各自で読んでおいてください。World Refugee Survey 2003の総括記事です。 ・Merill Smith, "The Year in Review"</p>	

03年度以降 02年度	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門 (あたらしい世界のかたち)	担当者	上野直子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(上からつづく) なかには、多くの難民、移民、亡命者の姿があるはずですが。いわゆる難民に含まれる人の数は、2002年5月の国連見積もりで1980万人、米国難民委員会では未公認の難民を入れれば4700万人との数字を出しています。また世界の移民数は1億7500万人で、1975年の倍になっています。前期は「グローバル経済・紛争・移動・難民・移民」などをキーワードにすすめます。</p> <p>後期(あるいは後期後半)は切り口をかえて、「ポストファミリー」をキーワードにする予定です。</p> <p>私たちが思っている「フツー」の根幹を成すものに、核家族的な家庭がありますが、そんな当たり前のものすらが、先進国においては大きく変化しようとしています。今年5月には米国初の同性どうしの結婚が実現しようとしています。そして秋には大統領選。2004年、家族のあり方をめぐって、米国では大きな議論がわくことでしょう。その動向もリアル・タイムで見たいと考えています。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>□テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <p>◆「ポスト・ファミリー」に移るさい、最初に次の二つの短編小説を読みませう。イントロダクションと2編の小説に回の授業を予定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1~3. イントロダクション+David Leavitt, "Territory" & "A Place I've Never Been" 	

03 年度以降 02 年度	英語専門講読入門 a <i>Macbeth</i> を読む 英語専門講読入門	担当者	川崎 潔
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>英国ルネサンス期の劇作家にして詩人であった W.Shakespeare(1564~1616)の四大悲劇の一つ <i>Macbeth</i> (1605-6)を精読したい。入門なので、語彙・文法・詩形にも留意し、劇詩的表現を味読しつつゆっくりと読み進めたい。また武勇を尚ぶ名将 <i>Macbeth</i> が野心にかられ、<i>Duncan</i> 王を殺害して王位に即くが、更に殺人を重ねて絶望の中に死んでいくのは何故であるかということをも考えたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末テストと平常点によって評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト： <i>Macbeth</i> by W. Shakespeare 中島文雄 解説注釈</p> <p>参考文献： 「シェイクスピア案内」日本シェイクスピア協会編、研究社刊 「シェイクスピアの面白さ」中野好夫著 新潮社 「シェイクスピア研究」齋藤 勇著 研究社</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1~9 Act I 10~12 Act II. i ~ ii</p>	

03 年度以降 02 年度	英語専門講読入門 b <i>Macbeth</i> を読む 英語専門講読入門	担当者	川崎 潔
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>同上</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>同上</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1~2 Act II. iii~iv 3~7 Act III 8~9 Act IV 10~12 Act V</p>	

03年度以降 02年度	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	北澤 滋久
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>20世紀小説の傾向を確立した、James Joyce の統一的な短編集、<i>Dubliners</i> のうちの、できるだけ多くの作品を精読する。 従って、「専門講読入門」といっても、この講読の場合、「専門」とは「文学」のことであるから、この点を充分考慮して登録願いたい。 ジョイス文学の入門のみならず、広く現代文学講読の入門とはなるように、努力するつもりである。</p> <p>◆評価方法</p> <p>単に英文解釈の出題のみならず、内容も問う期末の試験において評価する。平常点も加味する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>James Joyce, <i>Dubliners</i>, Penguin Books.</p>		<p>◆授業計画</p> <p>随時指名した学生と担当者の質疑応答により、英文を逐一吟味しながらその内容を把握してゆく。 なお、来年度の専門講読は、ここでは扱わないこの短編集のクライマックスを中心に、引き続きジョイスの小説をテーマにするつもりでいるから、そのための入門も兼ねるような趣向ともなっている。</p>	

03年度以降 02年度	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	北澤 滋久
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期と同じ書の、別の短編を読み進めてゆく。前期のこの項参照のこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <p>前期のこの項参照のこと。</p>	

03年度以降 02年度	英語専門講読入門 a (異文化接触と適応) 英語専門講読入門(異文化接触と適応)	担当者	工藤 和宏
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>多種多様な環境や他者との関わりの中で経験される戸惑いや葛藤を学習テーマとしながら、英語文献の批判的読解力、リサーチおよびプレゼンテーション・スキルの向上を目指します。</p> <p>授業はグループ・ワークや発表を中心とする参加型形式です。春学期では、異文化適応過程、カルチャーショックの原因と対処法、文化と対人コミュニケーションの関係など、主に個人レベルの異文化接触について学習します。秋学期では、海外・帰国子女、移民、少数民族などの経験が提起する文化・社会・国家（間）レベルの異文化接触の問題について考察します。これらの学習内容を踏まえた上で、グループ発表をしていただきます。</p> <p>授業中の討論は主として日本語で行いますが、レポートとグループ発表の使用言語は英語とします。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート、グループ発表、授業への貢献（4回以上の欠席は不可。）</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Johnson, S. (1998). <i>Who moved my cheese?</i> London: Vermilion. その他、プリントを使用。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入——異文化コミュニケーション「超」入門 2. 異文化シミュレーション I 3. 異文化適応度の測定と異文化適応理論の紹介 4. カルチャーショックの原因と対処法 (Levine & Adelman, 1993) 5. 文化とコミュニケーション I (O'Sullivan, 1994) 6. 文化とコミュニケーション II (O'Sullivan, 1994) 7. 文化とコミュニケーション II (O'Sullivan, 1994) 8. クリティカル・インシデント (危機事例) I (Cushner & Brislin, 1995) 9. クリティカル・インシデント (危機事例) II (Bolton, 1986) 10. 異文化シミュレーション II 11. <i>Who moved my cheese?</i> (Johnson, 1998) 12. まとめ 	

03年度以降 02年度	英語専門講読入門 b (異文化接触と適応) 英語専門講読入門(異文化接触と適応)	担当者	工藤 和宏
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>多種多様な環境や他者との関わりの中で経験される戸惑いや葛藤を学習テーマとしながら、英語文献の批判的読解力、リサーチおよびプレゼンテーション・スキルの向上を目指します。</p> <p>授業はグループ・ワークや発表を中心とする参加型形式です。春学期では、異文化適応過程、カルチャーショックの原因と対処法、文化と対人コミュニケーションの関係など、主に個人レベルの異文化接触について学習します。秋学期では、海外・帰国子女、移民、少数民族などの経験が提起する文化・社会・国家（間）レベルの異文化接触の問題について考察します。これらの学習内容を踏まえた上で、グループ発表をしていただきます。</p> <p>授業中の討論は主として日本語で行いますが、レポートとグループ発表の使用言語は英語とします。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート、グループ発表、授業への貢献（4回以上の欠席は不可。）</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリントを使用。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. ライフヒストリー（生活誌）が語るもの 3. 日本よ、さらば (Sato, 2001) 4. アメリカ人になること (Imahori, 2000) 5. 帰国子女であること (Kidder, 1992) 6. 海外養子について (Armstrong & Slaytor, 2001) 7. 在日コリアンであること (Fukuoka, 2004) 8. アイヌとしての誇りと葛藤 (Siddle & Kitahara, 1995) 9. グループ自由発表の準備 10. グループ自由発表 11. グループ自由発表 12. まとめ 	

03 年度以降 02 年度	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	児嶋 一男
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な英語表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読む台本は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p>	
<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テストで64%、観劇レポート(500字)2編で24%、出席で12%。 学期末の定期試験はありません。 レポートに関する詳細は初回授業で説明します。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>英米の現代演劇の台本の抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>			

03 年度以降 02 年度	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	児嶋 一男
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な英語表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読む台本は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p>	
<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テストで64%、観劇レポート(500字)2編で24%、出席で12%。 学期末の定期試験はありません。 レポートに関する詳細は初回授業で説明します。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>英米の現代演劇の台本の抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>			

03年度以降 英語専門講読入門 a 02年度 英語専門講読入門	担当者	佐藤 唯行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>平均的な大学生の中には、英文の和訳が一定出来ても、意味が理解出来ていなかったり、内容を要約し、結論をひとことと表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術論文を読み進む場合、パラグラフ毎、各段落の内容要約能力が常に求められます。そのため、本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要約をひとことと要約する能力を養う事を、授業の目的といたします。</p> <p>使用するテキストはアメリカユダヤ人史の概説書です。また、そこに添かれた文庫は平易な内容です。植民地時代から今日に至るアメリカ社会とユダヤとの関係が、戦後の中心となります。</p> <p>◆評価方法</p> <p>前・後期に筆記試験をします。平常点を30%程度考慮し、出席が授業回数\times1/3を越えた場合、単位を付与せず、遅刻は3回を上限17分以内にとします。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>高価なため、コピーを配布します <i>H. Grinstein, Short History of Jews of United States</i></p>	<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 英語専門講読入門 b 02年度 英語専門講読入門	担当者	佐藤 唯行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期と同じ</p> <p>◆評価方法</p> <p>前期と同じ</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>前期と同じ</p>	<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	園部 明彦
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>授業では一言一句疎かにせず、厳密に読むことを心掛けていく。重ねて、内容把握に主眼を置く。前期は、新聞、雑誌等から、身の回りのわかり易い話題を取り上げ、受講者全員のレベル向上に努める。単に機械的な和訳に止まらず、各自の意見を英語で表してもらおうとも考えている。</p> <p>後期は、A. Smith の『夢』と題された論文をテキストとして、読み進めていく。この一年間を通して、内容にはお構いなしに、英語の単語を日本語に置き換えていくといった悪癖だけは是非克服してもらいたい。</p> <p>後期の論文は、前期に比して、やや難解に思えるかも知れない。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>一回の授業の成績を 10 点満点として、24 回で 240 点の 6 掛け、144 点が合格のボーダーとなる。そのため、欠席は非常に不利になる。また、遅刻は絶対に認めないのも従来通りである。</p> <p>◆ テキスト プリント</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>Time, <i>Newsweek</i> などに教材を求めていく予定。</p>	

03 年度以降 02 年度	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	園部 明彦
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>前期と同じ</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>『夢』より</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. before の用法 2. so~that の構文 3. no more than について 4. but の用法 5. as if について 6. out of の用法 7. 'of a' について 8. 再帰代名詞 9. in career について 10. suppose 11. 仮定法 12. head 	

03年度以降 02年度	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門 (ドキュド라마を読む／演じる／創作する?)	担当者	高橋雄一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>文化人類学では、研究者が自分と相手との関係を常に考えながら、フィールドワークをおこない、聞き取り調査によっておこなう記述を民族誌（エスノグラフィー）と呼んでいます。最近、合州国では、こうした手法を取り入れて作られた、演劇やパフォーマンスの作品が注目を集めています。ドキュメンタリーとドラマの中間に位置するので、ドキュド라마とも呼ばれます。</p> <p>この授業では、それらの中から、1998年にワイオミングでおきたゲイ殺人事件に取材した劇作品、<i>The Laramie Project</i> を春学期に、1992年の人種暴動を扱ったパフォーマンス、<i>Twilight: Los Angeles, 1992</i> を教材に使います。どちらも、合州国の「今」を考える上で重要な社会問題が基底に存在しています。(下欄に続く)</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>本文中に記載。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(春) Moises Kaufman <i>The Laramie Project</i> (Vintage, 2001) 大学売店で購入してください。</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 02年度	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門 (ドキュド라마を読む／演じる／創作する?)	担当者	高橋雄一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>授業の狙いは、事件の歴史的／社会的背景を考察しながら、かつ創作のプロセスを分析していくことです。(原典を読むことで英語力の向上を目指すのは勿論で、目標値はTOEIC730点に設定しましょう。)</p> <p>教室では、立ち稽古の形で作品の読み合わせをします。簡単な振りをつけ、声を出して演技をしてみると(oral interpretationといいます)、黙読では分からないさまざまな感情を体験することができます。</p> <p>評価は、春学期、秋学期に一本ずつ提出してもらうレポート(日本語で4000～6000字、英語のレジюмеをつけたもの)が中心になります。秋学期は、レポートに代えて、同じようなプロセスによる創作を提出することも認めます。加えて、各学期とも、英文の読解、背景の理解を確認するために、何回か、宿題、小テストを課します。</p> <p>授業へは予習をした上で、毎回出席することが前提となります。また、教室では英語を第一言語としますので、皆さんもそのつもりで発言してください。</p> <p>初回に使用するプリントを高橋研究室(611)外側に置いておきますから、必ず予習しておいて下さい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(秋) Anna Deavere Smith, <i>Twilight: Los Angeles, 1992</i> 購入方法は追って指示します。</p>		<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門 (英語圏の詩入門—もうひとつの現代詩”Rock Classic”を読む)	担当者	原 成吉																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Rock Classic の中から代表的な 2 4 曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。Rock の 5 0 年の歴史から生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。</p> <p>3 人 1 組のレポーターを中心に、個々の作品が生まれた政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティブにアメリカ文化論を考える。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期ごとのレポートと発表で決める。欠席が授業回数の 1 / 4 を越えた場合は単位は認めない。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者がプリントを用意する。 参考教材 <i>The History of Rock 'n' Roll</i> Vol.1-10</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>“America” by Paul Simon</td></tr> <tr><td>2</td></tr> <tr><td>“Eleanor Rigby” by the Beatles</td></tr> <tr><td>3</td></tr> <tr><td>“The Boxer” by Paul Simon</td></tr> <tr><td>4</td></tr> <tr><td>“Across the Universe” by the Beatles</td></tr> <tr><td>5</td></tr> <tr><td>“Me and Bobby McGee” by Janis Joplin</td></tr> <tr><td>6</td></tr> <tr><td>“Big Yellow Taxi” by Joni Michell</td></tr> <tr><td>7</td></tr> <tr><td>“Sweet Baby James” by James Taylar</td></tr> <tr><td>8</td></tr> <tr><td>“California” by Joni Michell</td></tr> <tr><td>9</td></tr> <tr><td>“Good Night Saigon” by Billy Joel</td></tr> <tr><td>10</td></tr> <tr><td>“Thunder Road” by Bruce Springsteen</td></tr> <tr><td>11</td></tr> <tr><td>“Luka” by Suzanne Vega</td></tr> <tr><td>12</td></tr> <tr><td>“At Seventeen” by Janis Ian</td></tr> </table>		1	“America” by Paul Simon	2	“Eleanor Rigby” by the Beatles	3	“The Boxer” by Paul Simon	4	“Across the Universe” by the Beatles	5	“Me and Bobby McGee” by Janis Joplin	6	“Big Yellow Taxi” by Joni Michell	7	“Sweet Baby James” by James Taylar	8	“California” by Joni Michell	9	“Good Night Saigon” by Billy Joel	10	“Thunder Road” by Bruce Springsteen	11	“Luka” by Suzanne Vega	12	“At Seventeen” by Janis Ian
1																											
“America” by Paul Simon																											
2																											
“Eleanor Rigby” by the Beatles																											
3																											
“The Boxer” by Paul Simon																											
4																											
“Across the Universe” by the Beatles																											
5																											
“Me and Bobby McGee” by Janis Joplin																											
6																											
“Big Yellow Taxi” by Joni Michell																											
7																											
“Sweet Baby James” by James Taylar																											
8																											
“California” by Joni Michell																											
9																											
“Good Night Saigon” by Billy Joel																											
10																											
“Thunder Road” by Bruce Springsteen																											
11																											
“Luka” by Suzanne Vega																											
12																											
“At Seventeen” by Janis Ian																											

03 年度以降 02 年度	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門 (英語圏の詩入門—もうひとつの現代詩”Rock Classic”を読む)	担当者	原 成吉
<p>◆講義目的、講義概要</p> <div style="border: 1px solid black; height: 300px; width: 100%;"></div> <p>◆ 評価方法</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <p>◆テキスト、参考文献</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>		<p>◆授業計画</p> <div style="border: 1px solid black; height: 350px; width: 100%;"></div>	

03 年度以降 02 年度	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	福井 嘉彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>テキストの英文の読解能力をつけるのが目的である。 テキストの題は In the Beginning である。 旧約聖書の「創世記」について述べたもの。 この本の各項を読む。 英文の難度は大変に高い。 また、キリスト教、および特に聖書の「創世記」 についての関心がまずもって求められる。 テキストはコピーを使用する。 また、問題集のテキストも同時に併用する。</p> <p>なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席の少ない者は不合格にする。授業時での発表と小テストの結果を基本とし、必要な場合、定期試験を行う。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>In the Beginning (プリント)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>テキストの文章の難易度と学生の予習能力に応じて進めていく。</p>	

03 年度以降 02 年度	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	福井 嘉彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期に準じる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>春学期に準じる。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>春学期と同じ。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>春学期に準じる。</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英語学概論 a 英語学概論 英語学概論	担当者	清水 由理子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英語という言葉がどのような視点から研究されてきたか、また、現在されているかを学ぶことによって、英語学の面白さを知って欲しい。</p> <p>「ことば」は、それを使う人とその人を取り巻く社会・文化・思想とは切り離せないものである。ことば自体の仕組みと併せて、ことばという窓を通して見えてくる人（ことばの使い手）の世界を覗いてみることにする。</p> <p>[講義概要] 日本語の場合と同じように、英語も時代とともに「ことば」は変化している。英語では、何がどのように変化し、その原因は何であったかを時代背景を考えながら学ぶ。</p> <p>その後、現在使われている英語（現代英語）について、音・語・文・意味の面から探り、人はどのようにその仕組みを意思伝達に活用しているか考える。</p>		<p>1. 英語学とは何を研究する分野か 人間のことばの特徴</p> <p>2. 英語の歴史 ① Old English</p> <p>3. 英語の歴史 ② Old English</p> <p>4. 英語の歴史 ③ Middle English</p> <p>5. 英語の歴史 ④ Middle English</p> <p>6. 英語の歴史 ⑤ Modern English</p> <p>7. 英語の歴史 ⑥ Modern English</p> <p>8. 英語の歴史 ⑦ American English</p> <p>9. 英語の歴史 ⑧ Present-Day English</p> <p>10. 英語の音構造 ① 音声学</p> <p>11. 英語の音構造 ② 音韻論</p> <p>12. 英語の音構造 ③ 音韻論</p>	
Take-Home Quiz および期末試験により評価をだす。			
◆テキスト、参考文献			
稲木昭子他 『新 えいご・エイゴ・英語学』 松柏社			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英語学概論 b 英語学概論 英語学概論	担当者	清水 由理子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>[講義目的] 「英語学概論 a」と同じ。</p> <p>[講義概要] 現代英語の構造を中心に扱う。テーマについては右の欄の「授業計画」を参照のこと。</p>		<p>1. Introduction 春学期の試験についての解説</p> <p>2. 英語の語構造 ① 形態論</p> <p>3. 英語の語構造 ② 形態論</p> <p>4. 英語の文構造 ① 統語論</p> <p>5. 英語の文構造 ② 統語論</p> <p>6. 英語の文構造 ③ 統語論</p> <p>7. 英語の意味構造 ① 意味論</p> <p>8. 英語の意味構造 ② 意味論</p> <p>9. 英語の意味構造 ③ 語用論</p> <p>10. 英語の意味構造 ④ 語用論</p> <p>11. 英語学とその関連分野 ①</p> <p>12. 英語学とその関連分野 ②</p>	
英語学概論 a に同じ			
◆テキスト、参考文献			
英語学概論 a に同じ			

03年度以降 英語学概論 a 02年度 英語学概論 01年度以前 英語学概論	担当者 長谷川 欣祐
◆講義目的、講義概要 人間の言語使用は、「創造的」（いくらでも新しい文を創りそれを理解することができる）であり、そのために思考・感情の自由な表現が可能になる。これを可能にしている「ことばの仕組み」を探ると人間の言葉の持つ興味ある性質が明らかになってくる。具体的にはデータに基づいて仮説を立て、それをより広汎なデータに照らして検証していくなかで、文法構造の規則性や一般原理を発見していく言語分析の方法・考え方に重点を置いて述べる。この興味ある発見の過程と、着実な論証の仕方を理解すれば、英語の学習に役立つだけでなく、「英語の仕組み」についてより深く明快な理解が得られるであろう。 ◆評価方法 出席と試験による。連続した体系をなすので毎回出席すること。 ◆テキスト、参考文献 長谷川欣祐著『生成文法の方法――英語統語論のしくみ』研究社、2003年	◆授業計画 春学期 「序論と第1部：文の組み立て方についての一般原理」 1 人間の言語の基本的な性質 2 目標設定と構文分析例：再帰代名詞と代名詞の用法に関する原則 3 「文の組み立て方」の第一の原理「句構造規則」の必要性とその説明 4 「句構造規則」の性質 5 文法上の構造単位を立てる根拠：動詞句 6 「文の組み立て方」の第二の原理「変形」の必要性とその説明：wh-句移動変形 7 外置変形、Tough - 構文移動変形 8 繰り上げ変形(Raising) 9 音韻論・形態論の基礎と時制形態素 10 英語の助動詞成分 11 助動詞成分の分析 12 試験

03年度以降 英語学概論 b 02年度 英語学概論 01年度以前 英語学概論	担当者 長谷川 欣祐
◆講義目的、講義概要 人間の言語使用は、「創造的」（いくらでも新しい文を創りそれを理解することができる）であり、そのために思考・感情の自由な表現が可能になる。これを可能にしている「ことばの仕組み」を探ると人間の言葉の持つ興味ある性質が明らかになってくる。具体的にはデータに基づいて仮説を立て、それをより広汎なデータに照らして検証していくなかで、文法構造の規則性や一般原理を発見していく言語分析の方法・考え方に重点を置いて述べる。この興味ある発見の過程と、着実な論証の仕方を理解すれば、英語の学習に役立つだけでなく、「英語の仕組み」についてより深く明快な理解が得られるであろう。 ◆評価方法 出席と試験による。連続した体系をなすので毎回出席すること。 ◆テキスト、参考文献 長谷川欣祐著『生成文法の方法――英語統語論のしくみ』研究社、2003年	◆授業計画 秋学期 「第2部：英語統語構造の概要」 1 文の構造と副詞的要素 2 動詞句の内部構造：補語 (Complement) と副詞的要素 (Adjunct) 3 Do so テスト、複合動詞 4 間接目的語・直接目的語構文の構造と意味 5 V NP to VP 形の構造分析 6 受動構文の分析 7 受動構文の構造と意味 8 名詞句の内部構造 9 名詞句の内部構造 (2) 10 Wh- 句移動変形などへの「一般的制約」 11 Wh- 句移動変形などへの「一般的制約」 (2) 12 試験

03 年度以降 英語学概論 a 02 年度 英語学概論 01 年度以前 英語学概論	担当者	府川謹也
◆講義目的、講義概要 この講義の目的は、言語学の最近の発展から得られた知見を利用し、英語の特質を探り当てて英語そのものの理解を深めることであるが、その過程において、ふだん無意識のうちに使っていることばの研究の楽しさを味わうことである。具体的には、英語を母語とする話者の無意識下にある言語直感を掘り出し、英語の隠れていた規則性を発見し、ひいては言語そのものの研究が意外と（問題の多いことばであるが）科学的かつ人間的で、それだから楽しいということを実感してもらうことである。英語学科の学生はただ英語の実用的運用能力に秀でているだけでなく、知的好奇心の対象としての英語について、その本質的知識を身につけ、その過程で、ことばが人間であることの大事な証であることを理解してほしい。	◆授業計画 テキストに沿って次の順に講義していく。 <ol style="list-style-type: none"> 1. Why Study English Linguistics 2. How English Has Changed over the Centuries 3. How Words Are Made: Morphology 4. How Words Mean: Semantics I 5. How English Phrases Are Formed: Syntax I 6. How English Sentences Are Formed: Syntax II 	
◆ 評価方法 試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。		
◆テキスト、参考文献 影山太郎・他『First Steps in English Linguistics (英語言語学の第一歩)』くろしお出版		

03 年度以降 英語学概論 b 02 年度 英語学概論 01 年度以前 英語学概論	担当者	府川謹也
◆講義目的、講義概要 春学期と同じ。	◆授業計画 春学期同様テキストに沿って次の順に講義していく。 <ol style="list-style-type: none"> 1. How Sentences Mean: Semantics II 2. How to Communicate with Other People: Pragmatics 3. The Sounds of English: Phonetics and Phonology 4. Regional Varieties of English: Sociolinguistics I 5. English in Society: Sociolinguistics II 6. How English Is Acquired: Psycholinguistics 	
◆ 評価方法 春学期と同じ。		
◆テキスト、参考文献 春学期と同じ。		

03 年度以前 02 年度 01 年度以前	英語学概論 a 英語学概論 英語学概論	担当者	安井 美代子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>テキストは言語学の全体像について平易な英語で書かれたものである。春学期の授業では、先ず、何故、言語学を学ぶか考える。言語はコミュニケーションの手段であり、特に、英語は国際社会で有用性が高い。しかし、言語学ではこのような実用性より、言語を使用している人間の無意識の知的活動の精緻さに注目する。春学期の授業では主に英語で使われる音の特徴・規則性（音声・音韻論）、語の成り立ち（形態論）、文の成り立ち（統語論）を扱う。それぞれの仕組みの巧みさ、それを自由に操ることができる私たちの脳のすばらしさを感じてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Why Study English Linguistics 3. 続き 4. The Sounds of English: Phonetics and Phonology 5. 続き 6. How Words Are Made: Morphology 7. 続き 8. How English Phrases Are Formed: Syntax 1 9. 続き 10. How English Sentences Are Formed: Syntax 2 11. 続き 12. まとめ 	
◆ 評価方法			
定期試験による			
◆テキスト、参考文献			
影山 太郎, 日比谷 潤子, Brent De Chene First Steps in English Linguistics (『英語言語学の第一歩』)くろしお出版 プリント			

03 年度以前 02 年度 01 年度以前	英語学概論 b 英語学概論 英語学概論	担当者	阿部 一
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目的 本講義は最近までの言語学や英語学あるいはその関連領域の研究成果を大幅に取り入れた上で、できるだけわかりやすく「英語」の意味論を中心にそれと関連する分野やいろいろな興味深い応用分野を解説していくものである。その際、科学的な研究・分析のやり方の実際を具体例を挙げながら、受講者全員で体験してみること、我々の母語である日本語との比較・対照を絶えず意識しながら行ってみることを重視していく予定である。</p> <p>講義概要 講義では英語学の中心テーマでも特に重要で興味深い個所に焦点を絞り、担当者の講義、質疑応答、ビデオ・レビュー、ミニ・プロジェクトなどが行われる。受講生諸君が一方的に講義を聞くだけでなく、積極的に授業に参加できる機会を多く設けたいと考えている。なお、テキストや参考文献の講義に関係する該当箇所など具体的な情報が盛りだくさんのシラバスを第一回目の講義で配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに： 英語学とは何をする学問か？(bの開講に当たって)+授業の進め方、評価など *シラバス配布 英語の歴史 1 2. 英語の歴史 2 3. 英語の語彙意味論 1 4. 英語の語彙意味論 2 5. 英語の語彙意味論 3 - 英語の文意味論 1 6. 英語の文意味論 2 7. 英語の文意味論 3 8. 英語の文意味論 4 - 最近の意味論の動向 10. 関連分野 1 語用論 11. 関連分野 2 社会言語学 他 12. おわりに： 今後の英語学分野の展開は？ 専門コースへの指針 関連分野 3 	
◆ 評価方法			
評価は前期・後期の定期試験、数回の課題、ミニ・プロジェクトへの貢献度、それに出席点によって総合的に行われる。			
◆テキスト、参考文献			
<p>テキスト 影山太郎他 (2003) First Steps in English Linguistics. くろしお出版。 BBC: The Story of English [資料-プリント版] その他、適宜、日・英両語の資料-プリント</p> <p>参考文献 Steven Pinker (2001) The Language Instinct 他、上記のシラバスで紹介する。また、図書館でそれらをリサーチしてもらおうので留意すること。</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語圏の文学・文化概論 a 英米文学概論 英米文学概論	担当者	北澤 滋久
◆講義目的、講義概要 アイルランドを含めた、イギリスの文学を中心に、時代の流れに則しながら、社会・文化全般も視野に入れて、概略講義するつもりである。 とはいえ、膨大な分野を短時間で扱うわけであるから、下記の冊子をサブテキストとして、各自で購読願いたい。講義は講義として独自の観点から、この冊子にこだわらず自由に語るのであるが、ここからも多少試験に出題することを承知しておくこと。		◆授業計画 1. はじめに：イギリス、アイルランドという国 2. チョーサーまでの時代と言語 3. シェイクスピアの時代 4. ミルトン、デフォウ、スウィフトの時代 5. ブレイク、バイロンの時代 6. シャーロット・ブロンテの『ジェーン・エア』 7. エミリー・ブロンテの『嵐が丘』 8. ペイター、ワイルドの世紀末 9. ジェームズ、コンラッドの、モダニズムへの役割 10. ジョイスの革新 11. ロレンスの仕事 12. まとめ：質疑応答	
◆評価方法 			
◆テキスト、参考文献 			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語圏の文学・文化概論 b 英米文学概論 英米文学概論	担当者	高橋雄一郎
◆講義目的、講義概要 (アメリカ編) アメリカの文学や文化が、「アメリカ合州国」の市民で、しかも白人、男性、異性愛者によって形成されてきたのだと、当然のように考えられ、また教えられてきた時代が長く続きました。でも、今は違います。 この授業では、文学作品の鑑賞だけではなく、歴史、社会、宗教などの多角的な視点から「アメリカ」とは何かを考察していきます。		◆授業計画 ① アメリカを探して」 (ディスカッション：私にとってアメリカとは何か) ② 「亀の島」と「インディアン」の記憶 ③ ピューリタンの伝統とフロンティア ④ ネイティヴはどこへ行った ⑤ 合州国の政治理念 ⑥ 小テストとディスカッション ⑦ 公民権運動とヴェトナム戦争 ⑧ 60年代黒人の戯曲 ⑨ 19世紀女性の短編小説 ⑩ ラティーナの詩 ⑪ ゲイのパフォーマンス ⑫ Catch-up & Wrap-up	
◆評価方法 授業時に提出する課題9つと小テストが各7点満点。学期末提出のブックレポートが30点満点。			
◆テキスト、参考文献 池田智・松本利秋『早わかりアメリカ』(大学売店で購入のこと)他は授業時に指示する。			

03年度以降 02年度 01年度	英語圏の文学・文化概論 a 英米文学概論 英米文学概論	担当者	佐藤 勉
<p>この授業の目的はいわゆる英文学史や米文学史のような通史ではなく、もっと本質的な事柄に、はじめは、言葉への興味に目覚めてもらうこと、特にこの授業では英語という言葉が使われている文学を通して言葉への理解を深めてもらうことです。次に、文学は言葉によって表現される代表的な文化の表象形態ですから、文学作品で言葉がどのように使われ、どのような意味変化が与えられていくのかということとその作品の文化的背景の中で知ってもらうことです。さらに、その文学作品に登場する人間が、勿論作者をも取り込んでのことですが、どんな人間なのかをその言葉の使い方から見ていきます。登場人物の使う言葉からその人物がいかなる人間なのか、あるいは作者はどのような人間を描こうとしているのかが分かるからです。そして、最終的には、その作品の中で繰り広げられるドラマを読み、あるいは見たりして、そこに登場する人間の愛、優しさ、狡猾さ、愚かさ、憐憫、恐怖などを実感し、自分自身をも含めて、人間であることの不可思議さに感嘆できるようになることを目指したいと思います。特に次のことに注意してください。</p> <p>①第1回目の授業に必ず大きめの和英辞書を持ってくること ②ノートを用意すること③文学・文化に興味を抱くこと</p>		<p>◆授業計画</p> <p>以下に掲げる項目は必ずしも一時限毎のシラバスを示している訳ではありませんが、大体の順序と考えてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉と文学についての関係 言葉の意味の文学的広がりと変化 denotation と connotation と association. 2. 言葉の比喩表現 幾つかの短い文や単語で見られるもの 3. Shakespeare の <i>Julius Caesar</i> を取り上げる (1) エリザベス朝時代の劇場について (2) <i>Julius Caesar</i> という作品の時代的文化的背景=>story (物語内容)、plot (プロットと構成)、など (3) <i>Julius Caesar</i> の登場人物について =>Caesar, Cassius, Brutus, Antony などの人物像を知る手がかりとなる部分の言葉の解釈 (4) <i>Julius Caesar</i> という作品についての言葉の使い方=>repetition (反復法) と gradation (漸層法) (5) <i>Julius Caesar</i> の面白さ=>Shakespeare の鋭い人間観察 4. 映像化された <i>Julius Caesar</i> を見る=>実際に舞台上で言葉がどのように表現され、立体化されるかを確かめる 5. 次に T. Williams の <i>The Glass Menagerie</i> を取り上げる=>現代演劇の秀作の時代的文化的背景について (1) 作者と作品の関係=>登場人物への自己投影 (2) 登場人物を知る手がかりとなる部分の言葉 (3) 映像化された <i>The Glass Menagerie</i> を見る=>atmosphere の設定の仕方、symbol や metaphor などの使い方 (4) この作品に見られる人間の心の危うさ=>俳優の表現力のすばらしさ、テーマなど 5. 授業のまとめ、試験などについて 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>3分の2以上の出席を求めます。短いレポートの提出もありますが、学期末の定期試験が成績評価の基本です。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>ハンドアウトを出します。読むべき作品も示しますが、授業で扱う作品やテキストは必ず読むことが大切です。</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語圏の文学・文化概論 b 英米文学概論 英米文学概論	担当者	島田啓一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接触れる(小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう)ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらい、文学を通じてアメリカの文化を考える。米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム(文化多元主義)に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって、講義を進める予定。このスペースに本当のシラバスを記載することは不可能なので、島田ゼミ HP 内の http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit.htm を参照のこと。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 概説(授業のやり方、注意事項などの説明を含む):必ず出席すること。 2 Multiculturalism(1): 概説。Multiculturalism の背景 3 Multiculturalism(2): African American Writers と Jewish Writers 4 Multiculturalism(3): Jewish Writers ("The First Seven Years") 5 [中間試験 1] Modernism(1): Post Modernism と Modernismの作家たち 6 Modernism (2): William Faulkner と Yoknapatawpha County 7 Modernism (3): William Faulkner と Yoknapatawpha County 8 [中間試験 2] Realism(1): Mark Twain から Theodore Dreiser まで 9 Realism(2): "gender/class/race"? Mark Twain の場合 (<i>Adventures of Huckleberry Finn</i>) 10 American Renaissance(1): Emerson, Thoreau, E. A. Poe, Walt Whitman, etc. 11 American Renaissance(2): Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, etc. 12 創世期のアメリカ文学: Benjamin Franklin, C Brown, W Irving, James Fenimore Cooper, etc. 	
<p>2回の中間試験(各50点、計100点)と定期試験(100点)、不定期に課す課題20点</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』(ミネルヴァ書房, 1989)</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語圏の文学・文化概論 a 英米文学概論 英米文学概論	担当者	島田啓一
◆講義目的、講義概要 アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接触れる(小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう)ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらい、文学を通じてアメリカの文化を考える。米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム(文化多元主義)に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって、講義を進める予定。このスペースに本当のシラバスを記載することは不可能なので、島田ゼミ HP 内の http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit.htm を参照のこと。		◆授業計画 1 概説(授業のやり方、注意事項などの説明を含む):必ず出席すること。 2 Multiculturalism(1):概説。Multiculturalism の背景 3 Multiculturalism(2): African American Writers と Jewish Writers 4 Multiculturalism(3): Jewish Writers ("The First Seven Years") 5 [中間試験 1] Modernism(1): Post Modernism と Modernismの作家たち 6 Modernism (2): William Faulkner と Yoknapatawpha County 7 Modernism (3): William Faulkner と Yoknapatawpha County 8 [中間試験 2] Realism(1): Mark Twain から Theodore Dreiser まで 9 Realism(2): "gender/class/race"? Mark Twain の場合 (<i>Adventures of Huckleberry Finn</i>) 10 American Renaissance(1): Emerson, Thoreau, E. A. Poe, Walt Whitman, etc. 11 American Renaissance(2): Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, etc. 12 創世期のアメリカ文学: Benjamin Franklin, C Brown, W Irving, James Fenimore Cooper, etc.	
2回の中間試験(各50点、計100点)と定期試験(100点)、不定期に課す課題20点			
◆テキスト、参考文献 板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』(ミネルヴァ書房, 1989)			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語圏の文学・文化概論 b 英米文学概論 英米文学概論	担当者	佐藤 勉
◆講義目的、講義概要 この授業の目的はいわゆる栄文学史や米文学史のような通史ではなく、もっと本質的な事柄に、はじめは、言葉への興味に目覚めてもらうこと、特にこの授業では英語という言葉が使われている文学を通して言葉への理解を深めてもらうことです。次に、文学は言葉によって表現される代表的な文化の表象形態ですから、文学作品で言葉がどのように使われ、どのような意味変化が与えられていくのかということとその作品の文化的背景の中で知ってもらうことです。さらに、その文学作品に登場する人間が、勿論作者をも取り込んだのですが、どんな人間なのかをその言葉の使い方から見ていきます。登場人物の使う言葉からその人物がいかなる人間なのか、あるいは作者はどのような人間を描こうとしているのかが分かるからです。そして、最終的には、その作品の中で繰り広げられるドラマを読み、あるいは見たりして、そこに登場する人間の愛、優しさ、狡猾さ、愚かさ、憐憫、恐怖などを実感し、自分自身をも含めて、人間であることの不可思議さに感嘆できるようになることを目指したいと思います。 特に次のことに注意してください。 ①第1回目の授業に必ず大きな和英辞書を持ってくること ②ノートを用意すること③文学・文化に興味を抱くこと		◆授業計画 以下に掲げる項目は必ずしも一時限毎のシラバスを示している訳ではありませんが、大体の順序と考えてください。 1. 言葉と文学についての関係 言葉の意味の文学的広がりと変化 denotation と connotation と association. 3. 言葉の比喩表現 幾つかの短い文や単語で見られるもの 4. Shakespeare の <i>Macbeth</i> を取り上げる (1) エリザベス朝時代の劇場について (2) <i>Macbeth</i> という作品の時代的文化背景=>story (物語内容)、plot (プロットと構成)、など (3) <i>Macbeth</i> における魔女について=>その存在理由と意味 (4) 彼らの話す言葉と <i>Macbeth</i> の話す言葉=>そのレトリック (5) antithesis, paradox, parataxis, hyperbole, chiasmus など高度な言葉の技巧=> <i>Macbeth</i> が用いた言葉の特質 (6) この悲劇の解釈、観衆の反応=>二項対立、カタルシス (6) Video による <i>Macbeth</i> の観賞=>言葉の立体化とその使われるタイミングについて=>演出の仕方, atmosphere など 5. 次に T. S. Eliot の <i>Murder in the Cathedral</i> を取り上げる=>現代に書かれた中世の大事件の時代的文化的背景について (1) 最近明らかになってきた主たる登場人物 Becket の実像と虚像=>歴史的評価について (2) repetition, alliteration, parallelism などの言葉の技巧 (3) Eliot がこの作品を書いた創作態度、その意図=>Eliot のほかの作品にも見られる解釈の難しさ、伝統や宗教との関係など (4) 換骨奪髄という手法に見られる博識膨大な学識と知性 6. この作品のテーマを探ることなど 7. 授業のまとめ、試験についてなど	
◆評価方法 3分の2以上の出席を求めます。短いレポートの提出もありますが、学期末の定期試験が成績評価の基本です。			
◆テキスト、参考文献 ハンドアウトを出します。読むべき作品も示しますが、授業で扱う作品やテキストは必ず読むことが大切です。			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英語圏の文学・文化概論 a 英米文学概論 英米文学概論	担当者	高橋雄一郎
◆講義目的、講義概要 (アメリカ編) アメリカの文学や文化が、「アメリカ合州国」の市民で、しかも白人、男性、異性愛者によって形成されてきたのだと、当然のように考えられ、また教えられてきた時代が長く続きました。でも、今は違います。 この授業では、文学作品の鑑賞だけではなく、歴史、社会、宗教などの多角的な視点から「アメリカ」とは何かを考察していきます。		◆授業計画 ① 「アメリカを探して」 (ディスカッション: 私にとってアメリカとは何か) ② 「亀の島」と「インディアン」の記憶 ③ ピューリタンの伝統とフロンティア ④ ネイティヴはどこへ行った ⑤ 合州国の政治理念 ⑥ 小テストとディスカッション ⑦ 公民権運動とヴェトナム戦争 ⑧ 60年代黒人の戯曲 ⑨ 19世紀女性の短編小説 ⑩ ラティーナの詩 ⑪ ゲイのパフォーマンス ⑫ Catch-up & Wrap-up	
◆ 評価方法 授業時に提出する課題9つと小テストが各7点満点。学期末提出のブックレポートが30点満点。			
◆テキスト、参考文献 池田智・松本利秋『早わかりアメリカ』(大学売店で購入のこと)他は授業時に指示する。			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英語圏の文学・文化概論 b 英米文学概論 英米文学概論	担当者	北澤 滋久
◆講義目的、講義概要 アイルランドを含めた、イギリスの文学を中心に、時代の流れに則しながら、社会・文化全般も視野に入れて、概略講義するつもりである。 とはいえ、膨大な分野を短時間で扱うわけであるから、下記の冊子をサブテキストとして、各自で購読願いたい。講義は講義として独自の観点から、この冊子にこだわらず自由に語るのであるが、ここからも多少試験に出題することを承知しておくこと。		◆授業計画 1. はじめに：イギリス、アイルランドという国 2. チョーサーまでの時代と言語 3. シェイクスピアの時代 4. ミルトン、デフォウ、スウィフトの時代 5. ブレイク、バイロンの時代 6. シャーロット・ブロンテの『ジェーン・エア』 7. エミリー・ブロンテの『嵐が丘』 8. ペイター、ワイルドの世紀末 9. ジェームズ、コンラッドの、モダニズムへの役割 10. ジョイスの革新 11. ロレンスの仕事 12. まとめ：質疑応答	
◆ 評価方法 期末試験の点数を重視し、出席等も加味して評価する。			
◆テキスト、参考文献 <i>The Writers of English Literature</i> , Macmillan			

03 年度以降	文化コミュニケーション概論 a	担当者	柿田 秀樹
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏 (特にアメリカ) の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p>講義概要 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータームの解説を加えながら講義を進めていく。</p> <p>◆ 評価方法 定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況による総合評価</p> <p>◆ テキスト、参考文献 授業で指示する。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Course Orientation 2 Hollywood and Hypercommercial 3 Hollywood and Hypercommercial 4 Hollywood and Hypercommercial 5 Advertisement and Public Culture 6 Advertisement and Public Culture 7 Advertisement and Public Culture 8 Desire, Sexuality and Power in Music Video 9 Desire, Sexuality and Power in Music Video 10 Desire, Sexuality and Power in Music Video 11 Desire, Sexuality and Power in Music Video 12 Wrap Up 	

03 年度以降	文化コミュニケーション概論 b	担当者	町田 喜義
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>目的：自文化、他文化（異文化）の相互補完機能を考えられるようにする。</p> <p>概要：秋学期は「文化」に焦点を当てる。その意味では「異文化間コミュニケーション」入門編である。</p> <p>◆ 評価方法 ・春学期と同様である。</p> <p>◆ テキスト、参考文献 ・春学期と同様である。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ：概要説明など 2. 異文化体験：ビデオ 3. 文化とは？①：文化規定要因 4. 同上② 5. 他文化を知るために①：日本文化再考 6. 同上② 7. 同上③ 8. 自文化を知るために①：他文化再考 9. 同上② 10. 同上③ 11. 同上④ 12. エピローグ：まとめ <p>※詳細な授業計画は開講時に配布する。</p>	

03 年度以降 文化コミュニケーション概論 a	担当者	鍋倉 健悦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>コミュニケーションに意識的になることを目的、コミュニケーション論とは、その名の通り、非常に広い領域とわたる分野を指すので、この授業では、その中でも基礎的なことを学んでいきたい。そして、その基礎は、文化を異にする人々との異文化間コミュニケーションと関係性を合わせていく。</p> <p>◆評価方法 レポート</p> <p>◆テキスト、参考文献 「異文化間コミュニケーション入門」 丸善出版</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションとコミュニケーション論 2. コミュニケーションの原義 3. 人間コミュニケーション 4. 個人内コミュニケーションと対人コミュニケーション 5. 仮想コミュニケーションと集団コミュニケーション 6. マスコミュニケーションから異文化間コミュニケーション 7. 異文化体験 8. 異文化間コミュニケーションの背景 9. 非言語コミュニケーション 10. 言語と文化 11. カルチャーショック 12. まとめ 	

03 年度以降	文化コミュニケーション概論 b	担当者	柿田 秀樹
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏(特にアメリカ)の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p>講義概要 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータームの解説を加えながら講義を進めていく。</p> <p>◆ 評価方法 定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況による総合評価</p> <p>◆ テキスト、参考文献 授業で指示する。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Course Orientation 2 Hollywood and Hypercommercial 3 Hollywood and Hypercommercial 4 Hollywood and Hypercommercial 5 Advertisement and Public Culture 6 Advertisement and Public Culture 7 Advertisement and Public Culture 8 Desire, Sexuality and Power in Music Video 9 Desire, Sexuality and Power in Music Video 10 Desire, Sexuality and Power in Music Video 11 Desire, Sexuality and Power in Music Video 12 Wrap Up 	

03年度以降	文化コミュニケーション概論 a	担当者	町田 喜義
<p>◆ 講義目的、講義概要 目的：コミュニケーション概念を知り、自己の日常生活に応用出来ることを学ぶ。</p> <p>概要：本コースのキーワードは「文化」と「コミュニケーション」である。文化とコミュニケーションは相互に密接な関係があるが、ここでは議論上、出来るだけ分離して考察しよう。春学期はコミュニケーション概念に焦点を当てる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小レポート（5回）：30% ・グループレポート：30% ・定期試験：40% <p>◆ テキスト、参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンドアウト（handout）を配布する。 ・参考文献リストは開講時に配布する。 		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ：概要説明など 2. コミュニケーションとは？①：モデル紹介 3. 同上② 4. コミュニケーションの多義性① 5. 同上② 6. 言語とコミュニケーション① 7. 同上② 8. 非言語とコミュニケーション① 9. 同上② 10. 言語と文化① 11. 同上② 12. エピローグ：秋学期に向けて 	

03年度以降 文化コミュニケーション概論 b		担当者	鍋倉 健悦
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>コミュニケーションに意識的になることが目的。コミュニケーション論と一口の言、非常に広い領域にわたる分野を念頭の下、この授業では先ずその基礎的なことを学んでいきたい。そして中華からは文化を異とする人々との異文化間コミュニケーションと英語を合わせていく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>「異文化間コミュニケーション入門」 丸善出版</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションとコミュニケーション論 2. コミュニケーションの原義 3. 人間コミュニケーション 4. 個人内コミュニケーションと対人コミュニケーション 5. 仮想コミュニケーションと集団コミュニケーション 6. マスコミュニケーションから異文化間コミュニケーション 7. 異文化体験 8. 異文化間コミュニケーションの背景 9. 非言語コミュニケーション 10. 言語と文化 11. カルチャーショック 12. まとめ 	

03 年度以降	国際コミュニケーション概論 a	担当者	金子 芳樹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>変化が激しい現代の国際社会を把握し、自らの視点と判断力を養うために不可欠な国際関係の基礎知識と分析方法を習得する。特に、国際社会の様々な主体(国家、国際機関、NGO など)の関係を、その構造やコミュニケーションのあり方などを中心に多角的に学ぶ。</p> <p>講義は以下の2つのパートから構成される。</p> <p>(1) 冷戦時代の国際関係の構造と歴史的展開を説明し、同時に基本的な国際関係論の理論を解説する。</p> <p>(2) 冷戦崩壊後(ポスト冷戦期)の国際社会で起こっている事象(ヒト・モノ・カネ・情報のボーダレス化・グローバル化にかかわる現象)を取り上げ、歴史的背景、現状分析、国際関係へのインパクトなどを盛り込みながら、国際社会の構造変化について解説する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期後半ば提出のレポートと学年末試験の成績に基づく。レポートはワープロ指定で2000字以上。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは使用しない。参考文献は各授業で紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論とは- 国家と国際社会 2. 冷戦の構造(1) 構造 3. 冷戦の構造(2) 起源 4. 冷戦の構造(3) 特徴 5. 冷戦の展開(1) 戦争(1) 6. 冷戦の展開(2) 戦争(2) 7. 冷戦の展開(3) 崩壊 8. ポスト冷戦期の国際社会(1)ボーダレス化の影響(1) 9. ポスト冷戦期の国際社会(2)ボーダレス化の影響(2) 10. ポスト冷戦期の国際社会(3)グローバル化の影響(1) 11. ポスト冷戦期の国際社会(4)グローバル化の影響(2) 12. まとめ：国際社会を見る眼 <p>(初回の授業時に詳細な授業計画を配布する)</p> <p>* なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	

03 年度以降	国際コミュニケーション概論 b	担当者	永野隆行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>半年間の講義を通じて、国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。</p> <p>本講義は2部構成となっている。本講義の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明した上で本論はいる。第一部では冷戦時代の国際政治を概観し、続いて第二部ではポスト冷戦期の国際関係、特にアジア地域の国際関係について論じることとする。なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく。また毎回の講義の冒頭約30分では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設けたい。</p> <p>なお、本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えること。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けているので、質問歓迎、積極的に利用して欲しい。</p> <p>ブックレポートと学期末試験(各50点)による評価。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>小島朋之ほか編『東アジアの安全保障』南窓社、2002年。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ①イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？(その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など) ②国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？ ③国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？ ④冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？ ⑤相互依存と国際関係～グローバル化は国際関係にどんな変化をもたらしたのか？ ⑥核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？ ⑦冷戦後の世界～国際社会は頻発する地域紛争にどのように対応すべきなのか？ ⑧アジア太平洋の安全保障①～戦後アジア太平洋の国際関係の特徴とは？ ⑨アジア太平洋の安全保障②～中国 ⑩アジア太平洋の安全保障③～アメリカ・ロシア ⑪アジア太平洋の安全保障④～朝鮮半島情勢 ⑫アジア太平洋の安全保障⑤～東南アジア ⑬アジア太平洋の安全保障⑥～アジアと日本 	

03 年度以降	国際コミュニケーション概論 a	担当者	永野隆行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>半年間の講義を通じて、国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。</p> <p>本講義は2部構成となっている。本講義の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明した上で本論に入る。第一部では冷戦時代の国際政治を概観し、続いて第二部ではポスト冷戦期の国際関係、特にアジア地域の国際関係について論じることとする。なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく。また毎回の講義の冒頭約30分では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設けたい。</p> <p>なお、本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えること。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けているので、質問大歓迎 積極的にご利用して欲しい。</p> <p>ブックレポートと学期末試験(各50点)による評価。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>小島朋之ほか編『東アジアの安全保障』南窓社、2002年。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>①イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？(その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)</p> <p>②国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？</p> <p>③国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？</p> <p>④冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？</p> <p>⑤相互依存と国際関係～グローバル化は国際関係にどんな変化をもたらしたのか？</p> <p>⑥核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？</p> <p>⑦冷戦後の世界～国際社会は頻発する地域紛争にどのように対応すべきなのか？</p> <p>⑧アジア太平洋の安全保障①～戦後アジア太平洋の国際関係の特徴とは？</p> <p>⑨アジア太平洋の安全保障②～中国</p> <p>⑩アジア太平洋の安全保障③～アメリカ・ロシア</p> <p>⑪アジア太平洋の安全保障④～朝鮮半島情勢</p> <p>⑫アジア太平洋の安全保障⑤～東南アジア</p> <p>⑬アジア太平洋の安全保障⑥～アジアと日本</p>	

03 年度以降	国際コミュニケーション概論 b	担当者	八丁 由比
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的</p> <p>国際問題全般に対する関心と理解を深め、自分なりの意見を発表できるようになること。また、英語、日本語を問わず、必要な情報を入手し、利用できるようになること。</p> <p>講義概要</p> <p>右欄に挙げた諸問題などを、ニュース・報道番組、新聞・雑誌記事などから取り上げ、それらについて考察と分析を行う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、テスト、レポート(詳しくは初回の講義で説明)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>適宜紹介する</p>		<p>◆授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> * Introduction * Nationalism * Humanitarian intervention and world politics * Environmental issues * Nuclear proliferation * Culture in world affairs * European and regional integration * Global trade and finance * The communications and internet revolution * Poverty, development and hunger * Human rights * Global trade and finance * Conclusion (テーマについては順序など、若干の変更がありうる) 	

03 年度以降	国際コミュニケーション概論 a	担当者	八丁 由比
◆講義目的、講義概要 講義目的 国際問題全般に対する関心と理解を深め、自分なりの意見を発表できるようになること。また、英語、日本語を問わず、必要な情報を入手し、利用できるようになること。 講義概要 右欄に挙げた諸問題などを、ニュース・報道番組、新聞・雑誌記事などから取り上げ、それらについて考察と分析を行う。		◆授業計画 * Introduction * Nationalism * Humanitarian intervention and world politics * Environmental issues * Nuclear proliferation * Culture in world affairs * European and regional integration * Global trade and finance * The communications and internet revolution * Poverty, development and hunger * Human rights * Global trade and finance * Conclusion (テーマについては順序など、若干の変更がありうる)	
◆ 評価方法 出席状況、テスト、レポート (詳しくは初回の講義で説明)			
◆テキスト、参考文献 適宜紹介する			

03 年度以降	国際コミュニケーション概論 b	担当者	金子 芳樹
◆講義目的、講義概要 変化が激しい現代の国際社会を把握し、自らの視点と判断力を養うために不可欠な国際関係の基礎知識と分析方法を習得する。特に、国際社会の様々な主体(国家、国際機関、NGO など)の関係を、その構造やコミュニケーションのあり方などを中心に多角的に学ぶ。 講義は以下の2つのパートから構成される。 (1) 冷戦時代の国際関係の構造と歴史的展開を説明し、同時に基本的な国際関係論の理論を解説する。 (2) 冷戦崩壊後(ポスト冷戦期)の国際社会で起こっている事象(ヒト・モノ・カネ・情報のボーダレス化・グローバル化にかかわる現象)を取り上げ、歴史的背景、現状分析、国際関係へのインパクトなどを盛り込みながら、国際社会の構造変化について解説する。		◆授業計画 1. 国際関係論とは- 国家と国際社会 2. 冷戦の構造(1) 構造 3. 冷戦の構造(2) 起源 4. 冷戦の構造(3) 特徴 5. 冷戦の展開(1) 戦争(1) 6. 冷戦の展開(2) 戦争(2) 7. 冷戦の展開(3) 崩壊 8. ポスト冷戦期の国際社会(1)ボーダレス化の影響(1) 9. ポスト冷戦期の国際社会(2)ボーダレス化の影響(2) 10. ポスト冷戦期の国際社会(3)グローバル化の影響(1) 11. ポスト冷戦期の国際社会(4)グローバル化の影響(2) 12. まとめ: 国際社会を見る眼 (初回の授業時に詳細な授業計画を配布する) * なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。	
◆ 評価方法 学期後半提出のレポートと学年末試験の成績に基づく。レポートはワープロ指定で2000字以上。			
◆テキスト、参考文献 テキストは使用しない。参考文献は各授業で紹介する。			

02 年度以前	国際コミュニケーション概論(再履修コマ)	担当者	柿田 秀樹
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏 (特にアメリカ) の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p>講義概要 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータームの解説を加えながら講義を進めていく。</p> <p>◆ 評価方法 定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況による総合評価</p> <p>◆ テキスト、参考文献 授業で指示する。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Course Orientation 2 Hollywood and Hypercommercial 3 Hollywood and Hypercommercial 4 Hollywood and Hypercommercial 5 Advertisement and Public Culture 6 Advertisement and Public Culture 7 Advertisement and Public Culture 8 Desire, Sexuality and Power in Music Video 9 Desire, Sexuality and Power in Music Video 10 Desire, Sexuality and Power in Music Video 11 Desire, Sexuality and Power in Music Video 12 Wrap Up 	

02 年度以前	国際コミュニケーション概論(再履修コマ)	担当者	永野 隆行													
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>半年間の講義を通じて、国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。本講義は2部構成となっている。本講義の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明した上で本論にはいる。第一部では冷戦時代の国際政治を概観し、続いて第二部ではポスト冷戦期の国際関係、特にアジア地域の国際関係について論じることとする。なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく。また毎回の講義の冒頭約30分では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設けたい。</p> <p>なお、本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えること。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けているので、質問大歓迎、積極的に利用して欲しい。</p> <p>◆ 評価方法 ブックレポートと学期末試験 (各 50 点) による評価。</p> <p>◆ テキスト、参考文献 小島朋之ほか編『東アジアの安全保障』南窓社、2002 年。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <table border="1" data-bbox="715 1330 1369 2123"> <tr><td>①イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？ (その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)</td></tr> <tr><td>②国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？</td></tr> <tr><td>③国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？</td></tr> <tr><td>④冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？</td></tr> <tr><td>⑤相互依存と国際関係～グローバリゼーションは国際関係にどんな変化をもたらしたのか？</td></tr> <tr><td>⑥核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？</td></tr> <tr><td>⑦冷戦後の世界～国際社会は頻発する地域紛争にどのように対応すべきなのか？</td></tr> <tr><td>⑧アジア太平洋の安全保障①～戦後アジア太平洋の国際関係の特徴とは？</td></tr> <tr><td>⑨アジア太平洋の安全保障②～中国</td></tr> <tr><td>⑩アジア太平洋の安全保障③～アメリカ・ロシア</td></tr> <tr><td>⑪アジア太平洋の安全保障④～朝鮮半島情勢</td></tr> <tr><td>⑫アジア太平洋の安全保障⑤～東南アジア</td></tr> <tr><td>⑬アジア太平洋の安全保障⑥～アジアと日本</td></tr> </table>		①イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？ (その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)	②国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？	③国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？	④冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？	⑤相互依存と国際関係～グローバリゼーションは国際関係にどんな変化をもたらしたのか？	⑥核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？	⑦冷戦後の世界～国際社会は頻発する地域紛争にどのように対応すべきなのか？	⑧アジア太平洋の安全保障①～戦後アジア太平洋の国際関係の特徴とは？	⑨アジア太平洋の安全保障②～中国	⑩アジア太平洋の安全保障③～アメリカ・ロシア	⑪アジア太平洋の安全保障④～朝鮮半島情勢	⑫アジア太平洋の安全保障⑤～東南アジア	⑬アジア太平洋の安全保障⑥～アジアと日本
①イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？ (その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)																
②国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？																
③国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？																
④冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？																
⑤相互依存と国際関係～グローバリゼーションは国際関係にどんな変化をもたらしたのか？																
⑥核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？																
⑦冷戦後の世界～国際社会は頻発する地域紛争にどのように対応すべきなのか？																
⑧アジア太平洋の安全保障①～戦後アジア太平洋の国際関係の特徴とは？																
⑨アジア太平洋の安全保障②～中国																
⑩アジア太平洋の安全保障③～アメリカ・ロシア																
⑪アジア太平洋の安全保障④～朝鮮半島情勢																
⑫アジア太平洋の安全保障⑤～東南アジア																
⑬アジア太平洋の安全保障⑥～アジアと日本																

02 年度以前	国際コミュニケーション概論(再履修コマ)	担当者	永野 隆行
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>半年間の講義を通じて、国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。本講義は2部構成となっている。本講義の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明した上で本論にはいる。第一部では冷戦時代の国際政治を概観し、続いて第二部ではポスト冷戦期の国際関係、特にアジア地域の国際関係について論じることとする。なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく。また毎回の講義の冒頭約30分では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設けたい。</p> <p>なお、本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えること。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けているので、質問大歓迎、積極的に利用して欲しい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>ブックレポートと学期末試験(各50点)による評価。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>小島朋之ほか編『東アジアの安全保障』南窓社、2002年。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>① イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？(その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)</p> <p>② 国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？</p> <p>③ 国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？</p> <p>④ 冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？</p> <p>⑤ 相互依存と国際関係～グローバリゼーションは国際関係にどんな変化をもたらしたのか？</p> <p>⑥ 核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？</p> <p>⑦ 冷戦後の世界～国際社会は頻発する地域紛争にどのように対応すべきなのか？</p> <p>⑧ アジア太平洋の安全保障①～戦後アジア太平洋の国際関係の特徴とは？</p> <p>⑨ アジア太平洋の安全保障②～中国</p> <p>⑩ アジア太平洋の安全保障③～アメリカ・ロシア</p> <p>⑪ アジア太平洋の安全保障④～朝鮮半島情勢</p> <p>⑫ アジア太平洋の安全保障⑤～東南アジア</p> <p>⑬ アジア太平洋の安全保障⑥～アジアと日本</p>	

02 年度以前	国際コミュニケーション概論(再履修コマ)	担当者	柿田 秀樹
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>講義目的</p> <p>映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミクスを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象(represent)された言語は政治的であり、表象の代理・代用(re-present)可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏(特にアメリカ)の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p>講義概要</p> <p>講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータームの解説を加えながら講義を進めていく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況による総合評価</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>授業で指示する。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>1 Course Orientation</p> <p>2 Hollywood and Hypercommercial</p> <p>3 Hollywood and Hypercommercial</p> <p>4 Hollywood and Hypercommercial</p> <p>5 Advertisement and Public Culture</p> <p>6 Advertisement and Public Culture</p> <p>7 Advertisement and Public Culture</p> <p>8 Desire, Sexuality and Power in Music Video</p> <p>9 Desire, Sexuality and Power in Music Video</p> <p>10 Desire, Sexuality and Power in Music Video</p> <p>11 Desire, Sexuality and Power in Music Video</p> <p>12 Wrap Up</p>	

03年度以降 02年度 01年度以前	英語音声学 英語音声学 英語音声学	担当者	(春学期完結)大竹 孝司
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目標: 本講義では、英語学科の学生として必要な英語音声学の基礎知識に加えてスピーキングとリスニングを改善するために必要な実践的な知識も含め総合的に学ぶことを目指します。英語音声は、日本語に比べてかなり複雑な仕組みになっているため、その特徴をできる限り理解し易い形で講義する予定です。また、日本語を母語する英語学習者が英語音声をいかに認識しているのかという問題も含め、理論及び実践の両面のバランスを保ちながら講義を行います。授業は講義と討論を組み合わせた双方向型の授業形態で進めます。</p> <p>講義概要: 本講義では、英語学習者の心内辞書（脳内に存在する辞書）というものに着目して、ここに英語音声に関する知識をどのように植え付けて行くかということを考えながら授業を展開して行きます。この授業を受講する皆さんは日本語の心内辞書をすでに構築していますので、日英語の音声に関する知識の相違点と類似点を対比させながら授業を展開して行きます。これによりスピーキングとリスニングの改善に大いに役立つ授業となるはずですが、ただし、役に立つかどうかは、この授業で学んだ内容をしっかりと理解し、努力をしたかどうかによって全てが決まります。寝ても覚めても脳内に音声刺激を与えつづければならないことは言うまでもありません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明。バイリンガル話者になるために必要な音声の知識とは何かについてビデオ教材によって学ぶ。 2. 心内辞書における音声表示のための音声記号（IPA）と英語の音の単位について学ぶ。 3. 発音器官と日英語の発音の仕組みについてビデオ教材などを用いて学ぶ。 4. 母音と子音の調音の仕組みと分類方法を学習し、視聴覚教材を使用して日英語間の母音と子音の差異を学ぶ。 5. 英語の母音の発音と聞き取りの練習を行い、実践的な側面を学ぶ。 6. 英語の子音の発音と聞き取りの練習を行い、実践的な側面を学ぶ。 7. 英語音の単位と音節構造の基礎知識及び発音とリスニングに関連する問題について学ぶ。 8. 英語のアクセントの構造に関する基礎知識について学ぶ。 9. 英語のアクセントの構造と発音とリスニングに関連する問題について視聴覚教材を用いて学ぶ。 10. 英語のリズムの構造に関する基礎知識を学ぶ。 11. 英語のリズムの構造と発音とリスニングに関連する問題について視聴覚教材を用いて学ぶ。 12. 英語のイントネーションの構造に関する基礎知識を学び、発音とリスニングに関連する問題点について学ぶ。 	
◆評価方法			
定期試験と課題によって決めます。			
◆テキスト、参考文献			
Accurate English: A Complete Course in Pronunciation、その他資料をコピーして配布します。			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語音声学 英語音声学 英語音声学	担当者	(秋学期完結)大竹 孝司
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目標: 本講義では、英語学科の学生として必要な英語音声学の基礎知識に加えてスピーキングとリスニングを改善するために必要な実践的な知識も含め総合的に学ぶことを目指します。英語音声は、日本語に比べてかなり複雑な仕組みになっているため、その特徴をできる限り理解し易い形で講義する予定です。また、日本語を母語する英語学習者が英語音声をいかに認識しているのかという問題も含め、理論及び実践の両面のバランスを保ちながら講義を行います。授業は講義と討論を組み合わせた双方向型の授業形態で進めます。</p> <p>講義概要: 本講義では、英語学習者の心内辞書（脳内に存在する辞書）というものに着目して、ここに英語音声に関する知識をどのように植え付けて行くかということを考えながら授業を展開して行きます。この授業を受講する皆さんは日本語の心内辞書をすでに構築していますので、日英語の音声に関する知識の相違点と類似点を対比させながら授業を展開して行きます。これによりスピーキングとリスニングの改善に大いに役立つ授業となるはずですが、ただし、役に立つかどうかは、この授業で学んだ内容をしっかりと理解し、努力をしたかどうかによって全てが決まります。寝ても覚めても脳内に音声刺激を与えつづければならないことは言うまでもありません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明。バイリンガル話者になるために必要な音声の知識とは何かについてビデオ教材によって学ぶ。 2. 心内辞書における音声表示のための音声記号（IPA）と英語の音の単位について学ぶ。 3. 発音器官と日英語の発音の仕組みについてビデオ教材などを用いて学ぶ。 4. 母音と子音の調音の仕組みと分類方法を学習し、視聴覚教材を使用して日英語間の母音と子音の差異を学ぶ。 5. 英語の母音の発音と聞き取りの練習を行い、実践的な側面を学ぶ。 6. 英語の子音の発音と聞き取りの練習を行い、実践的な側面を学ぶ。 7. 英語音の単位と音節構造の基礎知識及び発音とリスニングに関連する問題について学ぶ。 8. 英語のアクセントの構造に関する基礎知識について学ぶ。 9. 英語のアクセントの構造と発音とリスニングに関連する問題について視聴覚教材を用いて学ぶ。 10. 英語のリズムの構造に関する基礎知識を学ぶ。 11. 英語のリズムの構造と発音とリスニングに関連する問題について視聴覚教材を用いて学ぶ。 12. 英語のイントネーションの構造に関する基礎知識を学び、発音とリスニングに関連する問題点について学ぶ。 	
◆評価方法			
定期試験と課題によって決めます。			
◆テキスト、参考文献			
Accurate English: A Complete Course in Pronunciation、その他資料をコピーして配布します。			

03年度以降	英語音声学	担当者	(春学期完結)大西雅行
02年度	英語音声学		
01年度以前	英語音声学		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的： 英語の一般的音声現象と英語特有の音声変化を解説し、英語を聞く、話す能力の向上に役立てる。言語研究やその応用研究への基礎知識を与える。</p> <p>講義概要： 音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の分類とその特徴、日英米音の差異、英語の韻律特徴など発話に必要な音声現象を講義する。音声理論が主になるが、視聴覚機器を使用し、多少の発音練習も加える。</p>		<p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の標準語と標準音 2. 発音器官と機能 3. 英語音の表記法 4. 母音の定義と分類 5. 英語の単母音 6. 英語の二重母音、三重母音 7. 英語の子音分類法 8. 破裂音、破擦音、鼻音 9. 側音、摩擦音、半母音 10. 弱形と強形 11. 同化作用 12. 置換作用、省略作用 	
◆ 評価方法			
<p>期末のテストによる。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>なし。</p>			

03年度以降	英語音声学	担当者	(秋学期完結)大西雅行
02年度	英語音声学		
01年度以前	英語音声学		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的： 英語の一般的音声現象と英語特有の音声変化を解説し、英語を聞く、話す能力の向上に役立てる。言語研究やその応用研究への基礎知識を与える。</p> <p>講義概要： 音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の分類とその特徴、日英米音の差異、英語の韻律特徴など発話に必要な音声現象を講義する。音声理論が主になるが、視聴覚機器を使用し、多少の発音練習も加える。</p>		<p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の標準語と標準音 2. 発音器官とその機能 3. 英語音の表記法 4. 母音の定義と分類 5. 英語の単母音 6. 英語の二重母音、三重母音 7. 英語の子音分類法 8. 破裂音、破擦音、鼻音 9. 側音、摩擦音、半母音 10. 弱形と強形 11. 同化作用 12. 置換作用、省略作用 	
◆ 評価方法			
<p></p>			
◆テキスト、参考文献			
<p></p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	スピーチ・クリニック スピーチ・クリニック スピーチ・クリニック	担当者	(春学期完結)浅岡 千利世
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英語の音を聞き取り、自分でも自信を持って発話できるようにする。</p> <p>さまざまな音を聞き、自分でもより正確に発音できるような訓練を行う。前半は単語レベル、徐々にセンテンスレベル、パラグラフレベルとより長い文脈での発音を練習する。実際の会話の流れの中での発音の重要性を学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. introduction to course, phonetic symbols 2. reading phonetic symbols 3. vowels and consonants 4. reduction 5. reduction, quiz 1 6. rhythm 7. connected speech, thought groups 8. connected speech, quiz 2 9. disappearing sounds, prominent words 10. more on prominent and non-prominent words 11. weak and strong forms, long and short forms 12. quiz 3, wrap-up activity 	
◆ 評価方法			
出席、小テスト、recitation project、授業参加態度などを総合して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
Hit Parade Listening (N.Kumai & S.Timson), MacMillan			

03年度以降 02年度 01年度以前	スピーチ・クリニック スピーチ・クリニック スピーチ・クリニック	担当者	(秋学期完結)浅岡 千利世
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英語の音を聞き取り、自分でも自信を持って発話できるようにする。</p> <p>さまざまな音を聞き、自分でもより正確に発音できるような訓練を行う。前半は単語レベル、徐々にセンテンスレベル、パラグラフレベルとより長い文脈での発音を練習する。実際の会話の流れの中での発音の重要性を学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. introduction to course, phonetic symbols 2. reading phonetic symbols 3. vowels and consonants 4. reduction 5. reduction, quiz 1 6. rhythm 7. connected speech, thought groups 8. connected speech, quiz 2 9. disappearing sounds, prominent words 10. more on prominent and non-prominent words 11. weak and strong forms, long and short forms 12. quiz 3, wrap-up activity 	
◆ 評価方法			
出席、小テスト、recitation project、授業参加態度などを総合して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
Hit Parade Listening (N.Kumai & S.Timson), MacMillan			

03年度以降 02年度 01年度以前	スピーチ・クリニック スピーチ・クリニック スピーチ・クリニック	担当者	(春学期完結)大西雅行
◆講義目的、講義概要 講義目的： 米語の基礎的な発音を学びつつ、自然体のスピーチの発音を習得することを目指す。 講義概要： 授業は米語の発音訓練と発音矯正を主とする。音声理論は補足説明とし、学生が発音練習する機会を多くし、米語音に慣れ、親しむために聴取訓練の時間も加える。そのためLL教室を使う。 宿題は毎時間課す。 出席は重視する。		◆授業計画 授業計画： 1. 呼吸法と発声法 2. 高・前母音。 弱形－1 3. 高・後母音。 弱形－2 4. 開・中母音。 弱形－3 5. 摩擦音－1。 弱形－4 6. 摩擦音－2。 弱形－5 7. 無声・破裂音。 弱形－6 8. 破擦音。 弱形－7 9. 鼻音。 弱形－8 10. 側音。 弱形－9 11. 母音+/r/。 弱形－10 12. 二重母音。 弱形－11	
◆ 評価方法 平常の授業より総合評価			
◆テキスト、参考文献 なし			

03年度以降 02年度 01年度以前	スピーチ・クリニック スピーチ・クリニック スピーチ・クリニック	担当者	(秋学期完結)大西雅行
◆講義目的、講義概要 講義目的： 米語の基礎的な発音を学びつつ、自然体のスピーチの発音を習得することを目指す。 講義概要： 授業は米語の発音訓練と発音矯正を主とする。音声理論は補足説明とし、学生が発音練習する機会を多くし、米語音に慣れ、親しむために聴取訓練の時間も加える。そのためLL教室を使う。 宿題は毎時間課す。 出席は重視する		◆授業計画 授業計画： 1. 呼吸法と発声法 2. 高・前母音。 弱形－1 3. 高・後母音。 弱形－2 4. 開・中母音。 弱形－3 5. 摩擦音－1。 弱形－4 6. 摩擦音－2。 弱形－5 7. 無声・破裂音。 弱形－6 8. 破擦音。 弱形－7 9. 鼻音。 弱形－8 10. 側音。 弱形－9 11. 母音+/r/。 弱形－10 12. 二重母音。 弱形－11	
◆ 評価方法 平常の授業より総合評価			
◆テキスト、参考文献 なし			

03年度以降 02年度 01年度以前	スピーチ・クリニック スピーチ・クリニック スピーチ・クリニック	担当者	(春学期完結)清水 由理子
◆講義目的、講義概要 二年生以上で英語教員を目指す人を対象とする授業で、次のような目的で行う。 ① 英語の発音矯正を主な目的とする。その第一歩として、聞き取りの力をつける。音、強勢、抑揚の違いの聞き分けとそれを実際に発音できるように訓練する。 ② 英語教育の現場で生徒に英語の発音を教える際に役立つような指導方法を身につけてもらう。 [講義概要] 英語の単音・音のつながり・強勢とリズム・抑揚についての特徴と発音の仕方の要点を把握し、実際に練習する。発音記号は読めて、書けることが必要。毎回、診断テストとアチーブメント・テストを行うので、その結果を参考にして自分の苦手な部分を課外にも十分練習することが求められる。 定員 20名の半期のコースである。定員を超えた場合は、抽選となる。		◆授業計画 1. Introduction and Pre-Test Lesson 1 Stress 2. Lessons 2-3 Stops 3. Lessons 4-5 Stops and Fricatives 4. Lessons 6-7 Fricatives 5. Lessons 8-9 Nasals and Liquids 6. Lessons 10-11 Liquids and Semivowels 7. Lessons 12-13 Consonant Clusters Stress and Rhythm 8. Lessons 14-15 Front Vowels 9. Lessons 16-17 Central Vowels 10. Lessons 18-19 Back Vowels 11. Lessons 20-21 Diphthongs Obscure Vowels and Rhythm 12. Lessons 22-23 Intonation	
◆評価方法 期末試験に平常点（出席状況、アチーブメントテスト、ミニ実習の結果）を加味する。			
◆テキスト、参考文献 牧野勤 他：New Approach to English Pronunciation, 愛育社			

03年度以降 02年度 01年度以前	スピーチ・クリニック スピーチ・クリニック スピーチ・クリニック	担当者	(秋学期完結)清水 由理子
◆講義目的、講義概要 二年生以上で英語教員を目指す人を対象とする授業で、次のような目的で行う。 ①英語の発音矯正を主な目的とする。その第一歩として、聞き取りの力をつける。音、強勢、抑揚の違いの聞き分けとそれを実際に発音できるように訓練する。 ②英語教育の現場で生徒に英語の発音を教える際に役立つような指導方法を身につけてもらう。 [講義概要] 英語の単音・音のつながり・強勢とリズム・抑揚についての特徴と発音の仕方の要点を把握し、実際に練習する。発音記号は読めて、書けることが必要。毎回、診断テストとアチーブメント・テストを行うので、その結果を参考にして自分の苦手な部分を課外にも十分練習することが求められる。 定員 20名の半期のコースである。定員を超えた場合は、抽選となる。		◆授業計画 1. Introduction and Pre-Test Lesson 1 Stress 2. Lessons 2-3 Stops 3. Lessons 4-5 Stops and Fricatives 4. Lessons 6-7 Fricatives 5. Lessons 8-9 Nasals and Liquids 6. Lessons 10-11 Liquids and Semivowels 7. Lessons 12-13 Consonant Clusters Stress and Rhythm 8. Lessons 14-15 Front Vowels 9. Lessons 16-17 Central Vowels 10. Lessons 18-19 Back Vowels 11. Lessons 20-21 Diphthongs Obscure Vowels and Rhythm 12. Lessons 22-23 Intonation	
◆評価方法 期末試験に平常点（出席状況、アチーブメントテスト、ミニ実習の結果）を加味する。			
◆テキスト、参考文献 牧野勤 他：New Approach to English Pronunciation, 愛育社			

03 年度以降 02 年度	ベーシック・カレッジ・グラマー ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	(春学期完結)上野直子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(目的) 第二言語の習得には、文法の構造的理解が欠かせません。英語の習得を困難にしている日本語との違いに焦点をあてながら、文法を自己表現のために必要なものとして捉えなおし、使いこなせるようになるための基礎固めをするのがこの授業の目的です。</p> <p>(授業の進め方) 右記の授業計画に沿って進めます。回数が重なって記述してあるのは、説明を1回目の授業の後半で、練習問題を宿題として、質問とまとめを2回目の授業の前半で行うという意味です。練習問題の答えは週明けに掲示するので、各自でチェックし、質問とまとめの回の授業にのぞむこと。 文法の解説と練習問題のみでなく、総合力をチェックするための英文読解も取り入れていく予定です。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>小テストと試験を総合的に評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>開講時に掲示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 & 2. イントロダクション——行為の主体と客体とを意識しよう。基本の文はS + V + O 2 & 3. 基本文型と受動態。 3 & 4. 時制はすべての動詞につきまとう。 4 & 5. 品詞と分要素 5 & 6. 名詞(句) + 冠詞 6 & 7. 表現をひろげよう・助動詞、形容詞、副詞(この回は助動詞を中心に) 7 & 8. 形容詞的修飾1 8 & 9. 形容詞的修飾2 9 & 10. 副詞的修飾 10 & 11. 仮定法 11 & 12. 接続詞 + 話法</p>	

03 年度以降 02 年度	ベーシック・カレッジ・グラマー ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	(秋学期完結)上野直子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(目的) 第二言語の習得には、文法の構造的理解が欠かせません。英語の習得を困難にしている日本語との違いに焦点をあてながら、文法を自己表現のために必要なものとして捉えなおし、使いこなせるようになるための基礎固めをするのがこの授業の目的です。</p> <p>(授業の進め方) 右記の授業計画に沿って進めます。回数が重なって記述してあるのは、説明を1回目の授業の後半で、練習問題を宿題として、質問とまとめを2回目の授業の前半で行うという意味です。練習問題の答えは週明けに掲示するので、各自でチェックし、質問とまとめの回の授業にのぞむこと。 文法の解説と練習問題のみでなく、総合力をチェックするための英文読解も取り入れていく予定です</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>小テストと試験を総合的に評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>開講時に掲示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 & 2. イントロダクション——行為の主体と客体を意識しよう。基本の文はS + V + O。 2 & 3. 基本文型と受動態。 3 & 4. 時制はすべての動詞につきまとう。 4 & 5. 品詞と分要素 5 & 6. 名詞(句) + 冠詞 6 & 7. 表現をひろげよう・助動詞、形容詞、副詞(この回は助動詞を中心に) 7 & 8. 形容詞的修飾1 8 & 9. 形容詞的修飾2 9 & 10. 副詞的修飾 10 & 11. 仮定法 11 & 12. 接続詞 + 話法</p>	

03 年度以降 02 年度	ベーシック・カレッジ・グラマー ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	(春学期完結) 川崎 潔
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>日常会話に必要な文法を、(1) 文法事項を盛り込んだ対話と、(2) 基本文法の簡潔な説明と、(3) 日常会話で使われる英文から成る練習問題を通じて体得することを目指す。動詞の時制・完了相・進行相・受動態・仮定法、助動詞、動名詞・不定詞、現在分詞・過去分詞、関係代名詞・関係副詞を学ぶ。</p>		<p>1 Unit 7. Tenses 2 Unit 8. Auxiliaries 3 Unit 9. Perfectives 4 Unit 10. Progressives 5 Unit 11. Passives 6 Unit 12. Subjunctives 7 Unit 13. Gerunds and Infinitives 8 Unit 14. Participles 9 Unit 15. Relative Pronouns 10 Unit 16. Relative Adverbs 11 復習 12 予備日</p>	
◆ 評価方法			
<p>期末テストと平常点で評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>テキスト： <i>English Grammar for Communication</i> by Minoru Ohtsuki and Lena Vidahl. 南雲堂 ¥1,800</p> <p>参考文献： 江川泰一郎著「英文法解説」(改訂三版) 金子書房 ¥1,700</p>			

03 年度以降 02 年度	ベーシック・カレッジ・グラマー ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	(秋学期完結) 川崎 潔
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>日常会話に必要な文法を、(1) 文法事項を盛り込んだ対話と、(2) 基本文法の簡潔な説明と、(3) 日常会話で使われる英文から成る練習問題を通じて体得することを目指す。名詞、冠詞、形容詞・副詞、比較級、最上級、代名詞、直接話法・間接話法、前置詞、接続詞、強調・倒置・特殊構文を学ぶ。</p>		<p>1 Unit 1. Nouns 2 Unit 2. Articles 3 Unit 3. Adjectives and Adverbs 4 Unit 4. Comparatives 5 Unit 5. Superlatives 6 Unit 6. Pronouns 7 Unit 17. Direct and Indirect Speech 8 Unit 18. Prepositions 9 Unit 19. Conjunctions 10 Unit 20. Emphasis, Inversion & Other Special Constructions 11 復習 12 予備日</p>	
◆ 評価方法			
<p>期末テストと平常点で評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>テキスト： <i>English Grammar for Communication</i> by Minoru Ohtsuki and Lena Vidahl. 南雲堂 ¥1,800</p> <p>参考文献： 江川泰一郎著「英文法解説」(改訂三版) 金子書房 ¥1,700</p>			

03年度以降 02年度	ベーシック・カレッジ・グラマー ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	(春学期完結)白鳥正孝
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>今日「聞く、話す」英語へと流れが大きくシフトしています。そんな中で、つい英文法の基礎がなおざりにされ勝ちです。本講は、大学生として相応しい英語を話す為にも基本的に必要と思われる文法知識をおさらいし、且つ、しっかり身につけることを目的とします。併せてTOEICの文法への攻略もめざします。</p> <p>上記目的に則り、22項目の文法事項(右の授業計画参照)を、毎週だいたい2項目ずつ進める。あくまでも問題を沢山こなすことにより、自然と身につくことを心掛ける。</p> <p>参考文献</p> <p>安井稔 『英文法総覧』 開拓社 昭和59年</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、単純現在 2. 現在進行形・単純過去・過去進行形 3. 現在完了 1・2 4. 受動態 1・2 5. 助動詞 1・2 6. 助動詞 3、仮定法 1 7. 仮定法 2・形容詞 8. 比較 1・2 9. 動名詞 1・2 10. 不定詞 1・2 11. 関係詞節 1・2 12. 関係詞節 3、総括 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>毎回の小テストの積み重ねによる。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>田口悦男・KirstenSnipp 『自然に身につく英文法』(朝日出版社、2004年)</p>			

03年度以降 02年度	ベーシック・カレッジ・グラマー ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	(秋学期完結)白鳥正孝
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上</p>		<p>◆授業計画</p> <p>同上</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>同上</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>同上</p>			

03 年度以降 英語専門講読 a(英・米文学)

担当者 E.CARNEY

02 年度以前 英語専門講読(英・米文学)

◆講義目的、講義概要

This course aims to encourage students to read good short stories for study, for vocabulary learning, and for sheer pleasure.

The stories are chosen for their active ingredients; thought - provoking, stimulating, and educational. Students will be invited to discuss the material and should be able to meet a challenge quiz on each story. We are also concerned with the writer's style, technique, and reader appeal. What the writer says between the lines must be given important consideration, too.

◆評価方法

Grading will be in the form of quizzes for each story. Students can gain supplementary bonuses by writing 'intelligent comments'

◆テキスト、参考文献

Short story prints of Roald Dahl, Stephen King, Ray Bradbury, and others.

◆授業計画

1	Introduction and methods
2	Sample Reading
3	First reading: Comprehension
4	First reading, continued
5	Quiz, and start second story
6	Second: reading and explanations
7	Second: discussion and comment
8	Quiz (2) Next story introduced
9	Third story: study and compare
10	Third continued
11	Third continued
12	Final quiz, revision, discussion

03 年度以降 英語専門講読 b(英・米文学)

担当者 E.CARNEY

02 年度以前 英語専門講読(英・米文学)

◆講義目的、講義概要

As above

◆評価方法

As above

◆テキスト、参考文献

As above

◆授業計画

1	Introductions and explanations
2	Reading, comprehension, discussion
3	Reading, comparing, evaluating
4	The author's world, the reader's
5	Next story - reading
6	continued reading and discussion
7	student comments and suggestions
8	Hearing, seeing, reading a story
9	Next piece: fiction vs documentary
10	read, discuss, compare
11	read, revise, question time
12	Last quiz before exam preparation

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a (英米文化) 英語専門講読 (英米文化)	担当者	J. J. Duggan
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The aim of this course is to give students the opportunity to further develop reading and comprehension skills as they explore the many facets of American culture.</p> <p>The study of each reading selection will follow a two-week cycle as in this schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) A reading chapter is assigned as homework, together with comprehension questions. 2) In class, any questions concerning the vocabulary and/or comprehension are addressed. 3) The reading selection is read and analyzed as a class. 4) The students work in groups to compare and check their homework, which some groups then present to the class for class discussion. 5) The homework is collected, and the discussion questions assigned for the next class as homework. 6) In the next class, students work in groups and discuss their answers, which some groups present to the class for class discussion. 7) After the homework is collected, the vocabulary for the next reading selection is covered. 		<p>◆ 評価方法</p> <p>Grades will be based on in-class participation, (if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail), weekly homework assignments, and a final assessment.</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>Datesman, Crandall, & Kearny. <i>The American Ways</i>. Longman.</p> <p>◆ 授業計画</p> <p>Week 1: Course description & explanation Week 2: Ch.1-Introduction. Vocabulary & reading comprehension. Week 3: Ch.1-Introduction. Exercises & discussion Week 4: Ch.2-Traditional American Values and Beliefs. Voc. & comp. Week 5: Ch. 2-Traditional American Values and Beliefs. Exer. & disc Week 6: Ch.3-The American Religious Heritage. Vocabulary & comp. Week 7: Ch.3- The American Religious Heritage. Exercises & discussion Week 8: Ch.4-The Frontier Heritage. Vocabulary & reading comp. Week 9: Ch. 4-The Frontier Heritage. Exercises & discussion Week 10: Ch.5-The Heritage of Abundance. Voc. & reading comp. Week 11: Ch.5-The Heritage of Abundance. Exercises & discussion Week 12: First semester consolidation & review</p>	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b (英米文化) 英語専門講読 (英米文化)	担当者	J. J. Duggan
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The aim of this course is to give students the opportunity to further develop reading and comprehension skills as they explore the many facets of American culture.</p> <p>The study of each reading selection will follow a two-week cycle as in this schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) A reading chapter is assigned as homework, together with comprehension questions. 2) In class, any questions concerning the vocabulary and/or comprehension are addressed. 3) The reading selection is read and analyzed as a class. 4) The students work in groups to compare and check their homework, which some groups then present to the class for class discussion. 5) The homework is collected, and the discussion questions assigned for the next class as homework. 6) In the next class, students work in groups and discuss their answers, which some groups present to the class for class discussion. 7) After the homework is collected, the vocabulary for the next reading selection is covered. 		<p>◆ 評価方法</p> <p>Grades will be based on in-class participation, (if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail), weekly homework assignments, and a final assessment.</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>Datesman, Crandall, & Kearny. <i>The American Ways</i>. Longman.</p> <p>◆ 授業計画</p> <p>Week 1: First semester review Week 2: Ch.6-The World of American Business. Voc. & reading comp. Week 3: Ch.6-The World of American Business. Exercises & discussion Week 4: Ch.7-Gov't and Politics in the U.S. Vocabulary. & reading comp. Week 5: Ch.7-Gov't and Politics in the U.S. Exercise. & discussion Week 6: Ch.8-Ethnic and Racial Assimilation in the U.S. Voc. & comp. Week 7: Ch.8-Ethnic and Racial Assimilation in the U.S. Exer.& disc Week 8: Ch.9-Education in the United States. Voc. & reading comp. Week 9: Ch.9-Education in the United States. Exercises & discussion Week 10: Ch.10-Leisure Time. Vocabulary & reading comprehension. Week 11: Ch.10-Leisure Time. Vocabulary & reading comprehension Week 12: Second semester consolidation & review</p>	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a(James Joyce) 英語専門講読(James Joyce)	担当者	M.B.HOOD
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The purpose of this course is to introduce students to the life and works of the Irish writer James Joyce. During the first term, we will focus on Joyce's biography, his influence on the Modernist movement in Literature, and his place in the Canon. During the first term, we will read and discuss parts of Joyce's first two major works, "Dubliners" and "A Portrait of the Artist as a Young Man,"</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Lecture/Discussion</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>The Portable James Joyce (Harry Levin, Editor. Penguin Books)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>The following topics will be the focus of the first term:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Joyce's biography 2. Joyce as a Modernist 3. Style and technique 4. Dubliners 5. A Portrait of the Artist as a Young Man <p>Though the course is primarily lecture-oriented, key questions will be examined in discussion. Students will write two papers and take a final written exam.</p>	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b(James Joyce) 英語専門講読(James Joyce)	担当者	M.B.HOOD
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Continuing our discussion of Joyce, the second term will be focused on his final and most important works "Ulysses" and "Finnegans Wake," with a special focus on Joyce as innovator and his effect on other writers.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Lecture/Discussion</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>The Portable James Joyce (Harry Levin, Editor. Penguin Books)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>The following topics will be the focus of the second term:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Ulysses 2. Finnegans Wake 3. Critical Responses 4. Joyce's influence 5. Post-Modernism and Joyce <p>Though the course is primarily lecture-oriented, key questions will be examined in discussion. Students will write two papers and take a final written exam.</p>	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a(Language and the Brain) 英語専門講読(Language and the Brain)	担当者	N.H. Jost
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The book chosen for this class is very challenging, yet very interesting. It looks at the various aspects of language and the brain:</p> <ul style="list-style-type: none"> -The different areas of the brain -Language organization in the brain -Language loss -Brain damage -Brain disorders which affect language use -Bilingualism and the brain <p>Class time will be divided between lectures, material review, language study and discussions.</p> <p>Students considering this class should have 1) a keen interest in the topic of language and the brain, 2) an interest in discussing in English, and 3) a desire to improve their reading, speaking and listening skills. This class has an English only policy--only English will be used in class.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Grades are based on class participation, attendance, and evaluations.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Language and The Brain, by Loraine K. Obler and Kris Gjerlow Cambridge University Press</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Week 1: Course Introduction</p> <p>Week 2: Neurolinguistics</p> <p>Week 3: Continued</p> <p>Week 4: The Brain</p> <p>Week 5: Continued</p> <p>Week 6: Brain's Organization for Language</p> <p>Week 7: Continued</p> <p>Week 8: Aphasia</p> <p>Week 9: Continued</p> <p>Week 10: Childhood Aphasia</p> <p>Week 11: Continued</p> <p>Week 12: Semester Review</p>	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b(Language and the Brain) 英語専門講読(Language and the Brain)	担当者	N.H. Jost
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This is a continuation of the first semester.</p> <p>Please Note:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) The course book for this class will not be ordered through the books store. Students are responsible for ordering the books themselves. This book is available at Amazon Japan: http://www.amazon.co.jp 2) We will 10 ~ 12 pages a week. 3) The reading assignments must be completed before class. <p>◆ 評価方法</p> <p>Grades are based on class participation, attendance, and evaluations.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Language and The Brain, by Loraine K. Obler and Kris Gjerlow Cambridge University Press</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Week 1: Second Semester Overview</p> <p>Week 2: Right Brain Damage</p> <p>Week 3: Continued</p> <p>Week 4: Dementia</p> <p>Week 5: Continued</p> <p>Week 6: Disorders of Written Word: Dyslexia</p> <p>Week 7: Continued</p> <p>Week 8: Bilingualism</p> <p>Week 9: Continued</p> <p>Week 10: Language Organization</p> <p>Week 11: Continued</p> <p>Week 12: Semester Review and Future of Neurolinguistic</p>	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a (英語学) 英語専門講読 (英語学)	担当者	T. HILL
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course provides a concise but comprehensive overview of the main concerns of applied linguistics today. In this class we will address pressing and controversial issues such as intercultural communication, political and commercial persuasion, popular and academic views of correctness, the growth of English, language in education, foreign language teaching and learning, communicative competence and critical discourse analysis. Students will be expected to study the text in advance of each class and to work on selections from academic articles in applied linguistics and produce short written responses.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>participation and a number of short written papers.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Applied Linguistics Guy Cook Oxford Oxford Introductions to Language Study Oxford University Press</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Applied linguistics a 2. Applied linguistics b 3. Reading sections of academic articles 4. Views of 'correctness' a 5. Views of 'correctness' b 6. Languages in the contemporary world a 7. Languages in the contemporary world b 8. Reading sections of academic articles 9. English Language Teaching a 10. English Language Teaching b 11. Reading sections of academic articles 12. Review 	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b(英語学) 英語専門講読 (英語学)	担当者	T. HILL
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course provides a concise but comprehensive overview of the main concerns of applied linguistics today. In this class we will address pressing and controversial issues such as intercultural communication, political and commercial persuasion, popular and academic views of correctness, the growth of English, language in education, foreign language teaching and learning, communicative competence and critical discourse analysis. Students will be expected to study the text in advance of each class and to work on selections from academic articles in applied linguistics and produce short written responses.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Evaluation will be based on attendance, class participation and a number of short written papers.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Applied Linguistics Guy Cook Oxford Oxford Introductions to Language Study Oxford University Press</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Language and communication a 2. Language and communication b 3. Reading sections of academic articles 4. Context and culture a 5. Context and culture b 6. Language and persuasion a 7. Language and persuasion b 8. Reading sections of academic articles 9. Second language acquisition 10. Post-modern applied linguistics 11. Reading sections of academic articles 12. Review 	

03 年度以降 英語専門講読 a(Exploring Learning) 02 年度以降 英語専門講読(Exploring Learning)	担当者	T. Murphey
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>HOW YOU LEARN WITH OTHERS will be the main topic for this advanced class. You can experiment with learning in many ways and then discuss these in your recordings. Starting the second week <u>you can be recorded</u> having conversations on video and audio cassettes. At the end of each semester you will have about 10 five-minute video-recordings of yourself (one each week) and write a paper comparing your first conversations with your later ones. You can show how you improved and evaluate your learning experiments and strategies, group dynamics, beliefs, and identities.</p> <p>We will look at how we can ENJOY learning more in many ways, in and out of class. For example, we may have some classes OUTSIDE, learn to JUGGLE, call each other on our cell phones and get used to USING English outside of class in our everyday lives.</p> <p><i>Evaluation:</i> Students will be evaluated each week from their participation and action logs. A paper at the end of each semester and an interview with the teacher will also support your grade. 1/3 absent or missed work = automatic "F" No final exam.</p>	<p>◆授業計画</p> <p>Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and tentative syllabus 2. Video 1 Five ways I like to learn 3. Video 2 Helpful Friends & Classmates 4. Video 3 Learning New Strategies 5. Video 4 Mistake stories 6. Video 5 Group Dynamics 7. Video 6 Quick Writes 8. Video 7 Topics to be determined 9. Video 8 Topics to be determined 10. Video 9 Topics to be determined 11. Video 10 Topics to be determined 12. Video 11 My Progress This Semester <p>Because I adjust to student feedback, the above schedule is approximate. Students will read about 2 chapters in the texts each week.</p> <p>Required Texts</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Murphey, T. (1998). <i>Language Hungry!</i> Tokyo: MacMillan LanguageHouse 2) Dornyei, & Murphey (2003) <i>Group Dynamics in the Language Classroom</i>. Cambridge: Cambridge University Press 	

03 年度以降 英語専門講読 b(Exploring Learning) 02 年度以降 英語専門講読 (Exploring Learning)	担当者	T. Murphey
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Please note:</p> <p>This class has an English Mostly policy—students are expected to try to use mostly English as much as possible and to achieve 100% English classes half the time during each semester. Mistakes are OK, they show we are trying. Your level is not important, but your WILLINGNESS to try to speak in English is.</p> <p>The reading load for this class is 10 to 20 pages a week, but the books are relatively easy.</p> <p><u>Comment from a student last year</u> "Videoing our conversations in English is a great way to improve our English. This class also got me used to using English in my everyday life. After 90 minutes in English, it just comes naturally after class. You gave us a lot of work. I did most of it and I learned a lot."</p> <p>SAME EVALUATION SYSTEM and TEXTS AS ABOVE</p>	<p>◆授業計画</p> <p>September (Fall Semester) Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Video 1 Summer vacation 2. Video 2 Jobs 3. Video 3 Extensive Reading 4. Video 4 Being Someone Else 5. Video 5 Language Learning History 6. Video 6 MOVIE Rapa Nui 7. Video 7 Topics to be determined 8. Open Variation 9. Video 8 Class Reunion 10. Video 9 Random Acts of Kindness 11. Video 10 Review of books 12. Video 11 My Progress This semester <p>Because I adjust to student feedback the above schedule is approximate. Students will read and write a good bit each week.</p>	

03 年度以降 02 年年度以前	英語専門講読 a (英米文化) 英語専門講読 (英米文化)	担当者	W. J. Benfield
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course aims to introduce students to the pleasures and difficulties of tackling an authentic literary work in English. As well as providing extensive practice in reading English, the work will raise wider questions about life and society, which we will discuss in class. Each week we will look at one section of the book. There will be comprehension exercises as well as discussion of some of the wider issues raised by the book.</p> <p>The text this year will be “Things Fall Apart,” by Nigerian novelist Chinua Achebe. First published in 1959, the book deals with the clash between a traditional African culture and British colonialism through the story of one man, Okonkwo. This is widely considered to be one of the greatest novels to have emerged from Africa.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>There will be a test at the end of each semester. Attendance and performance in class will also be considered when awarding the final grade.</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>“Things Fall Apart” by Chinua Achebe</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course outline; introduction to the author and the background of the book 2. Reading and discussion 3. Reading and discussion 4. Reading and discussion 5. Reading and discussion 6. Mid-term test 7. Reading and discussion 8. Reading and discussion 9. Reading and discussion 10. Reading and discussion 11. Reading and discussion 12. Review of term’s work 	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b (英米文化) 英語専門講読 (英米文化)	担当者	W. J. Benfield
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course aims to introduce students to the pleasures and difficulties of tackling an authentic literary work in English. As well as providing extensive practice in reading English, the work will raise wider questions about life and society, which we will discuss in class. Each week we will look at one section of the book. There will be comprehension exercises as well as discussion of some of the wider issues raised by the book.</p> <p>The text this year will be “Things Fall Apart,” by Nigerian novelist Chinua Achebe. First published in 1959, the book deals with the clash between a traditional African culture and British colonialism through the story of one man, Okonkwo. This is widely considered to be one of the greatest novels to have emerged from Africa.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>There will be a test at the end of each semester. Attendance and performance in class will also be considered when awarding the final grade.</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>“Things Fall Apart” by Chinua Achebe</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Review of chapters covered so far 2. Reading and discussion 3. Reading and discussion 4. Reading and discussion 5. Reading and discussion 6. Mid-term test 7. Reading and discussion 8. Reading and discussion 9. Reading and discussion 10. Reading and discussion 11. Reading and discussion 12. Review of term’s work 	

03年度以降 英語専門講読 a (米国の東アジア政策) 02年度以前 英語専門講読 (米国の東アジア政策)	担当者	阿部 純一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>アメリカの東アジア政策の現状分析をおこなう。 昨年発動されたアメリカの対イラク戦争では、アメリカの「単独主義」が批判されたが、東アジア政策ではアメリカのアプローチは明らかに異なる。 アメリカの東アジア政策の中心イシューは、引き続き北朝鮮の核問題になろう。この問題をめぐって昨年から開始された6カ国協議(日米中露南北朝鮮)がアメリカの要求によるものであったことからわかるように、アメリカは東アジア地域の関係各国との連携のもとでの解決をめざしている。そこでのカギは、基本的には北朝鮮の核放棄の選択を迫る米朝関係であろうが、日米韓同盟の機能、台湾問題と連動する米中関係など、関連する政策課題も多い。 授業では、こうした問題に対応したレポート、ドキュメントを取り上げ分析する。</p> <p>成績は授業時の学生による報告と討議参加が評価の基準となる。出席率70%以下は不可。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>外交文書、政府高官の議会証言およびシンクタンクのレポート等、最新のテキストを毎回配布する。</p>	<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 英語専門講読 b (米国の東アジア政策) 02年度以前 英語専門講読 (米国の東アジア政策)	担当者	阿部 純一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(前期に同じ)</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降	英語専門講読 a(アメリカ詩—エミリー・ディキンソン)	担当者	石塚 あおい
02 年度以前	英語専門講読(アメリカ詩—エミリー・ディキンソン)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>1,775 に及ぶ詩を創作しながらも、生存中に世に示した作品は殆どなかったエミリー・ディキンソン(1830-86)だが、現在ではアメリカが生んだ偉大な詩人のひとりとして認識されている。しかし、暗示的で濃縮された言葉によって構築された彼女の詩は不可解で、今でも多くの学生・学者が新解釈を試みようとする様々な角度から読んでいます。この授業では、難しい理論は抜きにして、彼女の短い詩の中に圧縮された深く強い思いを鑑賞したい。</p> <p>受講者に要求されるものは、想像力と「謎」を解きほぐそうとする意欲、そして彼女の言葉の可能性を追求するために英英/英和辞典と「にらめっこ」をする覚悟。10 名の人が彼女の詩を読めば 10 通りの解釈が生まれると言われるほどである。受講者の新解釈に期待したい。</p>		<p>まず、ディキンソンの詩の「謎」を解くための大きなポイントとなる事実(時代背景や彼女の育った環境など)を講義する。そして、数編の詩の解釈例を示す。その後、毎週数名(受講者総数による)の学生が、あらかじめ指定された 1 篇の解釈を発表し、全員でディスカッションする。ディスカッションするためには、全受講者が同篇の解釈を試みて授業に臨むことが必要とされるのは言うまでもない。また、ディキンソンの「思い」をできるだけ理解するために、彼女が友人に宛てて書いた手紙の主だったものを読むと同時に、今までに発表されたディキンソンに関する国内外の研究論文を見る機会も持つ。</p>	
◆ 評価方法			
各期末のレポートと平常点(予習、授業における発言、及び出席率)により評価。			
◆テキスト、参考文献			
<p>① テキスト (最初の授業で指示する)</p> <p>② プリント</p> <p>参考文献、辞書等に関しては、授業中に指示・紹介する。</p>			

03 年度以降	英語専門講読 b(アメリカ詩—エミリー・ディキンソン)	担当者	石塚 あおい
02 年度以前	英語専門講読(アメリカ詩—エミリー・ディキンソン)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a (Reading the Yasukuni Shrine Controversy) 英語専門講読(Reading the Yasukuni Shrine Controversy)	担当者	板場良久
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この専門講読では、国際的にも注目されている靖国問題に関して国際ジャーナルに最近掲載された英語記事と学術論文を合計3本（コピー用紙合計約30枚分）精読してみたいと思います。また、必要に応じて関連資料も調べていただきながら、この問題に関して、自分の見解を英語で主体的に表現できるようなることを目指します。「日本のナショナリズムと宗教」「闘争の場としての日本文化」「文化の日本化」などのコンセプトに興味のある学生に適したテーマです。ただし、グループ学習・発表形式を積極的に取り入れますので、共同学習の苦手な学生には向かないかもしれません。また半期完結・連続2コマ開講ですので、連続2コマ履修のできる学生のみが対象となります。なお、購読資料(記事・論文)は次の3本です。(1) "The Japan that Cannot Say Sorry" (Economist, 1995), (2) K. Antoni, "Yasukuni-Jinja and Folk Religion" (Asian Folklore Studies, 1988), and (3) J. Nelson, "Social Memory as Ritual Practice" (Journal of Asian Studies, 2003).</p> <p>◆評価方法</p> <p>クイズ4回(40%)とグループ発表(40%)と出席状況(20%)の総合成績による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>購読資料のコピーは初回の授業で配布予定。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Overview 1: Receiving the syllabus, handouts, and other bits of information. 2. Overview 2: Getting acquainted with the issue. 3. Yasukuni Pamphlet 1 4. Yasukuni Pamphlet 2 5. Economist 1 6. Economist 2 7. Oral Report (Warm-up Debate) 8. Oral Report (Warm-up Debate) 9. Antoni 1 10. Antoni 2 11. Antoni 3 12. Antoni 4 13. Oral Report 	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b (Reading the Yasukuni Shrine Controversy) 英語専門講読(Reading the Yasukuni Shrine Controversy)	担当者	板場良久
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上</p> <p>◆評価方法</p> <p>同上</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>同上</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. Oral Report 14. Oral Report 15. Nelson 1 16. Nelson 2 17. Nelson 3 18. Nelson 4 19. Nelson 5 20. Nelson 6 21. Oral Report 22. Oral Report 23. Final Presentation 24. Final Presentation 	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a (カリブの英語作家たち) 英語専門講読 (カリブの英語作家たち)	担当者	上野直子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>カリブの英語作家ときいて、どんな名前が浮かびますか。一人も思いつかない人もいるかもしれませんが、日本ではまださほど読まれていませんが、実はカリブは「これほど狭い地域で、これほど重要な作家や詩人を輩出したところは他に例をみない」といわれるほど、豊かな文学の実りを生んできました。またそこは、世界のどこよりも早くから、グローバル経済の暴力に翻弄され痛めつけられてきた場所でもあります。長く続いた奴隷制と植民地支配のなかで、これもまた他に類をみないほどの人種と文化の混雑が起こり、20世紀になると、北の豊かな国への大量移民によって、人々は再びのディアスポラ体験をくぐります。</p> <p>授業計画にとりあげた作家たちも、カリブにルーツを持っていますが、現在の生活の場は合衆国、カナダ、イギリスなどです。複雑な歴史のなかから生まれるさまざまなテキストを紹介します。それらは、私たちの「いまとここ」について何を考えさせてくれるのでしょうか。</p> <p>(下につづく)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——「カリブ」というトポスとディアスポラ 2～5. Jamaica Kincaid, <i>A Small Place</i> 6～8. Jean Rhys, "The Day They Burn the Books" & Sam Selvon, "Song of Sixpence" 9 & 10. Junot Diaz, "Negocios" 11 & 12. Austin Clark, "I Hanging On, Praise God!" <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 & 2. Caryl Phillips, "The 'High' Anxiety of Belonging" 3 & 4. ポストコロニアル文学理論を少し <p>(<i>The Empire Writes Back</i> から特にカリブに触れた箇所を読みます。)</p> <p>これ以降のテキストは左記の説明どおり、前期の終わりまでに決定します。</p> <p>(必読参考文献)</p> <p>歴史と文化の背景を知るために、次の二冊をなるべく早い時点で読んでください(開講時にすでに読んでいればベストです)。どちらも平易で読みやすいものです。(1)川北稔、『砂糖の世界史』、岩波ジュニア新書276。(2)シドニー・W・ミンツ(藤本和子聞き書き)、『【聞き書】アフリカン・アメリカン文化の誕生—カリブ海黒人の生きるための闘い』、岩波書店。</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>平常点(小テストを行うかも)、プレゼンテーション、レポートを総合的に判断します。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Jamaica Kincaid, <i>A Small Place</i>, Penguin (amazon.co.jpなどで購入してください)</p>			

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b (カリブの英語作家たち) 英語専門講読 (カリブの英語作家たち)	担当者	上野直子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(上からつづく)</p> <p>なるべく多くの書き手のテキストに触れてほしいため、短編やエッセイをとりあげます。後期には文学批評も読む予定です。原則としてひとつのテキストに2回の授業をあて、1回目は担当者の発表と受講者からの質問、2回目は討論とします。より詳しい授業の進め方、プレゼンテーションの仕方については開講時に説明します。</p> <p>テキストについて。上に指定した <i>A Small Place</i> は第2回めの授業時までに購入しておいてください。その他はプリントを配布します。また開講の時点では全体の6割ほどを指定してあります。残りについては、授業の進み具合を見、また受講者のリクエストなども取り入れながら、前期の終わりまでに決定します。</p> <p>授業への積極的な参加を期待します。授業が進むにつれ、これまでほとんど読んだことのないような英語にも出会うはず。一緒にたくさんのお話を手にいれていきましょう。</p>		<p>◆授業計画</p>	
<p>◆ 評価方法</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p>			

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a(T. S. Eliot 精読) 英語専門講読(T. S. Eliot 精読)	担当者	遠藤 朋之
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>モダニズムの巨匠、T. S. Eliot の、前期の詩作品、および散文を精読する。20 世紀前半の英語詩において、ニュークリティシズムの親方として君臨し続けた Eliot が、世界的に（当然、「荒地派」を生んだ日本をも含む）影響を与えた <i>The Waste Land</i> を書くに至るまでの足跡を、詩作品、および散文からたどる。</p> <p>今回とくに注目してみたいのは、Eliot がどのような歴史観、歴史意識に立脚して詩作をしていたか、である。そして、このことは当然、現在のわれわれがどのような歴史観をもっているのか、を考えるための映し鏡のようなものである。</p> <p>「詩のボクシング」などが出てきた背景と、Eliot の歴史観とは、どこが同じでどこが違うのか、それを考えてみたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>前後期 2 通づつのレポート、および授業での発表（発表をしない場合は単位を認定しない）</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリントおよび <i>The Selected Poems of T. S. Eliot</i> (Faber & Faber)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. The Love Song of J. Alfred Prufrock 3. 同上 4. 同上 5. Portrait of a Lady 6. 同上 7. Preludes 8. 同上 9. 同上 10. Gerontion 11. 同上 12. 同上 	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b(T. S. Eliot 精読) 英語専門講読(T. S. Eliot 精読)	担当者	遠藤 朋之
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期と同じく、Eliot の作品を読む。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. "Tradition and the Individual Talent" 2. 同上 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. <i>The Waste Land</i>, "I. The Burial of the Dead" 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a 英語専門講読 (W. P. Kinsella の Indian Stories を読む)	担当者	大木 理恵子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1987年リーコック賞受賞作家、W. P. Kinsella(1935-)の作品から、北米居留地インディアン社会と、それを取り巻く白人社会を描いた短篇集シリーズのうち、前半の3冊を扱う。</p> <p>キンセラの作品に登場するのは「高貴な野蛮人」でも「かわいそうな被害者」でもない。デザイナーズをはき、マクドナルドのエッグマックマフィンやケンタッキーフライドチキンを食べ、テレビゲームが大好きで、天性のユーモアに溢れ、性におおらかで子供が多く、失業率と犯罪発生率は白人社会の比類ではないが、年長者や社会的弱者に優しく、白人社会とはことなる正義と倫理をもっている——授業では、このような等身大の現代インディアン青年たちが繰り広げる抱腹絶倒の物語を通し、先住民と白人の文化や価値観の相違に起因する、社会の諸問題について、検討していく。先住民問題だけでなく、黒人や女性の開放運動史も当然視野にいれていかねばならない。</p> <p>授業は、リポーターによるプレゼンテーションを中心に進める。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1. 春学期オリエンテーション(含2~4週の担当割当) 2~4. 北米先住民問題史を理解するためのキーワード(コロンブスのアメリカ大陸発見、ポカホンタス、感謝祭、トウモロコシ、薬草、バッファロー、ドーズ法、チェロキー族の涙の旅路、居留地、同化政策、寄宿学校、アンドリュー・ジャクソン、西漸運動、高貴な野蛮人、スポーツチームや車の名前、国際先住民年、Dance with Wolves、Great Spirits、medicine man、「良いインディアンは死んだインディアン」、ワイルド・ウェスト・ショーなど)から、好きなものを選んで、プレゼンテーション。</p> <p>5~6. <i>Dance Me Outside</i> より “Illiana Comes Home” “Panache” “Caraway” “Penance”</p> <p>7~8. <i>Scars</i> より “Bones” “Dreams” “John Cat” “Manitou Motors”</p> <p>9~10. <i>Born Indian</i> より “The Sisters” “The Runner” “I Remember Horses” “Suits”</p> <p>11~12. 日程調整と春学期の総括</p> <p>* 授業進度や取り上げる作品は、受講者と相談の上、変更することがある。</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>プレゼンテーション、授業中の発言、学期ごとのペーパーなどから、総合的に評価する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは、入手困難なものが多いので、プリントを配布する。参考文献はその都度指示する。</p>			

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b 英語専門講読 (W. P. Kinsella の Indian Stories を読む)	担当者	大木 理恵子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期に引き続き、1987年リーコック賞受賞作家、W. P. Kinsella(1935-)の作品から、北米居留地インディアン社会と、それを取り巻く白人社会を描いたシリーズ短篇集7冊のうち、後半の4冊を扱う。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1. 秋学期オリエンテーション 2~3. <i>The Moccasin Telegraph and Other Indian Tales</i> より、受講者と相談の上、いくつかの作品をとりあげる。(以下同様)</p> <p>4~5. <i>The Fencepost Chronicles</i> より</p> <p>6~7. <i>Miss Hobbema Pageant</i> より</p> <p>8~9. <i>Brother Frank's Gospel Hour</i> より</p> <p>10~11. 日程調整と秋学期の総括</p> <p>* 授業進度などは、変更することがある。</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>プレゼンテーション、授業中の発言、学期ごとのペーパーなどから、総合的に評価する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは、入手困難なものが多いので、プリントを配布する。参考文献はその都度指示する。</p>			

03年度以降 英語専門講読 a (英語音声の理論と実践) 02年度以前 英語専門講読 (英語音声の理論と実践)	担当者	大竹 孝司
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的: 本講義では、英語の音声・音韻に関する教材を用いて、以下の2つの点を学びます。1つ目は、海外留学にも十分耐え得るアカデミック・リーディングの学び方を学習することです。本講義で目指すアカデミック・リーディングとは、専門書を正確に読み取り、自分の言葉でその内容を適格に再生することができる能力を身に付けることです。2つ目は、音声言語を分析するために不可欠な音声・音韻論の基礎知識と分析方法を学ぶことです。音声・音韻論に関する専門的な基礎知識が身に付くと同時に英語を駆使する際に不可欠な論理的思考力を身に付けて行きます。この講義は、言語コミュニケーション、英語教育における音声指導、言語障害などに興味を抱いている学生にとっては特に有益でしょう。</p> <p>講義概要: 授業で用いる教科書は、音声言語障害の音韻分析に関して易しく書かれた入門書及び他を使用します。第2言語学習者の音声言語を分析する際に必要な基礎知識が豊富に含まれているため音韻論を初めて学習する人々にとっても理解しやすいものです。練習問題も扱うため、確実に分析力が身に付くはずで、授業の展開方法は、予め指定された範囲を十分咀嚼した上でパワーポイントを使用して発表し、その内容について討論を行うことで理解を深めて行きます。毎回3名の学生が発表します。発表時間は、20分間とし、10分間を質疑応答とします。パワーポイントを使用することで口頭発表能力が格段に改善できるはずで、一回目の授業で使い方の説明をします。</p> <p>◆評価方法</p> <p>口頭発表の質、定期試験、授業への参加度により総合的に決めます。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Phonological Development and Disorders, M. Yaves, 他。印刷したものを使用。</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要とパワーポイントの使い方を説明します・ 2. 第1章 音韻知識について 応用音韻論と音韻の矯正について 3. 第2章 音声学の基礎知識 (発音記号、声道の仕組み 音声の記述と調音の記述について 調音法について VOT とは 4. 母音の記述について 超分節素について 練習問題 5. 第3章 音素とは 音素分析について 音素と文字体系 6. 練習問題 第4章 弁別素性とは チョムスキーとハレの素性 7. 音韻発達と弁別素性 素性とその認識 スチーブンス&カイザー理論と練習問題 8. 第5章 音韻過程 音韻過程 音韻論と言語治療について 9. 韻論と言語治療について 第6章 音韻発達について 体系的な音韻発達 発話に見られる誤まり 発話に見られる誤まり 音声目録の完成 11. 音韻障害の特徴について 組織的な音韻障害 練習問題 12. 前半の復習 	

03年度以降 英語専門講読 b (英語音声の理論と実践) 02年度以前 英語専門講読 (英語音声の理論と実践)	担当者	大竹 孝司
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的: 本講義では、英語の音声・音韻に関する教材を用いて、以下の2つの点を学びます。1つ目は、海外留学にも十分耐え得るアカデミック・リーディングの学び方を学習することです。本講義で目指すアカデミック・リーディングとは、専門書を正確に読み取り、自分の言葉でその内容を適格に再生することができる能力を身に付けることです。2つ目は、音声言語を分析するために不可欠な音声・音韻論の基礎知識と分析方法を学ぶことです。音声・音韻論に関する専門的な基礎知識が身に付くと同時に英語を駆使する際に不可欠な論理的思考力を身に付けて行きます。この講義は、言語コミュニケーション、英語教育における音声指導、言語障害などに興味を抱いている学生にとっては特に有益でしょう。</p> <p>講義概要: 授業で用いる教科書は、音声言語障害の音韻分析に関して易しく書かれた入門書及び他を使用します。第2言語学習者の音声言語を分析する際に必要な基礎知識が豊富に含まれているため音韻論を初めて学習する人々にとっては特に理解しやすいものです。練習問題も扱うため、確実に分析力が身に付くはずで、授業の展開方法は、予め指定された範囲を十分咀嚼した上でパワーポイントを使用して発表し、その内容について討論を行うことで理解を深めて行きます。毎回3名の学生が発表します。発表時間は、20分間とし、10分間を質疑応答とします。パワーポイントを使用することで口頭発表能力が格段に改善できるはずで、一回目の授業で使い方の説明をします。</p> <p>◆評価方法</p> <p>口頭発表の質、定期試験、授業への参加度により、総合的に決めます。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Phonological Development and Disorders, M. Yaves, 他。印刷したものを使用。</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前半の授業の復習と後半の授業の概要の説明。 2. 第7章 音韻の自然性と有標について 共鳴音 音韻論と有標について 3. 自然の過程と練習問題 第8章 バイリンガルの音韻論 干渉の型について 4. 障害の階層 普遍的な型 尾子音と頭子音 流音の獲得 言語治療との関連性 言語治療との関連性 6. 練習問題 第9章 音節とフット 聞こえ度 7. 両節性について 強勢付与と音節量 フットとは 8. 音韻発達への示唆 練習問題 第10章 音韻理論 (Feature geometry & underspecification 9. Feature geometry と臨床音韻論 Underspecification 音韻発達と臨床への示唆 10. Shadow specification Features, underspecification and 中間言語音韻論 練習問題 11. 12 後半の復習 	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a(英語学) 英語専門講読 (英語学)	担当者	大西雅行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的： 言語音は文字で見るようなはっきり見極めがつくものではない。音は瞬時に消えてしまうだけでなく、音と音との境目は重なり合い、溶け合って明確な音の存在は把握しにくい。例えば、英語の"tot"は3音なのか、5音なのか。本年は(1)言語音の研究法を考え、また、音声の扱い方を考察する。(2)英語の標準音と地方音(イギリス、アメリカ、オーストラリア)の体系、その変化を学習する。(1)は一般論、(2)は具体事象である。</p> <p>講義概要： 英語を例にした内容だが、英文は必ずしも易しくない。ロンドン大学のGimsonのPronunciation of Englishより抜粋し、輪読する。</p> <p>◆評価方法</p> <p>期末試験と平常点による</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリント</p>		<p>◆授業計画</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Speech Sounds and Linguistic Units 2. Linguistic Hierarchy 3. Phonemes 4. Distinctive features 5. Allophones 6. Neutralization 7. Syllables 8. The Sonority Hierarchy 9. Syllables Boundary 10. Vowel and Consonant 11. Prosodic Features 12. Paralinguistic Features 	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b(英語学) 英語専門講読 (英語学)	担当者	大西雅行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. Standards of Pronunciation 14. The Emergency of a Standard 15. The Present-Day Situation: RP 16. Refined RP 17. Comparing Systems of Pronunciation 18. Current Changes within RP 19. Systems and Standards other than RP 20. General American 21. Scottish English 22. Cockney 23. Northern English 24. Australian English 	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a (アメリカにおける黒人文化の流れ) 英語専門講読 (アメリカにおける黒人文化の流れ)	担当者	岡田 誠一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>アメリカ黒人文化の流れを学ぶのが、この講義の目標である。絵、風刺画、写真、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本をテキストに使う予定。英文をじっくり読むことにより、将来必ず役に立つような英語力を培うのも、もう一つの目標である。</p> <p>今年度は、19世紀末から20世紀初めにかけての黒人の状況を学んでいく計画である。</p> <p>なお、アメリカ文化を知るための一助として、年間2～3本、黒人に関する映画を鑑賞する予定である。</p> <p>アメリカの黒人について興味を抱いていることが、この授業を受けるための必要条件。また、毎回、必ず予習して授業に臨むこと。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 黒人大学について 2 黒人の労働条件 3 黒人発明家たち 4 奴隷解放後の黒人たち 5 投票をめぐる 6 南部の黒人指導者 7 ジョエル・チャンドラー・ハリス 8 工業と黒人労働者 9 映画鑑賞 10 ニューサウスとは? 11 ブッカー・T・ワシントン 12 タスキーギーについて 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か、前後期の試験、などにより決定される。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストとしてはプリントを使う予定。参考文献は授業中に適宜指示する。</p>			

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b (アメリカにおける黒人文化の流れ) 英語専門講読 (アメリカにおける黒人文化の流れ)	担当者	岡田 誠一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期と同じ</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アトランタでのワシントンの演説 2 ウェスト・ポイントと黒人 3 『黒人の魂』 4 デュボイスとジョン・ホープ 5 黒人と音楽 6 歴史と芸術 7 リンチと暴動 8 映画鑑賞 9 ナイヤガラ運動とは? 10 NAACP 結成さる 11 第一次世界大戦と黒人 12 勲章と音楽 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>前期と同じ</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>前期と同じ</p>			

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a (映画批評と哲学) 英語専門講読 (映画批評と哲学)	担当者	柿田 秀樹
<p>講義目的</p> <p>様々な映画を諸哲学的立場から批評した論文を精読する。論文の精読を通して映像テキストの表象分析とはいかなるものであるかを考案する。講義においては以下の3点が探求のテーマとなる。1) 理論とは何か、2) 批評とは何か、3) レトリック研究とは何か。これら3点のテーマについて綿密なテキスト分析を実践し、この映画の可能性に含まれた社会的意義を探っていく。</p> <p>講義概要</p> <p>映像という表象手段によってコミュニケーションされる映画をテキストとして、レトリック理論の基礎としての諸哲学を学んでいく。映像というレトリックの手段が哲学を織り込んでいく過程を、映画作品とその批評を綿密に読み込み、さらに理論的な背景を加味しながら理解していく。この講座の目的はあくまでもレトリック理論の探求であり、映画をエンターテインメントとして楽しむためのものではない。如何にして理論的な「読み」の楽しみを映画というテキストを通じて見いだしていくのが、講義と活発な討論における探求の主題となる。したがって、テキストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、題材である映画も予め必ず各自で観ておくこと。これらの時間を要する予習への心構えのない学生は受講を遠慮すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験又はレポート、授業への参加度(発表・発言等)、出席状況(一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当)等から総合的に評価する。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>Mary M. Litch. <i>Philosophy through Film</i>. NY; London: Routledge. 2002.</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Course Orientation 2 Skepticism: <i>Total Recall</i> and <i>The Matrix</i> 3 Skepticism: <i>Total Recall</i> and <i>The Matrix</i> 4 Skepticism: <i>Total Recall</i> and <i>The Matrix</i> 5 Relativism: <i>Hilary</i> and <i>Jackie</i> 6 Relativism: <i>Hilary</i> and <i>Jackie</i> 7 Personal Identity: <i>Being John Malkovich</i> and <i>Memento</i> 8 Personal Identity: <i>Being John Malkovich</i> and <i>Memento</i> 9 Personal Identity: <i>Being John Malkovich</i> and <i>Memento</i> 10 Artificial Intelligence: <i>AI: Artificial Intelligence</i> 11 Artificial Intelligence: <i>AI: Artificial Intelligence</i> 12 Review 	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b (映画批評と哲学) 英語専門講読 (映画批評と哲学)	担当者	柿田 秀樹
<p>◆ 講義目的、講義概要</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Ethics: <i>Crimes and Misdemeanors</i> 2 Ethics: <i>Crimes and Misdemeanors</i> 3 Ethics: <i>Crimes and Misdemeanors</i> 4 Free Will, Determinism, and Moral Responsibility: <i>Gattaca</i> and <i>Memento</i> 5 Free Will, Determinism, and Moral Responsibility: <i>Gattaca</i> and <i>Memento</i> 6 Free Will, Determinism, and Moral Responsibility: <i>Gattaca</i> and <i>Memento</i> 7 The Problem of Evil: <i>The Seventh Seal</i> and <i>The Rapture</i> 8 The Problem of Evil: <i>The Seventh Seal</i> and <i>The Rapture</i> 9 Existentialism: <i>The Seventh Seal</i>, <i>Crimes and Misdemeanors</i>, and <i>Leaving Las Vegas</i> 10 Existentialism: <i>The Seventh Seal</i>, <i>Crimes and Misdemeanors</i>, and <i>Leaving Las Vegas</i> 11 Existentialism: <i>The Seventh Seal</i>, <i>Crimes and Misdemeanors</i>, and <i>Leaving Las Vegas</i> 12 Course Review 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p>			

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) 英語専門講読 (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>授業の目的は2つある。第一に、国際関係論や地域研究 (Area Studies) にとって不可欠な英語表現を学習する。第二に、アジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する基本的知識、ならびに各国、各地域の現状分析を行う際の視点・手法の習得を図る。</p> <p>テキストを読み進めることを中心に、同地域に横たわる諸問題について検討する。週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その内容を全訳したレポートを毎週、受講者全員が提出する。授業はそれを基に受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進める。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的求める。今年からは特に出席を重視する。</p> <p>受講者数には上限がある。初回の授業で1時間程度の英文の読解力テスト (国際政治経済の時事問題に関する英文の和訳) を実施する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>右の授業計画参照。一括購入する。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>(テキストのパートごとに進める)</p> <p>テキスト： Institute of South East Studies, <i>Regional Outlook: Southeast Asia 2003-2004</i>, ISEAS, 2003.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは 200 ページ前後、価格は 2000 円程度。履修者決定時点で一括注文する。 ・テキストの内容は、2003 年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済の状況に関する国別の分析。 	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) 英語専門講読 (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>授業の目的は2つある。第一に、国際関係論や地域研究 (Area Studies) にとって不可欠な英語表現を学習する。第二に、アジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する基本的知識、ならびに各国、各地域の現状分析を行う際の視点・手法の習得を図る。</p> <p>テキストを読み進めることを中心に、同地域に横たわる諸問題について検討する。週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その内容を全訳したレポートを毎週、受講者全員が提出する。授業はそれを基に受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進める。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的求める。今年からは特に出席を重視する。</p> <p>受講者数には上限がある。初回の授業で1時間程度の英文の読解力テスト (国際政治経済の時事問題に関する英文の和訳) を実施する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>右の授業計画参照。一括購入する。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>(テキストのパートごとに進める)</p> <p>テキスト： Institute of South East Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2004</i>, ISEAS, 2004.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは、全体で 350 ページ前後、価格は 2000～2500 円程度 (春学期とは別のテキスト)。履修者決定時点で一括注文する。 ・テキストの内容は、2003 年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。 	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a (The Authorized Version を読む) 英語専門講読 (The Authorized Version を読む)	担当者	川崎 潔
------------------	--	-----	------

<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>英訳聖書、殊に The Authorized Version(1611年出版)は、英語英文学を学ぶ者にとって必読の書である。AVは先行する英訳聖書の粋を集大成したものであり、それ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響をあたえてきたからである。</p> <p>授業ではAVの旧・新約から代表的な箇所を抜粋した「英訳聖書鈔」を語学的に精読することに重点をおきたいと思う。その際AVを他の現代英語訳聖書、例えば Revised Standard Version(新旧両訳1952年)や New English Bible(新旧両訳・外典1970年)と読み比べれば、両者の英語の違いを具体的に知ることができよう。</p> <p>なおテキストには90頁から成る詳しい注が付けられており、有益である。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>期末テストと平常点によって評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト： 船橋 雄 注釈「英訳聖書鈔」研究社 ¥2,200</p> <p>参考文献： 寺澤芳雄ほか著「英語の聖書」富山房 市河三喜著「聖書の英語」研究社 齋藤 勇著「文学としての聖書」研究社</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="0"> <tr><td>1~2</td><td>Chapter</td><td>I</td></tr> <tr><td>3~5</td><td>Chapter</td><td>II</td></tr> <tr><td>6</td><td>Chapter</td><td>XXVIII</td></tr> <tr><td>7~8</td><td>Chapter</td><td>III</td></tr> <tr><td>9~10</td><td>Chapter</td><td>IV</td></tr> <tr><td>11~12</td><td>Chapter</td><td>V</td></tr> </table>	1~2	Chapter	I	3~5	Chapter	II	6	Chapter	XXVIII	7~8	Chapter	III	9~10	Chapter	IV	11~12	Chapter	V
1~2	Chapter	I																	
3~5	Chapter	II																	
6	Chapter	XXVIII																	
7~8	Chapter	III																	
9~10	Chapter	IV																	
11~12	Chapter	V																	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b (The Authorized Version を読む) 英語専門講読 (The Authorized Version を読む)	担当者	川崎 潔
------------------	--	-----	------

<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>同上</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>同上</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>Chapter</td><td>V</td></tr> <tr><td>2~8</td><td>Chapter</td><td>VI</td></tr> <tr><td>9~10</td><td>Chapter</td><td>XXIX</td></tr> <tr><td>11~12</td><td>Chapter</td><td>XXIV</td></tr> </table>	1	Chapter	V	2~8	Chapter	VI	9~10	Chapter	XXIX	11~12	Chapter	XXIV
1	Chapter	V											
2~8	Chapter	VI											
9~10	Chapter	XXIX											
11~12	Chapter	XXIV											

03 年度以降	英語専門講読 a (異文化コミュニケーション)	担当者	川島 浩美
02 年度以前	英語専門講読 (異文化コミュニケーション)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><講義目的> コミュニケーション、文化、その両者の関係についての文献を読み、異文化コミュニケーションへの基本的認識・理解を深める。その上で、コミュニケーション上の問題点等を分析できることを目的とする。</p> <p><講義概要> 授業は、毎週 8~10 ページ程度の範囲をもとに、受講生による内容発表 (レジュメ作成) と質疑応答で進めていく。内容は、コミュニケーションの基本概念及び構成要素、文化とコミュニケーションの密接性に関するものを扱い、基本概念を理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとレジュメ作成手順紹介。 2. Introduction 3. Communication and culture (1) 4. Communication and culture (2) 5. Communication and culture (3) 6. Cultural diversity in perception: Alternative views of reality (1) 7. Cultural diversity in perception: Alternative views of reality (2) 8. Cultural diversity in perception: Alternative views of reality (3) 9. Cultural diversity in perception: Alternative views of reality (4) 10. Language and Culture: Words and meaning (1) 11. Language and Culture: Words and meaning (2) 12. Review 	
<p>授業参加度 (出席と発表)、定期試験およびレポートによる総合評価</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>Samovar, R. A., & Porter, R. E.(2001). <i>Communication between cultures (4th ed.)</i>. Belmont, CA: Wadsworth.</p>			

03 年度以降	英語専門講読 b (異文化コミュニケーション)	担当者	川島 浩美
02 年度以前	英語専門講読 (異文化コミュニケーション)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的および授業の進め方は上記に同じ。文献の内容は、非言語コミュニケーション、異文化接触、異文化適応に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. The deep structure of culture: Roots of reality 3. Nonverbal communication (1) 4. Nonverbal communication (2) 5. Nonverbal communication (3) 6. Accepting differences and appreciating similarities (1) 7. Accepting differences and appreciating similarities (2) 8. Accepting differences and appreciating similarities (3) 9. Accepting differences and appreciating similarities (4) 10. Cross-cultural adaptation (1) 11. Cross-cultural adaptation (2) 12. Review 	
<p>評価方法</p> <p>授業参加度 (出席と発表)、定期試験による総合評価</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>Samovar, R. A., & Porter, R. E.(2001). <i>Communication between cultures (4th ed.)</i>. Belmont, CA: Wadsworth. 他 1 冊より抜粋</p>			

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a(イギリス文学) 英語専門講読(イギリス文学)	担当者	北澤 滋久
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>テキスト:D. H. Lawrence, <i>The Ladybird</i>, 開文社</p> <p>上記の中編小説を精読して、この作品に籠められた作者の意図を探り、併せてロレンス文学の概要を伝えたいと思っている。</p> <p>西欧文化の基盤となっている、ギリシャ・エジプト・キリスト教のエピソードが巧みに織り込まれているから、担当者も適宜解説はするが、そうした分野にも関心と多少の知識を予め持っていないと、受講が困難となるうからご注意願いたい。</p> <p>なお、下記の自著にはこの作品の詳細な分析が収容されているから、さらなる興味を持つ者には参考文献として便利であろう。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>単に英文解釈の出題のみならず、内容も問う期末の試験において評価する。受講態度も加味する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>北澤滋久、『D. H. ロレンス、生と死のファンタジイ：人と文明の再生をもとめて』、金星堂。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>随時指名した学生と担当者の質疑応答により、英文を逐一吟味しながら読み進め、その内容を把握してゆく。</p>	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b(イギリス文学) 英語専門講読(イギリス文学)	担当者	北澤 滋久
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期の延長である。他の候も含めて前記の記述を参照のこと。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a (日本文化とコミュニケーション) 英語専門講読 (日本文化とコミュニケーション)	担当者	工藤 和宏
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>A central issue in intercultural communication studies has been the question of how to conceptualise culture and understand dynamic interplay between culture and communication. This subject will focus on theories and arguments related to these issues, drawing on the literature of various disciplines such as communication, sociolinguistics, psychology, education, sociology and cultural studies. Students will be asked to examine aspects of Japanese culture and communication from different philosophical and methodological viewpoints through critical reading of the texts, discussion and presentation. All except small-group discussion will be done in English.</p> <p>This subject is recommended for students who wish to undertake research into intercultural and interpersonal communication and are willing to spend more than two hours per week reading 10-20 page articles and preparing well for class activities.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Two 500-word essays & two presentations in English. (*4回以上の欠席は不可)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Handouts and a list of recommended reading will be provided on the first date of class.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. What is understanding? 3. How can we understand culture and communication? 4. Culture and communication 1 (Martin & Nakayama, 2001) 5. Culture and communication 2 (Martin & Nakayama, 2001) 6. Japanese key words and core cultural value (Wierzbicka, 1991) 7. Japanese-style communication (Midooka, 1990) 8. <i>Enryo-sasshi</i> communication (Ishii, 1984) 9. Public and private self: Japan and the USA (Barnlund, 1975) 10. Japanese collectivism (Matsumoto, 2002) 11. Japanese group consciousness: Chinese perceptions (Nadamitsu, Chen, & Friedrich, 1998) 12. Summary <p>* 内容がかなり専門的なので、講義科目「異文化間コミュニケーション論」を履修済み、もしくは履修中であることが望ましい。</p>	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b (日本文化とコミュニケーション) 英語専門講読 (日本文化とコミュニケーション)	担当者	工藤 和宏
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>A central issue in intercultural communication studies has been the question of how to conceptualise culture and understand dynamic interplay between culture and communication. This subject will focus on theories and arguments related to these issues, drawing on the literature of various disciplines such as communication, sociolinguistics, psychology, education, sociology and cultural studies. Students will be asked to examine aspects of Japanese culture and communication from different philosophical and methodological viewpoints through critical reading of the texts, discussion and presentation. All except small-group discussion will be done in English.</p> <p>This subject is recommended for students who wish to undertake research into intercultural and interpersonal communication and are willing to spend more than two hours per week reading 10-20 page articles and preparing well for class activities.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>One 1,000-word essay & two presentations in English. (*4回以上の欠席は不可)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Handouts and a list of recommended reading will be provided on the first date of class.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Japanese friendship (Cargile, 1998) 3. Intercultural friendship: Japanese perceptions (Kudo & Simkin, 2003) 4. Diffusion of English in Japan (Tsuda, 1994) 5. Deconstructing the Japanese (Sugimoto, 2003) 6. Japan and the West (Befu, 2001) 7. Woman as an outsider (Nishizono-Maher, Matsuda, & Maher, 1995) 8. De-Orientalising Japanese (Maynard, 1997) 9. Prep time for presentation 10. Group research presentation I 11. Group research presentation II 12. Summary <p>* 内容がかなり専門的なので、講義科目「異文化間コミュニケーション論」を履修済み、もしくは履修中であることが望ましい。</p>	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a(オーストラリアの詩) 英語専門講読(オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><講義目的> 多民族、多言語を内包するオーストラリアの歴史や文化を考察しながら、オーストラリアの詩を様々な角度で話し合っていきます。オーストラリアに愛着を持っている方、詩を書いたり読んだりするのが好きな方は、授業に参加して発言してください。現在、大学で文学を学ぶ意義が問われています。「生きること」と「文学」がどう関わっているのかも、皆さんと共に考えていきたいと思います。取っ掛かりとして、大江健三郎著『「自分の木」の下で』『「新しい人」の方へ』を読んできて下さい。とてもいい本です。</p> <p><講義概要> アボリジニの歴史や神話を踏まえた上で、彼らの詩を読んでいきます。CD、ビデオ、DVDを使用することもあります。授業はレポーターの発表後、クラスで議論する形式で進めます。取り上げる詩は、去年と別のものを考えています。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>前期・後期レポート、授業での参加度（発表、発言など）、出席状況（欠席は年間で6回以内）。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはプリントして配布。参考文献は授業で適時紹介します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 アボリジニの歴史概要 3 アボリジニの神話・伝説概要 4 アボリジニ独自の言語から英訳された詩① 5 アボリジニ独自の言語から英訳された詩② 6 アボリジニ独自の言語から英訳された詩③ 7 アボリジニ独自の言語から英訳された詩④ 8 アボリジニが英語で書いた詩① 9 アボリジニが英語で書いた詩② 10 アボリジニが英語で書いた詩③ 11 アボリジニが英語で書いた詩④ 12 前期授業のまとめ 	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b(オーストラリアの詩) 英語専門講読(オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><講義目的> 前期同様。</p> <p><講義概要> 入植者、または入植者の血を引く者たちの詩を読んでいきます。詩人本人が朗読している詩や、音楽に合わせて読まれている詩のときには、CDを利用して授業を進めます。授業の第4回目以降、取り上げる詩人は昨年と同様ですが、取り扱う詩は別のものにする予定です。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>前期同様</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>前期同様</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 レポート返却、コメント。後期授業の展望。 2 初期入植者たちが書いた詩① 3 初期入植者たちが書いた詩② 4 Judith Wright① 5 Judith Wright② 6 Gwen Harwood① 7 Gwen Harwood② 8 Bruce Dawe① 9 Bruce Dawe② 10 Les Murray① 11 Les Murray② 12 後期授業のまとめ。 	

03 年度以降 英語専門講読 a (英米の現代演劇) 02 年度以前 英語専門講読 (英米の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な英語表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p> <p>毎回授業開始時に行う vocabulary テストで64%、観劇レポート(500字)2編で24%、出席で12%。 学期末の定期試験はありません。 レポートに関する詳細は初回授業で説明します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>英米の現代演劇の台本の抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>教室で読む台本は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p>	

03 年度以降 英語専門講読 b (英米の現代演劇) 02 年度以前 英語専門講読 (英米の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な英語表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p> <p>毎回授業開始時に行う vocabulary テストで64%、観劇レポート(500字)2編で24%、出席で12%。 学期末の定期試験はありません。 レポートに関する詳細は初回授業で説明します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>英米の現代演劇の台本の抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>教室で読む台本は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p>	

03年度以降 英語専門講読 a(英語史) 02年度以前 英語専門講読(英語史)	担当者	児玉 仁士
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 専門書を読解するに相応しい知識と読解力を涵養することを目的とする。それにはその分野の知識（ここでは、英国の歴史的背景）を深め、更に英語の読解力を高めることにある。</p> <p>講義の概要 この講義では、英語史に関するテキストを通読する。精読と速読を併用しながら授業を進める。講義の内容は右欄の授業計画を参照せよ。すでに、『英語学概論』、『英語史』を受講した学生が望ましい。授業には必ず英和辞書を持参すること。</p> <p>◆評価方法 前期・後期の定期試験の成績、夏休みのレポート、出席により総合評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献 C.L.Wrenn: <u>The English Language</u> (研究社)</p>	<p>◆授業計画</p> <p>INTRODUCTION</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. General Considerations 2. General Character of English 3. The Indo-European Family of Languages 4. The Germanic Family 5. English in the Germanic Family 6. Landmarks in the History of English 7. Philology and Literature <p>VOCABULARY</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. General Remarks 2. The Influences of Latin 3. Greek Influence 4. French Influences on the Vocabulary 5. Scandinavian Elements 6. Other Germanic Languages 7. The Influence of Italy 8. Other European Influences 9. Words from Outside of Europe 10. Recent and Current Tendencies 	

03年度以降 英語専門講読 b(英語史) 02年度以前 英語専門講読(英語史)	担当者	児玉 仁士
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p> <p>INDIVIDUALS AND THE MAKING OF MODERN ENGLISH</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. General Considerations 2. Bible Translations 3. Shakespeare's Influence 4. Some Formative Working Critics 5. Milton and the English Language 6. Some Poets and the Language 7. Rhetoric and Oratory <p>THE ENGLISH LANGUAGE TO-DAY ...</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. General Considerations 2. The Search for a Standard 3. American Influence 4. The Radio and the Language 5. Other Influences on English 6. English as a World Language <p>AIMS AND METHODS OF STUDY</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. General Considerations 2. Methods of Study 3. Some English Language Studies of the Past 4. Select Bibliography 	

03年度以降 英語専門講読 a (アメリカのエスニックヒストリー) 02年度以前 英語専門講読 (アメリカのエスニックヒストリー)	担当者	佐藤 唯行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>平均的な大学生の中には、英文の知識が一定出来ても、意味が理解出来ていなかったり、内容を要約し、結論をひとことと表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学習意欲を高め読む機会、パラグラフ毎、各段落の内容要約能力が常に求められます。そのため、本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要約をひとことと要約する能力を養う事を、読読の目標といたします。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>使用するテキストはアメリカユダヤ人史の概論書です。また、そこに書かれた文章は平素の内容です。植民地時代から今日に至るアメリカ社会とユダヤとの関係が、概論の中心となります。</p> </div> <p>◆評価方法</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>前・後期に筆記試験をします。平常点も30%程度考慮します。出席が総半回数$\frac{1}{2}$を超えた場合、単位を与えません。遅刻は3回で欠席1回分にカウントします。</p> </div> <p>◆テキスト、参考文献 H.L. Feingold, <i>Zion in America</i> 高価なため、コピーを配布します</p>	<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 英語専門講読 b (アメリカのエスニックヒストリー) 02年度以前 英語専門講読 (アメリカのエスニックヒストリー)	担当者	佐藤 唯行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期と同じ</p> <p>◆評価方法</p> <p>前期と同じ</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>前期と同じ</p>	<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a (物語を読む) 英語専門講読 (物語を読む)	担当者	佐藤 勉
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>優れた現代英米の物語（短編小説と呼んでもかまわない）を読んで、作品の構造や語りの技巧や物語内容などに触れ、読みの行為とはなにか、という点に焦点を当てて考えてみる。 読むための技術を身につけることを目指す。</p> <p>そのためにいろいろな物語を取り上げたいのだが、時間の都合で数編ということになろう。今年度はテキストを購入してそれを中心に読んでいく。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりであるが、受講生に順番に読んでもらうので毎回出席すること大切である。</p> <p>言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたりして、作者がどんな技巧を物語の語りに駆使しているかを見極めていく。最終的には物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえたいことを期待している。</p> <p>授業では読み進める物語の解説とともに、右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて説明を試みる予定であるので、番号は授業時間の回数ではない。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>成績評価は出席、定期試験によって行う。3分の2以上の授業出席を求める。またレポートの提出なども考えている。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>春学期は <i>Modern British Short Stories</i> (成美堂) 売店で購入のこと。読み切れなければ秋学期へと継続します。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>以下に学習する主なトピックスを挙げておく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Character と characterization について 2 Plot と plotting について 3 Point of view と narrator について 4 Setting と perspective について 5 Style と tone について 6 Theme と title について 7 Structure について 8 Metaphor について 9 Allegory について 10 Imagery について 11 Satire について 12 Symbol について 13 Focalization について 14 Stereotype について 15 Irony について 16 Analogy について 17 Allusion について 18 Connotation と denotation について 19 Paradox について 20 Genre について 21 物語の語り手の役割について 22 物語と読者との関係について その他 	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b (物語を読む) 英語専門講読 (物語を読む)	担当者	佐藤 勉
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>優れた現代英米の物語（短編小説と呼んでもかまわない）を読んで、作品の構造や語りの技巧や物語内容などに触れ、読みの行為とはなにか、という点に焦点を当てて考えてみる。 読むための技術を身につけることを目指す。</p> <p>そのためにいろいろな物語を取り上げたいのだが、時間の都合で数編ということになろう。今年度はテキストを購入してそれを中心に読んでいく。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりであるが、受講生に順番に読んでもらうので毎回出席すること大切である。</p> <p>言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたりして、作者がどんな技巧を物語の語りに駆使しているかを見極めていく。最終的には物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえたいことを期待している。</p> <p>授業では読み進める物語の解説とともに、右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて説明を試みる予定であるので、番号は授業時間の回数ではない。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>成績評価は出席、定期試験によって行う。3分の2以上の授業出席を求める。またレポートの提出なども考えている。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Modern British Short Stories</i> (成美堂) 売店で購入のこと 上記が読み終われば、秋学期にはテキストが変わるでしょう。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>以下に学習する主なトピックスを挙げておく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Character と characterization について 2 Plot と plotting について 3 Point of view と narrator について 4 Setting と perspective について 5 Style と tone について 6 Theme と title について 7 Structure について 8 Metaphor について 9 Allegory について 10 Imagery について 11 Satire について 12 Symbol について 13 Focalization について 14 Stereotype について 15 Irony について 16 Analogy について 17 Allusion について 18 Connotation と denotation について 19 Paradox について 20 Genre について 21 物語の語り手の役割について 22 物語と読者との関係について その他 	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a (現代アメリカ小説) 英語専門講読 (現代アメリカ小説)	担当者	島田啓一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Modernism と Postmodernism の代表的なアメリカ作家の短編小説を読み、英語の読解力増強と作品理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業は教師が事前に作成・配布する内容・作品理解に関する質問表に答えてもらい、討論に発展させる形で進める。従って、課せられた範囲を事前に読み、質問の答えを準備しておくことが毎回要求される。質問の多くは「正解」が無く、各自が自分なりの意見を説得力のある形で発言できるように準備することが期待されている。「分かりませんでした」という答えは可であるが、なぜ分からなかったのか、きちんと理由を説明することが要求される。「読んでこなかったので・・・」という理由はもちろん不可であるので要注意！</p> <p>教師が討論の司会をするが、途中から(進行状況にもよるが)、学生諸君に司会をしてもらうかもしれない。前年度このテキストを使用した受講者も受講可であるが、もし重複した作品を扱う場合は、司会をお願いしたいと考えている。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>以下の作品から数編(3~4編程度)を読む予定</p> <p>Sherwood Anderson, "I Want to Know Why"</p> <p>John Barth, "Water-Message"</p> <p>Saul Bellow, "The Old System"</p> <p>F. Scot Fitzgerald, "The Baby Party"</p> <p>Ernest Hemingway, "Indian Camp"</p> <p>Bernard Malamud, "The Magic Barrel"</p>	
<p>(各) 学期末の定期試験、および平常点(出席点ではない！)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>渋谷雄三郎編 <i>New American Models</i> (邦題『現代アメリカ短編選集』), (金星堂)</p>			

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b (現代アメリカ小説) 英語専門講読 (現代アメリカ小説)	担当者	島田啓一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Modernism と Postmodernism の代表的なアメリカ作家の短編小説を読み、英語の読解力増強と作品理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業は教師が事前に作成・配布する内容・作品理解に関する質問表に答えてもらい、討論に発展させる形で進める。従って、課せられた範囲を事前に読み、質問の答えを準備しておくことが毎回要求される。質問の多くは「正解」が無く、各自が自分なりの意見を説得力のある形で発言できるように準備することが期待されている。「分かりませんでした」という答えは可であるが、なぜ分からなかったのか、きちんと理由を説明することが要求される。「読んでこなかったので・・・」という理由はもちろん不可であるので要注意！</p> <p>教師が討論の司会をするが、途中から(進行状況にもよるが)、学生諸君に司会をしてもらうかもしれない。前年度このテキストを使用した受講者も受講可であるが、もし重複した作品を扱う場合は、司会をお願いしたいと考えている。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>以下の作品から数編(3~4編程度)を読む予定</p> <p>William Faulkner, "Barn Burning"</p> <p>Joyce Carol Oates, "First Views of the Enemy"</p> <p>Flannery O'Connor, "A Good Man is Hard to Find"</p> <p>John Steinbeck, "The Chrysanthemums"</p> <p>John Updike, "Pigeon Feathers"</p> <p>Kurt Vonnegut, Jr., "Harrison Bergeron"</p>	
<p>(各) 学期末の定期試験、および平常点(出席点ではない！)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>渋谷雄三郎編 <i>New American Models</i> (邦題『現代アメリカ短編選集』), (金星堂)</p>			

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 (イギリス児童文学) a 英語専門講読 (イギリス児童文学)	担当者	白鳥正孝
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>「習うより慣れよ」(Use makes perfect.) の観点から、面白くて易しい英語を多読することを目的とする。(昨年の実績は547頁)</p> <p>Lang(Andrew,1844-1922)の『色分け昔話集』(全12巻)の内、本年度は『灰色昔話集』を読む。Langはグリム同様に編者に過ぎないが、中には翻訳、再話で少し変えているところもある。今回もなじみの話はすくないが、基本は同じ、夢とヒューマーとペイソスである。(1回20頁相当を2人の共同責任で読む。)</p> <p>参考文献</p> <p>定松正・本多英明 『英米児童文学辞典』(研究社、2001年)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Donkey Skin/The Goblin Pony 3. An Impossible Enchantment/The Story of Dschemil and Dschemila 4. Janni and Draken/The Partnership of the Thief and the Liar 5. Fortunatua and his Purse/The Goat-faced Girl 6. What came of picking Flowers/The Story of Bensurdatu 7. The Magician's Horse/The Little Gray Man 8. Herr Lazarus and the Draken /The Story of the Queen of the Flowery isles 9. Udea and her Seven Brothers/The White Wolf 10. Mohammed with the Magic Finger/Bobino 11. The Dog and the Sparrow/The Story of the Three Sons of Hali 12. The Story of the Fair Circassians/The Jackal and the Spring 	
<p>◆評価方法</p> <p>試験をする。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Lang,A. ed. <i>The Grey Fairy Book</i>, Dover,1967</p>			

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 (イギリス児童文学) b 英語専門講読 (イギリス児童文学)	担当者	白鳥正孝
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. The Bear 2. The Sunchild 3. The Daughter of Buk Ettemsuch 4. Laughing Eye and Weeping Eye, or the Limping Fox 5. The Unlooked-for Prince 6. The Simpleton 7. The Street Musicians 8. The Twin Brothers 9. Cannetella 10. The Orger 11. A Fairy's Blunder 12. Long, Broad, and Quickeye/Prunella 	
<p>◆評価方法</p> <p>試験をする。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>同上</p>			

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a (各種英文ビジネス文書の読み方と実務) 英語専門講読 (各種英文ビジネス文書の読み方と実務)	担当者	杉山 晴信
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>ビジネス通信文(Business Correspondence)のみを扱う狭義のビジネス英語から脱却し、他の領域の英文ビジネス文書にまで学習を拡大して、国際ビジネスに従事する者にとって不可欠な実務能力とロジカル・シンキングの涵養を目指します。</p> <p>春学期は、法律文書(legal writings)の代表である契約書を扱います。具体的には、技術援助契約(technical assistance agreement)の英文契約書をテキストとして読み、法律英語の文体や語法の特徴を言語的知識として学ぶと同時に、国際ビジネスに関する実務的な知識を習得できるように努力します。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業計画と学習内容について詳しく説明し、履修上の注意事項を伝達します。 2 法律英語の文体や語法の基本的特徴について講義します。 3 同上 4 技術援助契約について全体的な説明を行った後、契約書の前文を読みます。 5 契約書の定義条項(definitions)を読みます。 6 契約書の実質条項のうち、実施権許諾(grant of license)と技術情報(technical information)の部分を読みます。 7 契約書の実質条項のうち、技術指導(technical guidance)と技術訓練(technical training)の部分を読みます。 8 契約書の実質条項のうち、実施料の支払い(payment of royalty)の部分を読みます。 9 契約書の実質条項のうち、工業所有権(industrial property right)の部分を読みます。 10 契約書の実質条項のうち、改良(improvements)、秘密情報(confidential information)、および商標(trademarks)の部分を読みます。 11 契約書の一般条項のうち、有効期間(effective period)、契約の終了(termination of agreement)、譲渡(assignment)、および不可抗力(force majeure)の部分を読みます。 12 その他の一般条項を読むとともに、春学期の総復習を行います。 	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b (各種英文ビジネス文書の読み方と実務) 英語専門講読 (各種英文ビジネス文書の読み方と実務)	担当者	杉山 晴信
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>秋学期は、英文財務諸表を扱います。実在の米国企業の財務諸表(financial statements)を範例とした英文のテキストを読みながら、貸借対照表(Balance Sheet)や損益計算書(Income Statement)の意義、表示区分と読み方、勘定科目、各種の分析指標などについて学びます。英文財務諸表に馴染み、ごく基本的なレベルの経営分析(流動性、健全性、収益性、効率性、成長性など)ができるようになることを目指します。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>春学期と同じです。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Understanding Financial Statements 5th</i> (Prentice Hall)の必要部分をコピーして配布します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業計画と学習内容について詳しく説明し、履修上の注意事項を伝達します。 2 財務諸表、特に貸借対照表と損益計算書の意義について詳しく説明します。 3 英文財務諸表の表示区分と読み方、および主要な勘定科目について、日本語版のそれらと比較しながら詳しく説明します。 4 同上 5 実在の米国企業の英文財務諸表を範例とした英文のテキストを、専門用語に慣れながら読み進み、実務知識の習得を目指します。 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 各種の分析指標を用いて、テキストが範例として挙げている米国企業の経営分析を行い、業績を検討します。 11 同上 12 秋学期の総復習を行います。 	

03年度以降 02年度以降	英語専門講読 a(Language Teaching) 英語専門講読 (Language Teaching)	担当者	鈴木 真奈美
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The goal of this course is to give you an overview of language teaching.</p> <p>In the spring semester, we will focus on theories of language learning and teaching at first. Then, we will study language teaching methods and approaches. You will present a topic once in each semester. You need to prepare a handout for your presentation. You will actually try out some methods and approaches in the class.</p> <p>You will read, write, think and talk about weekly topics in English.</p> <p>You will take a quiz of reading comprehension and vocabulary from reading assignments at the beginning of every class.</p> <p>We will use e-mail as a means of our communication outside the classroom.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction/ Overview 2. Theoretical Perspectives of Language Learning I 3. Theoretical Perspectives of Language Learning II 4. Theoretical Perspectives of Language Learning III 5. Social and Cultural Perspectives 6. A History of Language Teaching I 7. A History of Language Teaching II 8. Teaching Methods I 9. Teaching Methods II 10. Teaching Approaches I 11. Teaching Approaches II 12. Learners' Individual Differences 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>Weekly quizzes, assignments, presentation and its handout, class participation, and final written examination</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Handouts</p>			

03年度以降 02年度以降	英語専門講読 b(Language Teaching) 英語専門講読 (Language Teaching)	担当者	鈴木 真奈美
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>In the fall semester, we will learn how to teach each language aspect. You are expected to develop a vision as a language teacher through this course work.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Review/ Introduction 2. Interaction in the Language Class I 3. Interaction in the Language Class II 4. Language Learning Strategies I 5. Language Learning Strategies II 6. Teaching Listening 7. Teaching Speaking 8. Teaching Reading 9. Teaching Writing 10. Teaching Grammar and Vocabulary 11. Language Assessment 12. Review 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>Weekly quizzes, assignments, presentation and its handout, class participation, and final written examination</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Handouts</p>			

03年度以降 英語専門講読 a (ードライデンー) 02年度以前 英語専門講読 (ードライデンー)	担当者	園部 明彦
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>授業では一言一句疎かにせず、厳密に読むことを心掛けていく。重ねて、このところ軽視されがちなスクール・グラマーの知識が正確に読み進めていくには、いかに大切かを認識してもらうこともこの授業の狙いの一つである。授業は教養英語の時間そのままの遣り方で進めて行く。毎年、極めて難解であるとの声が聞かれるが、高校までの文法の知識で充分である。不安を覚える場合は、昨年のプリントの残部が少々あるので、研究室を訪ねられたい。</p> <p>ドライデンの主要な文学論、翻訳論、対比論等は昨年までで約15年をかけて読み終えることができた。本年度は、これまでの授業で取り上げることが出来なかった『ヴァージル論』と『ベン・ジョンソン論』をもってドライデンを締め括る積りである。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>一回の授業の成績を10点満点として、24回で240点の6掛け、144点が合格のボーダーとなる。そのため、欠席は非常に不利になる。また、遅刻は絶対に認めないのも従来通りである。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>『ヴァージル論』、『ベン・ジョンソン論』(プリント)</p>	<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 否定構文 2. 仮定法 3. the+ 最上級の訳し方 4. 省略構文 5. 比較級 6. 否定形 7. 目的補語 8. want について 9. 代名詞の用法 10. so~that の構文 11. 目的語について 12. 省略形について 	

03年度以降 英語専門講読 b (ードライデンー) 02年度以前 英語専門講読 (ードライデンー)	担当者	園部 明彦
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p style="text-align: center;">前期と同じ</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p>	<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. but について 2. 代名詞 3. person の意味 4. so ~ as の構文 5. sort について 6. most について 7. so ~ that の構文 8. ought と the more について 9. that which の構文 10. that の用法 11. is lost について 12. 代名詞 	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a(日系アメリカ女性作家の声) 英語専門講読(日系アメリカ女性作家の声)	担当者	高田 宣子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>映画、絵画および文学作品から浮かび上がる日系アメリカ(北米)人の文化と歴史を明らかにしながら、日本に住む私たちにとって「近くて遠い存在」の日系アメリカ人とは何かを探ります。 19世紀以降、日本からハワイ、アメリカ本土へ渡った日本人は、さまざまな困難を克服しながら、現在に至るまで着実な発展を遂げています。 この授業では、日系の人々にとってのアメリカあるいは日本とは、どのような意味を持つのかを、主として女性作家の作品に焦点を当てて探ります。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>前期</p> <p>第1回 ガイダンス 日本人にとって北米とは 第2回 映画に見られる日系アメリカ人 第3回 日系アメリカ人の絵画と音楽 第4回 初期移民の歴史と文化(テキスト講読) 第5回 復習と補足(関連する映画の分析) 第6回 日系2世 Hisaye Yamamoto 第7回 Hisaye Yamamoto 第8回 第二次世界大戦下の日系アメリカ人 第9回 日系2世 Mitsuye Yamada 第10回 Mitsuye Yamada 第11回 復習と補足(関連映画の分析) 第12回 まとめ</p>	
<p>◆評価方法</p> <p>プレゼンテーションおよび各自のコメント内容によります。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『日系アメリカ文学 三世代の軌跡を読む』 創元社 1997年</p>			

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b(日系アメリカ女性作家の声) 英語専門講読(日系アメリカ女性作家の声)	担当者	高田 宣子
<p>◆講義目的、講義概要</p>		<p>◆授業計画</p> <p>後期</p> <p>第1回 大戦後の日系アメリカ人 第2回 日系2世 Joy Kogawa 第3回 Joy Kogawa 第4回 日系3世 Janice Mirikitani 第5回 Janice Mirikitani 第6回 復習と補足 第7回 日系3世 Cynthia Kadohata Cynthia Kadohata 第8回 日系3世 Suzan Nunes 第9回 Suzan Nunes 第10回 復習と補足 第11回 日系アメリカ人の現在 第12回 まとめ</p>	
<p>◆評価方法</p> <p>前期と同じ。但しレポートも提出。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p>			

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a (パフォーマンス研究の諸相) 英語専門講読 (パフォーマンス研究の諸相)	担当者	高橋雄一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>昨年専門講読で少しだけ扱った、メキシコ/アメリカ人パフォーマンス・アーティスト、グリエルモ・ゴメス=ペーニャの全貌に迫ります。</p> <p>ゴメス=ペーニャは、自身の移民体験をもとに、合州国/メキシコ国境を(非)合法に行き来する労働者の搾取や、白人がメキシコ人やチカーナ・チカーノに対して持つ差別的なステレオタイプを批判する、パフォーマンスやインスタレーションの作品を数多く制作してきました。</p> <p>しかし、最近では、グローバル化する世界経済や、(テロリストの側につくか、我々=ブッシュ政権の側につくかの選択しか残されていないように見える)政治状況を背景に、より広い視点から、エスニシティ、ジェンダー、階級、そして「国境の越え方」をテーマにした領域に仕事を拡大しています。</p> <p>また、表現手段も初期のソロ・パフォーマンスから、ダンスやテクノ・アートなど、背景を異にするアーティストたちとのコラボレーションへと進化を遂げ、彼は、現在、世界でもっとも注目を集めるアート・アクティヴィストの一人となっています。(下欄に続く)</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>本文中に記載</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>本文中に記載</p>		<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b (パフォーマンス研究の諸相) 英語専門講読 (パフォーマンス研究の諸相)	担当者	高橋 雄一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>皆さん、もう、日本人を単一民族だと考え、日本文化の単一性を誇るような発言にはうんざりだと思いませんか？ この授業ではゴメス=ペーニャの作品と思想を追うことで、国境、マイノリティ、抵抗といった言葉を軸に、より複眼的で、ハイブリッドな思考と、行動の実践を模索していきたいと思えます。</p> <p>評価は、春学期、秋学期に一本ずつ提出してもらってレポート(日本語で4000~6000字、英語のレジューメをつけたもの)が中心になります。加えて、各学期とも、英文の読解と背景の理解を確認するために、何回か、宿題、小テストを課す予定です。また、授業はディスカッション主体にしたいので、積極的な発言のできる事が、登録の最低条件になります。</p> <p>昨年使用した <i>Temple of Confessions</i> に加えて、エッセイなども含め、ゴメス=ペーニャの全作品を読み、また、ビデオやインターネットで入手できる題材も、出来る限り取り上げていきたいと思えます。但し、邦訳のある作品は一つしかありません。内容的には昨年とは全く違う授業になるので、重複履修は可能です。スペイン語が出来る人を特に歓迎します。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a (現代の国際関係) 英語専門講読 (現代の国際関係)	担当者	竹田 いさみ
◆講義目的、講義概要 <p>第1の目的は、アジア太平洋地域の国際関係と安全保障を分析することです。第2の目的は、英語の運用能力を高めるとともに、現代の国際関係に関する情報を獲得することです。</p> <p>対象国は①アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、EU、日本、韓国などの先進国、②中国、インド、ロシアなど巨大な途上国、③シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナムなど東南アジア諸国。</p> <p>2週単位で授業が進みます。第1週は、受講生は担当する国を決め、詳細なレジュメを用意してプレゼンテーションを行います。その際、新聞・雑誌・専門資料を活用し、テキストの内容を掘り下げる工夫が求められます。</p> <p>第2週は、テキストの英文を理解する作業が行われます。例えば第1週はオーストラリアに関するプレゼンがあり、第2週はテキストに掲載されているオーストラリアを、英語に着目して討論します。</p> <p>受講生から英語での質問、コメントも大歓迎。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 プレゼンテーションと討論 3 同上 4 同上 5 同上 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 同上 11 同上 12 まとめ 	
<p>受講生によるレジュメ作成とプレゼンテーション、出席と討論への参加が基本となります。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>R. Baker & C. Morrison ed., <i>Asia Pacific Security Outlook 2003</i>, Tokyo:JCIE, 2003.</p>			

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b (現代の国際関係) 英語専門講読 (現代の国際関係)	担当者	竹田 いさみ
◆講義目的、講義概要 <p>第1の目的は、アジア太平洋地域の国際関係と安全保障を分析することです。第2の目的は、英語の運用能力を高めるとともに、現代の国際関係に関する情報を獲得することです。</p> <p>対象国は①アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、EU、日本、韓国などの先進国、②中国、インド、ロシアなど巨大な途上国、③シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナムなど東南アジア諸国。</p> <p>2週単位で授業が進みます。第1週は、受講生は担当する国を決め、詳細なレジュメを用意してプレゼンテーションを行います。その際、新聞・雑誌・専門資料を活用し、テキストの内容を掘り下げる工夫が求められます。</p> <p>第2週は、テキストの英文を理解する作業が行われます。例えば第1週はオーストラリアに関するプレゼンがあり、第2週はテキストに掲載されているオーストラリアを、英語に着目して討論します。</p> <p>受講生から英語での質問、コメントも大歓迎。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 プレゼンテーションと討論 3 同上 4 同上 5 同上 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 同上 11 同上 12 まとめ 	
◆評価方法 <p>受講生によるレジュメ作成とプレゼンテーション、出席と討論への参加が基本となります。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>R. Baker & C. Morrison ed., <i>Asia Pacific Security Outlook 2003</i>, Tokyo:JCIE, 2003.</p>			

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a (シェイクスピア) 英語専門講読 (シェイクスピア)	担当者	東畑 圭信
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期はシェイクスピア初期から中期へと移行する段階に書かれた、彼の代表的喜劇 <i>A Midsummer Night's Dream</i> を読みます。結婚というものを軸に、様々な階級の人々や妖精たちが、現実世界と夢の世界の壁を喜劇的に'penetrate'していきます。シェイクスピアを知ることによって、近・現代だけが英語の世界の全てではなく、英語が生まれてきた土壌は気が遠くなるほど豊かなものであることを感じて下さい。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. 3. Act 1 4. 5. Act 2 6. 7. Act 3 8. 9. Act 4 10. 11. Act 5 12. Review 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験 50%、平常点 50%</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>A Midsummer Night's Dream</i> (Oxford World's Classics) ed. by Peter Holland, Oxford U.P.</p>			

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b (シェイクスピア) 英語専門講読 (シェイクスピア)	担当者	東畑 圭信
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期の <i>A Midsummer Night's Dream</i> とほぼ同時期に書かれた、<i>Romeo and Juliet</i> を読みます。同時期に書かれたということを入れて読むと、創作過程に思いをはせ、シェイクスピアのことが少し身近に感じられるようになるかもしれません。 'Dramatic'という言葉で現代の人に想起される最右翼がこの作品ではないでしょうか。そういう意味で現代の私たちとはどういう人達なのかということを知る鏡になってくれる作品かもしれません。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. 3. Act 1 4. 5. Act 2 6. 7. Act 3 8. 9. Act 4 10. 11. Act 5 12. Review 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験 50%、平常点 50%</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Romeo and Juliet</i> (Oxford World's Classics) ed. by Jill L Levenson, Oxford U. P.</p>			

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a(現代国際関係) 英語専門講読(現代国際関係)	担当者	永野 隆行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>【授業の目的】 ①現代国際関係における諸問題についての理解を深めること。 ②プレゼンテーションを通じて、ものごとを筋道立てて考え、発表する能力を身に付けること。</p> <p>【授業の流れ】 英文の専門書を読むことを通じて、現代国際関係の諸現象に関する知識を習得すると同時に、後期のグループプレゼンテーションのための問題意識を高めます。</p> <p>授業終了後に、全学生に授業用掲示板を通じて、授業に関する感想・コメントを投稿するよう義務付けます。</p> <p>宿題(20%)、出席率(20)、プレゼンテーション(40)、掲示板への投稿(20)による総合評価。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>W. Raymond Duncan, Barbara Jancar-Webster and Bob Switky, <i>World Politics in the 21st Century</i> (London: Longman, 2003).</p>		<p>◆授業計画</p> <p>第1週:授業ガイダンス、研究グループ分け 第2週~:プレゼンテーション あらかじめ指名された学生が、該当箇所を簡単に紹介します。学生全員には、該当箇所の要約(400字)を毎週提出するように求めます。発表時間は約30分とし、その後、質疑応答ならびに討論を実施します。</p> <p>最終週:後期に向けた発表の打ち合わせ ※ なお、ここに記載した授業計画はあくまでも私が提示するプランです。授業の進め方、取り扱う内容などについては、初回の授業で学生諸君と十分話し合った上で、最終的に決定します。 ※ 積極的に授業に関わり、自分たちが楽しめる授業を作っていこうとする学生を大歓迎します。受け身の授業を期待している人にはまったく向かない授業です。</p>	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b(現代国際関係) 英語専門講読(現代国際関係)	担当者	永野 隆行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>※前期の授業を通じて高まった国際関係への問題意識をもとに、各研究グループが個別問題についてプレゼンテーションを行います。その際には、パワーポイントなどのプレゼンテーションソフトを使います。 ※プレゼンテーションにあたっては、リサーチの単なる報告ではなく、授業後半での全体討論のための問題提起も行います。したがって、各グループはどんな点を提起すれば討論が盛り上がるのかを十分検討する必要があります。また各グループはプレゼンテーションの一週間前には、事前資料(A4一枚程度)として英文資料を用意し、それらを学生全員に読んできてもらうようにします。 ※なお、発表内容については、事前に教員と少なくとも一回は相談し、承認を受けることが必要です。 ※授業終了後に、全学生に授業用掲示板を通じて、授業に関するコメントを投稿するよう義務付けます。</p> <p>出席率(20)、プレゼンテーション(60)、掲示板への投稿(20)による総合評価。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <p>第1週:授業ガイダンス、打ち合わせ 第2週~:プレゼンテーション 発表時間は約30分とし、その後、質疑応答ならびに討論を実施します。司会進行なども含めて学生が行います。</p> <p>最終週:総括討論 ※ 前期と同様に、積極的に授業に関わり、自分たちが楽しめる授業を作っていこうとする学生を大歓迎します。受け身の授業を期待している人にはまったく向かない授業です。</p>	

03 年度以降 英語専門講読 a (歴史・文化) 02 年度以前 英語専門講読 (歴史・文化)	担当者	中村 燦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>近現代史に関するテキストを使う予定。 我国の教科書やメディアの決して語らぬ事実に触れることが出来ればと考えている。学生諸君の对外発信の内容を豊かにすることに役立てば幸いである。授業では指名して音読と和訳をさせる。また随時、時局問題を取上げて解説論評し、学生諸君の時事的関心を触発してゆく。</p> <p>◆受講者への要望</p> <p>始業時には大きな声で挨拶すること。授業中の私語、飲食等厳禁。茶髪、金髪は感心しない。</p> <p>◆評価方法</p> <p>平素の勤怠、授業への姿勢及び定期試験。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>未定。</p>	<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 英語専門講読 b (歴史・文化) 02 年度以前 英語専門講読 (歴史・文化)	担当者	中村 燦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上。</p> <p>◆評価方法</p> <p>同上。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>未定。</p>	<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 英語専門講読 a(実践英語)	担当者	鍋倉 健悦
02 年度以前 英語専門講読(実践英語)		
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>何か一つの特定分野のものに限らず、どのようなジャンルのものであっても英語が読めるようになることが本講読の目的である。そのため、TOEFL や TOEIC で使用されるような様々な内容の英文を用い、毎回、模擬試験の形式で授業を進めている。</p> <p>◆評価方法 毎回行なう模擬テストの結果による</p> <p>◆テキスト、参考文献 プリント</p>	<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 英語専門講読 b(実践英語)	担当者	鍋倉 健悦
02 年度以前 英語専門講読(実践英語)		
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a(国際関係) 英語専門講読(国際関係)	担当者	八丁 由比
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目標:</p> <p>現代の国際問題について、情報を集め、理解し、それに対する意見を表現できるようになることを目指す。</p> <p>講義概要:</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 英文資料の収集・利用 ② 資料の読解 ③ 発表と討論 		<p>年間授業計画:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、エッセイ 2. 資料の利用、収集 3. -16. 資料の読解と発表 17. -21. 資料の読解と発表 (講義の詳細については、ガイダンス時に配布する。) <p>最終的に、一年を通して学んだ能力を使って、学期末にレポートを作成し、提出する。</p> <p>受講者への要望:</p> <p>本講義は、学生の発表を中心に行う。講師は主に、ノウハウを示し、問題・資料理解の補助を行う。学生は、そのノウハウを活用して作業を進め、理解と発表を行う。受け身ではなく、主体的な作業によって満足を求める学生を歓迎する。</p> <p>なお、初回の授業でエッセイを書いてもらう。</p>	
◆ 評価方法			
出席 発表 授業参加度 小レポート 期末レポート			
◆テキスト、参考文献			
基本的にはプリントを使用 参考文献については別途指示する			

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b(国際関係) 英語専門講読(国際関係)	担当者	八丁 由比
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a (アメリカ現代詩) 英語専門講読 (アメリカ現代詩)	担当者	原 成吉
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>『終わりなき山河』は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての長篇詩です。40年にわたってスナイダーは、エコロジー、神話、仏教、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このセミナーの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は学生による発表・討論の形式で行い、年に2回レポートを提出してもらいます。</p> <p>ビデオ映像やCDを使って「声としての詩—poetry performance」についても紹介します。スナイダーについては、 http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htmを参照してください。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>第1回目の授業で、詩人ゲーリー・スナイダーについて紹介し、第2回目で、詩集 <i>Mountains and Rivers Without End</i> を解説し、リポーターを選び、どの詩を取り上げるか決めます。</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>各学期ごとのレポートと発表によって評価します。欠席が授業回数の1/4を越えた場合は単位を認定しません。</p>		<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Gary Snyder, <i>Mountains and Rivers Without End</i> (Washington, D. C.: Counterpoint, 1997)テキストは、各自 amazon.co.jp で購入してください。定価 1,309 円 原 成吉、山里勝己訳『終わりなき山河』思潮社、2002年</p>	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b (アメリカ現代詩) 英語専門講読 (アメリカ現代詩)	担当者	原 成吉
<p>◆講義目的、講義概要</p>		<p>◆授業計画</p>	
<p>◆ 評価方法</p>		<p>◆テキスト、参考文献</p>	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a (時事英語) 英語専門講読 (時事英語)	担当者	原口友子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>通訳の勉強の一環として必要な時事英語の講読および必須単語・表現を学んでいく授業です。通訳の授業では時間的にカバーできないところを、この専門講読で学習していきます。</p> <p>時事英語の単語・表現の学習に『英字新聞はこうすればどんどん読める』(DHC)を使います。半ページの記事毎に担当者を決めます。担当者は授業中に意味内容、単語などの説明をし、次週単語、表現の小テストを作成してきます。</p> <p>講読の教材には興味深いものを選びました。(右のリスト参照) CNN や VOA の専門家を招いてのインタビュー番組には聞いただけでは理解できないものがあるでしょう。そのスクリプトを講読の教材にします。どれも CD がある教材を選びました。講読の授業なので試験には音声は使いませんが、まず家で CD を聞くべきです。あらすじがわかってからスクリプトを見て講読をする。文字で内容把握ができたなら、英語を聞いて理解する、これが効果的な勉強法です。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、小テスト、授業への取り組み、試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p> <p>教材として予定しているインタビュー番組のリストの一例：</p> <p>Bill Gates Carlos Ghosn(Nissan) George W. Bush Corporate Ethics Freedom of the Press Can Liberty and Security coexist?</p>	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b (時事英語) 英語専門講読 (時事英語)	担当者	原口友子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a (認知言語学入門) 英語専門講読 (認知言語学入門)	担当者	府川謹也
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>20年ほど前から意味論を飛躍的に発展させる原動力となった認知言語学の入門書を読む。テキストでは、人間の「認知能力」とは何か、そしてその認知能力を言語（の意味）の基盤として考えることによって、これまで十分に研究の射程に入らなかった英語現象のどのようなことが分かるのかをわかりやすく説明している。例えば、同じ give でもどうして(2b)はおかしいのか、というようなことも説明されている。</p> <p>(1) a. Mary gave the book to him. b. Mary gave him the book. (2) a. John gave the fence a new coat of paint. b. ?John gave a new coat of paint to the fence.</p>		<p>テキストの第1章から3章までを解説し、その後第4章から読んでいく。</p> <p>1章 Basic Concepts(Introduction/Construal/Perspective/Foregrounding etc) 2章 Space(in/on/at etc) 3章 Extensions from Spatial Meanings(out/fill in vs. fill out/hunt up vs. hunt down/ speak up vs. speak out/ through) 4章 Radial Categories (-able /strong /good/ climb/turn etc) 5章 Constructions 6章 Mental Spaces(Apparent semantic anomalies /Referential ambiguities/Tense and mood/ Change predicates/Reflexives 7章 Language Change(soon/still/may, can/ will, be going to)</p> <p>テキストはプリント配布する。</p>	
◆評価方法			
試験と出席による。			
◆テキスト、参考文献			
David Lee (2001) <i>Cognitive Linguistics: An Introduction</i> . Oxford University Press.			

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b (認知言語学入門) 英語専門講読 (認知言語学入門)	担当者	府川謹也
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>春学期と同じ。</p>		<p>8章 Count and Mass Nouns (Count and mass phenomena/Nouns lacking a singular form /Nouns with identical singular and plural forms) 9章 Perfective and Imperfective Uses of Verbs (Progressive aspect/Simple present tense on perfective verbs/Simple present tense on imperfective verbs) 10章 Causation and Agency(Causation in English/Causation in Japanese) 11章 Cognitive Linguistics and Discourse Analysis(Frames/leave/you/ warn/live) 12章 Constructive Processes in Discourse 13章 Creativity and the Nature of Meaning</p>	
◆評価方法			
春学期と同じ。			
◆テキスト、参考文献			
春学期と同じ。			

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a (英米文化) 英語専門講読 (英米文化)	担当者	福井 嘉彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>下記テキストの前半分を読む。 大変に読み難い英文である。 テキスト内容は、スヌーピーのマンガがキリスト教の伝えるものと一致している事を述べつつ、キリスト教を解説している。 キリスト教への関心がある事が条件となる。</p> <p>なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席の少ない者は不合格にする。授業時での発表と小テストの結果を基本とし、必要な場合、定期試験を行う。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>The Gospel according to Peanuts (プリント)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>テキストの文章の難易度と学生の予習能力に応じて進めていく。</p>	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b (英米文化) 英語専門講読 (英米文化)	担当者	福井 嘉彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期に準じる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>春学期に準じる。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>春学期と同じ。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>春学期に準じる。</p>	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a (コミュニケーション論) 英語専門講読 (コミュニケーション論)	担当者	町田 喜義
<p>◆ 講義目的：コミュニケーション過程の説明変数を学ぶ。</p> <p>◆ 講義概要：テキストの精読を試みる。分かり易い日本語に直しながら、内容を吟味し、身近な具体例を挙げる。併せて、日常の問題解決策も討論する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席点：15% (欠席2点減、遅刻1点減) ・発表貢献度：30% ・レポート：20% ・定期試験：35% <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>Benjamin, James(1986) <i>Communication, Concepts and Context</i>, Harper&Row, Pub.,Inc.</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ：概要説明 2. 導入 3. 同上 4. 言語とコミュニケーション 5. 同上 6. 非言語とコミュニケーション 7. 同上 8. コミュニケーションのコンテキスト 9. 同上 10. 対人コミュニケーション 11. 同上 12. エピローグ：まとめ 	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b (異文化間コミュニケーション論) 英語専門講読 (異文化間コミュニケーション論)	担当者	町田 喜義
<p>◆ 講義目的：カナダの文献を通して日本社会・文化を再認識する。併せてカナダ社会・文化を学ぶ。</p> <p>◆ 講義概要：カナダ・オンタリオ州の高校生が学ぶ日本語コースの枠組（言語・ビジネス・歴史・地理）を作成したプロジェクト内容を読む進める。併せて、日本の上記諸側面を再確認する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席点：15% (欠席2点減、遅刻1点減) ・発表貢献度：30% ・レポート：20% ・定期試験：35% <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>下記の教材をプリントして配布する。</p> <p>Norio Ota(1995) <i>Cross-cultural Communication Through Japanese</i>.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ：概要説明 2. Introduction 3. Rationale for the Cross-Cultural Communication through Japanese Program 4. Unique features of the CCC J Program 5. Cross-Cultural objectives 6. Approaches for achieving cross-cultural objectives 7. Japanese and English in contrast 8. four modules and major issues 9. Areas of interest defined by the four subject modules 10. Conclusion 11. Appendix 12. エピローグ：まとめ 	

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a (英語で日本語の構造を学ぶ) 英語専門講読 (英語で日本語の構造を学ぶ)	担当者	安井美代子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>テキストは日本語の音声、音韻現象、語形成、統語論、歴史的変化、方言などに関して、日本人言語学者が平易な英語で書いた入門書である。これに加え、父親による虐待で母国語を獲得する機会を奪われて育った「ジニー」の言語発達に関する短い論文を読む。英語学概論で得た知識があれば十分理解できるが、統語論 a/b の既修もしくは同時履修が望ましい。テキスト 7 ページ程度を各受講者に割り当てるので、その内容をまとめ口頭で発表してもらう。口頭発表に先立ち、割り当て部分に関する小クイズを全員に課す。また、口頭発表後、関連する言語現象について考察し、分析をまとめてもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の方針、「ジニー」について 2 「ジニー」についての小論文 3 日本語で使われる音 4 たくさん(takusan)の u が発音されないことなど 5 三分と三個の「ん」の違いなど 6 た行の「ち」「つ」の特殊性 7 さ行とは行について 8 動詞の活用と発音 9 連濁：山川(yamakawa)と中川(nakagawa) 10 日英語の言い誤り 11 言葉遊び 12 「ジニー」の発音の特徴 	
◆ 評価方法			
<p>出席、授業時の口頭発表、小クイズを平常点評価(40%)とし、これに定期試験(60%)を加えて評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>N. Tsujimura An Introduction to Japanese Linguistics Blackwell Publishers プリント</p>			

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b (英語で日本語の構造を学ぶ) 英語専門講読 (英語で日本語の構造を学ぶ)	担当者	安井美代子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英語専門講読 a と同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 日本語の品詞分類 2 「散歩する」「ドライブする」などについて 3 「話し手」はあるが「分かり手」は何故ないか 4 日本語の文構造 5 wh 疑問文・自由な語順 6 代名詞とそれが指し示すものの構造的関係 7 「自分」「自分自身」とそれが指し示すものの構造的関係 8 受動文 9 使役文 10 動詞活用の歴史的変化 11 方言 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
<p>英語専門講読 a と同じ</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>英語専門講読 a と同じ</p>			

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 a (現代スコットランド文学) 英語専門講読 (現代スコットランド文学)	担当者	山田 修
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>20世紀スコットランドの短編を読む。おそらく学生諸君が知らない作家たちであるだろうが、小品ながら味のある作品もあるので、それをエンジョイしていただければよい。あわせて民話も読んでいく。ちなみに、去年は短編5編、民話5編を読んだ。</p> <p>授業は輪読形式で進めていく。できるだけ多く読むことを心がけたいが、中心となるところは精読したい。ところどころスコットランド語が出てくるが、下記の辞書(図書館にある)を利用してもらえればよい。ポケット版もあるので、興味のある人は購入するのもよいかと思う。</p> <p>最初の時間にプリントを配布するので、受講者必ず出席すること。</p>		<p>1. オリエンテーション、プリント配布。</p> <p>2. プリントの短編を読んでいく。</p> <p>3. "</p> <p>4. "</p> <p>5. "</p> <p>6. "</p> <p>7. "</p> <p>8. "</p> <p>9. "</p> <p>10. "</p> <p>11. "</p> <p>12. "</p>	
◆評価方法			
定期試験の結果および出席状況等の普段点を総合して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
プリント <i>The Concise Scots Dictionary, AUP</i>			

03年度以降 02年度以前	英語専門講読 b (現代スコットランド文学) 英語専門講読 (現代スコットランド文学)	担当者	山田 修
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>20世紀スコットランドの短編を読む。おそらく学生諸君が知らない作家たちであるだろうが、小品ながら味のある作品もあるので、それをエンジョイしていただければよい。あわせて民話も読んでいく。ちなみに、去年は短編5編、民話5編を読んだ。</p> <p>授業は輪読形式で進めていく。できるだけ多く読むことを心がけたいが、中心となるところは精読したい。ところどころスコットランド語が出てくるが、下記の辞書(図書館にある)を利用してもらえればよい。ポケット版もあるので、興味のある人は購入するのもよいかと思う。</p> <p>初日から短編を読んでいくので、<u>秋学期だけの受講者は夏休み前にプリントを取りに来るよう</u>に。</p>		<p>1. プリントの短編を読んでいく。</p> <p>2. "</p> <p>3. "</p> <p>4. "</p> <p>5. "</p> <p>6. "</p> <p>7. "</p> <p>8. "</p> <p>9. "</p> <p>10. "</p> <p>11. "</p> <p>12. "</p>	
◆評価方法			
定期試験の結果および出席状況等の普段点を総合して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
プリント <i>The Concise Scots Dictionary, AUP</i>			

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 a (音声学入門) 英語専門講読 (音声学入門)	担当者	米山 聖子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的: 本講義では、音声学の教科書を用い、以下の2つの点を学びます。1つ目は、専門書を正確に読み取るとともに、英語での論理の展開方法を学ぶことです。2つ目は、音声言語を理解するために不可欠な音声の基礎知識を学ぶことです。この講義は、言語コミュニケーションや英語教育における音声指導に興味がある学生、また、将来留学を希望し、英語で新しい知識の習得する訓練を試みる学生にとっては特に有益です。</p> <p>講義概要: 授業で用いる教科書は、音声学に関して易しく書かれた入門書を使用します。米国の大学において音声学の授業で広く使われているもので、専門知識を前提としていません。そのため、音声学を初めて学習する人々にとっても理解しやすい内容です。授業は、担当者が予め指定された範囲(7ページから10ページ)を十分検討した上でレジュメまたはパワーポイントを用いて発表を行います。また、受講者はその内容について討論を行うことで理解を深めて行きます。</p> <p>授業中の課題や宿題に対する評価、出欠状況、授業への参加度、定期試験による総合判断。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Vowels and Consonants</i>, Peter Ladefoged, Blackwell Publishing (ISBN: 0-631-21412-7)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 2. Chapter 1: Sounds and Languages 3. Chapter 2: Pitch and Loudness (I) 4. Chapter 2: Pitch and Loudness (II) 5. Chapter 3: Vowel Contrasts 6. Chapter 4: Sounds of Vowels 7. Chapter 5: Charting Vowels 8. Chapter 6: The Sounds of Consonants (I) 9. Chapter 6: The Sounds of Consonants (II) 10. Chapter 7: Acoustic Components of Speech 11. Chapter 8: Talking Computers 12. まとめ 	

03 年度以降 02 年度以前	英語専門講読 b (音声学入門) 英語専門講読 (音声学入門)	担当者	米山 聖子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的: 本講義では、音声学の教科書を用い、以下の2つの点を学びます。1つ目は、専門書を正確に読み取るとともに、英語での論理の展開方法を学ぶことです。2つ目は、音声言語を理解するために不可欠な音声の基礎知識を学ぶことです。この講義は、言語コミュニケーションや英語教育における音声指導に興味がある学生、また、将来留学を希望し、英語で新しい知識の習得する訓練を試みる学生にとっては特に有益です。</p> <p>講義概要: 授業で用いる教科書は、音声学に関して易しく書かれた入門書を使用します。米国の大学において音声学の授業で広く使われているもので、専門知識を前提としていません。そのため、音声学を初めて学習する人々にとっても理解しやすい内容です。授業は、担当者が予め指定された範囲(7ページから10ページ)を十分検討した上でレジュメまたはパワーポイントを用いて発表を行います。また、受講者はその内容について討論を行うことで理解を深めて行きます。</p> <p>授業中の課題や宿題に対する評価、出欠状況、授業への参加度、定期試験による総合判断。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Vowels and Consonants</i>, Peter Ladefoged, Blackwell Publishing (ISBN: 0-631-21412-7)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期授業の復習と後期授業の概要説明 2. Chapter 9: Listening Computers (I) 3. Chapter 9: Listening Computers (II) 4. Chapter 10: Making English Consonants 5. Chapter 11: Making English Vowels 6. Chapter 12: Actions of the Larynx (I) 7. Chapter 12: Actions of the Larynx (II) 8. Chapter 13: Consonants Around the World 9. Chapter 14: Vowels Around the World 10. Chapter 15: Putting Vowels and Consonants Together (I) 11. Chapter 15: Putting Vowels and Consonants Together (II) 12. まとめ 	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英作文 a 英作文 英作文	担当者	永野 隆行
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>最初の授業で説明する</p>		<p>最初の授業で説明する</p>	
◆ 評価方法			
最初の授業で説明する			
◆テキスト、参考文献			
最初の授業で説明する			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英作文 b 英作文 英作文	担当者	永野 隆行
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>最初の授業で説明する</p>		<p>最初の授業で説明する</p>	
◆ 評価方法			
最初の授業で説明する			
◆テキスト、参考文献			
最初の授業で説明する			

03年度以降 02年度 01年度以降	英作文 a 英作文 英作文	担当者	遠藤 朋之
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>簡単に「英作文」といっても、「何を言うか」という問題が一番大きい。さらに、「何を言うか」を、いかに効果的に、説得力のあるように言うことこそが、一番の問題だ。これは、英語であろうと日本語であろうと、同じことである。だから、本講座では、あることを説得力のあるように語る、ということを目指す。考える。「説得力のある文章とはどういった文章なのか？」ここから始めたい。</p> <p>本講座では、前期では、比較的簡単なテキストを相当なスピードで読み、逐一、それを日本語や英語で実践してみる。ここで、パラグラフの種類を学ぶ。そして、「説得力のある文章とは？」という問題を考える。そして、後期では、それを英語において実践する。英作文するテーマは、すべてではないが、受講者と話し合っ決めて決めることにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. introduction 2. Unit 1~3 3. Unit 4 "Narratives" 4. "Narratives" の英語での実践 5. Unit 5 "Descriptions" 6. "Descriptions" の英語での実践 7. Unit 6 "Classification" 8. "Classification" の英語での実践 9. Unit 7 "Contrast" 10. "Contrast" の英語での実践 11. Unit 8 "Problem Solving" 12. "Problem Solving" の英語での実践 	
◆ 評価方法			
年に6~8回の提出物、および授業への participation。			
◆テキスト、参考文献			
<i>Thoughts into Writing</i> (成美堂)			

03年度以降 02年度 01年度以降	英作文 b 英作文 英作文	担当者	遠藤 朋之
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
		<ol style="list-style-type: none"> 1. Unit 9 "Cause and Effect" 2. "Cause and Effect" の英語での実践 3. Unit 10 "Personal Opinion" 4. "Personal Opinion" の英語での実践 5. Unit 11 "Essay Writing" 6. "Essay Writing" の日本語での実践 7. 上手にかかれた英文の講読 8. テーマを決めての英作文 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

03年度以降	英作文 a																										
02年度	英作文	担当者	金谷 優子																								
01年度以前	英作文																										
◆講義目的、講義概要		◆授業計画																									
<p>この授業では、正しく簡潔な英語の文章を書くために不可欠の知識を確認し、かつ、英語パラグラフの様々な型を修得することを目指します。毎回のテーマに関連した英語表現について、学生が陥りやすい過ちに着目した後で、様々な文章パターンを学習し、その知識を基に実際作文することによって、英文の表現力を確実なものにしてゆきましょう。2週間で1つのUnitを完成させます。各々のUnitの第1週目には文章パターンを学習し、2週目には修得度をはかるための簡単なテストを行ない、更に、学習した文章パターンを使って自己表現の文を書く場を設けます。</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>Introduction</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unit 1: Writing about your university experiences</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unit 1: test</td></tr> <tr><td>4</td><td>Unit 2: Writing about your daily life</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unit 2: test</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unit 3: Writing about your opinions, values and feelings</td></tr> <tr><td>7</td><td>Unit 3: test</td></tr> <tr><td>8</td><td>Unit 4: Writing about your study of English</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unit 4: test</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unit 5: What impact have computers and mobile phones had on your life.</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unit 6: Writing about yourself</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unit 6: test</td></tr> </table>		1	Introduction	2	Unit 1: Writing about your university experiences	3	Unit 1: test	4	Unit 2: Writing about your daily life	5	Unit 2: test	6	Unit 3: Writing about your opinions, values and feelings	7	Unit 3: test	8	Unit 4: Writing about your study of English	9	Unit 4: test	10	Unit 5: What impact have computers and mobile phones had on your life.	11	Unit 6: Writing about yourself	12	Unit 6: test
1	Introduction																										
2	Unit 1: Writing about your university experiences																										
3	Unit 1: test																										
4	Unit 2: Writing about your daily life																										
5	Unit 2: test																										
6	Unit 3: Writing about your opinions, values and feelings																										
7	Unit 3: test																										
8	Unit 4: Writing about your study of English																										
9	Unit 4: test																										
10	Unit 5: What impact have computers and mobile phones had on your life.																										
11	Unit 6: Writing about yourself																										
12	Unit 6: test																										
◆ 評価方法																											
出席、平常点、提出物、前、後期末のテスト <small>を総合評価</small>																											
◆テキスト、参考文献																											
<i>Learner's Writing Clinic</i> Kevin L. Mark/ Kazuko Miyake (Tsurumi Shoten)																											

03年度以降	英作文 b																								
02年度	英作文	担当者	金谷 優子																						
01年度以前	英作文																								
◆講義目的、講義概要		◆授業計画																							
<p></p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>Unit 7: Writing about friendships, influences, insights</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unit 7: test</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unit 8: Writing about your leisure pursuits</td></tr> <tr><td>4</td><td>Unit 8: test</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unit 9: Writing about an important or difficult decision</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unit 9: test</td></tr> <tr><td>7</td><td>Unit 10: Writing about sport</td></tr> <tr><td>8</td><td>Unit 10: test</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unit 11: Writing about travel</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unit 11: test</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unit 12: Writing about your future</td></tr> </table>		1	Unit 7: Writing about friendships, influences, insights	2	Unit 7: test	3	Unit 8: Writing about your leisure pursuits	4	Unit 8: test	5	Unit 9: Writing about an important or difficult decision	6	Unit 9: test	7	Unit 10: Writing about sport	8	Unit 10: test	9	Unit 11: Writing about travel	10	Unit 11: test	11	Unit 12: Writing about your future
1	Unit 7: Writing about friendships, influences, insights																								
2	Unit 7: test																								
3	Unit 8: Writing about your leisure pursuits																								
4	Unit 8: test																								
5	Unit 9: Writing about an important or difficult decision																								
6	Unit 9: test																								
7	Unit 10: Writing about sport																								
8	Unit 10: test																								
9	Unit 11: Writing about travel																								
10	Unit 11: test																								
11	Unit 12: Writing about your future																								
◆ 評価方法																									
◆テキスト、参考文献																									

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英作文 a 英作文 英作文	担当者	金子節也
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英語の基礎構造（5文型）をしっかりと理解し、短い日本語をたくさん、スピーディに英語にしてゆく。 たくさん練習する。つまり、英語を produce することによって、Speaking に近づいてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1, 2文型 2. 第2, 3文型 3. 第3, 4文型 4. 第4, 5文型 5. 1-5復習 6. 形容詞句（第1-3文型） 7. 副詞句（第1-3文型） 8. 名詞句（だい1-3文型） 9. 形容詞句〔第1-5文型〕 10. 副詞句（第1-5文型） 11. 名詞句（2）（第1-5文型） 12. 6-11復習 	
◆ 評価方法			
テストと出欠を含む平常点。			
◆テキスト、参考文献			
Building Up English Skills			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英作文 b 英作文 英作文	担当者	金子節也
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>口頭英作文の要素を取り入れる。作文をさらにスピードアップ。 プリント教材（自作）を併用。時事作文の要素を取り入れて、現実性を増す。 5文型重視は春期と同じ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 等位節 2. 名詞節（1） 3. 副詞節（1） 4. 形容詞節（1） 5. 1-4復習 6. 形容詞節（2） 7. 名詞節（2） 8. 副詞節（2） 9. 副詞節（3） 10. 副詞節（4） 11. 副詞節（5） 12. 6-12復習 	
◆ 評価方法			
同上。			
◆テキスト、参考文献			
同上。			

03年度以降 02年度 01年度以前	英作文 a 英作文 英作文	担当者	川崎 潔
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>目的 教養ある native speaker (Donald Keene, Edward G.Seidensticker, Edwin O.Reischauer) の書いた自然な英文を読んで英語らしい表現法を学び、それにならって英文を書く練習をし、自己表現の域にたつする。</p> <p>概要 (1) Model Paragraph を読んで Comprehension Questions に英語で答える。 (2) Sentence Building : 既習の語や言いまわしを用いて、テキストとはやや異なった状況を表現する。 (3) Model Paragraph を範例として、指示された状況に適合した英文を作成する。</p>		<p>1 授業の説明と Lesson 1 の一部 2 Lesson 1 , 2 3 Lesson 2 , 3 4 Lesson 3 , 4 5 Lesson 4 , 5 6 Lesson 5 , 6 7 Lesson 6 , 7 8 Lesson 7 , 8 9 Lesson 8 , 9 10 Lesson 9 , 10 11 Lesson 10 12 予備日</p>	
◆ 評価方法			
期末テスト、英作文の提出、平常点による。			
◆テキスト、参考文献			
天満美智子 : A Modern Writing Laboratory (朝日出版)			

03年度以降 02年度 01年度以前	英作文 b 英作文 英作文	担当者	川崎 潔
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
同上		<p>1 Lesson 11 2 Lesson 11 , 12 3 Lesson 12 , 13 4 Lesson 13 , 14 5 Lesson 14 , 15 6 Lesson 15 , 16 7 Lesson 16 , 17 8 Lesson 17 , 18 9 Lesson 18 , 19 10 Lesson 19 , 20 11 Lesson 20 12 予備日</p>	
◆ 評価方法			
同上			
◆テキスト、参考文献			
同上			

03年度以降	英作文 a		
02年度	英作文	担当者	工藤 和宏
01年度以前	英作文		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英語論文の執筆方法を学ぶ前段階として、パラグラフの書き方を習得するのが目的です。主な学習内容は次の2つです。</p> <p>(1) しっかりした英文を書くのに必要な文法力と構文力を強化し、パラグラフのルール(制約)を理解する。(春学期)</p> <p>(2) パラグラフの論理構成を理解し、効果的に論旨を展開する。(秋学期)</p> <p>授業は、担当教員による解説とグループまたはペア・ワークを中心に進めていきます。実際にパラグラフを書く練習と、他の受講生が執筆したパラグラフを添削する練習も行います。</p> <p>大量の英文読解と問題練習を行いますので、毎週最低2時間以上の予習が必要になります。また、効率化を図るため提出物はすべてタイプしてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 基本5文型、Lesson 1 (国弘、2001) 3. 基本5文型、Lesson 2 (国弘、2001) 4. 基本5文型、Lesson 3 (国弘、2001) 5. 基本5文型、Lesson 4 (国弘、2001) 6. 基本5文型、Lesson 5 (国弘、2001) 7. 文と文をつなぐ、Lesson 6 (国弘、2001) 8. 文と文をつなぐ、Lesson 7 (国弘、2001) 9. パラグラフの特徴、音読テスト 10. パラグラフの特徴、音読テスト 11. パラグラフの論理構成、音読テスト 12. まとめ 	
◆評価方法			
3つの提出物、音読テスト、定期試験。(4回以上の欠席は不可。)			
◆テキスト、参考文献			
国弘正雄(2001)『CDブック 英会話・ぜったい・音読・挑戦編』講談社。その他、プリントを使用。			

03年度以降	英作文 b		
02年度	英作文	担当者	工藤 和宏
01年度以前	英作文		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英語論文の執筆方法を学ぶ前段階として、パラグラフの書き方を習得するのが目的です。主な学習内容は次の2つです。</p> <p>(1) しっかりした英文を書くのに必要な文法力と構文力を強化し、パラグラフのルール(制約)を理解する。(春学期)</p> <p>(2) パラグラフの論理構成を理解し、効果的に論旨を展開する。(秋学期)</p> <p>授業は、担当教員による解説とグループまたはペア・ワークを中心に進めていきます。実際にパラグラフを書く練習と、他の受講生が執筆したパラグラフを添削する練習も行います。</p> <p>大量の英文読解と問題練習を行いますので、毎週最低2時間以上の予習が必要になります。また、効率化を図るため提出物はすべてタイプしてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、パラグラフの論理構成(春学期の復習) 2. トピック・センテンス、Lesson 8 (国弘、2001) 3. サマリー・センテンス、Lesson 9 (国弘、2001) 4. 描写型パラグラフ、Lesson 10 (国弘、2001) 5. 描写型パラグラフ、音読テスト 6. 説明型パラグラフ、音読テスト 7. 説明型パラグラフ、音読テスト 8. 原因・結果型パラグラフ 9. 比較・対照型パラグラフ 10. 論争型パラグラフ 11. 参考文献の引用 12. まとめ 	
◆評価方法			
5つの提出物、音読テスト。(4回以上の欠席は不可。)			
◆テキスト、参考文献			
国弘正雄(2001)『CDブック 英会話・ぜったい・音読・挑戦編』講談社。その他、プリントを使用。			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英作文 a 英作文 英作文	担当者	国見 晃子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><講義目的> 人に理解してもらおう英文を書くためには、①うまい(と考えられている)英文を「真似る」こと(「学(まね)ぶ」と同源ですよ)、②基礎構文をしっかり身につけること、③語彙を増やすこと、④とにかく書くこと、だと思えます。よって、この授業では、1) 語彙・基礎構文の強化、2) モデル英文を分析、3) テーマに沿って自分で英文を書く、といったことを主眼にします。</p> <p><講義概要> 「語彙・基礎構文の強化」に関しては、小テストを行い、確認していきます。「テーマごとの英作文作成」は、グループあるいはペアに分かれて、他の受講者の英作文を添削する訓練も行います。「モデル英文の分析」は、英文をあらかじめ読んできてもらいます。上記の作業の時間配分は、実際授業を行ってみて、改善していく予定です。</p>			
◆ 評価方法			
<p>提出物、小テスト、授業での参加度、出席状況(欠席は年間で6回以内)。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>プリントを主に使用する予定。参考文献は授業で適時紹介します。</p>			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英作文 b 英作文 英作文	担当者	国見 晃子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><講義目的> 前期授業同様。</p> <p><講義概要> 前期授業同様。</p>			
◆ 評価方法			
<p>前期同様</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>前期同様</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	英作文 a 英作文 英作文	担当者	鈴木 真奈美
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>The goal of this course is to give you an opportunity to know and understand yourself better through the process of English writing. You will write essays in various genres. This course also aims to enhance your English holistically. You are expected to make a good learning community through participation in this class.</p> <p>We will use e-mail as means of communication outside the classroom.</p> <p>In the spring semester, you will learn narrative and expository essays. You will write your personal history as a final paper at the end of the semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction/ Setting Goals/ Self-introduction 2. Japanese English Writers' Typical Writing Patterns/ Personal Essay (To know yourself) 3. Organization/ Expository Essay (Something you recommend) 4. Cohesion/ Narrative Writing (the Golden Week) 5. Personal Essay/ Thank-you Letter 6. Translation of your Favorite Japanese Poem or Song into English 7. Business Letters 8. E-mail Writing/ Peer Revision 9. The Test of Written English (TWE)'s Essay (TOEFL) 10. The Process of Writing Essays/ Brain-storming 11. Make an Outline of your Final Essay 12. Final Report of your Personal History/ Reflection on Your Achievement 	
◆ 評価方法			
Your portfolio (weekly assignments, final paper and your self-assessment), and class participation			
◆テキスト、参考文献			
Handouts			

03年度以降 02年度 01年度以前	英作文 b 英作文 英作文	担当者	鈴木 真奈美
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>In the fall semester, you will learn academic writing. You will write a proposal of your thesis or your career plan as a final paper.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Review/ Introduction 2. Note-taking 3. Summary Writing 4. Argumentative Essay 5. Argumentative Essay 6. Research paper---Research Questions 7. Research paper---Methods/ Resources 8. Research paper---Organization 9. Your Future Plan 10. Your Academic Interests 11. Your Curriculum Vitae (CV) 12. Make an Outline of your Final Paper 13. Final Report of your Proposal or Plan/ Reflection on your Achievement 	
◆ 評価方法			
Your portfolio (weekly assignments, final paper and your self-assessment), and class participation			
◆テキスト、参考文献			
Handouts			

03年度以降	英作文 a	担当者	瀬戸 千尋
02年度以降	英作文		
01年度以降	英作文		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義目的】 Academic Writing に入る前の基礎的な英作文能力の定着を図ることを目的とする。具体的には、表現したい内容を整理し、それを単純な英文構造にしたがって書くことである。また、春学期は特に、間違いを恐れずとにかく表現することに対する意識面も重視したい。</p> <p>【講義概要】 基本的には、個人の能力を伸ばさせるために、個別指導を行い、一人ひとりの弱点の特徴を把握し、学生自身の意識化を図る。共通する問題がある場合は全体での講義を行う。</p> <p>平易な単文（短文）からより複雑な構造の英文が書けるように繰り返しドリルを行う。その際、細かい文法上の間違いを指摘せず、「書く」ことを重視する。 「表現する」ためには表現する「内容」が必要である。したがって本講座では、随時、時事問題などに関するディスカッションなども取り入れたい。</p>		<p>初回の授業で説明する。</p>	
◆ 評価方法			
<p>出席、レポート提出状況および成果、授業への貢献度など、総合的に評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>未定（初回の授業で指示する）。</p>			

03年度以降	英作文 b	担当者	瀬戸 千尋
02年度以降	英作文		
01年度以降	英作文		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>【講義目的】 春学期の学習内容を踏まえ、更なる能力の伸長を図り、「書き言葉」としてのコミュニケーション能力を育成することを目的とする。つまり、より正確かつ明確で簡潔な英文を書くことを通して、読み手に誤解を招かないように自らの考えを表現することが出来るようになることである。</p> <p>【講義概要】 より正確な表現を目指すために、文法事項の復習を適宜取り入れ、文法的な知識とそれに基づく技術を養成する。 より多くの表現を学び、客観的に英文を観察し校正する能力を養うために、ペア・ワークや全体でのディスカッションを行い相互評価を行う。 パラグラフの構成法や英語の記述上の技法（句読法などのルール）などについての説明を随時行う。 秋学期より、通常の授業の他に英字新聞を利用した英作文と英文和訳の投稿を予定しているの、強い意欲と向上心が必要である。</p>		<p>初回の授業で説明する。</p>	
◆ 評価方法			
<p>出席、レポートの提出状況および成果、授業への貢献度など、総合的に評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>未定（前期から引き続き同一テキストを使用する）。 テキスト消化後は、別教材（プリント）を配布する。</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	英作文 a 英作文 英作文	担当者	東畑圭信
◆講義目的、講義概要 日本人は、文化的背景のため、徒然なるままに文章を書くのが好きですが、英語でものを書く場合に、特に、情報をやりとりするような場合には、'clarity'と、'connection'または'cohesion'とが要求されます。それを達成するために'paragraph'という単位が着目されるわけですが、この授業ではその基礎を着実に学んでいきます。		◆授業計画 1. Introduction 2. The structure of a paragraph 3. Topic Sentence 4. Supporting Sentences 5. Concluding Sentences 6. Extra work 7. Prewriting stage (1)Brainstorming 8. Prewriting stage (2)Making an outline 9. Writing stage (1) Unity 10. Writing stage (2) Coherence 11. Editing stage 12. Extra work	
◆ 評価方法 定期試験60%、平常点40%			
◆テキスト、参考文献 『Strategies for Paragraph Writing: 読んで 聞いて 書くパラグラフ』 大野京子著 英宝社			

03年度以降 02年度 01年度以前	英作文 b 英作文 英作文	担当者	東畑圭信
◆講義目的、講義概要 前期に同じ		◆授業計画 1. Introduction and extra work 2. Classification Paragraph 3. Description Paragraph 4. Extra work 5. Comparison or Contrast Paragraph 6. Sequencing Paragraph 7. Extra work 8. Cause and Effect Paragraph 9. Extra work 10. From Paragraph to Essay 11. Extra work 12. Extra work	
◆ 評価方法 定期試験60%、平常点40%			
◆テキスト、参考文献 『Strategies for Paragraph Writing: 読んで 聞いて 書くパラグラフ』 大野京子著 英宝社			

03年度以降 英作文 a 02年度 英作文 01年度以前 英作文	担当者	中村 燦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>精選された問題で和文英訳のコツと書き方を教え、実作を通して心得てもらう。卒業にかつても役に立つ英作文である。</p> <p>春学期は基本的文法事項を応用した和文英訳を主に、秋学期は文法応用をほなれた実践的和文英訳の練習をする。毎回学生に板書させ、それを添削し、訳例を示す。</p> <p>◆受講者への要望</p> <p>始業時に大きな声で挨拶をする。毎回、重要な解説があるので、遅刻欠席せずに真剣に受講すること。授業中の私語、飲食等厳禁。茶髪、金髪は感心しない。</p> <p>◆評価方法</p> <p>平常の熱意と勤怠。定期試験。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリント。</p>	<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 英作文 b 02年度 英作文 01年度以前 英作文	担当者	中村 燦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>全上。</p> <p>◆評価方法</p> <p>全上。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>全上。</p>	<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英作文 a 英作文 英作文	担当者	米山 聖子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的：本講義では、パラグラフライティングとエッセイライティングの基礎を学び、TOEFL の作文問題に対応できるだけのライティング能力の習得を目指します。前期はライティングの基礎知識を習得し、後期はその知識を用いた実践訓練を行います。本講義はパラグラフライティングの知識を前提としませんが、授業中に行う課題と宿題などの日々の積み重ねがライティング技術の獲得には不可欠であるため、授業にこれらしない学生は登録を認めません。この講義は、ライティングを基礎から学び、TOEFL の作文問題の対策に取り組みたいと考えている学生には特に有益です。</p> <p>講義概要：本講義は大きく分けて4つのパートに分かれます。Part 1 から Part 3 ではパラグラフライティングとエッセイライティングの基本を学びます。Part 4 では Part 3 までで学んだライティングの知識を用いて実践訓練として TOEFL の作文問題に取り組みます。作文は、オンライン添削システムを利用して評価することにより、自己の作文能力を認識すると共に弱点補強を行います。</p>		<p>1. 講義概要</p> <p><Part 1: Paragraph Writing></p> <ol style="list-style-type: none"> Topic and Supporting Sentences Organizing Ideas Information: Giving Information Expressing an Opinion Describing Processes and Writing Instructions Writing Personal and Business Letters Reporting <p><Part 2: Essay Writing></p> <ol style="list-style-type: none"> Getting Ready to Write Drafting Paragraphs Drafting Essays Revising and Editing <p><Part 3: Major rhetorical forms></p> <p>夏休みの課題として以下の5つのエッセイパターンについて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> * Process * Classification * Cause/Effect * Comparison/Contrast * Problem/Solution 	
<p>授業中の課題や宿題に対する評価、出欠状況、授業への参加度、受講生相互の評価による総合判断。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>プリント配布。Criterion (オンライン添削システム) の登録料として1000円が必要。</p>			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英作文 b 英作文 英作文	担当者	米山 聖子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的：本講義では、パラグラフライティングとエッセイライティングの基礎を学び、TOEFL の作文問題に対応できるだけのライティング能力の習得を目指します。前期はライティングの基礎知識を習得し、後期はその知識を用いた実践訓練を行います。本講義はパラグラフライティングの知識を前提としませんが、授業中に行う課題と宿題などの日々の積み重ねがライティング技術の獲得には不可欠であるため、授業にこれらしない学生は登録を認めません。この講義は、ライティングを基礎から学び、TOEFL の作文問題の対策に取り組みたいと考えている学生には特に有益です。</p> <p>講義概要：本講義は大きく分けて4つのパートに分かれます。Part 1 から Part 3 ではパラグラフライティングとエッセイライティングの基本を学びます。Part 4 では Part 3 までで学んだライティングの知識を用いて実践訓練として TOEFL の作文問題に取り組みます。作文は、オンライン添削システムを利用して評価することにより、自己の作文能力を認識すると共に弱点補強を行います。</p>		<p><Part 4: TOEFL writing preparation></p> <ol style="list-style-type: none"> 前期授業と夏休みの課題内容についての復習 TOEFL のライティングについて TOEFL practice using Criterion TOEFL practice using Criterion TOEFL practice using Criterion TOEFL practice using Criterion TOEFL practice using Criterion TOEFL practice using Criterion TOEFL practice using Criterion TOEFL practice using Criterion TOEFL practice using Criterion TOEFL practice using Criterion まとめ 	
<p>授業中の課題や宿題に対する評価、出欠状況、授業への参加度、受講生相互の評価による総合判断。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>プリント配布。Criterion (オンライン添削システム) の登録料として1000円が必要。</p>			

03年度以降 英語エッセイ・ライティング a 02年度 英語エッセイ・ライティング 01年度以前 エッセイ・ライティング	担当者	D.L.BLANKEN																																																
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course will bring students into the writing of short critical essays on different topics. Students will write—and rewrite, so as to correct mistakes and identify error patterns—a series of essays during the year. The focus will be on grammar and syntax (basic writing tools) on one level, and on learning the techniques of persuasive writing on another.</p> <p>Students will write sample pieces in class and as homework. Draft essays may be done in longhand, but final essays will be composed on word processors only. Downloading materials from the Internet will be permissible in certain situations, to be explained along grammar points, error patterns and writing methods.</p> <p>Assigned topics for essays will include movie and music and restaurant reviews, descriptions of people and things, opinions about happenings and events, and occasionally free subjects.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Grade: attendance (20%), and the scores of eight (8) essays, each worth 10% of the total</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>The teacher will suggest texts after checking student writing and judging student needs</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>Brief course introduction;</td></tr> <tr><td>2</td><td>first writing sample: a self-description</td></tr> <tr><td>3</td><td>Dictionary advice and correction symbols;</td></tr> <tr><td>4</td><td>correction of self-description, first draft</td></tr> <tr><td>5</td><td>Handout & practice with common error types</td></tr> <tr><td>6</td><td>submit self-description, final version</td></tr> <tr><td>7</td><td>Draft of second writing sample:</td></tr> <tr><td>8</td><td>a diary or journal entry, one or two pages</td></tr> <tr><td>9</td><td>Students' selection of suitable textbook</td></tr> <tr><td>10</td><td>correction of entry, first draft</td></tr> <tr><td>11</td><td>Use of textbook for writing practice (1)</td></tr> <tr><td>12</td><td>submit entry, final version</td></tr> <tr><td>13</td><td>Use of textbook for writing practice (2)</td></tr> <tr><td>14</td><td>short essay based on text, first draft</td></tr> <tr><td>15</td><td>Use of textbook for writing practice (3)</td></tr> <tr><td>16</td><td>correction of text essay, first draft</td></tr> <tr><td>17</td><td>Restaurant review, first draft</td></tr> <tr><td>18</td><td>submit text essay, final version</td></tr> <tr><td>19</td><td>Restaurant review, finish first draft</td></tr> <tr><td>20</td><td>after consulting with instructor</td></tr> <tr><td>21</td><td>Use of textbook for writing practice (4)</td></tr> <tr><td>22</td><td>choose essay type, work on first draft</td></tr> <tr><td>23</td><td>Use of textbook for writing practice (5)</td></tr> <tr><td>24</td><td>submit text essay, final version</td></tr> </table>		1	Brief course introduction;	2	first writing sample: a self-description	3	Dictionary advice and correction symbols;	4	correction of self-description, first draft	5	Handout & practice with common error types	6	submit self-description, final version	7	Draft of second writing sample:	8	a diary or journal entry, one or two pages	9	Students' selection of suitable textbook	10	correction of entry, first draft	11	Use of textbook for writing practice (1)	12	submit entry, final version	13	Use of textbook for writing practice (2)	14	short essay based on text, first draft	15	Use of textbook for writing practice (3)	16	correction of text essay, first draft	17	Restaurant review, first draft	18	submit text essay, final version	19	Restaurant review, finish first draft	20	after consulting with instructor	21	Use of textbook for writing practice (4)	22	choose essay type, work on first draft	23	Use of textbook for writing practice (5)	24	submit text essay, final version
1	Brief course introduction;																																																	
2	first writing sample: a self-description																																																	
3	Dictionary advice and correction symbols;																																																	
4	correction of self-description, first draft																																																	
5	Handout & practice with common error types																																																	
6	submit self-description, final version																																																	
7	Draft of second writing sample:																																																	
8	a diary or journal entry, one or two pages																																																	
9	Students' selection of suitable textbook																																																	
10	correction of entry, first draft																																																	
11	Use of textbook for writing practice (1)																																																	
12	submit entry, final version																																																	
13	Use of textbook for writing practice (2)																																																	
14	short essay based on text, first draft																																																	
15	Use of textbook for writing practice (3)																																																	
16	correction of text essay, first draft																																																	
17	Restaurant review, first draft																																																	
18	submit text essay, final version																																																	
19	Restaurant review, finish first draft																																																	
20	after consulting with instructor																																																	
21	Use of textbook for writing practice (4)																																																	
22	choose essay type, work on first draft																																																	
23	Use of textbook for writing practice (5)																																																	
24	submit text essay, final version																																																	

03年度以降 英語エッセイ・ライティング b 02年度 英語エッセイ・ライティング 01年度以前 エッセイ・ライティング	担当者	D.L.BLANKEN																																																
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>Review of portfolio of 3 previous essays</td></tr> <tr><td>2</td><td>prepare draft essay about summer holidays</td></tr> <tr><td>3</td><td>Continue holiday essay draft and/or</td></tr> <tr><td>4</td><td>correct errors of finished draft</td></tr> <tr><td>5</td><td>Use of textbook for writing practice (6)</td></tr> <tr><td>6</td><td>submit holiday essay, final version</td></tr> <tr><td>7</td><td>Use of textbook for writing practice (7)</td></tr> <tr><td>8</td><td>long essay based on text, first draft</td></tr> <tr><td>9</td><td>Use of textbook for writing practice (8)</td></tr> <tr><td>10</td><td>correction of long essay, first draft</td></tr> <tr><td>11</td><td>Movie or concert review, first draft</td></tr> <tr><td>12</td><td>submit long essay, final version</td></tr> <tr><td>13</td><td>Movie or concert review, finish first draft</td></tr> <tr><td>14</td><td>after consulting with instructor</td></tr> <tr><td>15</td><td>Use of textbook for writing practice (9)</td></tr> <tr><td>16</td><td>submit movie or music review, final version</td></tr> <tr><td>17</td><td>Use of textbook for writing practice (10)</td></tr> <tr><td>18</td><td>teacher will check student progress in text</td></tr> <tr><td>19</td><td>Article or book review, first draft</td></tr> <tr><td>20</td><td>discuss choice of topic with teacher</td></tr> <tr><td>21</td><td>Article or book review, finish first draft</td></tr> <tr><td>22</td><td>discuss status of yearly work with teacher</td></tr> <tr><td>23</td><td>Review of portfolio of all 7 previous essays</td></tr> <tr><td>24</td><td>submit article or book review, final version</td></tr> </table>		1	Review of portfolio of 3 previous essays	2	prepare draft essay about summer holidays	3	Continue holiday essay draft and/or	4	correct errors of finished draft	5	Use of textbook for writing practice (6)	6	submit holiday essay, final version	7	Use of textbook for writing practice (7)	8	long essay based on text, first draft	9	Use of textbook for writing practice (8)	10	correction of long essay, first draft	11	Movie or concert review, first draft	12	submit long essay, final version	13	Movie or concert review, finish first draft	14	after consulting with instructor	15	Use of textbook for writing practice (9)	16	submit movie or music review, final version	17	Use of textbook for writing practice (10)	18	teacher will check student progress in text	19	Article or book review, first draft	20	discuss choice of topic with teacher	21	Article or book review, finish first draft	22	discuss status of yearly work with teacher	23	Review of portfolio of all 7 previous essays	24	submit article or book review, final version
1	Review of portfolio of 3 previous essays																																																	
2	prepare draft essay about summer holidays																																																	
3	Continue holiday essay draft and/or																																																	
4	correct errors of finished draft																																																	
5	Use of textbook for writing practice (6)																																																	
6	submit holiday essay, final version																																																	
7	Use of textbook for writing practice (7)																																																	
8	long essay based on text, first draft																																																	
9	Use of textbook for writing practice (8)																																																	
10	correction of long essay, first draft																																																	
11	Movie or concert review, first draft																																																	
12	submit long essay, final version																																																	
13	Movie or concert review, finish first draft																																																	
14	after consulting with instructor																																																	
15	Use of textbook for writing practice (9)																																																	
16	submit movie or music review, final version																																																	
17	Use of textbook for writing practice (10)																																																	
18	teacher will check student progress in text																																																	
19	Article or book review, first draft																																																	
20	discuss choice of topic with teacher																																																	
21	Article or book review, finish first draft																																																	
22	discuss status of yearly work with teacher																																																	
23	Review of portfolio of all 7 previous essays																																																	
24	submit article or book review, final version																																																	

03年度以降 英語エッセイ・ライティング a
 02年度 英語エッセイ・ライティング
 01年度以前 エッセイ・ライティング

担当者 E.CARNEY

◆講義目的、講義概要

This programme is aimed primarily at having the students produce good, clear, error-free English. Also, we want to find better ways to organize and to express well. Coherence and balance are target items in all writing work.

講義概要

Classes will give time for the appreciation of the subjects about which the students will write and this will include some discussion. Advice will be given on simple construction and the importance of clarity in communicating ideas. Set pieces will be used as sample work and students will be asked to match their own ideas with these and express themselves accordingly.

Punctuation, good expression, and awareness of the reader's needs will all be covered. There will be at least one writing task per week to give students the chance to show that they have grasped the explanations in class.

◆評価方法

All papers are graded(weekly assignments).
 Where necessary, students will be asked to write a final report.

◆テキスト、参考文献

Brit-think, Ameri-think: Jane Walmsley
 Creative Writing
 Mind the Stop G.V. Carey

◆授業計画

- | | |
|----|---|
| 1 | Introduction of methods and class practice. |
| 2 | Basic errors in construction |
| 3 | Punctuation. Good comma use |
| 4 | Direct and indirect speech uses |
| 5 | Ambiguity pitfalls |
| 6 | Paragraph effectiveness |
| 7 | The relative pronoun |
| 8 | Singular and plural problems |
| 9 | Descriptive writing |
| 10 | Introductions and endings |
| 11 | Writing a short story |
| 12 | Balanced writing |

03年度以降 英語エッセイ・ライティング b
 02年度 英語エッセイ・ライティング
 01年度以前 エッセイ・ライティング

担当者 E.CARNEY

◆講義目的、講義概要

As above

◆評価方法

As above

◆テキスト、参考文献

As above

◆授業計画

- | | |
|----|---|
| 1 | Reader's meaning and writer's meaning |
| 2 | Examples of documentary and fictional pieces for comparison |
| 3 | Letter writing All forms |
| 4 | Conciseness in documentary writing |
| 5 | The short story. Time and sequence |
| 6 | Implied nuance "between the lines" |
| 7 | Criticism |
| 8 | The anecdote |
| 9 | Economy of expression |
| 10 | The power of humour |
| 11 | Creative expression |
| 12 | Recapitulation and recrimination |

03年度以降 02年度 01年度以前	英語エッセイ・ライティング a 英語エッセイ・ライティング エッセイ・ライティング	担当者	E.J.NAOUMI
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Students entering this course are used to writing different paragraphs and have a good knowledge of the elements of a good paragraph; the topic sentence, the body of the paragraph and the concluding sentence. During the semester, students will learn how to develop different paragraphs into five paragraph essays. We will also look at different types of letter writing.</p> <p>In class students will peer edit writing samples and also do activities to improve vocabulary, sentence level formation and cohesion at sentence and paragraph level. They will also be introduced to different patterns in text which they will use in their own writing. Students are encouraged to revise and resubmit assignments.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>In class participation and writing portfolio including an end of semester assignment. Evaluation will reflect individual effort and improvement</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Prints will be provided by the teacher. Students are expected to bring a dictionary to class.</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>Week 1 Introduction to the course Week 2 Self introduction essay Week 3 Paragraphs to essays Week 4 “ Week 5 Introduction to summary Week 6 Summary and opinion Week 7 “ Week 8 Common errors in writing Week 9 Letter writing · informal Week 10 Letter writing · formal Week 11 Letter writing · formal Week 12 Workshop</p>	

03年度以降 02年度 01年度以前	英語エッセイ・ライティング b 英語エッセイ・ライティング エッセイ・ライティング	担当者	E.J.NAOUMI
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The second semester of this course will focus more specifically upon skills for academic writing. Students will continue to learn how to present arguments and opinions clearly and how to support them. There will an emphasis on different patterns in persuasive writing and cohesive devices in longer stretches of discourse. Students will also be introduced to and encouraged to use academic writing expressions and vocabulary. Students will also take more responsibility for their own writing by deciding when their term assignments are ready for grading.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>In class participation and writing portfolio including an end of semester assignment. Once again evaluation is based upon individual improvement and effort.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>As above</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>Week 1 Feedback on first semester portfolio and outline of the course. Week 2 Different patterns in writing Week 3 “ Week 4 “ Week 5 “ Week 6 Introduction to academic writing Week 7 “ Week 8 “ Week 9 “ Week 10 Group report Week 11 “ Week 12 Workshop</p>	

03年度以降 02年度 01年度以前	英語エッセイ・ライティング a 英語エッセイ・ライティング エッセイ・ライティング	担当者	L.K..HAWKINS
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>最初の授業で説明する</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>最初の授業で説明する</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>最初の授業で説明する</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>最初の授業で説明する</p>	

03年度以降 02年度 01年度以前	英語エッセイ・ライティング b 英語エッセイ・ライティング エッセイ・ライティング	担当者	L.K..HAWKINS
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>最初の授業で説明する</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>最初の授業で説明する</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>最初の授業で説明する</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>最初の授業で説明する</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英語エッセイ ライティング a 英語エッセイ ライティング 英語エッセイ ライティング	担当者	M.B.HOOD
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>The purpose of this course is to develop students' ability to use expository prose to express themselves in a variety of different contexts. At the same time, students will learn critical analytical skills in order to understand the ideas of others, to identify strengths and weaknesses in texts, and develop responses to complex written arguments. In the end, students will become self-critical, able to work independently—identifying and correcting problems in their own writing.</p>		<p>Students will write three types of essays in the first term:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Summary 2. Personal Reflective Response 3. Summary/Response <p>Essays will be progressively more complex and long. Later essays will be more valuable as a portion of the final grade. Since peer editing is a component of this course, attendance and active participation is required.</p>	
◆ 評価方法			
Lecture, Discussion, Group Work, Peer Editing			
◆テキスト、参考文献			
None required, but students should bring a good dictionary to class every week.			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英語エッセイ ライティング b 英語エッセイ ライティング 英語エッセイ ライティング	担当者	M.B.HOOD
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>In the second term, students will continue to build on the skills mastered in the first term. There will be less reading during this term, and students will begin to conduct independent research on topics of their choice.</p>		<p>Students will write three essays during this term:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Synthesis/Response 2. Cause/Effect Analysis 3. Problem Solving <p>Essays will be progressively more complex and long. Later essays will be more valuable as a portion of the final grade. Since peer editing is a component of this course, attendance and active participation is required.</p>	
◆ 評価方法			
Lecture, Discussion, Group Work, Peer Editing			
◆テキスト、参考文献			
None required, but students should bring a good dictionary to class every week.			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語エッセイ ライティング a 英語エッセイ ライティング 英語エッセイ ライティング	担当者	P.M.HRNESS
◆講義目的、講義概要 This course covers the basics ideas and formats in writing essays. Since the students have completed paragraph writing, the course is designed so that students should be able to write several coherent paragraphs on one theme. In addition to writing, students will learn how to proofread peer work.		◆授業計画 W1: course introduction W2: Writing topic #1 Event W2: Draft #1 proofreading (elements of critique) W3: Draft #2 proofreading W4: Paper #1 due W5: Writing topic #2 Place W6: Draft #1 proofreading (main sentences) W7: Draft #2 proofreading W8: Paper #2 due W9: Topic #3 Person W10: Draft #1 proofreading (transitions sentences) W11: Draft #2 proofreading W12: Paper #3 due	
◆評価方法 Written essays and peer proofreading skills			
◆テキスト、参考文献 None			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語エッセイ ライティング b 英語エッセイ ライティング 英語エッセイ ライティング	担当者	P.M.HRNESS
◆講義目的、講義概要 This course is a continuation of Essay Writing Ia. This semester the students will be able to determine the types of essays to be written.		◆授業計画 W1: Deciding topics W2: Writing topic #1 W2: Draft #1 proofreading (elements of critique) W3: Draft #2 proofreading W4: Paper #1 due W5: Writing topic #2 W6: Draft #1 proofreading (main sentences) W7: Draft #2 proofreading W8: Paper #2 due W9: Topic #3 W10: Draft #1 proofreading (transitions sentences) W11: Draft #2 proofreading W12: Paper #3 due	
◆評価方法			
◆テキスト、参考文献			

03年度以降 英語エッセイ・ライティング a 02年度 英語エッセイ・ライティング 01年度以前 エッセイ・ライティング	担当者	P.McEVILLY
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The purpose of this course is to develop students writing skills of essays or other narrative and descriptive texts. Students will learn how to collect and organize ideas to produce meaningful content. The textbook that we will use is <u>Feedback</u> which features diagnostic work and use feedback from other students as well as the teacher to improve writing.</p> <p>◆評価方法 Grading will be based on classroom participation and homework = 50% Mid-term and Final examination = 50%</p> <p>◆テキスト、参考文献 <u>Feedback</u> by Jane Sherman, Oxford University Press</p>	<p>◆授業計画</p> <p>Week 1 - Unit 1 - Presentation 2 - " 3 - Unit 2 - Your voice 4 - " 5 - Unit 3 - Criteria 6 - " 7 - Unit 4 - Using Feedback 8 - " 9 - Unit 5 - Paragraphing 10 - " 11 - Review 12 - Mid-term Examination</p> <p>1 - Unit 6 - What to say 2 - " 3 - Unit 7 - Style 4 - " 5 - Unit 8 - Pinning it down 6 - " 7 - Unit 9 - Organization (1) 8 - " 9 - Unit 10 - Organization (2) 10 - " 11 - Review 12 - Final Examination</p>	

03年度以降 英語エッセイ・ライティング b 02年度 英語エッセイ・ライティング 03年度以降 英語エッセイ・ライティング b	担当者	P.McEVILLY
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 英語エッセイ・ライティング a 02年度 英語エッセイ・ライティング 01年度以前 エッセイ・ライティング	担当者 R.DURHAM
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This class aims to help you to write sentences, paragraphs, and even essays, in correct, Modern, Academic style.</p> <p>We will spend a lot of time on correcting sentences of "Wasei Eigo". We will also write opinion paragraphs about INTERNATIONAL, adult topics.</p> <p>◆評価方法 Your grade depends on <u>your</u> attendance; <u>your</u> class participation; and <u>your</u> performance on quizzes, tests, and compositions.</p> <p>◆テキスト、参考文献 The teacher may select a textbook after meeting and evaluating students.</p>	<p>◆授業計画 (TENTATIVELY)</p> <p>Week 1: INTRODUCTIONS Week 2: Re-writing exercises. Students write answers to "How are you?" Week 3: Paragraph format: explanations & practice. Week 4: Writing answers to "How was your Golden Week?" Introductory & Concluding sentences. Week 5: Re-writing exercises. Writing about hobbies. Week 6: Hobbies, continued, Re-writing. Week 7: Writing about the FUTURE. Re-writing. Week 8: Selecting an essay topic. Re-writing. Week 9: Essay outline. Re-writing. Week 10: Essay drafting. Writing about "What do you usually do...?" Week 11: Researching; bibliographies; references. Re-writing. Week 12: Telling rules. Re-writing. Week 13: Preparing for the examination.</p>

03年度以降 英語エッセイ・ライティング b 02年度 英語エッセイ・ライティング 01年度以前 エッセイ・ライティング	担当者 R.DURHAM
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This class will assist you to write REAL English sentences, paragraphs, and even essays.</p> <p>Much time will focus on re-writing of "Wasei Eigo" sentences. In addition, paragraphs & essays, will be written Academic style.</p> <p>◆評価方法 Your grade depends on: <u>YOUR</u> attendance; <u>YOUR</u> class participation; and <u>YOUR</u> performance on quizzes, exams, and compositions.</p> <p>◆テキスト、参考文献 The teacher may choose a text after evaluating student needs.</p>	<p>◆授業計画 (TENTATIVELY)</p> <p>Week 1: Writing: "How was your Summer Break?" Week 2: Essays: checking & revising. Re-writing exercises. Week 3: Re-drafting essays. Researching Halloween. Week 4: Writing about Halloween. Re-writing. Week 5: Opinions: writing down your views, with explanations. Week 6: More opinions. Writing: "would & will" Week 7: Essay reviewing. Re-writing exercises. Week 8: Christmas research. Re-writing. Week 9: Writing about the future: Christmas plans. Week 10: Essay re-drafting. Re-writing exercises. Week 11: Christmas writing. Essay checking. Week 12: Final essay drafts. Week 13: Preparing for the examination.</p>

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	翻訳 a 英日翻訳 翻訳 I	担当者	遠藤 朋之
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>翻訳とは、いかに英語で書かれたものであっても、「日本語」として読めなければダメである。つまり、“apple”をそのまま「リンゴ」と訳しても、文脈によってはダメな場合もある、ということだ。ここには、「解釈」という行為がある。その「解釈」を踏まえた上で、「翻訳」はある。</p> <p>本講座では、この「解釈」ということを念頭に置いて、前期はロックの歌詞から始まって、後期は文芸作品、Sandra Cisneros の <i>The House on Mango Street</i> の翻訳にまで、範囲を広げていこうと思う。</p> <p>同じ受講生の翻訳に対する批判は、大歓迎である。批判することによって、自分の翻訳に対する責任感が増すからだ。そのような形で、この授業を、甘えを許さない、翻訳や言語に対する厳しい態度を養う空間としたい。あらゆることを、「これ、ダーヘメ、ダーヘメ!!!」で片付けない態度、なにごととも言語化していく態度を養いたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. introduction 2. Bruce Springsteen “Born in the U. S. A.” 3. 同上、 “The River” 4. 同上、 “Atlantic City” 5. Bob Marley “Get Up, Stand Up” 6. 同上、 “War” 7. 同上、 “Talkin’ Blues” 8. 同上、 “Redemption Songs” 9. The Beatles “In My Life” 10. 同上、 “Lovely Rita” 11. 同上、 “Strawberry Fields Forever” 12. 同上、 “Across the Universe” 	
◆ 評価方法			
<p>毎回、複数の受講生が翻訳を提出、その出来を、他の受講生自身に採点してもらい、それを評価とする。</p>			
◆テキスト、参考文献			
プリント			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	翻訳 b 英日翻訳 翻訳 I	担当者	遠藤 朋之
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
		<ol style="list-style-type: none"> 1. Sandra Cisneros <i>The House on Mango Street</i> から、”The House on Mango Street” 2. 同上 3. 同上、 “Hairs” 4. 同上、 “Boys & Girls” 5. 同上、 “My Name” 6. 同上、 “Cathy, Queen of Cats” 7. 同上、 “Our Good Day” 8. 同上 9. 同上、 “Laughter” 10. 同上、 Gil’s Furniture, Bought & Sold” 11. 同上 12. 同上、 “Meme Ortiz” 	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

03年度以降 02年度 01年度以前	翻訳 a 英日翻訳 翻訳 I	担当者	金谷 優子												
◆講義目的、講義概要		◆授業計画													
<p>この授業では、主に文学作品(小説)を英文から日本語の文章に翻訳するための基礎を学びます。英語で書かれた文学作品を1. 正しく 2. 読みやすく 3. 自然に感じられるように訳すためにはどうしたら良いか、実際毎回の演習を通じて学んでゆきましょう。既に翻訳が出版されているものについては、その訳文を参考にしたり、各自作成したものと比較したりしながら、翻訳の面白さを経験してみましよう。また、各文学作品の翻訳に取り掛かる前に、各作家の紹介文(英文)をまず訳してみます。尚、取り上げる作品は、授業の初回時に希望を募り、主にアメリカの著名な作家のものから幾つか選びます</p>		<table border="1"> <tr><td>1: Introduction</td></tr> <tr><td>2: ①作家の経歴</td></tr> <tr><td>3: その作品</td></tr> <tr><td>4: 同上</td></tr> <tr><td>5: 同上</td></tr> <tr><td>6: ②作家の経歴</td></tr> <tr><td>7: その作品</td></tr> <tr><td>8: 同上</td></tr> <tr><td>9: 同上</td></tr> <tr><td>10: ③作家の経歴</td></tr> <tr><td>11: その作品</td></tr> <tr><td>12: 同上</td></tr> </table>		1: Introduction	2: ①作家の経歴	3: その作品	4: 同上	5: 同上	6: ②作家の経歴	7: その作品	8: 同上	9: 同上	10: ③作家の経歴	11: その作品	12: 同上
1: Introduction															
2: ①作家の経歴															
3: その作品															
4: 同上															
5: 同上															
6: ②作家の経歴															
7: その作品															
8: 同上															
9: 同上															
10: ③作家の経歴															
11: その作品															
12: 同上															
◆ 評価方法															
出席、平常点、提出物、レポートを総合評価															
◆テキスト、参考文献															
プリント配布															

03年度以降 02年度 01年度以前	翻訳 b 英日翻訳 翻訳 I	担当者	金谷 優子												
◆講義目的、講義概要		◆授業計画													
<p></p>		<table border="1"> <tr><td>1: レポート寸評</td></tr> <tr><td>2: ④作家の経歴</td></tr> <tr><td>3: その作品</td></tr> <tr><td>4: 同上</td></tr> <tr><td>5: 同上</td></tr> <tr><td>6: ⑤作家の経歴</td></tr> <tr><td>7: その作品</td></tr> <tr><td>8: 同上</td></tr> <tr><td>9: 同上</td></tr> <tr><td>10: ⑥作家の経歴</td></tr> <tr><td>11: その作品</td></tr> <tr><td>12: 同上</td></tr> </table>		1: レポート寸評	2: ④作家の経歴	3: その作品	4: 同上	5: 同上	6: ⑤作家の経歴	7: その作品	8: 同上	9: 同上	10: ⑥作家の経歴	11: その作品	12: 同上
1: レポート寸評															
2: ④作家の経歴															
3: その作品															
4: 同上															
5: 同上															
6: ⑤作家の経歴															
7: その作品															
8: 同上															
9: 同上															
10: ⑥作家の経歴															
11: その作品															
12: 同上															
◆ 評価方法															
◆テキスト、参考文献															

03年度以降 翻訳 a
02年度 英日翻訳
01年度以前 翻訳 I

担当者 工藤 政司

◆講義目的、講義概要

翻訳に關心をもつ学生を対象にカナダの作家 James Houston の *The White Dawn*, アメリカの作家 Erwin Shaw の代表作 *The Troubled Air* を各12回ずつ翻訳の添削指導を行う。なおテキストは小説ゆえ折りに付してノンフィクションや評論の翻訳も加えることもある。

授業はプリントを翻訳して提出させ、これを次の時間に添削して返す。一般的な文法上の誤り、文学的な誤謬、作品化する上で配慮等につき解説を加える。提出した訳文をもつて試験に替る。特に定期試験を行うとはしない。

◆評価方法

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

1	講義内容の説明	
2	作品の説明及び登場人物の表記その他	
3	<i>The White Dawn</i> pp. 3-4	
4	同上	pp. 4-5 講評
5	同上	p. 6 講評
6	同上	p. 7 "
7	同上	p. 8 "
8	同上	p. 9 "
9	同上	p. 10 "
10	同上	p. 11 "
11	同上	p. 12 "
12	同上	p. 13 "

03年度以降 翻訳 b
02年度 英日翻訳
01年度以前 翻訳 I

担当者 工藤 政司

◆講義目的、講義概要

翻訳 a に同じ

◆評価方法

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

1	<i>The Troubled Air</i> 解説	
2	同上	pp. 5-6 講評
3	同上	pp. 6-7
4	同上	pp. 7-8
5	同上	pp. 8-9
6	同上	pp. 9-10
7	同上	pp. 10-11
8	同上	pp. 11-12
9	同上	pp. 12-13
10	同上	pp. 14-15
11	同上	pp. 16-17
12	同上	pp. 18-19

03年度以降 02年度 01年度以前	翻訳 a 英日翻訳 翻訳 I	担当者	高田宣子
◆講義目的、講義概要 この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を明らかにし、翻訳の限界と可能性について実践的に探ります。 翻訳では、原文を的確な英語あるいは日本語に置き換える際に、目的や状況などを考慮する必要があります。また、翻訳語の字数やリズムについても工夫が求められる場合があります。 授業では、主として文系英文および和文（新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品）などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。コトバの意味と音に関心のある学生を求めます。		◆授業計画 第1回 ガイダンス 辞書について 第2回 翻訳の難しさと面白さについて 第3回 機械翻訳の可能性について 第4回 翻訳の実例比較検討 第5回 復習テスト 第6～12回 翻訳プレゼンテーションとコメント交換 第13回 応用テスト	
◆評価方法 毎週行う小テストあるいはコメント執筆、ディスカッションの発言内容によります。			
◆テキスト、参考文献 プリント使用			

03年度以降 02年度 01年度以前	翻訳 b 英日翻訳 翻訳 I	担当者	高田宣子
◆講義目的、講義概要 		◆授業計画 第1回前期テストの講評および後期授業のガイダンス 第2回日英および英日翻訳の実例検討 その1 第3回日英および英日翻訳の実例検討 その2 第4～6回 プレゼンテーションおよびディスカッション 第7回復習テスト 第8～11回 プレゼンテーションおよびディスカッション 第12回復習テスト 第13回まとめ	
◆評価方法 前期と同じ			
◆テキスト、参考文献 プリント配布			

03年度以降 カレッジ・グラマーa 02年度 カレッジ・グラマー 01年度以前 英文法	担当者	児玉 仁士
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>英語の表現力を涵養するために、英語の基礎的な文法事項を網羅的に解説し、更に文体的側面にも随時触れたいと思う。</p> <p>テキストの内容は、主に英語の基礎的な文法事項が網羅的に解説されており、また、基礎的事項を踏まえて、文章表現上の誤りと文体上の技巧が具体的に述べられている。テキストの練習問題の他に、色々な文例を補充して授業を進める。</p> <p>◆評価方法</p> <p>前期・後期の定期試験の成績、夏休みのレポート、出席により総合評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Hitoshi Kodama: <u>A Shorter Course in Grammar</u>, 南雲堂</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文法の概念 文型 2 名詞句 動詞区 3 形容詞句 副詞句 4 倒置構文 (1) (2) 5 省略構文 挿入句 6 句読点 強調表現 7 同格構文 形容詞の並列 8 副詞の位置 主語と述語動詞の一致 9 話法 代名詞の格 10 前期の総復習 11 上記同じ 12 同じ 	

03年度以降 カレッジ・グラマーb 02年度 カレッジ・グラマー 01年度以前 英文法	担当者	児玉 仁士
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 13 itの用法 不定代名詞 14 関係代名詞 名詞の数 15 名詞の数 形容詞の比較表現 16 数詞の表現 冠詞 17 動詞の活用 時制 18 完了時制 態 19 分詞 分詞構文 20 不定詞 動名詞 21 仮定法 時制の一致 22 接続詞 否定表現 13 前置詞/ofの用法 	

03年度以降 02年度 01年度以前	カレッジ・グラマー a カレッジ・グラマー 英文法	担当者	佐藤 勉
<p>この授業は文の基本構造を学ぶことである。一般的には文型といわれてもので、一つの文構成の規則である。これを意識的に学習し、やがて無意識的に判断して使いこなせるように練習問題をこなすことである。一見複雑そうに見える文型であるが、実は科学的な手法で簡略的に説明できるのである。</p> <p>この授業ではテキストを効率よく用いながら、平易な文法説明を心がけていきたい。ここでは従来の記述文法の用語を用いながら、今では一般的になってきている深層構造や表層構造の表わし方を使って説明したり、できるだけ平易な基本文を用例として使ったりして、現代使われている英文の規則を説明していく。以下のようなことがメイン・トピックスである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報伝達(communication)の仕組み 2. 基本的な文法項目の説明 3. 適時の練習問題 <p>なお、参考文献としては色々出版されているので自分で適切なものを選び、購入するとよい。2, 3挙げれば、 Otto Jerspersen: <i>Essentials of English Grammar</i> Frank Palmer: <i>Grammar</i> (Pelican Bks) E.O. Selkirk: <i>The Syntax of Words</i> Noam Chomsky: <i>Aspects of Syntactic Structures</i></p>		<p>◆授業計画</p> <p>使用するテキストは大きくI. 基礎編 II. 応用編の2部に分かれていて勉強し易いように編集されていて、自学自習できるようになっている。なお、以下に示すトピックスは毎回の授業の予定を示すわけではない。</p> <p>I 基礎編 第1章 文の構造 第2章 動詞と動詞の働きをする語句 第3章 名詞と名詞の働きをする語句 第4章 形容詞と形容詞の働きをする語句 第5章 副詞と副詞の働きをする語句 第6章 種類と構造による文の分類</p> <p>II 応用編 第7章 名詞の働きをする節 第8章 形容詞の働きをする節 第9章 副詞の働きをする節 第10章 動詞の注意すべき用法 第11章 特殊な構文</p> <p>以上春学期から秋学期へと順を追って学習する。</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>授業への3分の2以上出席を求めます。定期試験に平常点を加味します。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト: <i>English Grammar: Step by Step</i> (成美堂); 参考書: <i>Modern English Grammar for College Students</i>(桐原書店)</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	カレッジ・グラマー b カレッジ・グラマー 英文法	担当者	佐藤 勉
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業は文の基本構造を学ぶことである。一般的には文型といわれてもので、一つの文構成の規則である。これを意識的に学習し、やがて無意識的に判断して使いこなせるように練習問題をこなすことである。一見複雑そうに見える文型であるが、実は科学的な手法で簡略的に説明できるのである。</p> <p>この授業ではテキストを効率よく用いながら、平易な文法説明を心がけていきたい。ここでは従来の記述文法の用語を用いながら、今では一般的になってきている深層構造や表層構造の表わし方を使って説明したり、できるだけ平易な基本文を用例として使ったりして、現代使われている英文の規則を説明していく。以下のようなことがメイン・トピックスである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 情報伝達(communication)の仕組み 5. 基本的な文法項目の説明 6. 適時の練習問題 <p>なお、参考文献としては色々出版されているので自分で適切なものを選び、購入するとよい。2, 3挙げれば、 Otto Jerspersen: <i>Essentials of English Grammar</i> Frank Palmer: <i>Grammar</i> (Pelican Bks) E.O. Selkirk: <i>The Syntax of Words</i> Noam Chomsky: <i>Aspects of Syntactic Structures</i></p>		<p>◆授業計画</p> <p>使用するテキストは大きくI. 基礎編 II. 応用編の2部に分かれていて勉強し易いように編集されていて、自学自習できるようになっている。なお、以下に示すトピックスは毎回の授業の予定を示すわけではない。</p> <p>I 基礎編 第1章 文の構造 第12章 動詞と動詞の働きをする語句 第13章 名詞と名詞の働きをする語句 第14章 形容詞と形容詞の働きをする語句 第15章 副詞と副詞の働きをする語句 第16章 種類と構造による文の分類</p> <p>II 応用編 第17章 名詞の働きをする節 第18章 形容詞の働きをする節 第19章 副詞の働きをする節 第20章 動詞の注意すべき用法 第21章 特殊な構文</p> <p>以上春学期を受けて秋学期へと順を追って学習する。もし春学期で予定したテキストが終わるようであれば、その時に新たなテキストを用意したいと思っている。</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>授業への3分の2以上出席を求めます。定期試験に平常点を加味します。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト: <i>English Grammar: Step by Step</i> (成美堂); 参考書: <i>Modern English Grammar for College Students</i>(桐原書店)</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	カレッジ・グラマーa カレッジ・グラマー 英文法	担当者	府川謹也
◆講義目的、講義概要 専修学校ではなく大学で英語を学ぶ英語学科の学生にとって恥ずかしくないきっちりとした英文法の知識を身につけることが当然の狙いである。そのためには「なぜこう言えて、ああ言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが肝要で、そこから始めて次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにして表面に現れない言語の規則性を探っていくための考え方のヒントをつかんでもらいたい。そのために、『動詞』を解説する。 が、それと同時に、TOEICやTOEFLに見られるような英文法と語彙の実践問題を毎回30～45分位の時間を割いて答合わせと解説を行う。		◆授業計画 毎回 TOEIC の問題を解いたうえ、『現代の英文法 8 動詞』を 13 章より解説する 1. 進行相 2. 現在完了相 3. 過去完了相 & 未来完了相 4. 仮定法 5. 受動態	
◆ 評価方法 試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。			
◆テキスト、参考文献 1. 鈴木英一・他『現代の英文法 8 動詞』研究社 2. TOEIC の実践的問題集			

03年度以降 02年度 01年度以前	カレッジ・グラマーb カレッジ・グラマー 英文法	担当者	府川謹也
◆講義目的、講義概要 春学期と同じ。		◆授業計画 春学期同様、毎回 TOEIC の問題を解いたうえ、『現代の英文法 8 動詞』の次のトピックを解説する 12. 話法 13. 時制の一致 『動詞』が終わったあとは、興味のあるような英文法のトピックを取り上げて講義する。	
◆ 評価方法 春学期と同じ。			
◆テキスト、参考文献 春学期と同じ。			

03年以降 02年度 01年以前	カレッジ・グラマー a カレッジ・グラマー 英文法	担当者	山田 修
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英語教員を目指す学生諸君の、いわゆる「学校文法」の習得を目指す。文法のための文法ではなく、英文を読んでいくための、英文を書くための手段としての文法を考える。</p> <p>必要に応じて各項目の簡単な説明はするが、テキストの説明は各自読み、授業は問題中心に進めていく。授業の後半、時間のある場合は、テキスト外の問題をやり、文法知識の習得を確認する。</p>		<p>1. イントロダクション・その他</p> <p>2. (1) 基本文型 (2) 動詞</p> <p>3. (3)(4)(5)(6) 時制(I)(II)(III)(IV)</p> <p>4. (7)(8) 助動詞(I)(II)</p> <p>5. (9)(10) 態(I)(II)</p> <p>6. (11)(12) 不定詞(I)(II) (13) 動名詞</p> <p>7. (14) 分詞・分詞構文 (15) 仮定法</p> <p>8. (16) 名詞 (17)(18) 代名詞(I)(II)</p> <p>9. (19)(20) 関係詞(I)(II)</p> <p>10. (21) 形容詞・副詞 (22) 比較</p> <p>11. (23) 前置詞 (24) 接続詞と節</p> <p>12. (25)(26) 特殊構文(I)(II)</p>	
◆評価方法			
定期試験の結果および出席状況等の普段点を総合して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
『仕上げの英文法 中級』南雲堂フェニックス (参考) 江川泰一郎『英文法解説』金子書房			

03年以降 02年度 01年以前	カレッジ・グラマー b カレッジ・グラマー 英文法	担当者	山田 修
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英語教員を目指す学生諸君の、いわゆる「学校文法」の習得を目指す。文法のための文法ではなく、英文を読んでいくための、英文を書くための手段としての文法を考える。</p> <p>必要に応じて各項目の簡単な説明はするが、テキストの説明は各自読み、授業は問題中心に進めていく。テキストの説明は春学期(前期)のテキストの説明とほぼ同じであるが、当然のことながら、問題は異なる。授業の後半、時間のある場合は、テキスト外の問題をやり、文法知識の習得を確認する。</p>		<p>1. イントロダクション・その他</p> <p>2. (1) 基本文型 (2) 動詞</p> <p>3. (3)(4)(5)(6) 時制(I)(II)(III)(IV)</p> <p>4. (7)(8) 助動詞(I)(II)</p> <p>5. (9)(10) 態(I)(II)</p> <p>6. (11)(12) 不定詞(I)(II) (13) 動名詞</p> <p>7. (14) 分詞・分詞構文 (15) 仮定法</p> <p>8. (16) 名詞 (17)(18) 代名詞(I)(II)</p> <p>9. (19)(20) 関係詞(I)(II)</p> <p>10. (21) 形容詞・副詞 (22) 比較</p> <p>11. (23) 前置詞 (24) 接続詞と節</p> <p>12. (25)(26) 特殊構文(I)(II)</p>	
◆評価方法			
定期試験の結果および出席状況等の普段点を総合して評価する。			
◆テキスト、参考文献			
『仕上げの英文法 上級』南雲堂フェニックス <i>Grammar of Spoken and Written English, Longman</i>			

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English I a Communicative English I Conversation I	担当者	C.B.IKEGUCHI
◆講義目的、講義概要 This course aims to train students to think and talk about real life experiences in cross-cultural adjustment. Topics will be provided to provide a framework for discussions similar to CE II, but of lower difficulty level. Discussions will take several forms: pair work, small group, large group and extending to panel discussions. To start with, students will have the opportunity to think and express their ideas based on personal experiences on cross-cultural interaction. Finally they will be trained to think and argue on current intercultural issues of interest and concern. These will include an analysis and awareness of one's culture and identity, and comparison and acceptance of other's cultures.		◆授業計画 1. Orientation/Introduction to the Course Objectives, Course Content, Evaluation, etc. 2. Topic 1: What's the first setp? How to Prepare for ICC 3. Discussion No. 1 4. Topic No. 2 What follows next? Personal/ Personality Check 5. Discussion No. 2 6. Topic No. 3 Within the New Environment The Three Stages of CS 7. Discussion No. 3 8. Topic No. 4 Students as Sojourners CS As a Learning Experience 9. Discussion No. 4 10. Topic No. 5 When Values Conflict..... Accept or reject 11. Discussion No. 5 12. Summary and Evaluation	
◆ 評価方法 Evaluation is based on class participation: material reading and class discussions, and term exams			
◆テキスト、参考文献 To be announced on the first day of class.			

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English I b Communicative English I Conversation I	担当者	C.B.IKEGUCHI
◆講義目的、講義概要 This course is a continuation of the first semester course. For course summary and objectives, please see above.		◆授業計画 1. Orientation/ Introduction to the Course Goals of the 1 st and 2 nd semester 2. Topic No. 6 How Much Do You Love Your Own? Anxiety Level: How it affects life overseas 3. Discussion No. 6 4. Topic No. 7 How Tolerant Are You? Love of self, of one's culture and of others 5. Discussion No. 7 6. Topic No. 8 What is Unique About Japan? Communication Style 7. Discussion No. 8 8. Topic No.9 How Are Countries Different? Non-verbal Communication Patterns 1 9. Discussion No. 9 10. Topic No. 10 How Are Countries Different? Non-verbal Communication Patterns 2 11. Discussion No. 10 12. Summary and Evaluation	
◆ 評価方法 Evaluation is based on class participation: material reading and class discussions, and term exams			
◆テキスト、参考文献 Text from the first semester will be used.			

03年度以降 Communicative English I a 02年度 Communicative English I 01年度以前 Conversation I	担当者	D.BRADLEY
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course aims to improve the listening and speaking abilities of intermediate students of English.</p> <p>We will do a selection of listening exercises and fluency practice activities. The level will be that of general EFL textbooks at the intermediate level. The listening exercises consist of short interviews, telephone exchanges, public announcements, conversations and other recordings of people speaking naturally. In the fluency activities students exchange information, describe their experiences, and participate in role plays and discussions. In the weekly topics listed there is a range of topics commonly handled at this level. This is a proposed list and not necessarily final.</p> <p>There will be a homework listening assignment.</p> <p>There is an upper limit of 28 on the number of students who may take this class. Where the number hoping to take this class exceeds 28 the class members will be decided by lottery.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Grades will be based on attendance (33%), class participation (33%) and the homework assignment (33%).</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction to the course 2 Consolidation activities 3 Consolidation activities 4 Personal information – talking about yourself 5 Work – talking about jobs and careers 6 Past lives – talking about people’s histories, biographies 7 Homes – location inside the house 8 Directions – giving directions and using maps 9 Travel – making travel arrangements 10 Travel – modes of transport 11 Giving instructions 12 Review 	

03年度以降 Communicative English I b 02年度 Communicative English I 01年度以前 Conversation I	担当者	D.BRADLEY
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The second term will be a continuation of the course begun in the spring. We will proceed with the same approach and style of lesson. The same conditions for grading and homework will apply.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Grades will be based on attendance (33%), class participation (33%) and the homework assignment (33%).</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Consolidation 2 Comparisons 3 Communication – reported speech and giving messages 4 Health 5 Giving advice 6 Hypothetical situations – talking about the future 7 Hypothetical situations – talking about the past 8 Current events – listening to the news 9 Discussions – giving opinions 10 Discussions – giving opinions 11 Review 12 Review 	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Communicative English I a Communicative English I Conversation I	担当者	D.McCann
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The purpose of this course will be to help students develop their skill and confidence in using the English language for communicative purposes. At the outset of the course, students will be asked to provide a personal introduction card with a favourite photograph of themselves on one side and name and information about themselves on the other. These cards will be used extensively throughout the course, both interactively and individually, so students should put some care and effort into their preparation.</p> <p>A variety of authentic materials will be used, including: single-frame and strip cartoons; music and song lyrics; newspapers and magazines; radio broadcasts and (where appropriate) video. Special emphasis will be placed on using and understanding stress, rhythm and intonation patterns of everyday spoken English, and on the relationship between the spoken and written forms of the language.</p> <p>Spontaneous language use, enthusiasm and motivation will be encouraged, and grammar instruction will be provided as and when required for communicative ends.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.Orientation and introductions 2. Written and spoken English (a) 3. Written and spoken English (b) 4.The rhythms of English (a) 5.The rhythms of English (b) 6.Music and Song (a) 7.Music and Song (b) 8.Books, poetry and literature (a) 9.Books, poetry and literature (b) 10.Cinema and entertainment (a) 11. Cinema and entertainment (b) 12.Test 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>Assessment will be based on attendance, class participation, and end-of-term tests.</p>			
<p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>Authentic texts. Students will be encouraged to provide and prepare some of their own materials for classroom activities.</p>			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Communicative English I b Communicative English I Conversation I	担当者	D.McCann
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The purpose of this course will be to help students develop their skill and confidence in using the English language for communicative purposes. At the outset of the course, students will be asked to provide a personal introduction card with a favourite photograph of themselves on one side and name and information about themselves on the other. These cards will be used extensively throughout the course, both interactively and individually, so students should put some care and effort into their preparation.</p> <p>A variety of authentic materials will be used, including: single-frame and strip cartoons; music and song lyrics; newspapers and magazines; radio broadcasts and (where appropriate) video. Special emphasis will be placed on using and understanding stress, rhythm and intonation patterns of everyday spoken English, and on the relationship between the spoken and written forms of the language.</p> <p>Spontaneous language use, enthusiasm and motivation will be encouraged, and grammar instruction will be provided as and when required for communicative ends.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.Newspapers, magazines and comics (a) 2. Newspapers, magazines and comics (b) 3.Descriptions (a) 4. Descriptions (b) 5.Storytelling (a) 6. Storytelling (b) 7. Letter-writing and e-mail (a) 8. Letter-writing and e-mail (b) 9.Discussion and presentation (a) 10. Discussion and presentation (b) 11.Consolidation and review 12.Test 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>Assessment will be based on attendance, class participation, and end-of-term tests.</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Authentic texts. Students will be encouraged to provide and prepare some of their own materials for classroom activities.</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English I a Communicative English I Conversation I	担当者	E.J.NAOUMI
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The first semester will focus on how English is used in different situations. Educational videos and clips from movies will be used to introduce the language necessary in a given situation. Students will practice the dialogs and finally make up their own.</p> <p>Students are encouraged to improve their speaking by using words and expressions they hear in their own speech so there will be a variety of listening exercises based upon the clips</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>One group presentation and listening and vocabulary test. I evaluate enthusiasm and improvement.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Prints</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>Week 1 Introduction to the course Week 2 Ice breakers Week 3 Introductions Week 4 Personality Week 5 “ Week 6 Restaurant language Week 7 “ Week 8 Travel language Week 9 “ Week 10 Cultural differences Week 11 “ Week 12 Preparation for the test</p>	

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English I b Communicative English I Conversation I	担当者	E.J.NAOUMI
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The first part of the semester will continue the activities introduced in the first semester but then we will begin to look at current affairs and students will be encouraged to bring in their own topics.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Same as above</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Same as above.</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>I will arrange this semester's schedule according to student interests and performance in the first semester.</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Communicative English Ia Communicative English I Conversation I	担当者	J. J. Duggan
◆講義目的、講義概要		◆ 評価方法	
<p>The purpose of this course is two-fold: 1) to improve students' communicative abilities by maximizing comprehensible input as well as giving chances for output, and 2) to do this listening and speaking within a content-based framework that will widen students' knowledge and cultural base.</p> <p>In this course we will look at some of the facets of the culture and society of the United States, such as the American family, courtship & marriage, religion, work, leisure, education, the role of women, the automobile, and ethnicity.</p> <p>There will be no textbook or reading material as this is not a reading class. Instead, the necessary input will be through listening, just as students may listen and take notes in an American university class lecture. But neither will this be a formal lecture course. It will be more like an informal tutorial-type study environment where there is a "give & take" between teacher and students. While listening, the students are expected to take notes, ask questions for clarification, or add their own comments and opinions. We may stop on one point and discuss it at length if it of interest to the class.</p> <p>As such, you must attend class (if you miss or are very late for more than 1/3 of the classes you will automatically fail) and be prepared to listen and take notes, but also to participate.</p>		<p>Students will be evaluated based on class participation , any assignments that may be given, and a final assessment.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Handouts for notetaking.</p> <p>◆授業計画</p> <p>Week 1: Course description & explanation Week 2: Theme: Introduction: Some American Characteristics Week 3: Theme: Introduction: Some American Characteristics Week 4: Theme: Life in the American Family Week 5: Theme: Life in the American Family Week 6: Theme: Courtship & Marriage Week 7: Theme: Courtship & Marriage Week 8: Theme: Religion in America Week 9: Theme: Religion in America Week 10: Theme: Work and Work Organizations Week 11: Theme: Work and Work Organizations Week 12: Consolidation & Review</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Communicative English Ib Communicative English I Conversation I	担当者	J. J. Duggan
◆講義目的、講義概要		◆ 評価方法	
<p>The purpose of this course is two-fold: 1) to improve students' communicative abilities by maximizing comprehensible input as well as giving chances for output, and 2) to do this listening and speaking within a content-based framework that will widen students' knowledge and cultural base.</p> <p>In this course we will look at some of the facets of the culture and society of the United States, such as the American family, courtship & marriage, religion, work, leisure, education, the role of women, the automobile, and ethnicity.</p> <p>There will be no textbook or reading material as this is not a reading class. Instead, the necessary input will be through listening, just as students may listen and take notes in an American university class lecture. But neither will this be a formal lecture course. It will be more like an informal tutorial-type study environment where there is a "give & take" between teacher and students. While listening, the students are expected to take notes, ask questions for clarification, or add their own comments and opinions. We may stop on one point and discuss it at length if it of interest to the class.</p> <p>As such, you must attend class (if you miss or are very late for more than 1/3 of the classes you will automatically fail) and be prepared to listen and take notes, but also to participate.</p>		<p>Students will be evaluated based on class participation , any assignments that may be given, and a final assessment.</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>Handouts for notetaking.</p> <p>◆授業計画</p> <p>Week 1: First semester review Week 2: Theme: America at Rest: Leisure and Recreation Week 3: Theme: America at Rest: Leisure and Recreation Week 4: Theme: Universities and University Life Week 5: Theme: Universities and University Life Week 6: Theme: Women in American Society Week 7: Theme: Women in American Society Week 8: Theme: The Automobile Culture Week 9: Theme: The Automobile Culture Week 10: Theme: Ethnicity in America Week 11: Theme: Ethnicity in America Week 12: Consolidation & Review</p>	

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English I a Communicative English I Conversation I	担当者	K.MEEHAN
◆講義目的、講義概要 <p>The aim of this course is to build on students existing English conversation skills, and further develop them through discussion of current topics and major domestic and international issues.</p> <p>Students will be expected to speak English during class both in class-wide and small-group discussions. They will be expected to engage in all activities, express their own opinions, and communicate with other members of the class. Participation is the most important criteria for this class.</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. Personality 2. Lifestyles 3. Gun control 4. Animal rights 5. Death penalty 6. Population Control 7. Democracy 8. Art and Artists 9. Crime and punishment 10. Beliefs 11. Trends <p>Mid -Term Exam</p>	
◆ 評価方法 <p>Students will be graded on attendance (60%), class participation (20%), and tests (20%).</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>Students will be provided with prints for each class. There is no assigned textbook,</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English I b Communicative English I Conversation I	担当者	K.MEEHAN
◆講義目的、講義概要 <p>The aim of this course is to build on students existing English conversation skills, and further develop them through discussion of current topics and major domestic and international issues.</p> <p>Students will be expected to speak English during class both in class-wide and small-group discussions. They will be expected to engage in all activities, express their own opinions, and Communicate with other members of the class. Participation is the most important criteria for this class.</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. Advertising 2. Fashion 3. Film and TV 4. Green Issues 5. Language 6. Poverty 7. Sexism 8. Friendship 9. New Technology 10. Sports 11. Executive salaries <p>Final Exam</p>	
◆ 評価方法 <p>Students will be graded on attendance (60%), class participation (20%), Tests (20%).</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>Students will provide with prints for each class. There is no assigned textbook.</p>			

03年度以降 Communicative English I a 02年度 Communicative English I 01年度以前 Conversation I	担当者	M.DEL VECCHIO																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The aim of this course is to further develop communication skills through conversation, discussion and short presentations. Language items will be detailed and practiced so that students may successfully participate in pair and group discussions as confidence improves. The class level is lower-intermediate.</p> <p>Content will focus on current social and cross-cultural issues. British and American English will be presented pending on units covered.</p> <p>It is hoped that students will enjoy taking an active role in this class.</p> <p>◆評価方法</p> <p>The final grade will combine the following: attendance, class performance and short presentations</p> <p>◆テキスト、参考文献 <i>Textbook: Ideas and Issues Threshold Edition: 2004</i> <i>By: Ken Wilson & Geraldine Sweeney</i> <i>Publisher: Macmillan Languagehouse</i></p>	<p>◆授業計画</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>Introduction to the course</td></tr> <tr><td>2</td><td>Cyberdating</td></tr> <tr><td>3</td><td>Cyberdating</td></tr> <tr><td>4</td><td>Fashion victims</td></tr> <tr><td>5</td><td>Fashion victims</td></tr> <tr><td>6</td><td>The law</td></tr> <tr><td>7</td><td>Breaking the law</td></tr> <tr><td>8</td><td>Fame</td></tr> <tr><td>9</td><td>Taking risks</td></tr> <tr><td>10</td><td>Taking risks</td></tr> <tr><td>11</td><td>Peer pressure</td></tr> <tr><td>12</td><td>Presentations</td></tr> </table>		1	Introduction to the course	2	Cyberdating	3	Cyberdating	4	Fashion victims	5	Fashion victims	6	The law	7	Breaking the law	8	Fame	9	Taking risks	10	Taking risks	11	Peer pressure	12	Presentations
1	Introduction to the course																									
2	Cyberdating																									
3	Cyberdating																									
4	Fashion victims																									
5	Fashion victims																									
6	The law																									
7	Breaking the law																									
8	Fame																									
9	Taking risks																									
10	Taking risks																									
11	Peer pressure																									
12	Presentations																									

03年度以降 Communicative English I b 02年度 Communicative English I 01年度以前 Conversation I	担当者	M.DEL VECCHIO																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>AS ABOVE</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>Discussion</td></tr> <tr><td>2</td><td>Hackers</td></tr> <tr><td>3</td><td>Hackers</td></tr> <tr><td>4</td><td>Ambition</td></tr> <tr><td>5</td><td>Ambition</td></tr> <tr><td>6</td><td>Food for thought</td></tr> <tr><td>7</td><td>Food for thought</td></tr> <tr><td>8</td><td>Body language</td></tr> <tr><td>9</td><td>Clubbing</td></tr> <tr><td>10</td><td>Stalking</td></tr> <tr><td>11</td><td>Case study presentation</td></tr> <tr><td>12</td><td>Review</td></tr> </table>		1	Discussion	2	Hackers	3	Hackers	4	Ambition	5	Ambition	6	Food for thought	7	Food for thought	8	Body language	9	Clubbing	10	Stalking	11	Case study presentation	12	Review
1	Discussion																									
2	Hackers																									
3	Hackers																									
4	Ambition																									
5	Ambition																									
6	Food for thought																									
7	Food for thought																									
8	Body language																									
9	Clubbing																									
10	Stalking																									
11	Case study presentation																									
12	Review																									

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English I a Communicative English I Conversation 1	担当者	P. Apps
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The aim of this course is to encourage the students to communicate using English in the classroom and eventually outside the classroom. In the first semester the students will participate in pair work and group work. They will be small discussions and students will be given time in class to talk to the teacher in small groups and they will be encouraged to take full advantage of this experience.</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Chapters 1 – 5 of the text book Discussion</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>1) Attendance 2) Participation in class 3) Interview Test 4) Written Test</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>“English First Hand” Book Two Marc Hegelsen, Steve Brown, Thomas Mandeville</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English I b Communicative English I Conversation 1	担当者	P. Apps
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>In the second semester there will be more discussion. Of course there will be the usual pair work and group work. The students will have to produce a video commercial.</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Chapters 6 – 12 of the Text book Video project</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>1) Attendance 2) Participation in class 3) Interview Test 4) Written Test</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>“English First Hand” Book Two Marc Hegelsen, Steve Brown, Thomas Mandeville</p>			

03 年度以降 Communicative English I a 02 年度 Communicative English I 01 年度以前 Conversation I (水 1 履修者)	担当者 R.DURHAM
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This class will help you to speak & explain, in <u>REAL</u>, Modern English. We will discuss International topics & culture — but <u>not</u> using "Wasei Eigo". Listening skills can be improved by listening to English songs, & watching videos.</p> <p>"ACTIVE English" is the way!</p> <p>◆評価方法 Your grade depends on <u>your</u> class participation; <u>your</u> class attendance; and <u>your</u> quiz & exam results.</p> <p>◆テキスト、参考文献 The need for a text will be evaluated after meeting students.</p>	<p>◆授業計画 (TENTATIVELY)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: "How's it going?" 2: Hobbies 3: "How was ...?"; pair practice 4: Song exercise 5: The Future; pairs 6: "What do you usually do...?" 7: Review; song exercise. 8: "Have you ever...?" 9: Review; song exercise/Video. 10: "When do you usually...?" 11: Polite vs. not-so-polite Questions 12: Review for exam, Song 13: Review for exam.

03 年度以降 Communicative English I b 02 年度 Communicative English I 01 年度以前 Conversation I (水 1 履修者)	担当者 R.DURHAM
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>ACTIVE English, for 2004! We will use Modern, <u>REAL</u>, English, to discuss & elaborate on INTERNATIONAL topics & culture.</p> <p>◆評価方法 Class participation; attendance; & quizzes/exams will determine your grade.</p> <p>◆テキスト、参考文献 If a text is required, one may be assigned.</p>	<p>◆授業計画 (TENTATIVELY)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: "How was your Summer?" 2: Researching Halloween 3: "Would" & "will" 4: "What do you think of...?" 5: Song/Video: discussion 6: Halloween video & culture: discussion 7: Christmas research 8: Christmas presentations 9: Song/Video: Christmas 10: Review: "How's it going?" Song. 11: Plans for Christmas/New Year. 12: Review for exam.

03年度以降 Communicative English I b 02年度 Communicative English I 01年度以前 Conversation I (水2履修者)	担当者 R.DURHAM
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This class will help you to think, use, and speak in <u>REAL</u>, Modern English. We will <u>not</u> use "Wasei Eigo" in this class. Instead, we will discuss INTERNATIONAL topics and culture. We will learn to explain and elaborate. Listening skills can be improved by song-listening exercises, and by video viewing/discussion. The focus of the class: ACTIVE ENGLISH!</p> <p>◆評価方法 Your grade depends on your attendance; your class participation and your results on quizzes, tests, and/or presentations.</p> <p>◆テキスト、参考文献 The need for a textbook will be assessed after evaluating student needs/levels.</p>	<p>◆授業計画 (TENTATIVELY)</p> <p>Week 1: Introductions; song exercise. Week 2: 'False I.D.' introductions; practice. Song and/or video exercise. Week 3: "How are you?"; practice. Week 4: Review: "How are you?" Song and/or video exercise. Week 5: "How was your Golden Week?" & pair practice. Week 6: Review: "How was...?" Week 7: Discussing & elaborating about hobbies. Song/video. Week 8: Review of hobbies. Pair practice. Song exercise. Week 9: Talking about the Future: "going to"; "like to"; "hope to". Pair practice. Week 10: Review of the Future. Song/video exercise. Week 11: "What do you usually do...?"; pair practice. Song exercise. Week 12: Review of usual customs. Preparing for examination. Week 13: Reviewing for the exam.</p>

03年度以降 Communicative English I a 02年度 Communicative English I 01年度以前 Conversation I (水2履修者)	担当者 R.DURHAM
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This class will assist you to think and speak in Modern English. "Wasei Eigo" will <u>not</u> be used. Instead, we will discuss international topics & culture. We will learn to explain & to elaborate. Song exercises and/or videos may be used to help improve listening-comprehension skills. Let's practice ACTIVE ENGLISH together!</p> <p>◆評価方法 Your grade will depend on your class participation; your attendance; and your results on quizzes, tests, & presentations.</p> <p>◆テキスト、参考文献 The teacher may choose a text after evaluating student needs.</p>	<p>◆授業計画 (TENTATIVELY)</p> <p>Week 1: "How was your Summer Break?"; pair practice. Week 2: Song/video exercise. "What do you think of...?"; pair practice. Week 3: Review of "How do you feel about...?"; pair practice. Song/video. Week 4: "How often do you...?"; pairs. Video/song. Week 5: Review of "How often...?"; pairs. Song/video. Hallowe'en. Week 6: History & current customs of Hallowe'en. Hallowe'en video. Week 7: "Have you ever...?"; pair practice. Song exercise. Week 8: Review: "Have you ever...?" Preparing for Christmas presentations. Week 9: "Would" vs. "Will"; pair practice. Song/video exercise. Week 10: Christmas presentations. Review of "would" & "will". Week 11: Preparing for exams. Polite & not-so-polite QUESTIONS and ANSWERS. Week 12: Christmas Song/video; Xmas presentations. Xmas plans. Week 13: Review for examination.</p>

03年度以降 Communicative English I a 02年度 Communicative English I 01年度以前 Conversation I	担当者	R.M.PAYNE
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course is meant to help intermediate level students improve their speaking and listening abilities.</p> <p>Class time will be divided between whole class activities and group presentations. (Students will be assigned to groups or teams and each group or team will prepare a presentation or activity for an assigned class period.)</p> <p>No specific text will be used. Students will generate and prepare topics for weekly presentations or activities.</p> <p>Grades will be based on attendance and participation in whole class activities and group presentations and activities.</p> <p>Three or more absences in one semester will result in a failing grade in the course.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Grades will be calculated as stated above.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>NONE</p>	<p>◆授業計画</p> <p>The first day will be an introduction and explanation of class methods.</p> <p>On day two, determination of students' groups or teams and then the topics for the first term.</p> <p>Following class meetings will consist of instructor prepared exercises followed by student group presentations or activities.</p>	

03年度以降 Communicative English I b 02年度 Communicative English I 01年度以前 Conversation I	担当者	R.M.PAYNE
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(same as first term - above)</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p> <p>On the first day of the second term, determination by students of group presentation topics for the second term.</p> <p>Succeeding class meetings will be as during the first term.</p>	

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English I a Communicative English I Conversation I	担当者	T.HILL
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>This course aims to give students a chance to develop their critical thinking skills and their ability to express their ideas in English. Emphasis will be placed on the learning of important vocabulary and on the development of students' listening comprehension.</p> <p>Students will be expected to prepare the text in advance and to come to class ready to express their opinion and to take part in discussion. The topics we will discuss this year will include issues such as Abortion, The homeless, The third world, Creativity in Japanese schools, Accepting immigrants and Feminism.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. The homeless 2. Hunting 3. A muzzle law 4. The third world 5. Abortion 6. Aging leaders 7. Creativity in Japanese schools 8. The United Nations 9. Feminism 10. Cryonics 11. Home health tests 12. Review 	
◆ 評価方法			
<p>Evaluation will be based on attendance, class participation and a number of oral presentations</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>Discussing Issues II Paul McLean Yumi Press</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English I b Communicative English I Conversation I	担当者	T.HILL
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>This course aims to give students a chance to develop their critical thinking skills and their ability to express their ideas in English. Emphasis will be placed on the learning of important vocabulary and on the development of students' listening comprehension.</p> <p>Students will be expected to prepare the text in advance and to come to class ready to express their opinion and to take part in discussion. The topics we will discuss this year will include issues such as Abortion, The homeless, The third world, Creativity in Japanese schools, Accepting immigrants and Feminism.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Honesty 2. Diplomatic immunity 3. Abstract art 4. Strikes 5. Accepting immigrants 6. The Japanese language 7. Irradiation 8. Adultery in high places 9. Breast-feeding 10. Plundered art 11. Endangered languages 12. Review 	
◆ 評価方法			
<p>Evaluation will be based on attendance, class participation and a number of oral presentations</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>Discussing Issues II Paul McLean Yumi Press</p>			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Communicative English I a Communicative English I Conversation I	担当者	W. J. Benfield
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>To develop listening and speaking skills and to consolidate and build vocabulary using material that is varied, interesting and relevant to adult learners of English. The topic will be introduced through either a written text or video. Students will then participate in a variety of activities such as group discussion or individual/group presentations. Short pieces of written work may also be required depending on the subject.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Continuous assessment; attendance; participation in class.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Printed handouts and video</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course explanation 2. Topic 1: The modern world 3. Topic 1 continued 4. Topic 2: Sport and leisure 5. Topic 2 continued 6. Topic 3: Writing, painting and music 7. Topic 3 continued 8. Topic 4: Cultural comparison 9. Topic 4 continued 10. Topic 5: Holidays 11. Topic 5 continued 12. Topic 6: Food and drink 	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Communicative English I b Communicative English I Conversation I	担当者	W. J. Benfield
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>To develop listening and speaking skills and to consolidate and build vocabulary using material that is varied, interesting and relevant to adult learners of English. The topic will be introduced through either a written text or video. Students will then participate in a variety of activities such as group discussion or individual/group presentations. Short pieces of written work may also be required depending on the subject.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Continuous assessment; attendance; participation in class.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Printed handouts and video</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Topic 7: Work 2. Topic 7 continued 3. Topic 8: Money 4. Topic 8 continued 5. Topic 9: Families and relationships 6. Topic 9 continued 7. Topic 10: Habits 8. Topic 10 continued 9. Topic 11: Questions and answers 10. Topic 11 continued 11. Topic 12: Birth, marriage and death 12. Topic 12 continued 	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Communicative English IIa Communicative English II Conversation II	担当者	A.R.FALVO
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>In this class we will further refine the ability to communicate in English in the form of presentations, dramatization, panel discussion and interviews. The source of class materials will be drawn from videos, weekly topics in the news, and media events such as songs, movies and popular TV programs. Students will be expected to use power point in this class before the second term.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Weekly participation in presentations, dramatization, panel discussion and interviews</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>To be determined</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Introduction Video Presentation: Historical site. Commercial: Medial Research Interview Activity Oral report Cultural Capsule: Barbecues Video Presentation: Exercise and Weight Training Commercial: Sports Equipment Athletes in Advertising Interview Activity Cultural Capsule: Talent shows Term Review</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Communicative English IIb Communicative English II Conversation II	担当者	A.R.FALVO
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>In this class we will further refine the ability to communicate in English in the form of presentations, dramatization, panel discussion and interviews. The source of class materials will be drawn from videos, weekly topics in the news, and media events such as songs, movies and popular TV programs. Students will be expected to use power point in this class in the second term. Students will be filmed on a video camera for a commercial and public service announcement.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Weekly participation in presentations, dramatization, panel discussion and interviews</p> <p>□テキスト、参考文献</p> <p>To be determined</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Introduction Video Presentation Cars of the Future Commercial: Car Safety Interview Activity Writing a Commercial Cultural Capsule: Support for the visually challenged Video Presentation: Unique and Unusual Museums Creating a Public service Announcements Taping these commercials and service announcements Interview Activity Cultural Capsule: High Pressure sales Term Review</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Communicative English II a Communicative English II Conversation II	担当者	C.B.IKEGUCHI
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course aims to train students to think and talk about real life experiences in cross-cultural adjustment. Topics will be provided to provide a framework for discussions. Because this class is intended to be a continuation of Communicative English I.1, topics will be of a higher difficulty level.</p> <p>Discussions will take several forms: pair work, small group, large group and extending to panel discussions. To start with, students will have the opportunity to think and express their ideas based on personal experiences on cross-cultural interaction. Finally they will be trained to think and argue on current intercultural issues of interest and concern. These will include an analysis and awareness of one's culture and identity, and comparison and acceptance of other's cultures based on a broad and objective worldview.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Evaluation is based on class participation: material reading and class discussions, and term exams</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>To be announced on the first day of class.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation/Introduction to the Course Objectives, Course Content, Evaluation, etc. 2. Topic 1: Is Language The Only Thing? How to Prepare for ICC 3. Discussion No. 1 4. Topic No. 2 Other Things That Matter! Pre-departure Preparations 5. Discussion No. 2 6. Topic No. 3 The Role of Culture Shock The Types and Patterns of CS 7. Discussion No. 3 8. Topic No. 4 A Sojourner's Experience CS As a Learning Experience 9. Discussion No. 4 10. Topic No. 5 When Values Conflict..... Accept or reject 11. Discussion No. 5 12. Summary and Evaluation 	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Communicative English II b Communicative English II Conversation II	担当者	C.B.IKEGUCHI
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course is a continuation of the first semester course. For course summary and objectives, please see above.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Evaluation is based on class participation: material reading and class discussions, and term exams</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Text from the first semester will be used.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation/ Introduction to the Course Goals of the 1st and 2nd semester 2. Topic No. 6 How Much Do You Love Your Own? Worldmindedness scale / IC anxiety level 3. Discussion No. 6 4. Topic No. 7 How Tolerant Are You? Degree of Ethnocentrism 5. Discussion No. 7 6. Topic No. 8 What is Unique About Japan? Communication Style 7. Discussion No. 8 8. Topic No.9 How Are Countries Different? Non-verbal Communication Patterns 1 9. Discussion No. 9 10. Topic No. 10 How Are Countries Different? Non-verbal Communication Patterns 2 11. Discussion No. 10 12. Summary and Evaluation 	

03年度以降 Communicative English II a 02年度 Communicative English II 01年度以前 Conversation II	担当者	D.L.BLANKEN																							
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course uses a business setting to hone students' oral skills, listening and vocabulary. There will be text exercises and activities, and extensive student pair work and role play based on business themes and situations. All tasks are designed to be highly practical and realistic.</p> <p>Handouts will be provided by the teacher, and topics chosen by the students for speaking work. There will be pronunciation and hearing practice, occasional dictations, and considerable use of the Internet in communicating with foreign companies operating in Japan.</p> <p>Students will make regular presentations of several sorts—recaps of text contents, reports of contacts with firms and offices, sample role play "interviews," etc. Good attendance is obligatory, and the instructor assumes proficient English and willingness to speak it from the outset.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Grade: attendance, group and pairwork, role playing and quizzes, each worth 25%.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Communicating in the Business World: Pustulka & Baxter, Metropolitan Publications</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>Course introduction & expectations: procedures and rules. Advice on dictionary and Internet use.</td></tr> <tr><td>2</td><td>Textbook, Unit 1: Job interview Explanation & drills; pair work and role play</td></tr> <tr><td>3</td><td>Textbook, Unit 2: Being hired Explanation & drills; pair work and role play</td></tr> <tr><td>4</td><td>Consolidation work 1: exercises, preparation and student presentation practice</td></tr> <tr><td>5</td><td>Textbook: Unit 3: Naming things Explanation & drills; pair work and role play</td></tr> <tr><td>6</td><td>Textbook: Unit 4: Explaining how to do things Explanation & drills; pair work and role play</td></tr> <tr><td>7</td><td>Consolidation work 2: exercises, preparation and student presentations using material in Unit 5</td></tr> <tr><td>8</td><td>Textbook: Unit 6: Numbers: quantities & prices Explanation & drills; pair work and role play</td></tr> <tr><td>9</td><td>Textbook: Unit 7: Numbers: cardinals & ordinals Explanation & drills; pair work and role play</td></tr> <tr><td>10</td><td>Consolidation work 3: exercises, preparation and student presentation practice</td></tr> <tr><td>11</td><td>Preparation for two brief presentations, or one pair work + one role play speaking the following week</td></tr> <tr><td>12</td><td>Final pair work, role play and presentation speaking tests: Students will speak solo, or in pairs/groups</td></tr> </table>	1	Course introduction & expectations: procedures and rules. Advice on dictionary and Internet use.	2	Textbook, Unit 1: Job interview Explanation & drills; pair work and role play	3	Textbook, Unit 2: Being hired Explanation & drills; pair work and role play	4	Consolidation work 1: exercises, preparation and student presentation practice	5	Textbook: Unit 3: Naming things Explanation & drills; pair work and role play	6	Textbook: Unit 4: Explaining how to do things Explanation & drills; pair work and role play	7	Consolidation work 2: exercises, preparation and student presentations using material in Unit 5	8	Textbook: Unit 6: Numbers: quantities & prices Explanation & drills; pair work and role play	9	Textbook: Unit 7: Numbers: cardinals & ordinals Explanation & drills; pair work and role play	10	Consolidation work 3: exercises, preparation and student presentation practice	11	Preparation for two brief presentations, or one pair work + one role play speaking the following week	12	Final pair work, role play and presentation speaking tests: Students will speak solo, or in pairs/groups
1	Course introduction & expectations: procedures and rules. Advice on dictionary and Internet use.																								
2	Textbook, Unit 1: Job interview Explanation & drills; pair work and role play																								
3	Textbook, Unit 2: Being hired Explanation & drills; pair work and role play																								
4	Consolidation work 1: exercises, preparation and student presentation practice																								
5	Textbook: Unit 3: Naming things Explanation & drills; pair work and role play																								
6	Textbook: Unit 4: Explaining how to do things Explanation & drills; pair work and role play																								
7	Consolidation work 2: exercises, preparation and student presentations using material in Unit 5																								
8	Textbook: Unit 6: Numbers: quantities & prices Explanation & drills; pair work and role play																								
9	Textbook: Unit 7: Numbers: cardinals & ordinals Explanation & drills; pair work and role play																								
10	Consolidation work 3: exercises, preparation and student presentation practice																								
11	Preparation for two brief presentations, or one pair work + one role play speaking the following week																								
12	Final pair work, role play and presentation speaking tests: Students will speak solo, or in pairs/groups																								

03年度以降 Communicative English II b 02年度 Communicative English II 01年度以前 Conversation II	担当者	D.L.BLANKEN																							
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>Textbook: Unit 8: Going out for lunch Explanation & drills; pair work and role play</td></tr> <tr><td>2</td><td>Textbook: Unit 9: Apologies Explanation & drills; pair work and role play</td></tr> <tr><td>3</td><td>Consolidation work 4: exercises, preparation and student presentation practice</td></tr> <tr><td>4</td><td>Consolidation work 5: exercises, preparation and student presentations using material in Unit 10</td></tr> <tr><td>5</td><td>Textbook: Unit 11: Phone messages (A) Explanation & drills, pair work and role play</td></tr> <tr><td>6</td><td>Textbook: Unit 12: Phone messages (B) Explanation & drills, pair work and role play</td></tr> <tr><td>7</td><td>Consolidation work 6: making calls to actual offices and companies to receive messages</td></tr> <tr><td>8</td><td>Textbook: Units 13 and 14: Letters and graphs Explanation and drills, teacher's comments</td></tr> <tr><td>9</td><td>Practical work 1: Students will use the Internet to download business letters or statistics</td></tr> <tr><td>10</td><td>Practical work 2: Students will make a presentation of their downloaded materials in Practical work 1</td></tr> <tr><td>11</td><td>Preparation for two brief presentations, or one pair work + one role play situation the following week</td></tr> <tr><td>12</td><td>Final pair work, role play and presentation speaking tests: Students will speak solo, or in pairs/groups</td></tr> </table>	1	Textbook: Unit 8: Going out for lunch Explanation & drills; pair work and role play	2	Textbook: Unit 9: Apologies Explanation & drills; pair work and role play	3	Consolidation work 4: exercises, preparation and student presentation practice	4	Consolidation work 5: exercises, preparation and student presentations using material in Unit 10	5	Textbook: Unit 11: Phone messages (A) Explanation & drills, pair work and role play	6	Textbook: Unit 12: Phone messages (B) Explanation & drills, pair work and role play	7	Consolidation work 6: making calls to actual offices and companies to receive messages	8	Textbook: Units 13 and 14: Letters and graphs Explanation and drills, teacher's comments	9	Practical work 1: Students will use the Internet to download business letters or statistics	10	Practical work 2: Students will make a presentation of their downloaded materials in Practical work 1	11	Preparation for two brief presentations, or one pair work + one role play situation the following week	12	Final pair work, role play and presentation speaking tests: Students will speak solo, or in pairs/groups
1	Textbook: Unit 8: Going out for lunch Explanation & drills; pair work and role play																								
2	Textbook: Unit 9: Apologies Explanation & drills; pair work and role play																								
3	Consolidation work 4: exercises, preparation and student presentation practice																								
4	Consolidation work 5: exercises, preparation and student presentations using material in Unit 10																								
5	Textbook: Unit 11: Phone messages (A) Explanation & drills, pair work and role play																								
6	Textbook: Unit 12: Phone messages (B) Explanation & drills, pair work and role play																								
7	Consolidation work 6: making calls to actual offices and companies to receive messages																								
8	Textbook: Units 13 and 14: Letters and graphs Explanation and drills, teacher's comments																								
9	Practical work 1: Students will use the Internet to download business letters or statistics																								
10	Practical work 2: Students will make a presentation of their downloaded materials in Practical work 1																								
11	Preparation for two brief presentations, or one pair work + one role play situation the following week																								
12	Final pair work, role play and presentation speaking tests: Students will speak solo, or in pairs/groups																								

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English II a Communicative English II Conversation II	担当者	D.McCann
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>The purpose of this course will be to enable higher-level students to put the skills they have already acquired to practical use. At the outset of the course, students will be asked to provide a personal introduction card with a favourite photograph of themselves on one side and name and information about themselves on the other. These cards will be used extensively throughout the course, both interactively and individually, so students should put some care and effort into their preparation.</p> <p>A variety of authentic materials will be used, including: single-frame and strip cartoons; music and song lyrics; newspapers and magazines; radio broadcasts and (where appropriate) video. Special emphasis will be placed on using and understanding stress, rhythm and intonation patterns of everyday spoken English, and on the relationship between the spoken and written forms of the language.</p> <p>Students will be helped to develop an awareness of appropriateness and register, and grammar instruction will be provided as and when required for communicative ends.</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.Orientation and introductions 2. Written and spoken English (a) 3. Written and spoken English (b) 4.The rhythms of English (a) 5.The rhythms of English (b) 6.Music and Song (a) 7.Music and Song (b) 8.Books, poetry and literature (a) 9.Books, poetry and literature (b) 10.Cinema and entertainment (a) 11.Cinema and entertainment (b) 12.Test 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>Assessment will be based on attendance, class participation, and end-of-term tests.</p>			
<p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>Authentic texts. Students will be encouraged to provide and prepare some of their own materials for classroom activities.</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English II b Communicative English II Conversation II	担当者	D.McCann
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>The purpose of this course will be to enable higher-level students to put the skills they have already acquired to practical use. At the outset of the course, students will be asked to provide a personal introduction card with a favourite photograph of themselves on one side and name and information about themselves on the other. These cards will be used extensively throughout the course, both interactively and individually, so students should put some care and effort into their preparation.</p> <p>A variety of authentic materials will be used, including: single-frame and strip cartoons; music and song lyrics; newspapers and magazines; radio broadcasts and (where appropriate) video. Special emphasis will be placed on using and understanding stress, rhythm and intonation patterns of everyday spoken English, and on the relationship between the spoken and written forms of the language.</p> <p>Students will be helped to develop an awareness of appropriateness and register, and grammar instruction will be provided as and when required for communicative ends.</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.Newspapers, magazines and comics (a) 2. Newspapers, magazines and comics (b) 3.Descriptions (a) 4. Descriptions (b) 5.Storytelling (a) 6. Storytelling (b) 7. Letter-writing and e-mail (a) 8. Letter-writing and e-mail (b) 9.Discussion and presentation (a) 10. Discussion and presentation (b) 11.Consolidation and review 12.Test 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>Assessment will be based on attendance, class participation, and end-of-term tests.</p>			
<p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>Authentic texts. Students will be encouraged to provide and prepare some of their own materials for classroom activities.</p>			

03 年度以降 Communicative English II a 02 年度 Communicative English II 01 年度以前 Conversation II	担当者	J.J.WALDMAN
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations. Goals that will be included in this course will be pronunciation, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>No text will be used, but students will be expected to prepare and generate topics for discussion.</p>	<p>◆授業計画</p> <p>Weeks 1-3 Classes will focus on introductions, explanations of the class, teacher's expectations of students, and topics for discussion.</p> <p>Weeks 4-6 Topics for discussion will focus on life styles of students and their parents and dating and marriage customs in Japan and the United States.</p> <p>Weeks 7-9 These sessions will revolve around travel experiences to broaden students' cultural understanding. Also included will be health topics affecting university students.</p> <p>Weeks 10-12 The Confucian and Socratic methods of education will be discussed in these classes, ending with a review of previous work for a mid-term examination.</p>	

03 年度以降 Communicative English II b 02 年度 Communicative English II 01 年度以前 Conversation II	担当者	J.J.WALDMAN
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations. Goals that will be included in this course will be pronunciation, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>No text will be used, but students will be expected to prepare and generate topics for discussion.</p>	<p>◆授業計画</p> <p>Weeks 13-15 The theme of education will continue with a comparison of high school and university life.</p> <p>Weeks 16-18 In these classes students will learn to read and understand English newspapers to further English proficiency.</p> <p>Weeks 19-21 Students will have to interview non-Japanese people living in Japan for the purpose of discovering what cultural problems they have. Further discussions will revolve around these problems and how to address them to enhance cultural understanding.</p> <p>Weeks 22-24 Students will give final presentations explaining aspects of Japanese culture. On the last day there will be a final exam.</p>	

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English II a Communicative English II Conversation II	担当者	K.MEEHAN
◆講義目的、講義概要 <p>The aim of this course is to build on students existing English conversation skills, and further develop them through discussion of current topics and major domestic and international issues.</p> <p>Students will be expected to speak English during class both in class-wide and small-group discussions. They will be expected to engage in all activities, express their own opinions, and communicate with other members of the class. Participation is the most important criteria for this class.</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. Lingua Franca 2. Media 3. Media 4. Food 5. Politics 6. International Relations 7. Organized Crime 8. Beliefs 9. Japan 10. Health 11. Travel <p>Mid -Term Exam</p>	
◆ 評価方法 <p>Students will be graded on attendance (60%), class participation (20%), and tests (20%).</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>Students will be provided with prints for each class. There is no assigned textbook,</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English II b Communicative English II Conversation II	担当者	K.MEEHAN
◆講義目的、講義概要 <p>The aim of this course is to build on students existing English conversation skills, and further develop them through discussion of current topics and major domestic and international issues.</p> <p>Students will be expected to speak English during class both in class-wide and small-group discussions. They will be expected to engage in all activities, express their own opinions, and Communicate with other members of the class. Participation is the most important criteria for this class.</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. Advertising 2. Addictions 3. Marriage 4. Developing World 5. 20th Century 6. 21st Century 7. Art 8. Education 9. Private and public Sectors 10. Terrorism 11. Careers <p>Final Exam</p>	
◆ 評価方法 <p>Students will be graded on attendance (60%), class participation (20%), Tests (20%).</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>Students will provide with prints for each class. There is no assigned textbook.</p>			

03年度以降 Communicative English II a 02年度 Communicative English II 01年度以前 Conversation II	担当者	M.DEL VECCHIO																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The aim of this course is to further develop communication skills through conversation, discussion and short presentations. Language skills will be detailed and practiced so that students may successfully participate in pair and group discussions as confidence improves. The class level is expected to be intermediate.</p> <p>Content will focus on current social and cross-cultural issues. Students may be expected to do a little research outside of the classroom forum and be encouraged to share their ideas and research.</p> <p>It is hoped that students will enjoy taking an active role in this class.</p> <p>◆評価方法</p> <p>The final grade will combine the following: attendance, class performance and short presentations.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Materials will be supplied by the teacher.</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>Introduction to the course</td></tr> <tr><td>2</td><td>Interviewing</td></tr> <tr><td>3</td><td>Learning styles</td></tr> <tr><td>4</td><td>Learning styles continued</td></tr> <tr><td>5</td><td>Working cooperatively – making something</td></tr> <tr><td>6</td><td>Love dilemma</td></tr> <tr><td>7</td><td>Love dilemma</td></tr> <tr><td>8</td><td>News item</td></tr> <tr><td>9</td><td>Describing visual art</td></tr> <tr><td>10</td><td>Advertising</td></tr> <tr><td>11</td><td>Advertising – case study</td></tr> <tr><td>12</td><td>Free discussion</td></tr> </table>		1	Introduction to the course	2	Interviewing	3	Learning styles	4	Learning styles continued	5	Working cooperatively – making something	6	Love dilemma	7	Love dilemma	8	News item	9	Describing visual art	10	Advertising	11	Advertising – case study	12	Free discussion
1	Introduction to the course																									
2	Interviewing																									
3	Learning styles																									
4	Learning styles continued																									
5	Working cooperatively – making something																									
6	Love dilemma																									
7	Love dilemma																									
8	News item																									
9	Describing visual art																									
10	Advertising																									
11	Advertising – case study																									
12	Free discussion																									

03年度以降 Communicative English II b 02年度 Communicative English II 01年度以前 Conversation II	担当者	M.DEL VECCHIO																								
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>AS ABOVE</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>Discussion</td></tr> <tr><td>2</td><td>Ethical behavior</td></tr> <tr><td>3</td><td>Dilemma time</td></tr> <tr><td>4</td><td>Cosmetic surgery</td></tr> <tr><td>5</td><td>Stereotyping</td></tr> <tr><td>6</td><td>Gender roles</td></tr> <tr><td>7</td><td>Marriage</td></tr> <tr><td>8</td><td>News item</td></tr> <tr><td>9</td><td>Film</td></tr> <tr><td>10</td><td>Education</td></tr> <tr><td>11</td><td>AIDS</td></tr> <tr><td>12</td><td>AIDS</td></tr> </table>		1	Discussion	2	Ethical behavior	3	Dilemma time	4	Cosmetic surgery	5	Stereotyping	6	Gender roles	7	Marriage	8	News item	9	Film	10	Education	11	AIDS	12	AIDS
1	Discussion																									
2	Ethical behavior																									
3	Dilemma time																									
4	Cosmetic surgery																									
5	Stereotyping																									
6	Gender roles																									
7	Marriage																									
8	News item																									
9	Film																									
10	Education																									
11	AIDS																									
12	AIDS																									

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English II a Communicative English II Conversation II	担当者	N.HAMILTON
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>Course Description: This course is designed for students who have already gained a basic level of competency in English and are now at the intermediate level. The goal is to further develop their capabilities in a friendly and enjoyable atmosphere. During the course we will focus on listening and speaking skills and also on learning new vocabulary. We will use various materials in order to cover a wide range of topics and events from the news of the day. We will seek to further develop the four basic skills in order to enhance meaningful communication in English.</p> <p>Necessary items for this class: A notebook, a pen/pencil and a dictionary. A positive attitude. A good sense of humour.</p> <p>Important Rules: NO mobile phones allowed in the class. These must be switched OFF and placed out of sight for the duration of the class. Students who arrive very late will be given an absent mark. Two late marks will also equal one absent mark.</p>		<p>During the year we will cover a wide range of topics, chosen from the textbook and from other materials which will be provided.</p>	
◆ 評価方法			
<p>Students will be evaluated on the basis of attendance, class participation assignments and reports. Attendance is vital for success. More than four absences will result in a lower grade, more than that will result in failure of the course.</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>Details will be announced at the beginning of the year.</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English II b Communicative English II Conversation II	担当者	N.HAMILTON
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>As above</p>			
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English II a Communicative English II Conversation II	担当者	P. Apps
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> To improve the students' knowledge of current English. To improve the students' critical thinking skills To improve the students' reading and speaking skills <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course)</p>		<p>As it is a higher-level class students will decide the sequence of the topics they would like to study.</p>	
◆ 評価方法			
1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test			
◆テキスト、参考文献			
"Impact Values" by Richard Day, Junko Yamanaka, Joseph Schauls Published by Longman			

03年度以降 02年度 01年度以前	Communicative English II b Communicative English II Conversation II	担当者	P. Apps
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> To improve the students' knowledge of current English. To improve the students' critical thinking skills To improve the students' reading and speaking skills <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course)</p>		<p>As it is a higher-level class students will decide the sequence of the topics they would like to study.</p>	
◆ 評価方法			
1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test			
◆テキスト、参考文献			
"Impact Values" by Richard Day, Junko Yamanaka, Joseph Schauls Published by Longman			

03年度以降 Communicative English II a 02年度 Communicative English II 01年度以前 Conversation II	担当者	P.McEVILLY
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The purpose of this course is to develop students discussion and debate skills by examining social issues in the United States of America. I hope that students can get greater insight into American values and culture. The textbook that we will use, <u>Consider the Issues</u>, uses radio broadcasts from National Public Radio's "All Things Considered" and "Morning Edition."</p> <p>◆評価方法 Grading will be based on classroom participation and homework = 50% Mid-term and Final examinations = 50%</p> <p>◆テキスト、参考文献 <u>Consider the Issues</u> by Carol Numrich Longman</p>	<p>◆授業計画</p> <p>Week 1 - Unit 1 - Give Me My Place to Smoke 2 - " 3 - Unit 2 - A Wine That's Raised Some 4 - Stink 5 - Unit 3 - Drive-In Shopping 6 - " 7 - Unit 4 - Is it a Sculpture, Or 8 - Is it Food? 9 - Unit 5 - Going Violence 10 - " 11 - Review 12 - Mid-term Examination.</p> <p>1 - Unit 6 - Create Controversy to 2 - Generate Publicity 3 - Unit 7 - Women Caught in the 4 - Middle of Two Generations 5 - Unit 8 - The Mail-Order Bride 6 - " 7 - Unit 9 - Facing The Wrong End 8 - of a Pistol 9 - Unit 10 - What Constitutes A 10 - Family 11 - Review 12 - Final Examination</p>	

03年度以降 Communicative English II b 02年度 Communicative English II 01年度以前 Conversation II	担当者	P.McEVILLY
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Communicative English II a Communicative English II Conversation II	担当者	R. J. Burrows
◆講義目的、講義概要 This is a context based course which seeks to: a) offer students an insight into political changes during the 20 th century in two of Japan's most important regional neighbours; India & China b) expose students to new & unfamiliar language & concepts in English c) broaden students' communicative abilities via analysis and discussion of a variety of historical media In addition to viewing & discussing the film 'Gandhi', students will be required to read related written material on a weekly basis as well as make a 5-10 minute presentation during the year Students are warned that some film scenes contain violence		◆授業計画 'Gandhi: From Empire to Independence in India' 1. Introductory Class 2. Background & Sample Presentation 3. 18 th century India 4. Gandhi in South Africa 5. Gandhi Returns to India 6. The Jalian Wala Bagh Massacre 7. Birth of the Independence Movement 8. The Salt Satyagraha 9. Negotiations in London 10. The Partition of India 11. Review 12. Exam	
◆評価方法 20 % Attendance & Punctuality, 20% In-Class Work, 20% Presentation, 40% End of Semester Exams			
◆テキスト、参考文献 A file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Communicative English II b Communicative English II Conversation II	担当者	R. J. Burrows
◆講義目的、講義概要 This is a context based course which seeks to: a) offer students an insight into political changed during the 20 th century in two of Japan's most important regional neighbours; China & India b) expose students to new & unfamiliar language & concepts in English c) broaden students' communicative abilities via analysis and discussion of a variety of historical media In addition to viewing & discussing the film 'The Last Emperor', students will be required to read related material on a weekly basis as well as make a 5-10 minute presentation during the year Students are warned that some films scenes contain violence.		◆授業計画 'China: From Emperor to Mao' 1. Review & Preview 2. China at the Turn of the Century 3. The Forbidden Palace 4. Foreigners Influence in Early 20 th Century China 5. Chang Kai-Shek 6. The Era of the Warlords 7. Sino-Japanese Relations 8. The Japanese Invasion 9. Tianjin & Manchuko 10. Mao & the Cultural Revolution 11. Review 12. Exam	
◆評価方法 20% Attendance & Punctuality, 20% In-Class Work, 20% Presentation, 40 % End of Semester Exams			
◆テキスト、参考文献 A file/folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Communicative English IIa Communicative English II Conversation II	担当者	S.J.CHRESTIE
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The purpose of this class is to enable students to communicate effectively about their field of study. Students will utilize English to communicate their ideas about the class's content-based material which will be presented in a multimedia based format. Students will be expected to show critical thinking skills in effectively communicating their ideas in written, discussion and presentation style to classmates and the instructor</p> <p>◆評価方法</p> <p>Class participation on a daily basis is of primary importance. Class assignments, midterm exam.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Text to be decided, handouts will be distributed in class.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions 2. Critical-thinking and effective communication 3. Media Basics-understanding the medium 4. Project 1 <ul style="list-style-type: none"> Presentation of materials Group discussions Critical Thinking and Conclusions Presentation of findings 5. Project 2 <ul style="list-style-type: none"> Presentation of materials Group discussions Critical Thinking and Conclusions Presentation of findings <p>Midterm Exam and Fall Term Preview</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Communicative English IIb Communicative English II Conversation II	担当者	S.J.CHRESTIE
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The purpose of this class is to enable students to communicate effectively about their field of study. Students will utilize English to communicate their ideas about the class's content-based material which will be presented in a multimedia based format. Students will be expected to show critical thinking skills in effectively communicating their ideas in written, discussion and presentation style to classmates and the instructor.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Class participation on a daily basis is of primary importance, with Class assignments, and a final presentation.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Text to be decided, handouts will be distributed in class.</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Introduction to Fall Term</p> <p>Critical-thinking and presenting research findings</p> <p>Presentation Basics-understanding the software and personal skills</p> <p>Project 3 <ul style="list-style-type: none"> Presentation of materials Group discussions Critical Thinking and Conclusions Presentation of findings </p> <p>Project 4 <ul style="list-style-type: none"> Presentation of materials Group discussions Critical Thinking and Conclusions Presentation of findings </p> <p>Final Presentations to class</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Discussion a Discussion Discussion		担当者	N.H. Jost
◆講義目的、講義概要		◆授業計画		
<p>This class is for those students who have an advanced proficiency in spoken English. The class aims to provide a forum for students to discuss in a logical and reasoned manner the many issues that face us today. Topics for discussion will be student generated and will hopefully look at issues of concern and interest--topics related to global issues, national issues, environmental issues, cultural topics, and other related topics. It also aims to help students further develop their speaking and listening skills, and to aims to helps student understand what a discussion is. Thus, students considering this class should have 1) an advanced proficiency in English particularly in speaking and listening; 2) a deep interest in discussing topics are that both challenging and pertinent to the world in general; and 3) a keen interest in the ideas and opinions of others. Topics for discussion will be introduced a week in advance of class and students are required to prepare in advance.</p>		<p>Week 1: Class Introduction; Self Introductions</p> <p>Week 2: Discussion # 1</p> <p>Week 3: Discussion # 2</p> <p>Week 4: Discussion # 3</p> <p>Week 5: Discussion # 4</p> <p>Week 6: Discussion # 5</p> <p>Week 7: Discussion # 6</p> <p>Week 8: Discussion # 7</p> <p>Week 9: Discussion # 8</p> <p>Week 10: Discussion # 9</p> <p>Week 11: Discussion # 10</p> <p>Week 12: Final Discussion for Evaluation</p>		
◆ 評価方法				
Grades will be based on classroom participation and student presentations. And Attendance.				
◆テキスト、参考文献				
No text is required for this class				

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Discussion b Discussion Discussion		担当者	N.H. Jost
◆講義目的、講義概要		◆授業計画		
<p>Same as above.</p> <p>Note well: This class has an English only policy--only English will be used in class.</p> <p>This class requires that all student have a vocabulary notebook.</p> <p>This class will have a live video conference session with students from the Honors program on Japanese studies from Illinois State University. Students jointly will decide on a topic for discussion and then will meet on a live broadcast via internet.</p>		<p>Week 1: Introduction to second semester.</p> <p>Week 2: Discussion # 1</p> <p>Week 3: Discussion # 2</p> <p>Week 4: Discussion # 3</p> <p>Week 5: Discussion # 4</p> <p>Week 6: Video Conferencing Project with Illinois State Univesity.</p> <p>Week 7: Discussion # 6</p> <p>Week 8: Discussion # 7</p> <p>Week 9: Discussion # 8</p> <p>Week 10: Discussion # 9</p> <p>Week 11: Discussion # 10</p> <p>Week 12: Final Discussion for Evaluation</p>		
◆ 評価方法				
Grades will be based on classroom participation and student presentations. And Attendance.				
◆テキスト、参考文献				
No text is required for this class				

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Discussion a Discussion Discussion	担当者	R.JONES
<p>◆講義目的、講義概要 Goal & Summary This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be upper-intermediate. Interesting topics will be covered in the lessons and there will be a lot of fun. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best!</p> <p>◆評価方法 Evaluation Method Class, homework, vocabulary tests and speeches = 50% Mid-term speaking examination = 20% End of term speaking examination = 20% Teacher points = 10% (Based on keeping good attendance, punctuality and effort in class). Please note: i) It is very important to keep perfect attendance and to be punctual! The classes will always start on time! ii) There is no examination in the official exam period. Assessments will be ongoing, and integrated into the lessons.</p>		<p>◆ テキスト、参考文献 Textbook/ Reference No text book will be used in this lesson, but the students may be required to use the internet from time to time. The students will receive a lot of printed material from the teacher; therefore, the students should buy an A4 file that contains many clear pockets in order to keep the handouts neat and tidy.</p> <p>◆ 授業計画 Course Schedule First Semester – each topic will take approximately 2/3 weeks to complete Topic 1 Getting to know the teacher and the students. Setting the agenda for the class. Topic 2 Why study English? What are your goals and ambitions? Why is English considered the international language? Topic 3 Terrorism. What is it. Why does it happen? What terrorist acts have occurred in the last few years? Is Japan safer from terrorism now because of the war on Iraq? Topic 4 Computers! How useful are computers? Do we rely on them too much? How about the internet; friend or foe? Topic 5 Parenting and kids. What makes a good parent? What are adult children? What is the situation in the UK compared to Japan?</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Discussion b Discussion Discussion	担当者	R.JONES
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p>		<p>◆ 授業計画 Course Schedule</p> <p>Second semester: Topic 1 Welcome back students. Discussion of the coming semester. Topic 2 Gay rights issues. Discussion and debate on attitudes in society regarding gay people. Topic 3 Health issues. Eating, smoking and drinking. How healthy is the society we live in? Topic 4 Euthanasia; does a person have the right to die? What are the issues? Topic 5 Should the dead help the living? Organ transplants from brain dead people. What are the issues?</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Discussion a Discussion Discussion	担当者	W. J. Benfield
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course is designed to introduce students to a wide variety of British and American poetry. Students often correctly consider poetry a hard subject, and it is true that poetry differs from prose in its use of unusual syntax, specialized 'poetic' vocabulary and unusual combinations of words.</p> <p>However, in this course we will be looking mainly at British and American poetry from the 20th century written in a plainer style of English. We will look at the poems from two points of view. Firstly, we will look at the meaning that the poet is trying to express. Secondly, we will look at the way the poet has used the techniques of poetry - rhythm, rhyme, form, choice of words, etc. - to help express that meaning. The end result of the course should be an increased enjoyment of poetry and a greater awareness of how English can be used creatively.</p> <p>We will look at the poems of W. H. Auden, D. H. Lawrence, Sylvia Plath, Ted Hughes, Theodore Roethke, Richard Wilbur and many others.</p> <p>The first part of the course will be a little technical, concentrating on learning the techniques of poetry. As students become more familiar with this, the amount of time spent discussing the poetry will increase.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Report at end of each semester; attendance; active participation in class.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Photocopied poems provided by teacher</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course outline. 2. What is poetry? A look at some of the main elements of poetry. 3. Poem and discussion 4. Poem and discussion 5. Poem and discussion 6. Poem and discussion 7. Poem and discussion 8. Poem and discussion 9. Poem and discussion 10. Poem and discussion 11. Poem and discussion 12. Review of term's work 	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Discussion b Discussion Discussion	担当者	W. J. Benfield
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course is designed to introduce students to a wide variety of British and American poetry. Students often correctly consider poetry a hard subject, and it is true that poetry differs from prose in its use of unusual syntax, specialized 'poetic' vocabulary and unusual combinations of words.</p> <p>However, in this course we will be looking mainly at British and American poetry from the 20th century written in a plainer style of English. We will look at the poems from two points of view. Firstly, we will look at the meaning that the poet is trying to express. Secondly, we will look at the way the poet has used the techniques of poetry - rhythm, rhyme, form, choice of words, etc. - to help express that meaning. The end result of the course should be an increased enjoyment of poetry and a greater awareness of how English can be used creatively.</p> <p>We will look at the poems of W. H. Auden, D. H. Lawrence, Sylvia Plath, Ted Hughes, Theodore Roethke, Richard Wilbur and many others.</p> <p>The first part of the course will be a little technical, concentrating on learning the techniques of poetry. As students become more familiar with this, the amount of time spent discussing the poetry will increase.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Report at end of each semester; attendance; active participation in class.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Photocopied poems provided by teacher</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Poem and discussion. 2. Poem and discussion 3. Poem and discussion 4. Poem and discussion 5. Poem and discussion 6. Poem and discussion 7. Poem and discussion 8. Poem and discussion 9. Poem and discussion 10. Poem and discussion 11. Poem and discussion 12. Review of term's work 	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Public Speaking Ia Public Speaking I スピーチ	担当者	A.R.FALVO
<input type="checkbox"/> 講義目的、講義概要 In the class we will focus on three messages in Public speaking. The Visual message, the Physical message and the Story Message. We will video students with a camera and evaluate their performance in class. Students will be expected to use Power Point in making presentations by the second term <input type="checkbox"/> 評価方法 Weekly participation in speeches and the email receipt of student speeches. <input type="checkbox"/> テキスト、参考文献 To be decided		<input type="checkbox"/> 授業計画 Introduction: The Physical Message Posture and Eye Contact Informative Speech Gestures Layout Speech Voice Infection Demonstration Introduction to the Story Message The Introduction Persuasive Speech The Body Transition and sequencers	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Public Speaking Ib Public Speaking I スピーチ	担当者	A.R.FALVO
<input type="checkbox"/> 講義目的、講義概要 In the class we will focus on three messages in Public speaking. The Visual message, the Physical message and the Story Message. We will video students with a camera and evaluate their performance in class. Students will be expected to use Power Point in making presentations by the second term <input type="checkbox"/> 評価方法 Weekly participation in speeches and the email receipt of students speeches. <input type="checkbox"/> テキスト、参考文献 To be decided		<input type="checkbox"/> 授業計画 Review of Term One Persuasive Speech: The Body The Conclusion Persuasive Speech: The Conclusion Introduction to the Visual Message Making Visual Aids Explaining Visual Aids Full Presentation of the Persuasive Speech with Visual Aids. Power Point Introduction Video Taping Part One Video Taping Part Two Critique of Taping	

03年度以降 Public Speaking I a 02年度 Public Speaking I 01年度以前 スピーチ	担当者	E.CARNEY
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標</p> <p>This class aims to give students a chance to prepare and deliver speeches with maximum effect. The use of language, the art of effective construction, and the use of all forms of communication when delivering a speech will be covered.</p> <p>講義概要</p> <p>Students will work both inside and outside of class to prepare and hone their speeches ready for delivery to their group or to the class. We want to cover a wide area of aspects related to good speech making and class participation is a must.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Grading by end of term exam</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Texts to be announced</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions and explanations. 2. What should a speech be? 3. Some points on aims and relative ideas. 4. The confidence factor, 5. The importance of the small points (like pronunciation and intonation) that tend to get taken too much for granted. 6. Who are you talking to? 7. The power of addressing the individual in the crowd. 8. Negative gestures and habits. 9. Preparing a 'good' speech, 10. Delivery 11. Feedback and correction. 12. First seminar test 	

03年度以降 Public Speaking I b 02年度 Public Speaking I 01年度以前 スピーチ	担当者	E.CARNEY
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p><i>As above</i></p> <p>◆評価方法</p> <p><i>As above</i></p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>As above</i></p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. You, the student, say something. 14. Loving your subject. 15. Add libbing to bridge the gaps. 16. Humour and other weapons of mass communication. 17. Say it again, Sam. 18. How to bore everybody. 19. Speaking to machines, speaking to people. 20. Stressing your good technique. 21. Including the audience. 22. Revisions and assessment. 23. Tell it like it is. 24. Final 	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Public Speaking I a Public Speaking I スピーチ		担当者	N.H. Jost
◆講義目的、講義概要		◆授業計画		
<p>This class aims to help students improve their public speaking abilities particularly building confidence for public speaking, and to help students understand the processes involved in making a speech. We will look in detail at the different aspects of writing a speech--coming up with ideas; organizing the material; planning for delivery. We will also look in detail at the many aspects of delivering or giving a speech. The overall goal of this class then is for students to have a better understanding of the processes involved in speech making and greater confidence in giving speech, a skill that will last a lifetime.</p> <p>Students will be asked to give mini-speeches with their partner each week, and to give one or two extended speeches in a semester.</p>		<p>Week 1: Class Introduction; self introductions</p> <p>Week 2: The Physical Message</p> <p>Week 3: Posture and Eye Contact</p> <p>Week 4: Informative Speech</p> <p>Week 5: Gestures</p> <p>Week 6: Layout of a speech</p> <p>Week 7: Voice Inflection</p> <p>Week 8: Model Speech</p> <p>Week 9: Persuasive Speech</p> <p>Week 10: Presidential Speeches</p> <p>Week 11: Student speeches (possibly recorded)</p> <p>Week 12: Student speeches (possibly recorded)</p>		
◆ 評価方法				
Grades are based on student attendance, class performance, and evaluations.				
◆テキスト、参考文献				
Speaking of Speech, Presentation Skills for Beginners by David Harrington and Charles LeBeau MacMillian.				

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Public Speaking I b Public Speaking I スピーチ		担当者	N.H. Jost
◆講義目的、講義概要		◆授業計画		
<p>Continuation of first semester</p> <p>In this semester we will go over five main areas of speech making:</p> <p>Assess: Your speech situation (What you want to say).</p> <p>Analyze: Your audience (Who are you speaking to?).</p> <p>Research: Your Topic (Having your ideas backed up with specific research).</p> <p>Organize your speech: (Putting your ideas in reasonable and logical order).</p> <p>Delivery: (Your presentation).</p> <p>Additionally, we will use Power Point to make visual presentation and we will look some great speeches in history. This class has an English only policy--only English will be used in class, and is for those students interested in improving all aspects of communicating in English.</p>		<p>Week 1: Overview of semester</p> <p>Week 2: The visual message</p> <p>Week 3: Making visual aids</p> <p>Week 4: Explain visual aids</p> <p>Week 5: Overview of power point presentations</p> <p>Week 6: Considerations for visual aids</p> <p>Week 7: Putting it all together</p> <p>Week 8: Great Speeches in history (audio and video)</p> <p>Week 9: Great Speeches in history (audio and video)</p> <p>Week 10: Presidential speeches (audio and video)</p> <p>Week 11: Student speeches (possibly recorded)</p> <p>Week 12: Student speeches (possibly recorded)</p>		
◆ 評価方法				
Grades are based on student attendance, class performance, and evaluations.				
◆テキスト、参考文献				
Speaking of Speech, Presentation Skills for Beginners by David Harrington and Charles LeBeau MacMillian				

03年度以降 02年度 01年度以前	Public Speaking II a Public Speaking II スピーチ	担当者	T. Murphey
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>This course's goal is to allow students to be effective in and enjoy giving public speeches in English (and of course the skills can be used in any language). You will be VIDEO RECORDED giving short presentations every week and take home a copy to watch and analyze. We can progress from familiar topics and to more complex ones, from shorter (just a few minutes) to longer presentations, from telling stories to more complex types of teaching and persuading.</p> <p>We will also work through a very interesting small textbook and look at how we might better organize our presentations. We will also analyze other people's speeches and presentation skills.</p> <p>Work will be negotiated with students to make it interesting and challenging. Often students will be able to decide their own speech topics.</p>		<p>WEEKS</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Video 1 A story of a friend/family 3. Video 2 A story of myself 4. Video 3 Mistake stories 5. Video 4 Important message 6. Video 5 Selling a product 7. Video 6 Asking for a change in society 8. Video 7 Advice to Your High School 9. Video 8 Something You Love to Do 10. Video 9 Topic to be decided 11. Video 10 Topic to be decided 12. Video 11 My Progress This Semester <p>Because I adjust to student feedback, the above schedule is approximate. Students will read a chapter in the text each week. You also have the opportunity to suggest topics.</p>	
<p><i>Evaluation:</i> Students will be evaluated each week from their participation and action logs. A paper at the end of each semester and an interview with the teacher will also support your grade. 1/3 absent or missed work = automatic "F" No final exam.</p>		<p><i>Text:</i> <i>How to Make Presentations that Teach and Transform.</i> By Garmston & Willman ASCD (to be purchase from the teacher in the first class)</p>	

03年度以降 02年度 01年度以前	Public Speaking II b Public Speaking II スピーチ		T. Murphey
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>We will be continuing with many of the same things as above. However this semester, more emphasis will be placed on pair and small group presentations so we can learn to present effectively together in teams.</p>		<p>September (Fall Semester)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Video 1 Summer vacation 2. Video 2 Jobs 3. Video 3 Collaborative Presentations. 4. Video 4 Being Someone Else 5. Video 5 Business Presentation 6. Video 6 Topics to be determined 7. Video 7 Topics to be determined 8. Video Break 9. Video 8 Class Reunion 10. Video 9 Random Acts of Kindness 11. Video 10 Review 12. Video 11 My Progress This semester <p>Because I adjust to student feedback, the above schedule is approximate. Students will read a chapter in the text each week. You also have the opportunity to suggest topics.</p>	
<p>評価方法 SAME EVALUATION SYSTEM AS ABOVE A new text will be considered by the class, near the end of the first semester.</p>			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Debate I a Debate I ディベート	担当者	N.H. Jost
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This class is designed with three basic goals in mind: 1) to help students understand the basic principles of debate--how debates are organized, what the rules of debate are; 2) to help students develop their abilities to debate--to understand issues; to be able to articulate the issues; and, 3) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, as this is an election year in the United States, we will watch some of the presidential debates on video evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Grades are based on class participation, attendance, and final debates/final tests.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Discover Debate by M. Lubetshy, C. Lebeau, D. Harriton. Pub. Language Solutions Inc.</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Week 1: Class Introduction</p> <p>Week 2: Learning to debate. Expressing opinion</p> <p>Week 3: Developing Reasons</p> <p>Week 4: Supporting your opinion</p> <p>Week 5: Types of support and class debate</p> <p>Week 6: Organizing your opinions and class debate</p> <p>Week 7: Refutation and class debate</p> <p>Week 8: Types of refutation and class debate</p> <p>Week 9: Viewing actual debates and class debate</p> <p>Week 10: Class debates</p> <p>Week 11: Class debates</p> <p>Week 12: Class debates</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Debate I b Debate I ディベート	担当者	N.H. Jost
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Second semester is a continuation of the first semester.</p> <p>Student considering this class should keep in mind that debate is not about only winning or losing, but about understanding the different issues related to a particular topic. Debates should be fun, interesting, and most importantly intellectually rewarding.</p> <p>This class has an English only policy--only English will be used in class</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Grades are based on class participation, attendance, and final debates/final tests.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Discover Debate by M. Lubetshy, C. Lebeau, D. Harriton. Pub. Language Solutions Inc.</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Week 1: Overview of 2nd semester</p> <p>Week 2: Challenging Supports</p> <p>Week 3: Presidential Debates</p> <p>Week 4: Organizing your Refutation</p> <p>Week 5: Presidential Debates; Class debate</p> <p>Week 6: Debate formats</p> <p>Week 7: In class debate</p> <p>Week 8: In class debate</p> <p>Week 9: Presidential debates</p> <p>Week 10: In class debate</p> <p>Week 11: In class debate and final debate prep.</p> <p>Week 12: Final class debate</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Debate I a Debate I ディベート	担当者	P.M.Horness
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>This course is an introduction to the methods of debate. The main focus will be how to construct arguments. What is a good argument and how do you make a good argument will be examined and made by all students. Although there will be some Writing activities, much of the class will be devoted to speaking and listening. In addition, students will be presented with a variety of situations to see how an argument can be altered. Since most of the topics will be determined by the students, I expect the students to research the topics well and participate enthusiastically. Class participation in conjunction with attendance will be a part of the grade.</p>		<p>W1: Class introduction W2: Topic #1 discussion W3: Debate #1 and written summary W4: Topic #2 discussion W5: Debate #2 W6: Activity to promote logical thinking W7: Topic #3 discussion W8: Topic #3 debate W9: Activity to promote logical thinking W10: Topic #4 W11: Debate #4 W12: Test</p>	
◆ 評価方法			
Class attendance in conjunction with participation, written summaries and speaking			
◆テキスト、参考文献			
To be announced			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	Debate I b Debate I ディベート	担当者	P.M.Horness
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

03年度以降 02年度 01年度以前	通訳 I a 通訳 I 通訳 I	担当者	原口 友子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>高いリスニング力を持つ学生でも、最初は思うように言葉が出せず悔しそうな表情をする。英語のリスニングは英語を英語で理解するだけなので楽だが、通訳の場合、英語で理解した内容を日本語に変換する作業を瞬時に行わなければならない。その反射神経を鍛えるのが通訳 I の目標である。</p> <p>一回目の授業に必ず出席すること（時間厳守）。通訳の性質上、リスニングテストで受講者を決定する。（ちなみに昨年の倍率は2倍）1年から4年までの優秀な学生が集まり切磋琢磨する独特な雰囲気がある。家でもトレーニングしなければ授業についてこれないので、欠席には厳しい。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>毎週、教科書に沿って、単語のテスト、shadowing、メモ取り、逐次通訳などの練習をします。</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>学期末テスト（英日、日英の逐次通訳、録音する）、単語テスト、授業中の様子で評価。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『実践ゼミウイスパリング同時通訳』南雲堂</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	通訳 I b 通訳 I 通訳 I	担当者	原口 友子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期に同じ。</p>		<p>◆授業計画</p>	
<p>◆ 評価方法</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	通訳Ⅱa 通訳Ⅱ 通訳Ⅱ	担当者	原口 友子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>通訳Ⅰ受講後は、聞き取れた内容はすべて通訳できるようになる。次の段階として、リスニング力のアップと表現力の増強が必要。通訳Ⅰより教材も増え、家での勉強も増えるが、通訳ができるようになるためにはどんな学習が必要か、勉強法も知ってほしい。</p> <p>目標は、どれだけ多く聞き取れるか、どれだけ早くメモを取れるか、日本語についても英語に関しても幼稚な表現からいかに脱却できるか、などである。</p> <p>この授業では、英日のテキストとして、『VOAリスニングトレーニング』(DHC)。日英のテキストとして、『論理思考を鍛える英文ライティング』(研究社)。単語の増強に『ニュース英語 Make it!』(語学春秋社)を予定している。(決定ではないので、一回目の授業時に確認のこと)！</p>		<p>基本的には、通訳Ⅰの授業の延長と考えてもらえばよい。</p> <p>英日だけでなく日英通訳の勉強も開始する。</p>	
◆評価方法			
<p>学期末テスト(英日、日英の逐次通訳、英日の同通)、出席、授業中のテストで評価。</p>			
◆テキスト、参考文献			

03年度以降 02年度 01年度以前	通訳Ⅱb 通訳Ⅱ 通訳Ⅱ	担当者	原口 友子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>春学期に同じ。</p>			
◆評価方法			
◆テキスト、参考文献			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語ビジネス・コミュニケーション I a 英語ビジネス・コミュニケーション I ビジネス英語 I (水2履修者)	担当者	杉山 晴信
◆講義目的、講義概要 時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文(Business Correspondence)を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を習得することが狙いです。具体的には、下記テキストの前半の単元(Unit 1~10)について、各単元で扱う貿易取引段階の実務遂行手順と通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)を平易に講義します。次いで、履修者を適宜指名して、各単元のモデルレターを商用文としてふさわしく和訳させるとともに、練習問題を黒板に書かせて添削するという形で毎回の授業を行います。また、毎月1回(5月、6月、7月のそれぞれ最初の授業時)、テキストを出題範囲とする語彙力診断テスト(vocabulary check)を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。 なお、私の担当するもう1つの同一名称科目とは内容が異なりますので、注意して下さい。		◆授業計画 1 授業計画を説明し、ビジネス・コミュニケーションの意義と概念について講義します。 2 ビジネス通信文の構成要素、句読法(punctuation)、書式(style)、上書き(superscription)等の外形的な側面と文体の特徴について講義します。 3 「取引先発見」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 4 「取引の申し込み」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 5 同上 6 「信用照会」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 7 「引合い」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 8 同上 9 「引合いに対する返事」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 10 同上 11 「オファー」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 12 「カウンター・オファー」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。	
◆評価方法 出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。			
◆テキスト、参考文献 小池直己・杉山晴信『ビジネス英語の基本』(北星堂)			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語ビジネス・コミュニケーション I b 英語ビジネス・コミュニケーション I ビジネス英語 I (水2履修者)	担当者	杉山 晴信
◆講義目的、講義概要 春学期と同じですが、テキストの後半の単元(Unit 11~20)を扱います。語彙力診断テストは10月、11月および12月のそれぞれ最初の授業の冒頭に実施します。		◆授業計画 1 「注文」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 2 「注文の受諾」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 3 「注文のことわり」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 4 「成約」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 5 「信用状督促」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 6 「船積通知」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 7 「船積遅延と信用状訂正」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 8 「クレーム」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 9 同上 10 「クレーム調整」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。 11 同上 12 総復習	
◆評価方法 春学期と同じです。			
◆テキスト、参考文献 春学期と同じです。			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語ビジネス・コミュニケーション I a 英語ビジネス・コミュニケーション I ビジネス英語 I (木3履修者)	担当者	杉山 晴信
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>国際ビジネスを遂行・促進するためには、「書式の闘い」(Battle of Forms)と言われるほど多種多様な英文ビジネス文書がやりとりされます。こうした英文ビジネス文書を中心に営まれるビジネス・コミュニケーションの果たす役割は、伝達の機能(function to inform)と説得の機能(function to persuade)に大別できます。春学期は、伝達の機能において英文ビジネス文書を最大限に効果あらしめるライティング戦略について、英語学や言語学などの関連知識を活用して学際的に学びます。具体的な授業の進め方は、原則として、学習テーマごとに担当者による講義を2回行い、次いで当該テーマについて履修者がワークを1回行うという形で、計3時間分で1つのテーマを完結するものとします。</p> <p>なお、私の担当するもう1つの同一名称科目とは内容が異なりますので、注意してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業計画を説明するとともに、ビジネス・コミュニケーションの伝達の機能について詳しく講義します。 2 正確な情報伝達を妨げる意味論的な問題点として、曖昧さ(ambiguity)と不確かさ(vagueness)の危険性を摘示します。 3 英文ビジネス文書における「曖昧さ」と「不確かさ」への対処法を、実例を用いて検討します。 4 上記のテーマに関するワークを行います。 5 正確な情報伝達を妨げる意味論的な問題点として、包摂関係(hyponymy)と重複関係(overlapping)の危険性を摘示します。 6 英文ビジネス文書における「包摂関係」と「重複関係」への対処法を、実例を用いて検討します。 7 上記のテーマに関するワークを行います。 8 正確な情報伝達を妨げる意味論的な問題点として、類義語(synonyms)の使用に伴う危険性を摘示します。 9 英文ビジネス文書における類義語の適切な使い分けについて、実例を用いて検討します。 10 上記のテーマに関するワークを行います。 11 春学期の授業を総括し、ビジネス・コミュニケーションを伝達の機能からレベルアップする戦略を導出します。 12 同上 	
◆ 評価方法			
出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。			
◆テキスト、参考文献			
配布プリント			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語ビジネス・コミュニケーション I b 英語ビジネス・コミュニケーション I ビジネス英語 I (木3履修者)	担当者	杉山 晴信
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>秋学期は、説得の機能において英文ビジネス文書を最大限に効果あらしめるライティング戦略について、心理学や統計学の関連知識を活用して学際的に学びます。具体的な授業の進め方は春学期と同じです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業計画を説明するとともに、ビジネス・コミュニケーションの説得の機能について詳しく講義します。 2 効果的な説得効果をもたらす要因として、対象読者(intended audience)に応じた文章難易度(text readability)を設定することの重要性を検討します。 3 主要な文章難易度判定公式(readability formulas)を紹介し、実例を用いて文章難易度の測定法を説明します。 4 上記のテーマに関するワークを行います。 5 効果的な説得効果をもたらす要因として、読者本位の文章態度(You-Attitude)の基本原則について説明します。 6 You-Attitudeの基本原則を実現するための種々のライティング技法について検討します。 7 上記のテーマに関するワークを行います。 8 効果的な説得効果をもたらす要因として、各種のメッセージ構成法(organizational patterns)を紹介します。 9 各種のメッセージ構成法の適用事例について検討します。 10 上記のテーマに関するワークを行います。 11 秋学期の授業を総括し、ビジネス・コミュニケーションを説得の機能からレベルアップする戦略を導出します。 12 同上 	
◆ 評価方法			
春学期と同じです。			
◆テキスト、参考文献			
配布プリント			

03年度以降 英語ビジネス・コミュニケーション I a 02年度 英語ビジネス・コミュニケーション I 01年度以前 ビジネス英語 I	担当者	信 達郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語(English for business)である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英力の不足で、多忙な業務を通じて英語力を伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 (前半) 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント(英文ビジネスコラム)の3蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使つての演習が多くなる。後期では発表も予定する。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい、とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進具合などにより変更がありうる。</p> <p>◆評価方法 受講姿勢訪%、発表リサーチレポート25%。ペーパーテスト50%</p> <p>◆テキスト、参考文献 『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎編著、南雲堂フェニックス</p>	<p>◆授業計画</p> <p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進捗状況により変更することがある。</p> <p>(前半)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ビジネス英語の特徴 2 プリント①(英文ビジネスコラム) 3 国際取引概略 I 4 プリント② 5 国際取引概略 II 6 プリント③ 7 引合 (inquiry) 8 プリント④ 9 オファ・I (offer) 10 プリント⑤ 11 オファ・II 12 プリント⑥ 	

03年度以降 英語ビジネス・コミュニケーション I b 02年度 英語ビジネス・コミュニケーション I 01年度以前 ビジネス英語 I	担当者	信 達郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語(English for business)である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英力の不足で、多忙な業務を通じて英語力を伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 (後半) 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント(英文ビジネスコラム)の3蘇構成で、参加型の授業である。また、黒板を使つての演習が多くなる。後期では発表も予定する。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい、とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進具合などにより変更がありうる。</p> <p>◆評価方法 受講姿勢訪%、発表リサーチレポート25%。ペーパーテスト50%</p> <p>◆テキスト、参考文献 『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎編著、南雲堂フェニックス</p>	<p>◆授業計画</p> <p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進捗状況により変更することがある。</p> <p>(後半)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 契約 I (contract) 2 プリント⑦ 3 契約 II 4 プリント⑧ 5 クレーム I (claim) 6 プリント⑨ 7 クレーム II 8 プリント⑩ 9 企業内組織の英語 <p>授業と平行して、10月下旬からは発表 ないし リサーチペーパーの作成を予定</p>	

03年度以降 02年度 01年度以前	英語ビジネス・コミュニケーション IIa 英語ビジネス・コミュニケーション II ビジネス英語II	担当者	杉山 晴信
◆講義目的、講義概要 主に貿易取引の当事者間でやりとりされる英語のビジネス通信文を検討しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、通関士国家試験を目指す人などに有益な情報を提供できるように、貿易取引の全体にわたって万遍なく勉強することを狙いとし、春学期は、貿易取引の流れを輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、マクロ的に鳥瞰することを主眼とします。 使用するテキストは英文ですが、履修者はあらかじめ所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業はテキストの内容を補助プリントを用いて敷衍する形で進めます。		◆授業計画 1 授業計画を説明するとともに、履修上の注意事項を伝達します。 2 テキスト Part 1 を読み、貿易の基本概念を理解することに努めます。 3 同上 4 テキスト Part 2 を読み、貿易実務の遂行手順を輸出者の視点から6つのステージに区分して概観します。 5 テキスト Part 3 を読み、ビジネス・コミュニケーションが貿易取引の遂行に果たしている役割を学びます。 6 配布プリントを用いて、貿易マーケティングの段階全般について学びます。 7 テキスト Part 4 の第2章と第3章を読み、取引関係創設の段階のうち、「引合い」から「信用照会」までを学びます。 8 同上 9 テキスト Part 4 の第4章と第5章を読み、成約段階のうち、「オファー」から「注文」までを学びます。 10 テキスト Part 4 の第6章を読み、成約段階のうち、一般取引条件(general terms and conditions)で取り決めるべき諸条件を詳細に検討します。 11 テキスト Part 4 の第7章を読み、履行段階(=船積)全般について学びます。 12 テキスト Part 4 の第8章を読み、決済段階(=荷為替手形の取組み)全般について学びます。	
◆ 評価方法 出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。			
◆テキスト、参考文献 伊東ほか『現代商業英語読本』(英潮社新社) 配布プリント			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語ビジネス・コミュニケーション IIb 英語ビジネス・コミュニケーション II ビジネス英語II	担当者	杉山 晴信
◆講義目的、講義概要 授業の目的と進め方は春学期と同じですが、秋学期の主眼は、貿易取引をミクロ的に、専門事項(technicalities)に細分して学ぶことに置かれます。具体的には、種々の貿易形態、信用調査(credit inquiry)、貿易条件(trade terms)、船積書類(shipping documents)、海上貨物保険(marine insurance)、クレームおよびクレーム調整(claim and adjustment)などのテーマを取り上げます。主として当方で用意する資料プリントを使用しますが、テキストも補助的に活用します。		◆授業計画 1 配布プリントを用いて、貿易の主体、取引の損益性、契約の自主性などの観点から、種々の貿易形態を学び、各々の特色や長所・短所を比較します。 2 同上 3 配布プリントを用いて、信用調査の目的、方法、調査項目などを学び、調査依頼状および調査報告書の実例を検討します。 4 同上 5 配布プリントを用いて、いわゆる「インコタームズ」(Incoterms)に規定された種々の定型貿易条件について学びます。 6 同上 7 配布プリントを用いて、各種の船積書類の目的、用途、記載事項などを学びます。 8 同上 9 テキスト Part 4 の第9章を読み、「海上貨物保険」全般について学びます。 10 同上 11 テキスト Part 4 の第10章を読み、「クレームおよびクレーム調整」全般について学びます。 12 同上	
◆ 評価方法 春学期と同じです。			
◆テキスト、参考文献 春学期と同じです。			

03年度以降 02年度 01年度以前	メディア英語 I a メディア英語 I 時事英語 I	担当者	W. J. Benfield
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs. We will look at seven major current topics over the course of a year, devoting three classes to each one. (This may change according to the importance of the topic.) Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, the language of news and the news process. There will be occasional quizzes on current events.</p> <p>◆ 評価方法 Test at end of each semester; attendance; active participation in class.</p> <p>◆テキスト、参考文献 Photocopied articles provided by teacher and video</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course outline. A look at some common media vocabulary. 2. Review of main news stories of recent months 3. Topic 1 4. Topic 1 (contd.) 5. Topic 1 (contd.) 6. Topic 2 7. Topic 2 (contd.) 8. Topic 2 (contd.) 9. Topic 3 10. Topic 3 (contd.) 11. Topic 3 (contd.) 12. Review of term's work 	

03年度以降 02年度 01年度以前	メディア英語 I a メディア英語 I 時事英語 I	担当者	W. J. Benfield
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs. We will look at seven major current topics over the course of a year, devoting three classes to each one. (This may change according to the importance of the topic.) Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, the language of news and the news process. There will be occasional quizzes on current events.</p> <p>◆ 評価方法 Test at end of each semester; attendance; active participation in class.</p> <p>◆テキスト、参考文献 Photocopied articles provided by teacher and video</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Topic 4 2. Topic 4 (contd.) 3. Topic 4 (contd.) 4. Topic 5 5. Topic 5 (contd.) 6. Topic 5 (contd.) 7. Topic 6 8. Topic 6 (contd.) 9. Topic 6 (contd.) 10. Topic 7 11. Topic 7 (contd.) 12. Review of term's work 	

03 年度以降 メディア英語 I a 02 年度 メディア英語 I 01 年度以前 時事英語 I	担当者	新井 妥門
◆講義目的、講義概要 LL 教室を確保できた場合： クラスの数日前に録音した放送英語（CNN,BBC など）のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにも触れ時事英語力の向上を目的とする。 受講生中心のディクテーションをします。学生は予習によりディクテーションをして難しい部分を確認してくる。その部分を取り上げ、音や語法または文の構造にも注意して難しい部分を把握していくことに重点を置く。 LL 教室を確保できない場合： 受講生各自イヤホン付のテープレコーダーを持参して授業で使用する。録音は一ヶ月半に一度位の割合になります。 評価方法 出席状況を含む平常点（欠席回数が授業回数の 1/3 或いはそれ以上の場合は単位を与えません）、定期試験。 テキストは使用せず。例文の多い辞書（英英がよい）。	◆授業計画 1. 授業形式についての説明 2. 教材の録音とクラス全体でのディクテーション 3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 6. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 12. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語についてのまとめ	

03 年度以降 メディア英語 I b 02 年度 メディア英語 I 01 年度以前 時事英語 I	担当者	新井 妥門
◆講義目的、講義概要 LL 教室を確保できた場合： クラスの数日前に録音した放送英語（CNN,BBC など）のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにも触れ時事英語力の向上を目的とする。 受講生中心のディクテーションをします。学生は予習によりディクテーションをして難しい部分を確認してくる。その部分を取り上げ、音や語法または文の構造にも注意して難しい部分を把握していくことに重点を置く。 LL 教室を確保できない場合： 受講生各自イヤホン付のテープレコーダーを持参して授業で使用する。録音は一ヶ月半に一度位の割合になります。 評価方法 出席状況を含む平常点（欠席回数が授業回数の 1/3 或いはそれ以上の場合は単位を与えません）、定期試験。 テキストは使用せず。例文の多い辞書（英英がよい）。	◆授業計画 1. 授業形式についての説明 2. 教材の録音とクラス全体でのディクテーション 3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 6. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 12. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語についてのまとめ	

03年度以降 メディア英語Ⅰa
02年度 メディア英語Ⅰ
01年度以前 時事英語Ⅰ

担当者 海老沢 達郎

◆講義目的、講義概要

「アメリカの文化について…2004年米大統領選挙を文化の面から考察する」をテーマにして1年間授業を進めていきたい。アメリカの主要な新聞・雑誌・ビデオ等を使用してアメリカの権威ある評論家、学者、ベテラン記者が執筆した記事を味読し、英字新聞を読む楽しさを指導していきたい。同時に、大統領選挙を文化面から考察し、現代のアメリカのかかえている問題について考えてみたい。詳細については、最初の授業で詳しく説明する。

◆評価方法

各学期末の試験を中心にして評価する。詳細については、最初の授業で説明する。

◆テキスト、参考文献

プリント使用

◆授業計画

1. 英字新聞を読む意義について
2. Affirmative Action について
3. Welfare について
4. Religion について

03年度以降 メディア英語Ⅰb
02年度 メディア英語Ⅰ
01年度以前 時事英語Ⅰ

担当者 海老沢 達郎

◆講義目的、講義概要

◆評価方法

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

5. Abortion について
6. Guns について
7. Death Penalty について
8. その他
(尚、随時アメリカ大統領選挙関連記事を紹介していく。)

03年度以降 02年度 01年度以前	メディア英語 I a メディア英語 I 時事英語 I	担当者	金子 節也
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>日米関係、ハイテク、日欧関係、アジア問題等の専門家・第1人者へのインタビューを中心に、日本のこんごの進路と他国との協調共存を考える。テキストのほか、インターネット、英字新聞をはじめ、CNN, ABC, BBC などの英語放送を使って、テキストを renewal する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 日米関係 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 日欧関係 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. アジア関係 11. 同上 12. 同上 	
◆評価方法			
テストと出欠を含む平常点			
◆テキスト、参考文献			
I, Too, Am a Bit of a Workaholic, but...			

03年度以降 02年度 01年度以前	メディア英語 I b メディア英語 I 時事英語 I	担当者	金子 節也
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導者たちの英語 (ブッシュ、ブレアーなど) 2. 同上 3. 同上 4. アジアの英語 (シンガポール、マレーシアなど) 5. 同上 6. 同上 7. 日本人の英語 (小泉首相、長谷川滋利選手など) 8. 同上 9. 同上 10. 共通語としての英語 11. 同上 12. 同上 	
◆評価方法			
同上			
◆テキスト、参考文献			
同上			

03年度以降 メディア英語 Ia
02年度 メディア英語 I
01年度以前 時事英語 I

担当者 工藤 政司

◆講義目的、講義概要

世界的情勢をリアルタイムで把握することは国際人の必須条件である。メディア英語Iでは英語を通じて海外事情、海外から見た国内事情に通曉し、国際人としての教養を身につけることを目指す。受講者は外国の新報、雑誌に取り上げられた記事を通して視野が広がったことを実感するだろう。Herald Tribune, New York Times, Washington Post, The Economist等のプリントを使用する。

◆評価方法

春、秋学期の定期試験成績及び出席を含む平常点、発表成績をもとて評

◆テキスト、参考文献 使用する。

◆授業計画

- 1 授業のやりかたに関するオリエンテーション
- 2 海外から見た日本の政治
- 3 海外事情概観
- 4 アメリカの政治
- 5 同上
- 6 中東事情
- 7 同上
- 8 アメリカの社会問題
- 9 アジア情勢
- 10 イギリスの現況
- 11 ヨーロッパの現況
- 12 同上

03年度以降 メディア英語 Ib
02年度 メディア英語 I
01年度以前 時事英語 I

担当者 工藤 政司

◆講義目的、講義概要

メディア英語は時々刻々と変化する国際事情と及ぶので、講義予定の順序及び内容にはしばしば変更が生じ、あらかじめ予定を立てることにはなじまないということを認識しておく必要がある。

講義目的、講義概要はメディア英語Ia、Ibに共通、授業計画1~24も共通である。

◆評価方法

同上

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

- 13 科学の現況
- 14 アメリカの社会問題
- 15 中国と北朝鮮
- 16 環太平洋地域
- 17 世界の環境問題
- 18 同上
- 19 イギリスの政治と経済
- 20 EU問題
- 21 ドイツ及びフランス
- 22 ロシアの現況
- 23 The Economist 社説
- 24 New York Times 社説

03年度以降 02年度 01年度以前	メディア英語Ⅱ a メディア英語Ⅱ 時事英語Ⅱ	担当者	A.R. FALVO
<input type="checkbox"/> 講義目的、講義概要 The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. By the end of the first term students should be able to use POWER POINT for at least one presentation PER TERM! The use of email to submit homework is COMPULSORY . Those who cannot nor will not need not apply to this class. <input type="checkbox"/> 評価方法 Weekly Participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation <input type="checkbox"/> テキスト、参考文献 TO BE DETERMINED		<input type="checkbox"/> 授業計画 Introduction Route 66, Weekly Current Event The American RED Cross , Weekly Current Event The Boston Ballet, Weekly Current Event Comedy, Weekly Current Event Political Protest, Weekly Current Event The Yellow Pages, Weekly Current Event The Dangers of Fast Food, Weekly Current Event The JOYS of Italian Cooking, Weekly Current Event Healthy Life Styles, Weekly Current Event Supermarkets, Weekly Current Event Apples in the US Northwest, Weekly Current Event	

03年度以降 02年度 01年度以前	メディア英語Ⅱ b メディア英語Ⅱ 時事英語Ⅱ	担当者	A.R.FALVO
<input type="checkbox"/> 講義目的、講義概要 The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. Students will use POWER POINT for at least one presentation this term. As in the first term, students will submit homework by email. Students will be filmed by video camera and will be responsible for one presentation this term in a group project. <input type="checkbox"/> 評価方法 Weekly Participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation <input type="checkbox"/> テキスト、参考文献 TO BE DETERMINED		<input type="checkbox"/> 授業計画 Review of First Term Activities Tennessee, Weekly Current Event The Special Olympics, Weekly Current Event Sports Shoes, Weekly Current Event Charities for Children, Weekly Current Event Health and Comedy, Weekly Current Event Broadway Musical, Weekly Current Event Country Western Singers, Weekly Current Event Space Exploration, Weekly Current Event Video Taping of Group Project Part One Video Taping of Group Project Part Two Critique of the Group Projects	

03年度以降 メディア英語Ⅱa 02年度 メディア英語Ⅱ 01年度以前 時事英語Ⅱ	担当者	新井 妥門
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>LL 教室を確保できた場合： クラスの数日前に録音した放送英語（CNN,BBC など）のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにも触れ時事英語力の向上を目的とする。</p> <p>受講生中心のディクテーションをします。学生は予習によりディクテーションをして難しい部分を確認してくる。その部分を取り上げ、音や語法または文の構造にも注意して難しい部分を把握していくことに重点を置く。</p> <p>LL 教室を確保できない場合： 受講生各自イヤホン付のテープレコーダーを持参して授業で使用する。録音は一ヶ月半に一度位の割合になります。</p> <p>評価方法 出席状況を含む平常点（欠席回数が授業回数の1/3 或いはそれ以上の場合は単位を与えません）、定期試験。 テキストは使用せず。例文の多い辞書（英英がよい）。</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業形式についての説明 2. 教材の録音とクラス全体でのディクテーション 3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 6. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 12. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語についてのまとめ 	

03年度以降 メディア英語Ⅱb 02年度 メディア英語Ⅱ 01年度以前 時事英語Ⅱ	担当者	新井 妥門
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>LL 教室を確保できた場合： クラスの数日前に録音した放送英語（CNN,BBC など）のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにも触れ時事英語力の向上を目的とする。</p> <p>受講生中心のディクテーションをします。学生は予習によりディクテーションをして難しい部分を確認してくる。その部分を取り上げ、音や語法または文の構造にも注意して難しい部分を把握していくことに重点を置く。</p> <p>LL 教室を確保できない場合： 受講生各自イヤホン付のテープレコーダーを持参して授業で使用する。録音は一ヶ月半に一度位の割合になります。</p> <p>評価方法 出席状況を含む平常点（欠席回数が授業回数の1/3 或いはそれ以上の場合は単位を与えません）、定期試験。 テキストは使用せず。例文の多い辞書（英英がよい）。</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業形式についての説明 2. 教材の録音とクラス全体でのディクテーション 3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 6. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語について、教材の録音 11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 12. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 聞き取りにくい語についてのまとめ 	

03年度以降 02年度 01年度以前	メディア英語Ⅱa メディア英語Ⅱ 時事英語Ⅱ	担当者	川島 浩美
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><講義の目的> 様々なメディアで記述・報道されている内容を参照・比較して、各トピックに関しての理解を深めていきます。 事実の把握と共に、書き手の視点を分析していく姿勢を身に付けることを目的とします。</p> <p><講義概要> ひとつのトピックにつき、複数の記事（必要に応じて番組）を数回に分けて扱います。それぞれの最終回では、学生からも情報を提供してもらい、それを授業で取り上げていきます。 記事等の概要を掴む作業を中心とし、効率のよい読み方などを必要に応じて解説していきます。</p>		<p>初回は、授業形式についての説明や、取り扱う雑誌等について解説します。 2回目以降、各トピックに関する情報を扱っていきます。</p>	
◆ 評価方法			
授業への参加度とレポートによる総合評価			
◆テキスト、参考文献			
各種雑誌(<i>Readers' Digest</i> , <i>The Economist</i> など) および新聞記事			

03年度以降 02年度 01年度以前	メディア英語Ⅱb メディア英語Ⅱ 時事英語Ⅱ	担当者	川島 浩美
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
上記に同じ		上記に同じ	
◆ 評価方法			
授業への参加度とレポートによる総合評価			
◆テキスト、参考文献			
各種雑誌(<i>Readers' Digest</i> , <i>The Economist</i> など) および新聞記事			

03 年度以降 02 年度	シネマ英語 a シネマ英語	担当者	岡田 誠一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>月曜 2 限</p> <p>映画を通して、アメリカ文化とは何かを学んでいくのが、この授業の目標である。『ジャズ・シンガー』(1927)以降、アメリカ映画はトーキーの時代に突入する。また、1929年の大恐慌によって、アメリカ映画界は大変な苦境に立たされた。この業界にとって、まさに激動の時代であった1930年代を、この頃作られた映画を実際に鑑賞しつつ、学んでいく予定である。</p> <p>芸術としての映画を学ぶ過程において、英語を読む力を養っていくのが、この授業の狙い。映画が好きなことが、この授業を受ける上での必須条件となる。また、毎回、必ず予習をして授業に臨むこと。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か、前後期の試験、などにより評価が決定される。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストとしてはプリントを使う予定。参考文献は授業中に適宜指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>トーキーと不況、ヘイズ・コードなどに関して、また、この十年間に活躍した俳優、監督などについても学んでいく。トーキーに移行しつつあった映画界において、不況がどのようなマイナス要因として働いたか。どういう理由で、自己点検的なヘイズ・コードが出現したのか。このコードの元に作られた映画にはどのようなものがあったか。また、今日の映画と比較して、それらはいかなる点で異なっていたか。</p> <p>様々な研究書を利用して、このようなことに関して学んでいく予定である。</p> <p>また、30年代が生んだ名画も、数本鑑賞することを考えている。</p>	

03 年度以降 02 年度	シネマ英語 b シネマ英語	担当者	岡田 誠一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期と同じ</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>前期と同じ</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>前期と同じ</p>		<p>◆授業計画</p> <p>前期と同様、1930年代のアメリカ映画史を中心に授業を進めるが、さらにいくつかの事項については、重点的に細部へと掘り下げていく。</p> <p>ビデオを利用して、映像用語などの解説も行う予定である。</p> <p>数本の名画(30年代作)の鑑賞も行う計画。</p>	

03年度以降 02年度	シネマ英語 a シネマ英語	担当者	岡田 誠一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>月曜3限</p> <p>映画を利用し、主として「英語を聞き取る力」を養うことを目的とする。 まず、その章で扱われている映画のあらすじを英文で読み、内容を把握する。ここでは、英語の読解力が培われる。 次に、映画の一部をビデオで観て、その内容についての設問に答える。 その後、ビデオで使われていた語彙とイディオムのチェックをし、最後に、監督、あるいは出演していた俳優の伝記について学ぶ。 毎回、必ず予習をして授業に臨むこと。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か、前後期の試験、などにより評価が決定される。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト <i>Hollywood Dialogs</i> Asahi Press 参考文献 授業中に適宜指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>『ビューティフル・マインド』『A I』など、6本の映画の抜粋を、テキストとして用いる。更に、補足する意味で、プリントも使用する予定。 また、ヒヤリングの力を養うために、名画を幾本か鑑賞する計画。</p>	

03年度以降 02年度	シネマ英語 b シネマ英語	担当者	岡田 誠一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期と同じ。 この授業を受けるには、映画がまあまあ好き、または、大好き、であることが望ましい。映画が嫌いであったり、大して興味がないひとには向いてない授業である。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>前期と同じ</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>前期と同じ</p>		<p>◆授業計画</p> <p>後期は、『スパイダーマン』、『スパイ・ゲーム』などの映画を用いて、ヒヤリング能力の向上を図る。前期と同様に、プリントも用いる予定である。 やはり、実践的にヒヤリング力を増加させるために、幾本かの名画を鑑賞することも計画している。</p>	

03年度以降 02年度	シネマ英語 a シネマ英語	担当者	高橋雄一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1995年の作品、Dead Man Walkingを取り上げる。映画を教材に集中的なリスニングの練習することが第一の目的である。会話特有の言い回しや、独特なアクセント、スラングなどにも注意を払いたい。</p> <p>原作は死刑囚のカウンセラーを引き受けることになったカトリックの修道女 Sister Helen Prejean の回想録である。現在「先進国」といわれている国で、死刑を存続させているのは、アメリカ合州国と日本だけである。死刑制度について調べ、その是非について考えることを第二の目的とする。</p> <p>評価は毎週の小テストまたは宿題と、学期末のレポート（4000字程度、英語のレジュメをつける）で決める。したがって欠席をしないことと、毎回の予習復習を欠かさないことが重要になる。</p> <p>聞き取りにくい部分も多いので、リスニングの不得手な学生は人一倍の努力をして欲しい。</p> <p>授業は出来る限り英語で進めたい。当てられた時に積極的に英語を使おうとしない人は減点の対象となる。</p> <p>映画を楽しんで英語力をつけようというのは甘い。相当量の勉強時間が必要と考えて欲しい。この授業終了後は、全員がTOEIC730点程度取得できることを目標としたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>本文に記載</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリントを使用。原作、Helen Prejean, <i>Dead Man Walking</i> (Viking)を併せて読むことを薦める。</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 02年度	シネマ英語 b シネマ英語	担当者	高橋雄一郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>秋学期は1992年のイギリス映画、The Crying Gameを教材にする。IRAの活動家が、運命の巡り合わせで、自分が殺害したイギリス兵の恋人を愛するようになる、というストーリーで、公開時には爆発的なヒットを記録した。</p> <p>北アイルランド問題や、IRAの運動について、若干の知識が必要だが、映画の魅力はむしろセクシュアリティのあり方にある。つまり、女と男が愛しあうとは決められたことではなく、愛のかたちはさまざまで、また、可変的だということだ。</p> <p>この映画は結末を知ってしまうと面白くないので、受講者には授業より前にビデオで先を観ないことを約束してもらいたい。</p> <p>春学期と異なり、評価は毎週の小テスト、課題だけで決める。学期末のレポートはない。</p> <p>リスニングを第一の目的とするのは、春学期と同じである。アメリカ式の発音に慣れた人には、聞き取りが難しいかもしれないが、それを克服するには絶好の映画だと思う。</p> <p>終了時にはTOEIC750点を目標としたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>本文に記載</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリントを使用</p>		<p>◆授業計画</p>	

02 年度 01 年度以前	ドイツ語会話 I ドイツ語会話 I	担当者	I.Albrecht
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>In diesem Konversationsunterricht werden aktuelle Themen mit Schwerpunkt aus dem Bereich der Wirtschaft (z.B. Ausbildung, Handel, Hotel, Banken, Automatisierung, Verpackung) in Kurzreferaten vorgestellt, besprochen und diskutiert. Dazu gibt es Übungen zur Wortschatzerweiterung und Ausdrucksweise in wirtschaftsbezogenem Deutsch.</p>		<p>Das genaue Programm wird in Absprache mit den Teilnehmern nach deren Wünschen und Bedürfnissen in der ersten Stunde festgelegt.</p>	
◆ 評価方法			
Regelmäßige aktive Teilnahme am Unterricht, Kurzreferate, Test am Semesterende			
◆テキスト、参考文献			
Kopien			

02 年度 01 年度以前	ドイツ語会話 I ドイツ語会話 I	担当者	I.Albrecht
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
siehe Sommersemester		siehe Sommersemester	
◆ 評価方法			
◆テキスト、参考文献			

02年度 01年度以前	フランス語Ⅲ フランス語Ⅲ	担当者	藤田朋久
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的： フランス語の総合的な力をつけることが目標です。またあわせてフランスの文化や社会について理解を深めることを目指します。</p>		<p>教材や授業の進め方については、こちらで用意したものの中から、受講者の希望を聞いて決めますので、第1回目の授業には必ず出席してください。</p>	
◆評価方法			
年2回の試験の他に、平常点も重視します。			
◆テキスト、参考文献			
教室で指示します。			

02年度 01年度以前	フランス語Ⅲ フランス語Ⅲ	担当者	藤田朋久
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
同上		同上	
◆評価方法			
同上			
◆テキスト、参考文献			
同上			

02年度 フランス語会話Ⅰ 01年度以前 フランス語会話Ⅰ	担当者	B.P.LEURS
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日常生活に必要な会話力の向上とフランスをより理解することを目的とする。</p> <p>L・L・教室での授業、フランス語で自由に表現できるように語彙を増やし書く能力も身につけていく。シャンソン、映画、ドキュメンタリー番組から今日のフランスも学ぶ。</p> <p>◆評価方法</p> <p>授業への参加態度と積極性の有無及び定期試験</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>« Alphabétix (<i>cahier exercices</i>) » 「アルファベティックス練習問題集」三修社 ISBN 4-384-22045-6</p>	<p>◆授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 別の人について話す・100までの数 ・ パリの街に住む（パリの名所） ・ 好きなもの、好きなことの言い方 ・ フランス食生活（1）：café & restaurantで注文する ・ フランス食生活（2）：美食の旅 ・ フランス映画について感想を言う ・ 過去の話をする ・ 南仏：魅力あふれる文化・ライフスタイル ・ フランス&日本の季節の流れ（フランス生活暦） ・ クリスマスカードの書き方・クリスマスの話 	

02年度 フランス語会話Ⅰ 01年度以前 フランス語会話Ⅰ	担当者	B.P.LEURS
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p>	

02年度 01年度以前	フランス語会話Ⅰ フランス語会話Ⅰ	担当者	C.A.PELISSERO
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>最初の授業で説明する</p>		<p>最初の授業で説明する</p>	
◆評価方法			
最初の授業で説明する			
◆テキスト、参考文献			
最初の授業で説明する			

02年度 01年度以前	フランス語会話Ⅰ フランス語会話Ⅰ	担当者	C.A.PELISSERO
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>最初の授業で説明する</p>		<p>最初の授業で説明する</p>	
◆評価方法			
最初の授業で説明する			
◆テキスト、参考文献			
最初の授業で説明する			

02年度 スペイン語Ⅲ
01年度以前 スペイン語Ⅲ

担当者 喜多 延鷹

◆講義目的、講義概要

初級文法をひととおり終了した学生を対象に、教科書を離れ、12-13歳用の少年少女小説を読みます。内容は平易ながら事柄や文章はすでに童話の段階から成人の域に達しており、初級文法をすべて駆使せねばならないもので、スペイン語読解力養成に資するものです。推理小説風に次々と変わるスジを追い、楽しみながらスペイン語を修得しようというのが目的です。基本的には、輪読の形式をとり、読んで解釈し、教師が訂正し、文法の復習をしながら、進みます。毎回全員が必ず一回ずつ当たるようにします。楽しく予習ができ、達成感を味わえるように努めたいと思います。

◆評価方法

テスト、授業態度により総合的に評価します。

◆テキスト、参考文献

始業時に指示します。

◆授業計画

テキスト（小説）一冊の講読を二期（一年）で終了する予定ですが、講読の過程で文法の復習も適時行いながら進めますので、一回毎の計画を当初から立てることはしません。

02年度 スペイン語Ⅲ
01年度以前 スペイン語Ⅲ

担当者 喜多 延鷹

◆講義目的、講義概要

同上

◆授業計画

同上

◆評価方法

◆テキスト、参考文献

02年度 スペイン語会話Ⅰ
01年度以前 スペイン語会話Ⅰ

担当者 J.FERRERAS

◆講義目的、講義概要

目標は、日本語にないスペイン語の独特な「音」を一人一人にくりかえさせて、スペイン語らしい発音ができるようにするとともに、聞き取り能力を養成する。
ビデオ教材などをもちいて、スペイン語の聞き取り練習をする。

◆評価方法

授業への積極的参加およびテスト。

◆テキスト、参考文献

プリント、「¡Hola, amigos!」、西和辞典。

◆授業計画

- 1 スペイン語のL、RとRRの発音練習。
- 2 スペイン語のL、RとRRの開き取りと発音練習。
- 3 スペイン語らしいイントネーション。
- 4 直接目的格代名詞。
- 5 再帰動詞①。
- 6 再帰動詞②。
- 7 点過去と線過去の使い方とその組み合わせ。
- 8 ser+過去分詞、estar+過去分詞。
- 9 現在分詞。
- 10 接続法の1。
- 11 接続法の2。
- 12 復習。

02年度 スペイン語会話Ⅰ
01年度以前 スペイン語会話Ⅰ

担当者 J.FERRERAS

◆講義目的、講義概要

目標は、さらにスペインあるいはラテンアメリカの文化理解を深めながら、自分の体験を活用して、日本文化と比較すること。
また、自然なスペイン語が話せるように練習をおこなう。
さらに、スペイン語の発話に伴うジェスチャーも練習する。

◆評価方法

授業への積極的参加およびテスト。

◆テキスト、参考文献

プリント、「¡Hola, amigos!」、西和辞典。

◆授業計画

- 1 前置詞。
- 2 関係代名詞。
- 3 所有形容詞。
- 4 旅行に使う言葉。
- 5 買物に使う言葉。
- 6 「発」の表現。
- 7 侮辱。
- 8 日本文化、スペイン語で語る①。
- 9 日本文化、スペイン語で語る②。
- 10 日本文化、スペイン語で語る③。
- 11 日本とスペイン語圏の国々の文化比較。
- 12 復習。

03年度以降 02年度 01年度以前	言語情報処理 I a 言語情報処理 I a 言語情報処理 I a	担当者	長崎 等
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、コンピュータを利用した英文データベース(以下コーパス)の構築と利用、テキスト処理の方法、およびコーパスから得られた情報の統計的処理とその意味を学ぶことを目的とする。</p> <p>年間の講義の前半(ほぼ前期)は、Microsoft Excel(以下Excel)の基本的機能および操作方法を学ぶ。後半は既存の各種コーパスをネットワークを経由し体験利用しながら、コーパス言語学の基礎的な知識を得る。その後、Excelの応用して、データベースの構築の仕方、およびExcelでKWIC Concordanceを実現する手法、および統計的な処理方法を学ぶ。また英語の言語材料をインターネットなどから収集し、各自が自分のテーマに基づいたコーパスを構築する。年度の最後はあるリサーチ課題について、構築したコーパスをExcel等を用いて分析し、結果をまとめてレポートとして提出する。</p> <p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義のガイダンス 2 表計算(1): 表計算一巡り 3 表計算(2): 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等) 4 表計算(3): 関数(算術・統計関数を中心に) 5 表計算(4): 関数(文字列操作関数を中心に) 6 表計算(5): 関数(論理関数と関数のネストについて) 7 表計算(6): データベース処理(並べ替えと集計) 8 表計算(7): データベース処理(レコードの抽出および条件検索) 9 表計算(8): データベース処理(クロス集計とピボットテーブル) 10 表計算応用(1) 11 表計算応用(2) 12 実習試験 	
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	言語情報処理 I b 言語情報処理 I b 言語情報処理 I b	担当者	長崎 等
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、コンピュータを利用した英文データベース(以下コーパス)の構築と利用、テキスト処理の方法、およびコーパスから得られた情報の統計的処理とその意味を学ぶことを目的とする。</p> <p>年間の講義の前半(ほぼ前期)は、Microsoft Excel(以下Excel)の基本的機能および操作方法を学ぶ。後半は既存の各種コーパスをネットワークを経由し体験利用しながら、コーパス言語学の基礎的な知識を得る。その後、Excelの応用して、データベースの構築の仕方、およびExcelでKWIC Concordanceを実現する手法、および統計的な処理方法を学ぶ。また英語の言語材料をインターネットなどから収集し、各自が自分のテーマに基づいたコーパスを構築する。年度の最後はあるリサーチ課題について、構築したコーパスをExcel等を用いて分析し、結果をまとめてレポートとして提出する。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テキスト処理: 文字列変換, 正規表現 2 出現単語の頻度の集計(ピボットテーブルを利用した単語の頻度集計) 3 テキスト全体の出現単語数と異なり語数 4 語彙密度の計算 5 コンコーダンスを作る(1) 6 コンコーダンスを作る(2) 7 コンコーダンスの利用(2): データの検索・絞り込みなど 8 コンコーダンスラインの利用(1): コロケーションを調べる(MI-Score)。 9 コンコーダンスラインの利用(2): コロケーションを調べる(t-score)。 10 品詞情報のタグ付け: 各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。 11 タグ付けされたテキストの分析: 品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。 12 まとめ 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。</p>			

03年度以降	言語情報処理 I a	担当者	吉成 雄一郎
02年度	言語情報処理 I a		
01年度以前	言語情報処理 I a		

◆講義目的、講義概要

本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、基本的な情報処理の概念を英文データベース(以下コーパス)の構築(テキスト処理の方法、データの蓄積、検索、および統計的処理)を通じて学ぶことを目的とする。

年間の講義の前半(言語情報処理 I a)は、Microsoft Excel(以下 Excel)の基本的機能およびその利用方法を中心に学ぶ。後期に Excel を使って言語処理を行うための準備である。コーパスの分析には専用のソフトウェアもいくつか開発されているが、それらは決められた処理には適しているが、そのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使うことのは、各自の創造力でより自由な処理、研究が可能となるからである。もちろん Excel の汎用性は、言語処理に限るわけではないので、将来様々な場面で応用できるものである。

学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

◆テキスト、参考文献

テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ(<http://www.yuchan.com/~gengojoho/>)を参照すること。

◆ 授業計画

1	講義のガイダンス：言語情報処理とは何か
2	表計算(1)：言語情報処理とコーパス・表計算一巡り
3	表計算(2)：計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)
4	表計算(3)：関数(算術・統計関数を中心に)
5	表計算(4)：関数(文字列操作関数を中心に)
6	表計算(5)：関数(論理関数を中心に)
7	表計算(6)：関数のネスト
8	表計算(6)：データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)
9	表計算(7)：データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)
10	データベース(2)：データの蓄積方法
11	自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など
12	演習

03年度以降	言語情報処理 I b	担当者	吉成 雄一郎
02年度	言語情報処理 I b		
01年度以前	言語情報処理 I b		

◆講義目的、講義概要

本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、基本的な情報処理の概念を英文データベース(以下コーパス)の構築(テキスト処理の方法、データの蓄積、検索、および統計的処理)を通じて学ぶことを目的とする。

年間の講義の後半(言語情報処理 I b)は、前期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自家製コーパスを作る。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を得る。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法を学ぶ。いくつかのケース・スタディを講義の中で紹介し、コンピュータから見た英語の特徴を探る。最後に各自が作ったコーパスを使って、自分でリサーチ課題を設定し、レポートにまとめる。

◆ 評価方法

学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

◆テキスト、参考文献

テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ(<http://www.yuchan.com/~gengojoho/>)を参照すること。

◆ 授業計画

1	講義のガイダンス：コンピュータから見た言語
2	自家製コーパスを作ろう(1)
3	自家製コーパスを作ろう(2)
4	コーパスを使う(1)：出現単語の頻度の集計(ピボットテーブルを利用した単語の頻度集計)
5	コーパスを使う(2)：テキスト全体の出現単語数と異なり語数
6	コーパスを使う(3)：語彙密度の計算
7	コンコーダンスの利用(4)：データの検索・絞り込みなど
8	コロケーションの問題を考える(1)
9	コロケーションの問題を考える(2)
10	ケース・スタディ(1)
11	ケース・スタディ(2)
12	課題研究について：自家製コーパスを使って何を調べるか。

03年度以降	言語情報処理Ⅱa	担当者	吉成 雄一郎
02年度	言語情報処理Ⅱa		
01年度以前	言語情報処理Ⅱa		

◆講義目的、講義概要

本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、言語情報処理Ⅰよりもやや高度な言語処理を扱う。基本的な情報処理の概念を英文データベース(以下コーパス)の構築(テキスト処理の方法、データの蓄積、検索、および統計的処理)を通じて学ぶことを目的とする。

年間の講義の前半(言語情報処理Ⅱa)は Microsoft Excel(以下Excel)のおさらいと、データベース Microsoft Access(以下Access)の機能およびその利用方法を中心に学ぶ。AccessはExcelに比べて格段の量のデータを格納できる。本講義でも言語情報処理Ⅰと同様に自家製コーパスを構築するが、Accessを用いるので、格段に大きなコーパスを作ることができる。本講義で構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できる貴重な情報源となるだろう。

学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

◆テキスト、参考文献

テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<http://www.yuchan.com/~gengojoho/>) を参照すること。

◆ 授業計画

1	講義のガイダンス・言語情報処理の基本概念と本講義の概要
2	表計算(1)：言語情報処理とコーパス
3	表計算(4)：関数(文字列操作関数を中心に)
4	表計算(5)：関数(論理関数と関数のネストについて)
5	表計算(6)：データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)
6	表計算(7)：データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)
7	データベース(1)：Excel からリレーショナルデータベース Access へ
8	データベース(2)：テーブルとデータシート
9	データベース(3)：クエリーによるデータ活用
10	データベース(2)：データの蓄積方法
11	コーパスの構想を練る：データ収集の方法など
12	実習試験

03年度以降	言語情報処理Ⅱb	担当者	吉成 雄一郎
02年度	言語情報処理Ⅱb		
01年度以前	言語情報処理Ⅱb		

◆講義目的、講義概要

本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、言語情報処理Ⅰよりもやや高度な言語処理を扱う。基本的な情報処理の概念を英文データベース(以下コーパス)の構築(テキスト処理の方法、データの蓄積、検索、および統計的処理)を通じて学ぶことを目的とする。

年間の講義の後半(言語情報処理Ⅱb)は前期に学んだExcelとAccessの知識を活用して、学生一人一人が自家製コーパスを作る。また、British National Corpusなどの商用コーパスにも体験的にアクセスする。コーパス言語学の基礎的な知識から、統計的な手法を用いたコロケーション分析方法までを扱う。最後に各自が作ったコーパスまたはBritish National Corpusを使って、自分でリサーチ課題を設定し、レポートにまとめる。

◆ 評価方法

学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

◆テキスト、参考文献

テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<http://www.yuchan.com/~gengojoho/>) を参照すること。

◆ 授業計画

1	講義のガイダンス：コーパスとその応用
2	データベース(3)：テキストをデータベースに格納する
3	データベース(4)：Excel との連携
4	自家製コーパス(1)：Access にデータを格納
5	自家製コーパス(2)：Access のデータを引き出してExcelで分析
6	最先端のコーパスの現状：体験アクセス
7	コンコーダンスラインの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。
8	コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。
9	品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。
10	タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。
11	言語情報処理の現状：今日のコーパス言語学の状況、コンピュータによる言語処理の最新技術を紹介する。
12	課題研究について：コーパスを使って何を調べるか。

03年度以降	統語論 a	担当者	安井美代子
02年度	統語論 a		
01年度以前	統語論 a		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>私たちは言語を生み出す能力を持って生まれてくる。言語間の見かけの差が大きいので信じにくいかもしれないが、この能力は何語を母国語としようとして共通である。遺伝的に決まっている言語能力のおかげで、私たちは努力なしに母国語を獲得できるが、獲得した知識は非常に複雑であるので、その内容を明確に述べるのはむずかしい。これはものを見る能力(Visual Intelligence)の場合と同じである。遺伝的に決まった視覚能力を私たちは持ち、努力無しに、例えば、平面である写真から三次元の空間を思い浮かべることが出来る。しかし、いったい自分がどのようにして三次元の構築を行っているか説明できる人はまずいない。私たちが脳を使って行っているこのような知的活動は、簡単であるようにみえて、その説明が極めて困難なのである。この授業は、簡単に見える文でも非常に高度な知識なしには発話出来ないことを知って「驚く」ことを目標とする。扱うデータは主に英語であるが、日本語のデータも積極的に取り入れる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 脳科学としての言語研究：視覚研究との比較 2 言語獲得の臨界期：「ジニー」の言語獲得 3 統語論の研究対象 4 句構造 5 X-bar Syntax (一般句構造理論) 6 X-bar Syntax (一般句構造理論) 7 主要部による語彙的選択 8 節の内部構造 9 主語と助動詞の倒置 10 本動詞・助動詞と時制辞の分布 11 動詞句削除 12 質問 	
◆ 評価方法			
定期試験による			
◆ テキスト			
プリント 酒井邦嘉『言語の脳科学』中公新書			

03年度以降	統語論 b	担当者	安井美代子
02年度	統語論 b		
01年度以前	統語論 b		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>統語論 a と同じ</p> <p>◆ 参考文献 A. Radford Transformational Syntax Cambridge University Press L. Haegeman Introduction to Government and Binding Theory Blackwell 長谷川信子『生成日本語学入門』大修館書店 中村捷、金子義明、菊池朗『生成文法の基礎』研究社 S. Pinker『言語を生み出す本能 上・下』NHK ブックス 下條信輔『意識とは何だろうか』講談社現代新書</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Syntax a 定期試験の解説 2 機能範疇と語彙範疇 3 persuade と expect の統語的差異 4 likely と eager の統語的差異 5 名詞句の分布と格理論 6 格理論と名詞句移動 7 himself などの再帰形と先行詞の構造的関係(1) 8 himself などの再帰形と先行詞の構造的関係(2) 9 名詞句移動の局所性 10 he などの代名詞と先行詞との構造的関係 11 「ジニー」の統語能力の限界 12 質問 	
◆ 評価方法			
統語論 a と同じ			
◆テキスト、参考文献			
統語論 a と同じ			

03年度以降	意味論 a	担当者	府川 謹也
02年度	意味論 a		
01年度以前	意味論 a		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>コミュニケーションの本質は、ことば（あるいはその代用となるもの、例えばジェスチャーや手話など）によって媒介される意味を通してわれわれの周りにはいる人たちや状況に働きかけることにある。この講義ではその日常の言語生活での意味のやり取りというわれわれの営みを理解するためには、どういう視点でそれを捉えればよいかという、いわば考え方の枠を提供することを狙いとす。</p>		<p>テキストに沿って5章までを解説する。</p> <p>1章 日常生活の中の「意味論」 2章 ことばと意味 3章 ことばの意味と辞書 4章 語彙の中の意味関係 5章 文法と意味</p>	
◆ 評価方法			
試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。			
◆テキスト、参考文献			
池上嘉彦 編『英語の意味』大修館書店 ¥1,600			

03年度以降	意味論 b	担当者	阿部 一
02年度	意味論 b		
01年度以前	意味論 b		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この講義は a で得た知識をさらに発展させて、現在、影響力が大きい認知意味論分野へ本格的に導くものである。その際、語彙や句レベルも扱うが、基本的には文レベル及び談話レベルを扱うことにする。また、意味論分野との関わりで今後の発展が期待できるメタファー論、文体論、語用論、コーパス言語学などの知見も随時取り上げる。</p>		<p>1. はじめに：意味論のおもしろさとは？「意味の三角形」を再考する。表象モデルを再考する。 *シラバス配布、授業方法の説明など 文法と意味 1－応用編 2. 文法と意味 2－応用編 3. 意味とコンテキスト 1 4. 意味とコンテキスト 2 *小テスト 1 5. 意味の変化 1 6. 意味の変化 2 7. 文法化と主観化 *小テスト 2 8. 意味の習得 1 9. 意味の習得 2 *小テスト 3 10. 意味の普遍性と相対性 2 *小テスト 4 11. おわりに：意味論の応用を考える。意味と文学、詩、ブランド、ネーミング</p>	
◆ 評価方法			
学期末試験、授業課題（毎回の宿題）、小テスト（3回）、個人発表（指定）及び授業参加度（出席）による総合評価。詳しくは第一回目に説明及び授業シラバスを配布する。			
◆テキスト、参考文献			
池上嘉彦編（1995）「英語の意味」大修館書店 その他			

03年度以降	音声・音韻論 a	担当者	大竹 孝司
02年度	音声・音韻論 a		
01年度以前	音声・音韻論 a		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目標: グローバル化社会の進展で英語によるコミュニケーション手段を持つことが益々重要となりつつあります。しかし、日本語を母語とする者が英語を学習する場合、種々の困難に直面することが一般的です。この困難さは、特にリスニングやスピーキングなど音声言語に基づく英語を学習する際に顕著となります。では、何故英語のリスニングやスピーキングは難しいのでしょうか。話せない、聞けないという原因はどこにあるのでしょうか。また、これらの問題を解決するために何をどのように学習すればよいのでしょうか。本講義では、このような疑問点を解決するために必要な英語音声に関する音声学の理論と実践面の知識を学ぶと共に問題解決能力を養うことを目指します。言語コミュニケーション、英語教育におけるリスニングの理的及び実践的な指導方法に興味を抱いている学生にとっては特に有益でしょう。</p> <p>講義概要: 最新の音声学の研究では、学際的な観点から取り組むことが一般的になってきました。この講義では、脳科学や心理言語学の領域からの最先端の知見や実験も取り入れ、特に日本語を母語とする英語学習者が直面する問題に焦点を当てて講義をします。理論的な志向を基本としながらも実践的な側面についても十分考慮し、皆さんの英語学習に役に立つ講義とする予定です。また、国際会議での最先端情報も適宜紹介します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 音声言語による意志伝達の仕組み: 講義の概観を行う。次に、日本語と英語の音声言語による意志伝達のメカニズムを学ぶ。 2. 音声の生成過程と音声の特徴: 音声の生成過程及び音声の特徴(子音、母音、音節、分節素、超分節素など)を概観する。 3. 心内辞書と音表示の仕組み: 語彙の音声表示のための音の単位及び発音記号(IPA)を学ぶ。 4. 英語子音の概観: 調音音声学の観点から子音の定義と分類方法を概観。個別の子音の具体的な調音法をビデオ教材で学ぶ。 5. 英語母音の概観: 調音音声学の観点から母音の定義と分類方法を概観。個別の母音の具体的な調音法をビデオ教材で学ぶ。 6. 単語内の音変化の分析: 単語レベルの音変化の概観と脱落、省略、短縮などを具体例で学ぶ。 7. 自然発話における音変化の分析: 同化、異化、連結などを具体例で学ぶ。 8. 音節と音節構造: 超分節素を理解する上で不可欠な音節と音節構造の基本概念を学習する。 9. 英語の強勢: 英語の強勢の構造とその特徴について学ぶ。日本語話者を母語とする学習者の問題点についても概説する。 10. 英語のリズム: 英語のリズムの構造とその特徴について学ぶ。日本語話者を母語とする学習者の問題点についても概説する。 11. 英語のイントネーション: 英語のイントネーションの構造と特徴について学ぶ。日本語話者を母語とする学習者の問題点についても概説する。 12. 日本語話者の英語音声学習の問題点: 日本語を母語とする英語学習者が直面する音声学上の問題点のまとめを行う。 	
◆評価方法			
<p>定期試験と課題によって決めます。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>様々な教科書からコピーして配布します。</p>			

03年度以降	音声・音韻論 b	担当者	大竹 孝司
02年度	音声・音韻論 b		
01年度以前	音声・音韻論 b		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目標: 英語を学習する場合、実は音声学の知識の習得だけでは、英語音声のリスニングやスピーキングが十分改善されない場合が多いのです。では、音声学に加えて何を学習する必要があるのでしょうか。音声の背後に隠れた音の文法と呼ぶべき音韻体系を学ぶ必要があるのです。最新の心理言語学のリスニングの研究では、外国語の音声を認識する場合には、母語の音韻体系に基づいて認識する傾向が高いことが指摘されています。つまり、皆さんは日本語の音韻体系に基づいて英語音声を認識していることとなります。そこで、音声・音韻論 b では、まず音韻知識とはいかなるものであるのか、そして日英語の音韻体系はどのような点で異なり、英語学習上どのような障害が存在するのかという問題に焦点を当て、具体的な問題解決のための分析が可能となることを目指します。</p> <p>講義概要: 音韻理論の基礎をまず学習し、音韻現象を実際に分析することを行います。講義の形態は、随時討論を行うことを前提としたインタラクティブな授業とすると同時に様々な音韻分析を実際に行うことによって理解を深めます。少しばかり高級な音韻知識を学ぶことで、英語音声の学習が更に楽しくなるようにします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明: 音韻論では何を学ぶのか、「マイフェアレディ」のイライザが直面した問題から学習を始める。 2. 英語の子音: 音韻分析を行う上で必要な英語子音の知識を学ぶ。次に、IPAの子音表について学ぶ。 3. 英語の母音: 音韻分析を行う上で必要な母音の知識を学ぶ。次に、IPAの基本母音図について学ぶ。 4. 音韻単位の基本概念: 音韻論を論じる上で必要な基本的な音韻単位である音素、異音の定義を行い、英語音声における具体例について学ぶ。 5. 音韻分析の手順: 音素や異音の分析手順について学ぶ。 6. 音韻規則の基本概念: 基底構造と表層構造をつなぐ音韻規則について学ぶ。 7. 英語の音節構造の分析 I: 音韻論における音節構造の定義と具体的な音節構造の分析方法について学ぶ。 8. 英語の音節構造の分析 II: 音韻論における音節構造の定義と具体的な音節構造の分析方法について学ぶ。 9. 英語の強勢の分析 I: 音韻論における英語の強勢の定義と具体的な英語の強勢の分析方法について学ぶ。 10. 英語の強勢の分析 II: 音韻論における英語の強勢の定義と具体的な英語の強勢の分析方法について学ぶ。 11. 英語のリズムの分析 I: 音韻論における英語のリズムの定義と具体的な英語のリズムの分析方法について学ぶ。 12. 英語のリズムの分析 II: 音韻論における英語のリズムの定義と実際の英語のリズムの分析方法について学ぶ。 	
◆評価方法			
<p>定期試験と課題によって決めます。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>English Phonetics and Phonology: An Introduction, Philip Car.</p>			

03年度以降 英語史 a 02年度 英語史 a 01年度以前 英語史 a	担当者	児玉 仁士
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>言語の特性の一つである「言語は変化する」の側面に視点を置き、英語が古期から中期へ、さらに近代へと時の経過と共に「どのように変化したか」、を具体的な資料に基づきながら概説する。言語の変化は、その時々々の社会的・文化的要因と深く係わり合いながら促進されるものであるから、その面にも合わせて言及したい。</p> <p>まづ、歴史言語学の視点から、(a)「言語の変化」とはどのようなことなのか、(b)その変化の要因は何なのか、(c)英語はインド・ヨーロッパ語族/ゲルマン語派の孰れに属するのか、(d)英語は紀元 700 年ごろから今日まで約 1300 年間にどのように変化(進歩/退歩)してきたのか、(e)英語のどのような側面(文字・発音・綴り・形態・統語・意味など)に変化が見られるのか、と言った話題が中心となるだろう。テキストに準拠しながら、随時プリントを配布する。具体的には、年間授業計画を参照せよ。</p> <p>なるだけ前期・後期継続の受講者を望む。</p> <p>◆評価方法</p> <p>評価は、基本的には、前期・後期の定期試験の成績に時折のレポートと出席を加味して、総合評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト 松浪有編『英語史』(英語学コース 1)、大修館書店 {参考文献}(小野茂・恭子訳:『文化史的にみた英語史』、開文社出版)</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語の変化 2. インド・ヨーロッパ語族/ゲルマン諸語での位置 3. アングロ・サクソン時代の歴史的背景 4. 古期英語の文字・発音・綴り 5. 古期英語の形態 6. 古期英語の統語 7. 古期英語の語彙 8. 古期英語のテキスト講読 9. 上記に同じ 10. 上記に同じ 11. 中世期の歴史的背景 12. 中期英語の文字・発音・綴り 	

03年度以降 英語史 b 02年度 英語史 b 01年度以前 英語史 b	担当者	児玉 仁士
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 中期英語の形態 14. 中期英語の統語 15. 中期英語の語彙 16. 中期英語のテキスト講読 17. 上記に同じ 18. 近代の歴史的背景 19. 近代英語の発音・綴り 20. 近代英語の形態 21. 近代英語の統語 22. 近代英語の語彙 23. 近代英語のテキスト講読 24. アメリカ英語 	

02年度 01年度以前	英語学特殊講義 a 英語学特殊講義 a	担当者	府川 謹也
◆講義目的、講義概要 英語と日本語の構文を機能主義的アプローチから対照的に分析していく。 例えば、次の英語受身文に対応する日本語のほうも容認性の程度において並行的である。 (1) a. I was hit by a young guy. . b. ??A young guy was hit by me. (2) a. 私は若い男に殴られた。 b. ??若い男が私に殴られた。 その一方、次のような場合は対照的である。 (3) a. The car is always driven by my father. b. ??その車はいつも私の父に乗られている。 (4) a. *I was cried by my child overnight. cf. I had my child cry overnight. b. 私は子供に一晩中泣かれた。 なぜこのようなことになるのかを、右にあげた構文をとりあげ、テキストに沿って解説していく。		◆授業計画 1. 後置文（基本語順では文頭や文中の要素が文末に置かれる構文） 2. 省略 3. 結果構文 4. 受身文 5. tough 構文	
◆ 評価方法 試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。			
◆テキスト、参考文献 高見健一『機能的統語論』くろしお出版			

02年度 01年度以前	英語学特殊講義 b 英語学特殊講義 b	担当者	府川 謹也
◆講義目的、講義概要 春学期と同じ。		◆授業計画 6. 中間態と可能態 7. 視点 8. 再帰代名詞 9. 数量詞の作用域	
◆ 評価方法 春学期と同じ。			
◆テキスト、参考文献 春学期と同じ。			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英語圏の詩 a 英米の詩 a 英米の詩 a	担当者	園部 明彦
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>英詩の楽しさを味わってもらうことを主眼とする。詩を味わうには、ひとの解説を受動的に聞くだけでなく、自ら積極的に動くことが要求される。そこで、毎回、受講者全員に与えられた何篇かの作品についてその場でレポートを作成してもらい、翌週、優れたものを紹介する。毎時間この作業を通して、各自、詩をどのように読むかを会得してもらえれば幸いである。毎回、授業の始めにその日の狙いを説明するので、遅刻は絶対に認めない。第一回の授業の際に詩について解説するので、この日は必ず出席して欲しい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>成績は、毎回のレポートを 10 点満点とし、12 回分の 120 点の 6 掛け、72 点が合格のボーダーとなる。そのため、欠席は非常に不利になる。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>テキストはプリントを使用。</p> <p>参考文献 <i>The Tenth Muse</i> (Harvard), <i>Roots of Lyric</i> (Princeton), <i>Language as Symbolic Action</i> (California)</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. T. S. Eliot 2. W. B. Yeats 3. W. Shakespeare 4. W. Wordsworth 5. A. E. Houseman 6. J. Joyce 7. E. B. Browning 8. C. Rossetti 9. E. Brontë 10. E.E. Cummings 11. E. Dickinson 12. D. Thomas <p>上記の詩人は飽くまで予定であって、受講者の反応を見ながら、多少の入れ替え、変更があり得る。</p>	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英語圏の詩 b 英米の詩 b 英米の詩 b	担当者	原 成吉
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>(アメリカ詩)</p> <p>まず第一に詩を楽しむこと。詩の言葉をとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。</p> <p>アメリカ先住民の口承詩(うた)、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人の作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、“here and now”の視点から論じる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート(ワープロで 4,000 字程度の作品論)で評価します。欠席が授業回数の 1/4 を越えた場合は、単位を認定しません。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>テキストはプリントを使用。</p> <p>参考文献 Jay Parini ed., <i>The Columbia History of American Poetry</i> (New York: Columbia UP, 1993) 亀井俊介・川本皓嗣編『アメリカ名詩選』(岩波文庫) D・W・ライト編『アメリカ現代詩 101 人集』(思潮社)</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アメリカの大地の声—Native American の歌を聴く 2 Rock の Lyrics 読む—Bob Dylan と Paul Simon のアメリカ 3 デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人—Walt Whitman がみたアメリカのヴィジョン 4 マイクロコスモのなかのマクロコスモ—女性詩人 Emily Dickinson の世界 5 モダニズムの起源を探る (1) Ezra Pound がみた東洋の詩学 6 (2) T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrok” —詩に描かれた現代人の苦悩 7 (3) William Carlos Williams がみたアメリカの美学 8 (4) e. e. cummings の “typography” が創る「感じる」詩 9 ポストモダンの詩を読む (1) Allen Ginsberg の “A Supermarket in California” を読む 10 (2) Gary Snyder の “Ripples on the Surface” を読む 11 (3) Sylvia Plath の “Daddy” を読む 12 (4) Robert Creeley の “The Whip” を読む 	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英語圏の演劇 a 英米の演劇 a 英米の演劇 a	担当者	児嶋 一男
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代や社会の風潮が、どういふふう演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台上しゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を出したいと思ひます。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品も取りあげます。実際に劇場に観に行つて、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知つて下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱ひとします。公欠扱ひは一切ありません。授業回数 の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問はず</u>、単位を認めません。</p>		<p>予定作品（邦題）：</p> <p>『オセロ』、『トップ・ガールズ』、『ドリー・ウェストの台所』、『アンネの日記』、『エクウス（馬）』、『すべて世は事もなし』、『ミュージカル・ヘドウィック』、『パレードを待ちながら』、『ミュージカル・森の中に』、『ミュージカル・ミス・サイゴン』、『イニシュマン島のびっこ』、『請願』、『マツモト・シスターズ』、『ハウイー・ザ・ルーキー』、『パバ、アイ・ラヴ・ユー』、『コミック・ポテンシャル』、『コリオレイナス』、歌舞伎など。</p>	
<p>観劇レポート（800字）2編で76%、授業で24%。 学期末の定期試験はありません。 レポートに関する詳細は初回授業で説明します。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>英米の現代演劇の台本の抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	英語圏の演劇 b 英米の演劇 b 英米の演劇 b	担当者	児嶋 一男
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代や社会の風潮が、どういふふう演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台上しゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を出したいと思ひます。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品も取りあげます。実際に劇場に観に行つて、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知つて下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱ひとします。公欠扱ひは一切ありません。授業回数 の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問はず</u>、単位を認めません。</p>		<p>予定作品（邦題）：</p> <p>『テラ・ノヴァ』、『スポイルズ・オブ・ウォー』、『怒りを込めて振り返れ』、『バッファローの月』、『ルーム・サービス』、『アザー・ピープル』、『クリスマス・キャロル』、『丘の上のイエツベ』、その他、シェイクスピア作品や歌舞伎など。</p>	
<p>観劇レポート（800字）2編で76%、授業で24%。 学期末の定期試験はありません。 レポートに関する詳細は初回授業で説明します。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>英米の現代演劇の台本の抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>			

02年度 01年度以前	英語圏文学特殊講義 a 英語圏文学特殊講義 a	担当者	高橋雄一郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>(パフォーマンス研究入門)</p> <p>パフォーマンス研究は近年欧米で注目を集めている、学際的で、インター・カルチュラルな研究領域であり、個人や集団により反復される行為（パフォーマンス）が、文化の組成やアイデンティティの構築にかかわっているとの認識の下に、権力の所在を顕在化し、支配の構造にメスを入れようとする。研究対象は、舞台芸術限らず、日常の行為や、儀礼、スポーツなどのイベント、共同体による集成的パフォーマンスと幅広い。</p> <p>この授業はパフォーマンス研究の紹介を目的とし、研究領域の拡がりや方法論などを論じる。</p> <p>この分野の第一人者である Richard Schechner による <i>Performance Studies: An Introduction</i> (Routledge, 2002) の抜粋をテキストに用いる。原本は図書館の指定図書にしてあるので、最初の授業の前に、各自 Chapter 2 をコピーし、22ページの最後のパラグラフまで予習しておくこと。また、プレヒトの演劇理論についても、簡単に調べてきてほしい。</p> <p>なお、昨年春学期の授業とは重複する部分が多いので、重複履修は認められない。</p>			
◆評価方法			
授業中の発表と学期末レポート。毎回の予習、出席、議論への参加が単位取得の前提となる。			
◆テキスト、参考文献			
図書館の指定図書を参照のこと。その他は授業中に紹介、あるいはコピーを配付する。			

02年度 01年度以前	英語圏文学特殊講義 b 英語圏文学特殊講義 b	担当者	高橋雄一郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>(パフォーマンス研究の応用)</p> <p>秋学期では、研究の具体例として、博物館やテーマパークにおける展示とツーリズムの問題に焦点を絞り、教養やレジャーを提供する装置が、観客や旅行者に呼びかけをおこない、彼ら／彼女たちの主体を構築する過程を検証する。</p> <p>テキストにはこの領域で優れた業績を挙げている Barbara Kirshenblatt-Gimblett の <i>Destination Culture: Tourism, Museums, and Heritage</i> (U of California, 1998) を中心に用いる。原本は図書館の指定図書にしてあるので、最初の授業の前に、各自 Part 2 をコピーしておくこと。</p> <p>春学期の授業の応用編であるので、春・秋と連続して受講することが望ましい。</p> <p>なお、昨年秋学期の授業とは全く別の内容なので、重複履修も歓迎する。</p>			
◆評価方法			
授業中の発表と学期末レポート。毎回の予習、出席、議論への参加が単位取得の前提となる。			
◆テキスト、参考文献			
図書館の指定図書を参照のこと。その他は授業中に紹介、あるいはコピーを配付する。			

02年度 01年度以前	英語圏文化特殊講義 a 英語圏文化特殊講義 a (ポストコロニアルの多様性)	担当者	上野 直子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(目的) 様々な立場から書かれた文学テキストに触れて、現実のひとつではないこと、おなじものを見ても感じ方は立場により異なること、そしてその差異のもとには、歴史や政治がかかわっている場合があることを体感してほしい。</p> <p>(概要) かつての帝国イギリスは20世紀の後半から否応なく多文化・多人種の社会へと変わりつつある。文学においても、旧植民地をルーツとする書き手たちの活躍が目立つようになっていく。出身地・人種・ジェンダーなどが異なるポストコロニアルの作家たちのテキストをとりあげ、そこに描き出された多岐にわたる問題を考察する。またポストコロニアルの共通問題を分析的に考察するだけではなく、個々のテキストが語る人生の物語を味わっていききたい。</p> <p>(受講にあたって) 授業計画にとりあげたテキストは事前にプリントを渡すので必ず読んでおくこと。取り上げる作家についても可能な範囲で調べておくこと。各自が調べたことについての任意のプレゼンテーションを歓迎します。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席・クラスへの貢献度(任意のプレゼンテーション)・小テスト・レポートを総合評価</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>随時プリントを配布します。参考文献も随時紹介します。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1. イントロダクション 2 & 3. ブラック・プリティッシュとは Hanif Kreishi, <i>My Beautiful Laundrette</i>, Dir. Stephen Frears. 1986. (ビデオ) 4 & 5. 戦後移民の波 Caryl Phillips, "The Pioneers: Fifty Years of Caribbean Migration to Britain" 1998. <i>A New World Order</i>, 2001 6 & 7. カリビアン・ルネッサンス Geroge Lamming, extracts from <i>Pleasures of Exile</i>, 1960. Sam Selvon, extracts from <i>Lonely Londoners</i>, 1956 8 & 9. 「ジャングルに帰れ！」人種対立に揺られて E.R. Braithwaits, extracts from "Choice of Straw", 1965. Linton Kwesi Johnson, "England Is A Bitch", "All Wi Doin Is Defendin" 他 10 & 11. 彼女たちの物語 Buchi Emecheta, extracts from <i>Second Citizen</i>, 1974. Joan Riley, "Mulberry Tree" 12. まとめ・小テスト・レポートについて (テストは歴史・文化に関する事実について)</p>	

02年度 01年度以前	英語圏文化特殊講義 b 英語圏文化特殊講義 b (ポストコロニアルの多様性)	担当者	上野 直子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(目的) 前期とおなじ。</p> <p>(概要) 前期にひきつづきポストコロニアルの作家のテキストを読むが、今期は舞台が(旧)植民地のもの、主に女性作家の手になるものを扱う。ただし人種は黒人も白人も含まれる。植民地の有色の女は、支配されるものとして、女として、二重の困難に捕えられている。また植民地で白人(クレオール)の女であることにも、複雑な立場にまつわる独特のつらさがともなう。ある者は破滅し、ある者は闘いつづける。植民地と女に焦点をあてながら、さまざまな人生の闘いへと、想像力をひらいてみよう。</p> <p>(受講にあたって) 前期に準じる。後期の注意は以下のとおり。受講前にかかわらず、Charlotte Bronteの <i>Jane Eyre</i> の内容を把握しておくこと(原書でなくても、翻訳でもビデオでも可)。また下記に指定したテキストは各自で購入 (amazon.co.jp などのオンライン・ストアが一番安価)。いくつかの版があるが、授業中に頁数がまちまちだと不便なので、以下に示した ISBN のものを購入のこと。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席・クラスへの貢献度(任意のプレゼンテーション)・小テスト・レポートを総合評価</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Jean Rhys, <i>Wide Sargasso Sea</i>, W.W.Norton. (ISBN 0393308804)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1. イントロダクション 2~5. 書き直される物語---「いつも、そう、いつももうひとつの物語があるの」 Jean Rhys, <i>Wide Sargasso Sea</i>, 1966 6 & 7. 帝国の終わりに Doris Lessing, <i>The Grass Is Singing</i>, 1950. 8 & 9. 暮らしのきらめき Samuel Selvon, "Song of Sixpence" Olive Senior, "Do Angels Wear Brasseries?" 10 & 11. 語り返す女たち Jamaica Kincaid を中心に Jamaica Kincaid, <i>Annie John</i>, 1988. Jamaica Kincaid, <i>Lucy</i>, 1990. 12. まとめ&小テスト&レポートについて (テストは歴史・文化に関する事実について)</p>	

02年度 01年度以前	英米文学文献研究 a 英米文学文献研究 a	担当者	白鳥正孝
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>マザーグースなどのやさしい英詩を導入にして基本的な英詩を分析し味わう力を養うと共に、ロマン派等のやや古い英詩についても鑑賞しうる能力を身につけることを目的とする。更なる専門性へ導く為入手可能な文献を、なるべく多く明示する。</p> <p>初めは、導入として詩形について講ずる。次いで比較的古い詩（シエクスピア等）を垣間見た後、W.Blake(1757-1827),R.Burns(1759-1796),W. Wordsworth(1770-1796)等のロマン派から現代に至るまでを概観する。</p> <p>参考文献</p> <p>新井明 『英詩鑑賞入門』（研究社、1987年）</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、及び詩形について 2. William Shakespeare/ SirHenry Wotton 3. Ben Jonson/ George Herbert 4. William Blake/ Robert Burns 5. James Hogg/ William Wordsworth 6. SirWalter Scot/ Charles Lamb 7. William Savage Landor/ Leih Hunt 8. Thomas Love Peacock/ Percy Bysshe Shelley 9. John Keats/ Geoge Darley 10. Thomas Hood/ Ralph Waldo Emerson 11. Henry Wadsworth Longfellow/ E.A.Poe 12. Alfred Tennyson/ Robert Browning 	
◆評価方法			
試験をする。			
◆テキスト、参考文献			
斎藤和明 編注 『入門英米詩選』（研究社、昭和47年）			

02年度 01年度以前	英米文学文献研究 b 英米文学文献研究 b	担当者	白鳥正孝
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. Emily Bronte/ Arthur Hugh Clogh 2. William Cory/ William Allingham 3. Henry Kingsley/ Emily Dickinson 4. Christina Georgina Rossetti/ Thomas Hardy 5. Robert Bridges 6. Robert Louis Stevenson 7. Francis William Bourdillon 8. Ralph Hodgson 9. Walter de la Mare 10. Siegfried Sasson 11. Charles Hamilton Sorley 12. Edmond Blunden 	
◆評価方法			
試験をする。			
◆テキスト、参考文献			
同上			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語圏の社会と思想 a 英米の社会と思想 a 英米の社会と思想 a	担当者	福井 嘉彦
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>アングロ=サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。</p> <p>なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(1)父性神と母性神 (2)ヘレニズムとヘブライズム 2. ローマン=ブリテン：ケルト人とキリスト教 3. ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 4. イングランドのキリスト教化 5. デーン人とアルフレッド大王 6. カロリング王朝とイングランドのキリスト教 7. グレゴリウス7世の教会改革 8. イングランドの教会改革 9. 中世の異端 10. 地獄墮ちへの恐怖 11. 黒死病と農民一揆 12. 教皇権の栄光と下降 13. 中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 <p>以上の各項を述べる予定。</p>	
◆評価方法			
<p>出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語圏の社会と思想 b 英米の社会と思想 b 英米の社会と思想 b	担当者	福井 嘉彦
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>春学期に準じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ルター：我ここに立つ 2. ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 3. イングランドの宗教改革：ヘンリー8世 4. エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 5. エリザベス1世の宗教改革 6. ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 7. スチュワート王朝の国教会 8. 国王の処刑とピューリタニズム 9. ピルグリム=ファーザーズ 10. 王政復古から名誉革命以降 11. 啓蒙主義時代から現代まで <p>以上の各項を述べる予定。</p>	
◆評価方法			
<p>春学期に準じる。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>春学期と同じ。</p>			

03 年度以降 英語圏の歴史 a
 02 年度 英米の歴史 a
 01 年度以前 英米の歴史 a

担当者 佐藤 唯行

◆講義目的、講義概要

(前期) ユダヤ人と英国社会との最初の出会いか
 ら現代に至る英国史の文脈の中で、英国人との共生
 を目指しつつユダヤ人の歩みを出る。彼等ユダ
 ヤ人の足跡に光を照射する事により、これまでの英
 国史研究(多数派英国人側に視点を置いた英国史研
 究)の中では、見落とされてきた英国社会の新たな
 特質を解明する。
 前期は下記二冊の「テキスト」にそ
 って授業を行なう。

◆評価方法

評価は前後期各1回の筆記試験によって決定する。
 出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストの
 み持込み可。

◆テキスト、参考文献

『英国ユダヤ人』佐藤唯行(1995年)講談社選書
 1500円、『アメリカ・ユダヤ人の経済力』佐藤唯行 1999年
 PHP新書 660円

◆授業計画

- 1 17世紀英国のユダヤ人金融
- 2 儀式 殺人告発の神話
- 3 千年王国思想とユダヤ人再入国
- 4 17-18世紀英国外国貿易とユダヤ人
- 5 英国人地主貴族社会へのユダヤ人の同化現象
- 6 ドイツ系ユダヤ移民の流入により生じた貧民問題
- 7 19世紀末英国の移民排斥論のメカニズム
- 8 英国ファシスト勢力との対決
- 9 現代アメリカユダヤ人の経済力の史像
- 10 アメリカ経済史の中のユダヤ人
- 11 ワオール街のユダヤ人, M&A アドヴァイザリー業務
とエンビロメント
- 12 アメリカ経済のユダヤ・パワー, 大物たすの人脈, 人使い
と資金力

03 年度以降 英語圏の歴史 b
 02 年度 英米の歴史 b
 01 年度以前 英米の歴史 b

担当者 佐藤 唯行

◆講義目的、講義概要

(後期) 植民地時代から現代にいたるアメリカ合
 衆国史を通史的に展望する。政治史・経済史のみな
 らず、女性史・社会史の研究結果もとり入れて講義
 を行なう。

後期のテーマは「アメリカ合衆
 国の通史。」毎回、完全に文章化されたレジメを配布
 予定。

◆評価方法

前期と同じ

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

- 1 アメリカ史の特質 — 封建性の欠除, 広大な自由地
の存在, セクシユンの多様性—
- 2 イギリス領北米植民地の建設
- 3 アメリカ独立革命
- 4 ジェファソンの政権の内政と外交
- 5 領土的膨張
- 6 奴隷廃止と南北戦争
- 7 フロントティアの消滅, メカロポリスの形成
- 8 第一次大戦への参戦, 1920年頃の都市と農村
- 9 ニューデールと第二次大戦
- 10 「豊か不平等」とベビーブーム, ベトナム戦争
- 11 「帝王的大統領制」の終末, マソリテイの地位
向上
- 12 今日のアメリカ

03年度以降 02年度 01年度以前	英語圏のエリア・スタディーズ a 英米事情 a 英米事情 a	担当者	高橋雄一郎、他
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>エリア・スタディーズは一般に「地域研究」と訳され、地理的に区分される地域や国を研究の対象にしますが、たとえば「アメリカの文学」や「ヨーロッパの政治学」といった、特定の学問領域に縛られるのではなく、人文社会諸科学の幅広い領域を横断し、包括的で、かつ複眼的である、interdisciplinary/multidisciplinary なアプローチにその特徴があります。</p> <p>この一連の講義では、英語学科の専任教員が、それぞれの専攻や経験に基づいて、英語圏の社会と文化の成り立ちを、言語、文学、芸術、歴史、教育、政治、思想、宗教、民族など、さまざまな視点から読み解いていきます。同時に、最近のホットな 이슈にも触れながら、グローバル社会を生きる私たちが、「今、ここで」何を考え、いかに行動すべきか、議論を進めていきます。</p> <p>各回の講義概要を初回に配付します。受講生は毎回きちんと予習をした上で、授業に臨むこと。10分以上の遅刻は欠席扱いになるので注意してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 4/14 高橋 雄一郎 ビルマを英語圏の一員として考えようとするわけはどこ？ 4/21 大竹 孝司 脳科学と外国語学習 4/28 岡田 圭子 英語学習時のみんなの悩みは・・・？ 5/12 府川 謹也 日英語にあらわれる物の見方の違い 5/19 安井 美代子 日英語に共通する文法の法則 5/26 大西 雅行 日英の発音の違い 6/02 杉山 晴信 法規範としての”Plain English” 6/09 佐藤 勉 物語りと想像力 6/16 白鳥 正孝 マザーグースと美しい英詩 6/23 竹田 いさみ オーストラリアー多文化ミドル・パワー 6/30 町田 喜義 加米比較：モザイクとメルティング・ポット 7/07 山本 英政 銃社会アメリカのジレンマ <p>なお、初回のプリントは高橋研究室(611)外に用意してあるので、各自、読んでおくこと。</p>	
◆評価方法			
<p>学期末試験による。ただし、欠席が4回を超える学生には単位を認定しない。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>各担当者が、原則として授業の前週までに指示するものとする。</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	英語圏のエリア・スタディーズ b 英米事情 b 英米事情 b	担当者	児嶋一男、他
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>上に同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> 09/29 児嶋 一男 劇作品と文化 10/06 金子 芳樹 東南アジア準英語圏諸国の歴史と社会 10/20 永野 隆行 English Speaking Alliance と戦後国際関係 10/27 中村 粲 米国極東政策50年の錯誤(1898-1948) 11/10 石井 敏 日系アメリカ人の苦難の足跡—強制収容所問題を中心に 11/17 佐藤 唯行 アメリカ政治とユダヤ人 11/24 鍋倉 健悦 日本語と英語 12/01 阿部 一 アメリカのCMを通してことばと文化をみる 12/08 浅岡 千利世 多言語社会と言語教育 12/15 柿田 秀樹 メディアと思想 12/22 工藤 和宏 大学の国際化—豪州を例に 01/12 園部 明彦 宮廷風恋愛について 	
◆評価方法			
<p>上に同じ</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>上に同じ</p>			

03年度以降 異文化間コミュニケーション論 a 02年度 異文化間コミュニケーション論 a 01年度以前 異文化間コミュニケーション論 a	担当者	石井 敏
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 本講義には、相互に関連した3種類の基本目的がある。第1の目的は、日本社会に根強い欧米文化崇拝意識を異文化間の平等意識に変革することである。第2は、欧米文化理解・模倣の一方向コミュニケーションの受信型態度を、異文化間の平等意識に基づく双方向コミュニケーションの発信型態度に改善することである。そして第3は、上の2目的を達成するために不可欠な条件として、自文化すなわち日本文化に関する理解を深め、諸問題を英語で表現する能力を育成することにより、国際的に健全な英語学習・教育観を築くことである。</p> <p>講義概要 総合的内容は、文化の概念、コミュニケーションの概念、文化とコミュニケーションの相関関係である。具体的には、「文化とは」、「文化の差異」、「コミュニケーションとは」、「ことばとコミュニケーション」、「ことばをこえたコミュニケーション」等である。</p> <p>◆評価方法 受講生が多数になると予想されるので、学期末試験の成績による。</p> <p>◆テキスト、参考文献 古田暁ほか『異文化コミュニケーション・キーワード』（新版）、有斐閣。</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講上の注意、英語ノートの取り方、文化、世界観、価値観 2. 文化相対論、共文化、第三の文化、多文化主義、文化帝国主義 3. 時間、空間、宗教、人間観、儀礼 4. 倫理観、法意識、イエ、生死観、個人主義と集団主義 5. 達成と生得、偏見、自民族優越主義、ステレオタイプ、タブー 6. コミュニケーション、コード、意味づけ、フィードバック、知覚・認知 7. 理解と誤解、感情移入・共感、自己概念、コンテキスト、コミュニケーション・レベル 8. コミュニケーション・パターン、国際コミュニケーション、コミュニケーション倫理、IT革命、言語政策 9. 言語と文化、言語と思考、言語相対説、言語メッセージ、レトリック 10. アホギア、ロイス・バース・エス、メタファー、スモール・トーク、ユーモア 11. 敬語、婉曲表現、非言語メッセージ、身振り言語、視線 12. 近接学、身体接触行動、周辺言語、間、沈黙 	

03年度以降 異文化間コミュニケーション論 b 02年度 異文化間コミュニケーション論 b 01年度以前 異文化間コミュニケーション論 b	担当者	石井 敏
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 本講義には、相互に関連した3種類の基本目的がある。第1の目的は、日本社会に根強い欧米文化崇拝意識を異文化間の平等意識に変革することである。第2は、欧米文化理解・模倣の一方向コミュニケーションの受信型態度を、異文化間の平等意識に基づく双方向コミュニケーションの発信型態度に改善することである。そして第3は、上の2目的を達成するために不可欠な条件として、自文化すなわち日本文化に関する理解を深め、諸問題を英語で表現する能力を育成することにより、国際的に健全な英語学習・教育観を築くことである。</p> <p>講義概要 総合的内容は、文化とコミュニケーションと人間関係、文化的特性と社会関係、異文化（間）コミュニケーションと外国語学習・教育等である。具体的には、「異文化と人間関係」、「異文化と社会関係」、「異文化コミュニケーション教育」等である。</p> <p>◆評価方法 受講生が多数になると予想されるので、学期末試験の成績による。</p> <p>◆テキスト、参考文献 古田暁ほか『異文化コミュニケーション・キーワード』（新版）、有斐閣。</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハラ、以心伝心、Pタイム・Mタイム、対人関係、文化的アイデンティティ 2. ガイジン、カルチャー・ショック、縁、和、家族 3. 公と私、タテとヨコ、ウチとソト、世間体、仲介者 4. 贈答、礼儀、ホンネとタテマエ、義理と人情、なじみ 5. 甘え、補完と対称、異性間コミュニケーション、共生、グローカリゼーション 6. 民族紛争、国際協力、派閥、イノベーション、労使関係 7. 交渉、稟議と根回し、意思決定、葛藤、多文化経営 8. 現地主義、国際報道、プロバガンダ、コマーシャル、リーダーシップ 9. マイノリティ、国籍、国際結婚、外国人就労者、エスニック・ネットワーク 10. 異文化理解教育、コミュニケーション能力、外国語教育、日本語教育、バイリンガリズム 11. 通訳・翻訳、民族教育、環境コミュニケーション教育、海外子女教育、帰国子女教育 12. 海外留学、滞日外国人留学生、国際学校、異文化カウセリング、異文化コミュニケーション訓練 	

03年度以降 異文化間コミュニケーション論 a 02年度 異文化間コミュニケーション論 a 01年度以前 異文化間コミュニケーション論 a	担当者	鍋倉 健悦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>異文化間コミュニケーションとは、異なる文化を持つ人々の間で、互いの文化に関する情報や知識の交換である。だからある定数以上の知的レベルで異文化間コミュニケーションしようとする。そのためには自文化についての知識と洞察力が必ず必要となる。いくら外国語の堪能でも、それらがなければ知的コミュニケーションはできない。そのことに付いては、以下の本講義の目的である。</p> <p>◆評価方法 レポート</p> <p>◆テキスト、参考文献 「異文化間コミュニケーションへの招待」北條 隆雄 著 「異文化間コミュニケーション入門」 著者不明</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 異文化間コミュニケーションから何を学ぶか 2 異なる心理世界 3 異文化間コミュニケーションの難しさ 4 異文化間コミュニケーションの歴史 5 異文化間コミュニケーションの重要性 6 異文化間コミュニケーション研究のスタイル 7 異文化間コミュニケーションの背景 8 異文化間コミュニケーションの現状 9 異文化体験 10 国際英語の時代 11 文化のグローバル化 12 まとめ 	

03年度以降 異文化間コミュニケーション論 b 02年度 異文化間コミュニケーション論 b 01年度以前 異文化間コミュニケーション論 b	担当者	鍋倉 健悦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上</p> <p>◆評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 対物学 2 キネシク 3 時間学 4 空間学 5 音韻学 6 言語とは何か 7 ことばの不思議 8 ことばのカベをのりこえて 9 多言語社会 10 ネグリエーション 11 言語と文化 12 まとめ 	

03年度以降 02年度 01年度以降	マス・コミュニケーション論 a マス・コミュニケーション論 a マス・コミュニケーション論 a	担当者	佐々木 輝美
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><講義の目標>マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、かつそれらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。</p> <p><講義概要>本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の数週間で、マス・コミュニケーションのモデルおよび効果について解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。最後はマスコミと教育の問題を扱う予定。</p>		<p>(1) 導入マス・コミュニケーションとは</p> <p>(2) コミュニケーションについての基礎知識①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセスの概念について ・意味はどこに存在するか？ <p>(3) コミュニケーションについての基礎知識②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディア接触について <p>(4) マス・コミュニケーションのモデルについて①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルの長所と短所 <p>(5) マス・コミュニケーションのモデルについて②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの要素 <p>(6) ビデオ視聴&解説</p> <p>(7) マスコミ効果概念について①効果とは</p> <p>(8) マスコミ効果概念について②順機能と逆機能</p> <p>(9) ビデオ視聴&解説</p> <p>(10) マス・コミュニケーションと教育①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『セサミストリート』の背景 <p>(11) マス・コミュニケーションと教育②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『セサミストリート』の科学的手法 <p>(12) 前期のまとめ</p>	
◆ 評価方法			
定期試験による。出席は参考程度。			
◆テキスト、参考文献			
<p>・テキストの代わりにプリントを配布します。</p> <p>参考文献：岡崎篤郎他編著『マス・コミュニケーション効果研究の展開(新版)』北樹出版 1996</p>			

03年度以降 02年度 01年度以降	マス・コミュニケーション論 b マス・コミュニケーション論 b マス・コミュニケーション論 b	担当者	佐々木 輝美
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><講義の目標>マス・コミ影響研究に関する基本用語、概念などを説明することができ、かつそれらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。</p> <p><講義概要>マス・コミュニケーションの「影響研究」を中心に講義を行う予定。前半では、具体的なモデルを挙げながら影響研究の歴史的な流れを説明する。後半は、具体的な問題として、「メディア暴力の青少年への影響」を取り上げ、影響のメカニズムや対応策について説明していく。</p>		<p>(1) マスコミの影響研究について①弾丸理論</p> <p>(2) マスコミの影響研究について②限定効果モデル</p> <p>(3) マスコミの影響研究について③適度効果モデルから強力効果モデルへ</p> <p>(4) メディア暴力研究について①研究の背景</p> <p>(5) メディア暴力研究について②カタルシス理論</p> <p>(6) メディア暴力研究について③観察学習理論</p> <p>(7) メディア暴力研究について④脱感作理論</p> <p>(8) メディア暴力研究について⑤カルティベーション理論</p> <p>(9) ビデオ視聴&解説</p> <p>(10) メディア暴力についての4理論のまとめ (暴力番組の類型化の必要性)</p> <p>(11) メディア暴力への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送り手側の責任と受け手側の気付き ・メディア・リテラシー教育 <p>(12) まとめ</p>	
◆ 評価方法			
定期試験による。出席は参考程度。			
◆テキスト、参考文献			
<p>・テキストとして、佐々木輝美『メディアと暴力』勁草(けいそう)書房 1996、を使用します。</p> <p>・参考文献：H. J. アイゼンク他著 岩脇三良訳『性暴力メディア』新曜社 1982</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	スピーチ・コミュニケーション論 a スピーチ・コミュニケーション論 a スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	板場良久(秋学期開講)
◆講義目的、講義概要 <p>☆この時限のクラスでは、論理的に発言および議論するために必要な基本的スピーチ理論を学びます。</p> <p>☆スピーチ・コミュニケーションとは単なる音声表現のことではありません。スピーチ・コミュニケーションとは、スピーチという発話を人間関係のダイナミクスに投じることによってさらに次の発話の可能性が生み出されていく生きたプロセス、すなわち発話の人間の連鎖です。発話としてのスピーチとは、政治演説や結婚式での祝辞のようなものから、何気ない一言や会議での発言、意味ありげな仕草や沈黙さえも発話として機能しますので、これらもコミュニケーション・プロセスに投じられるスピーチの一種と定義できます。この講義では、言葉で構成され、まとまった時間を費やして発せられた発話を中心に考えてみましょう。具体的には、さまざまな状況に対応したスピーチの技術(知恵)をまず学んでいただきます。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. 概略説明 2. スピーチの作り方を覚えよう 3. 実際のスピーチを分析しよう 4. スピーチの実践と審査(分科会) 5. スピーチの実践と審査(全体会) 6. ディベートの形式とルールを覚えよう(1) 7. ディベートの形式とルールを覚えよう(2) 8. 実際のディベートを分析しよう 9. ディベートの実践と審査(分科会Ⅰ) 10. ディベートの実践と審査(分科会Ⅱ) 11. ディベートの実践と審査(全体会) 12. ディベートの実践と審査(全体会) <p>(予備日: 不要な場合にはクイズをやる可能性もあります。)</p>	
◆評価方法 <p>クイズ(不定期1~2回、20%)、日本語でのスピーチとディベートの体験(発表と審査80%)の総合成績による。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>プリント配布予定</p>			

03年度以降 02年度 01年度以前	スピーチ・コミュニケーション論 b スピーチ・コミュニケーション論 b スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	板場良久(秋学期開講)
◆講義目的、講義概要 <p>☆この時限のクラスでは、スピーチを批判的に分析することで、批判能力のある発言者としてコミュニケーションに参加するために必要な賢慮・視点を養います。</p> <p>☆「スピーチ・コミュニケーション」の基本概念については、「a」の記述を参照。</p> <p>☆人間が発話をする際に常に立ちはだかる文化イデオロギーの作用などについても探究し、そのメカニズムを暴き皆さんがそれに立ち向かえるだけの分析力と批評能力を養うきっかけ作りをしたいと思います。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. 概略説明: スピーチは「作品」ではない、という主張の意味について考えよう。 2. 上手・下手の枠組みからの脱却: 自分の位置、話者の位置、聴取の位置を見直そう。 3. イデオロギー: 自分たちの行為主体性を取り戻そう 4. イデオロギー批評の実例 5. フェミニズム: 女性蔑視のスピーチを批判しよう 6. フェミニスト批評の実例 7. 様々な英語スピーチを批判的に分析しよう(1) 8. 様々な英語スピーチを批判的に分析しよう(2) 9. グループ発表(批評)とその講評 10. グループ発表(批評)とその講評 11. グループ発表(批評)とその講評 12. グループ発表(批評)とその講評 <p>(予備日: 不要な場合にはクイズをやる可能性もあります。)</p>	
◆評価方法 <p>クイズ(不定期1~2回、20%)および口頭発表と講評(グループ単位、80%)の総合成績による。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>プリント配布予定</p>			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	スピーチ・コミュニケーション論 a スピーチ・コミュニケーション論 a スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田 秀樹
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解 / 実践できるようにすることである。講義における学生の目標は以下の2点である。第一に口承、文学、さらには電子メディアを媒介した表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第二にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に活用できるようにすることである。</p> <p>講義概要 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。スピーチ・コミュニケーション論 a/b で異なるレトリック批評の系譜を題材とし、系譜に沿って理論家の諸視点を提示する。スピーチ・コミュニケーション論 a では、主に伝統的レトリック分析の対象となる説得手段としての言説の表象性やその効果について触れる。この系譜においてはアリストテレス主義の枠組みを理解することが中心の課題となる。</p> <p>◆ 評価方法 評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度による総合評価。</p> <p>◆ テキスト、参考文献 Sonja K. Foss, Karen A. Foss, and Robert Trapp. <i>Contemporary Perspectives on Rhetoric</i>. Third Ed. Prospect Heights, IL: Waveland Press, Inc. 2001.</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：スピーチ・コミュニケーションにおけるレトリック研究の視点 (テキスト 第1章：An Introduction to Rhetoric) 2 オリエンテーション：スピーチ・コミュニケーションにおけるレトリック研究の視点 (テキスト 第1章：An Introduction to Rhetoric) 3 I. A. リチャード (第2章：I. A. Richards) 4 I. A. リチャード (第2章：I. A. Richards) 5 スティーブン・ツールミン (第5章：Stephen Toulmin) 6 スティーブン・ツールミン (第5章：Stephen Toulmin) 7 スティーブン・ツールミン (第5章：Stephen Toulmin) 8 カイム・ペレルマン (第4章：Chaim Perelman and Lucie Olbrechts-Tyteca) 9 カイム・ペレルマン (第4章：Chaim Perelman and Lucie Olbrechts-Tyteca) 10 カイム・ペレルマン (第4章：Chaim Perelman and Lucie Olbrechts-Tyteca) 11 カイム・ペレルマン (第4章：Chaim Perelman and Lucie Olbrechts-Tyteca) 12 前期総括 	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	スピーチ・コミュニケーション論 b スピーチ・コミュニケーション論 b スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田 秀樹
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解 / 実践できるようにすることである。講義における学生の目標は以下の2点である。第一に口承、文学、さらには電子メディアを媒介した表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第二にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に活用できるようにすることである。</p> <p>講義概要 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。スピーチ・コミュニケーション論 a/b で異なるレトリック批評の系譜を題材とし、系譜に沿って理論家の諸視点を提示する。スピーチ・コミュニケーション論 b では、20世紀後半のレトリック批評への諸アプローチを紹介する。これらの批評研究を通じて、現代のレトリックが実践される複雑な社会・文化状況を改めて識別することが促される。スピーチ・コミュニケーション論 a と継続性のある講義なので、すべての学生がスピーチ・コミュニケーション論 a の講義で学習したことを既に理解していることを前提に講義を進めていく。</p> <p>◆ 評価方法 評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度による総合評価。</p> <p>◆ テキスト、参考文献 Sonja K. Foss, Karen A. Foss, and Robert Trapp. <i>Contemporary Perspectives on Rhetoric</i>. Third Ed. Prospect Heights, IL: Waveland Press, Inc. 2001.</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アーネスト・グラッシー (第3章：Ernesto Grassi) 2 アーネスト・グラッシー (第3章：Ernesto Grassi) 3 アーネスト・グラッシー (第3章：Ernesto Grassi) 4 アーネスト・グラッシー (第3章：Ernesto Grassi) 5 ケネス・バーク (第7章：Kenneth Burke) 6 ケネス・バーク (第7章：Kenneth Burke) 7 ケネス・バーク (第7章：Kenneth Burke) 8 ミシェル・フーコー (第11章：Michel Foucault) 9 ミシェル・フーコー (第11章：Michel Foucault) 10 ミシェル・フーコー (第11章：Michel Foucault) 11 ミシェル・フーコー (第11章：Michel Foucault) 12 総括 	

02年度 01年度以前	コミュニケーション論特殊講義 a コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	柿田 秀樹
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>表象文化の研究はコミュニケーション論、特にレトリック研究の分野で注目を集めている分野である。表象文化の研究は絵画等の諸芸術作品から、映画、広告、アニメ、建築、展示、そして言語まで幅広いイメージを含んでいる。本講義では諸表象と文化の関係をコミュニケーション実践の視点からとらえ、そこに見いだされる表象関係をレトリック理論の立場から明らかにしていく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度による総合評価。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>随時授業で指示する。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 表象 (representation) とは？ 3. 表象 (representation) とは？ 4. 表象 (representation) とは？ 5. 諸表象の分析 6. 諸表象の分析 7. 諸表象の分析 8. 諸表象の分析 9. 諸表象の分析 10. 諸表象の分析 11. 諸表象の分析 12. 総括 	

02年度 01年度以前	コミュニケーション論特殊講義 b コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	柿田 秀樹
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>現代のレトリックとコミュニケーション研究の中心は表象文化の理論を基礎にした権力関係の分析へと移行している。諸分野の境界を超えて見出される表象文化研究の背景にある「実践 (praxis)」という理論体系を、主体と権力関係というキーワードを中心に解説していく。</p> <p>コミュニケーション論特殊講義 a で分析した諸表象に加え、必要に応じて新たな表象の分析を施しつつ、表象文化の理論的諸前提を学んでいく。コミュニケーション論特殊講義 a と継続性のある講義なので、すべての受講生がコミュニケーション論特殊講義 a で学習したことを既に理解していることを前提に講義を進めていく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度による総合評価。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>随時授業で指示する。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 実践：表象と文化 3. 実践：表象と文化 4. 実践：表象と文化 5. 権力関係とは？ 6. 権力関係とは？ 7. 主体と権力の理論 8. 主体と権力の理論 9. 主体と権力の理論 10. 主体と権力の理論 11. 主体と権力の理論 12. 総括 	

02年度 コミュニケーション論文献研究 a 01年度以前 コミュニケーション論文献研究 a	担当者	石井 敏
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 最近の英語学習・教育では、コミュニケーション技能育成のみが重視され、思想・理論的な裏づけが軽視されがちである。しかし、思想・理論的な裏づけのない技能育成には、効果上の疑問が残るだけでなく、内容や方法が誤っている場合も少なくない。そこで本講義は、スピーチ・コミュニケーション理論の文献研究により、現在の英語学習・教育の健全化を図ることを目的とする。</p> <p>講義概要 現代の日本社会においてスピーチ・コミュニケーション理論を学習・教育することの意義を考察し、続いて対人コミュニケーション、小集団コミュニケーション、公的コミュニケーション、ディベート、文学作品の音声的解釈等を思想・理論的に研究する。</p> <p>◆評価方法 出席状況、授業中の研究発表の内容と方法、および学期末試験の成績による。</p> <p>◆テキスト、参考文献 Klopf & Ishii, <u>Effective Oral Communication</u> (英宝社)。 担当者作成のプリント教材。</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. General Introduction to the Course 2. Oral Communication (pp. 7-15) 3. Oral Communication (pp. 15-22) 4. Interpersonal Communication and Relationships (Print, pp. 1-6) 5. Interpersonal Communication and Relationships (Print, pp. 6-13) 6. Group Communication and Discussion (pp. 23-27 & pp. 36-44) 7. Group Communication and Discussion (pp. 44-54) 8. Public Communication and Speaking (pp. 27-31 & pp. 55-61) 9. Public Communication and Speaking (pp. 61-71) 10. Public Communication and Speaking (pp. 71-81) 11. Debate (pp. 31-33 & pp. 83-88) 12. Oral Interpretation (pp. 32-33 & pp. 104-115) 	

02年度 コミュニケーション論文献研究 b 01年度以前 コミュニケーション論文献研究 b	担当者	石井 敏
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的 最近の英語学習・教育では、コミュニケーション技能育成のみが重視され、思想・理論的な裏づけが軽視されがちである。しかし、思想・理論的な裏づけのない技能育成には、効果上の疑問が残るだけでなく、内容や方法が誤っている場合も多い。そこで本講義は、異文化(間)コミュニケーション理論の文献研究により、現在の英語学習・教育の健全化を図ることを目的とする。</p> <p>講義概要 現代の日本社会において異文化(間)コミュニケーション理論を学習・教育することの意義を考察し、続いて人間コミュニケーションと文化の関係、言語・非言語シンボルシステム、心理と文化の関係、異文化(間)コミュニケーション能力の育成方法を思想・理論的に研究する。</p> <p>◆評価方法 出席状況、授業中の研究発表の内容と方法、および学期末試験の成績による。</p> <p>◆テキスト、参考文献 Klopf & Ishii, <u>Communicating Effectively Across Cultures</u> (南雲堂)。 プリント教材。</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. General Introduction to the Course 2. The Global Village (pp. 1-10) 3. Communication, Culture, and Intercultural Communication (pp. 11-20) 4. Communication, Culture, and Intercultural Communication (pp. 20-28) 5. Symbolic Systems (pp. 29-36) 6. Symbolic Systems (pp. 36-46) 7. Intercultural Influences (pp. 48-59) 8. Intercultural Influences (pp. 59-73) 9. Becoming Culturally Sensitive (pp. 76-83) 10. The Importance. . . , Intercultural Communication (Print, 14-19) 11. The Importance. . . , Intercultural Communication (Print, 19-22) 12. Overall Review of the Course 	

03年度以降 02年度 01年度以前	国際社会論 a 国際政治論 a 国際政治論 a	担当者	竹田 いさみ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義では、現代の国際社会を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理に例えれば、材料（問題）をどのように料理（分析）するかを、学びます。</p> <p>第1の目標は、国際社会を具体的に見る眼を養うことです。第2の目標は、リアリズム、相互依存論、従属論と呼ばれるモデルやアプローチを理解することで、これが料理の方法（分析枠組み）に相当します。</p> <p>講義では、国際社会の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて、国際関係を分析します。「情報」のフローよりストックを重視し、表面的な現象に眼をとらわれるのではなく、その下に潜む「構造」に関心を払います。</p> <p>授業の前半は、米国CNN、英国BBCなどで放映された最新の海外ニュースを紹介し、説明します。後半はテキストを解説します。</p> <p>受講生から英語による質問、コメントは大歓迎です。英語でお答えしたいと思います。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>中間試験と期末試験を基本とします。授業開始直後に、登録を確認する作業があります。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト：『国際政治講義資料集』</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 国際社会を見る眼（木、林、森） 登録確認作業を予定 3 利害の調整（政治とは何か） 無限の欲望と有限の世界（21～27頁） 権力+正統性=権威（47～48頁） 4 国際政治学の誕生：E.H.カー（7～11頁） 理論とは何か（物理学、経済学、政治学、文学） 5 国内政治と国際政治の相違①（49～50頁） 6 国内政治と国際政治の相違② 7 国際社会論①ホッブス、カント、グロチウス（52～54頁） 8 国際社会論②ホッブス、カント、グロチウス 9 国際社会のイメージ① 現実主義、相互依存（56～61頁） 10 国際社会のイメージ② 従属論（56～59、158～159頁） 11 世界システム論（143～150、165頁） 12 まとめ 	

03年度以降 02年度 01年度以前	国際社会論 b 国際政治論 b 国際政治論 b	担当者	金子 芳樹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>国際社会で起こっている様々な問題を理解し、自らの「国際政治を見る眼」を養うことを目的とする。そのために、国際政治の基礎的な知識と分析枠組みの習得のみならず、他の学問分野（経済学、社会学、歴史学など）にも視野を広め、国際関係のダイナミクスを体系的に把握する力の育成に努める。</p> <p>講義では、現在、世界各地域で起きている幾つかの問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説し、国際関係論の基礎的理論の解説を織り交ぜながら国際関係の包括的理解を促す。今年の講義では、近年、変化の激しい中東、ヨーロッパ、東アジアの国際政治・経済をそれぞれシリーズとして取り上げ、各々の特徴を浮き彫りにする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末試験の成績を中心に評価を行う。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>長谷川雄一・高杉忠明編著『新版 現代の国際政治』（ミネルヴァ書房、2002年）ほか、適宜指摘する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概論：国際社会の捉え方 2. 中東の国際関係(1) 宗教と民族 3. 中東の国際関係(2) イスラムと政治 4. 中東の国際関係(3) パレスチナ問題の構造と展開 5. 中東の国際関係(4) イスラム・石油・テロ 6. ヨーロッパの国際関係(1) 社会主義体制とその崩壊(1) 7. ヨーロッパの国際関係(2) 主義体制とその崩壊(2) 8. ヨーロッパの国際関係(3) 社会主義体制とその崩壊(3) 9. ヨーロッパの国際関係(4) EUの展開と国民国家 10. 東アジアの国際関係(1) 朝鮮半島をめぐる対立と協調 11. 東アジアの国際関係(2) 中国の発展と地域の安定 12. 東アジアの国際関係(3) 東南アジアの統治と共生 <p>(テーマについては若干の変更があり得る。また、国際政治情勢の変化が起こった場合は適宜取り上げる)</p> <p>* 授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	

03年度以降 02年度 01年度以前	国際社会論 a 国際政治論 a 国際政治論 a	担当者	金子 芳樹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>国際社会で起こっている様々な問題を理解し、自らの「国際政治を見る眼」を養うことを目的とする。そのために、国際政治の基礎的な知識と分析枠組みの習得のみならず、他の学問分野（経済学、社会学、歴史学など）にも視野を広め、国際関係のダイナミクスを体系的に把握する力の育成に努める。</p> <p>講義では、現在、世界各地域で起きている幾つかの問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説し、国際関係論の基礎的理論の解説を織り交ぜながら国際関係の包括的理解を促す。今年の講義では、近年、変化の激しい中東、ヨーロッパ、東アジアの国際政治・経済をそれぞれシリーズとして取り上げ、各々の特徴を浮き彫りにする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末試験の成績を中心に評価を行う。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>長谷川雄一・高杉忠明編著『新版 現代の国際政治』（ミネルヴァ書房、2002年）ほか、適宜指摘する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概論：国際社会の捉え方 2. 中東の国際関係(1) 宗教と民族 3. 中東の国際関係(2) イスラムと政治 4. 中東の国際関係(3) パレスチナ問題の構造と展開 5. 中東の国際関係(4) イスラム・石油・テロ 6. ヨーロッパの国際関係(1) 社会主義体制とその崩壊(1) 7. ヨーロッパの国際関係(2) 主義体制とその崩壊(2) 8. ヨーロッパの国際関係(3) 社会主義体制とその崩壊(3) 9. ヨーロッパの国際関係(4) EUの展開と国民国家 10. 東アジアの国際関係(1) 朝鮮半島をめぐる対立と協調 11. 東アジアの国際関係(2) 中国の発展と地域の安定 12. 東アジアの国際関係(3) 東南アジアの統治と共生 <p>(テーマについては若干の変更があり得る。また、国際政治情勢の変化が起こった場合は適宜取り上げる)</p> <p>* 授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	

03年度以降 02年度 01年度以前	国際社会論 b 国際政治論 b 国際政治論 b	担当者	竹田 いさみ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義では、現代の国際社会を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理に例えれば、材料（問題）をどのように料理（分析）するかを、学びます。</p> <p>第1の目標は、国際社会を具体的に「見る眼」を養うことです。第2の目標は、リアリズム、相互依存論、従属論と呼ばれるモデルやアプローチを理解することで、これが料理の方法（分析枠組み）に相当します。</p> <p>講義では、国際社会の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて、国際関係を分析します。「情報」のフローよりストックを重視し、表面的な現象に眼をとらわれるのではなく、その下に潜む「構造」に関心を払います。</p> <p>授業の前半は、米国CNN、英国BBCなどで放映された最新の海外ニュースを紹介し、説明します。後半はテキストを解説します。</p> <p>受講生から英語による質問、コメントは大歓迎です。英語でお答えしたいと思います。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>中間試験と期末試験を基本とします。授業開始直後に、登録を確認する作業があります。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキスト：『国際政治講義資料集』</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 国際社会を見る眼（木、林、森） 登録確認作業を予定 3 利害の調整（政治とは何か） 無限の欲望と有限の世界（21～27頁） 権力+正統性=権威（47～48頁） 4 国際政治学の誕生：E.H.カー（7～11頁） 理論とは何か（物理学、経済学、政治学、文学） 5 国内政治と国際政治の相違①（49～50頁） 6 国内政治と国際政治の相違② 7 国際社会論①ホッブス、カント、グロチウス（52～54頁） 8 国際社会論②ホッブス、カント、グロチウス 9 国際社会のイメージ① 現実主義、相互依存（56～61頁） 10 国際社会のイメージ② 従属論（56～59、158～159頁） 11 世界システム論（143～150、165頁） 12 まとめ 	

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	国際関係史 a 国際関係史 a 国際関係史 a	担当者	八丁 由比
講義の目的 <p>本講義は、国際問題の歴史的考察を行う。「過去のできごと」としての歴史理解のみならず、現代の国際問題を考える上でも、歴史は一つの鍵となる視点である。授業では、英語学科の学生のために書かれた英文テキストや、英語メディア教材、英字新聞・雑誌などを用いて、国際関係史に関連する日本語・英語の基本的語彙を習得することも目指す。</p> 講義の概要 <p>講義毎に「なぜ～なのか？」という疑問を設け、それに答える形で講義を進める。</p> <p>国際情勢の変化に応じて、適宜時事問題との関連に言及する予定。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明・アンケート 2. The Emergence of Modern Europe and Other Regions/ The politics of Imperial Rivalries 3. The Outbreak of World I/ The Second Phase of World War I. 4. The World in Postwar Confusion/ The Return of Relative Stability/ The Collapse of the International Order 5. The Beginning of War in East Asia and in Europe/ World War II after Pearl Harbor 6. The Onset of the Cold War/ Turbulence in East Asia 7. The Post-Stalin USSR and East-West Relations/ The Retreat of Western European Imperialism 8. Vietnam and the Reorientation of American Foreign Policy 9. The Advanced Industrial World and the Challenge of OPEC 10. The End of the Cold War 11. International Relations in the Post-Cold War Era 12. まとめ <p>(テーマについては順序など、若干の変更がありうる)</p>	
◆ 評価方法 <p>出席状況、テスト、レポート (詳しくは初回の講義で説明)</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>テキスト： 有賀貞『近現代世界の国際関係史』(An International History of the Modern World) 研究社、2003 年。</p>			

03 年度以降 02 年度 01 年度以前	国際関係史 b 国際関係史 b 国際関係史 b	担当者	永野 隆行
◆講義目的、講義概要 <p>春学期で国際政治の歴史を概観したのに対して、秋学期では、より焦点を絞ってオセアニア地域の国際関係の展開を考えてみたい。</p> <p>特にその際、戦後のアジア太平洋地域の国際関係におけるオーストラリアの立場の変遷という問題意識を念頭におきながら、具体的には英帝国・英連邦諸国との関係の衰退、米豪関係の発展、アジア国家としてのオーストラリアの認識の高まりを見ていきたいと考えている。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス・イントロダクション(第1週) 2. 大英帝国の中のオーストラリア(第2・3週) 3. オーストラリア多文化主義と移民社会(第4週) 4. オーストラリア戦後政治の展開(第5・6週) 5. アジア太平洋地域の安全保障とオーストラリア(第7・8週) 6. アジア太平洋地域の経済・貿易とオーストラリア(第9・10週) 7. 日豪関係の展開(第11週) 8. 総括・質疑応答(第12週) 	
◆ 評価方法 <p>ブックレポート、ならびに学期末試験による評価。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>竹田いさみ・森健編『オーストラリア研究入門』(東京大学出版会、1998年)。</p>			

03年度以降	国際開発協力論 a	担当者	竹田 いさみ
02年度	国際開発協力論 a		
01年度以前	国際開発協力論 a		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>本講義では、英語圏の国際関係を、開発と協力という分野から考察します。オーストラリアの対アジア関係を手がかりに、先進国と発展途上国の関係を検討し、途上国が抱える問題点を受講生と共に考えたいと思います。問題意識としては、日本外交の座標軸が底流にあります。</p> <p>基本的に講義形式で授業を行います。希望者を募って研究発表を行う可能性もあります。この場合、発表者は期末レポートなどが免除されます。</p> <p>テキストを基本としつつも、授業では海外ニュース、ビデオ映像、海外の新聞・雑誌などを適宜取り上げ、メディアが報道する開発問題も解説します。</p> <p>海外ニュースとしては、最新の米国CNNニュース、英国BBCニュース、シンガポールCNAニュースなどを紹介し、解説します。</p> <p>授業の前半が海外ニュース解説で、後半がテキスト解説となります。受講生から英語での質問、コメントも大歓迎です。英語でお答えいたします。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 多文化ミドルパワー（序章、1章） 登録確認の作業を予定</p> <p>3 APEC（アジア太平洋経済協力会議） ケアンズ・グループ（6章3節）</p> <p>4 東チモール内戦・和平プロセス ハワード・ドクトリン（6章4節）</p> <p>5 カンボジア内戦の国際化（6章3節）</p> <p>6 カンボジア内戦 エバンス提案（6章3節）</p> <p>7 ベトナム難民（6章2節） UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）</p> <p>8 アジア系移民の受け入れ（6章2～3節）</p> <p>9 アジア系移民の歴史（2章）</p> <p>10 ミャンマー（ビルマ）関与（6章4節）</p> <p>11 北朝鮮関与（6章4節）</p> <p>12 まとめ</p>	
<p>中間テストと期末レポートを実施します。受講生の人数によって、評価方法を変更します。</p>			
◆テキスト、参考文献			
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』（中公新書、2000年）。			

03年度以降	国際開発協力論 b	担当者	金子 芳樹
02年度	国際開発協力論 b		
01年度以前	国際開発協力論 b		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>開発途上国における貧困と開発の実態を明らかにしたうえで、それら途上国に対する国際協力の現状と課題について検討する。</p> <p>講義は4つのシリーズから構成される。第1の「開発途上国の貧困」では、貧困の要因を多面的に捉え、第2の「開発途上国の開発」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付ける。第3の「日本の開発援助」では、日本のODAを具体例としながら先進国による開発援助の歴史と実態ならびにその問題点を検討し、最後の「開発協力の新展開」では、グローバル化時代の新たなトレンドを探りつつ、近年注目されるNGOと開発との関係について考察する。</p>		<p>1. イントロダクション：開発と国際協力とは？</p> <p>2. 開発途上国の貧困(1) 歴史的要因</p> <p>3. 開発途上国の貧困(2) 政治的要因</p> <p>4. 開発途上国の貧困(3) 開発の基本的パターン</p> <p>6. 開発途上国の開発(2) 途上国にとってのグローバリゼーション</p> <p>7. 日本の開発援助(1) ODAの仕組みとトレンド</p> <p>8. 日本の開発援助(2) 日本のODAの歴史的展開と特徴</p> <p>9. 日本の開発援助(3) 新たなテーマと課題</p> <p>10. 開発協力の新展開(1) グローバル化時代の国際協力</p> <p>11. 開発協力の新展開(2) NGOの機能と役割</p> <p>12. 開発協力の新展開(3) 開発とNGO：ケーススタディ</p> <p>(初回の授業でより詳細な授業計画を配布する)</p> <p>* なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	
◆評価方法			
学年末試験の成績を中心に評価を行う。			
◆テキスト、参考文献			
共通テキストは特に指定しない。授業ごとに主要参考文献を紹介する。			

02 年度 01 年度以前	国際関係論特殊講義 a 国際関係論特殊講義 a	担当者	永野 隆行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>第二次世界大戦後の国際政治の歴史についての講義である。 本講義では、戦後史をテーマ別に論じていきたい。ある特定のテーマ（視点）にしたがって戦後の歴史を眺めることで、一見すれば無関係の事象に新たな繋がりが生まれ、戦後国際関係の多様な面が浮かび上がってくるであろう。この講義を通じて、学生の皆さんが、過去を眺めるときの「歴史の視点」を学び取ってくれればと思っています。</p> <p>学期末試験による評価。</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業第一回目に文献リストを配布します</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション(第 1 週) 2. 米ソ冷戦と戦後国際関係(第 2・3 週) 3. 冷戦と脱植民地化(第 4・5 週) 4. 冷戦と核兵器(第 6・7 週) 5. 冷戦と経済(第 8・9 週) 6. 20 世紀の国際紛争(第 10・11 週) 7. 総括・質疑応答(第 12 週) <p>※必要に応じてビデオ教材を使用します。</p>	

02 年度 01 年度以前	国際関係論特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	永野 隆行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>最初の授業で説明します。</p> <p>◆ 評価方法 最初の授業で説明します。</p> <p>◆テキスト、参考文献 最初の授業で説明します。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>最初の授業で説明します。</p>	

02年度 01年度以前	国際関係論文献研究 a 国際関係論文献研究 a	担当者	阿部 純一
◆講義目的、講義概要 <p>英語文献を通じて、米ソ冷戦期からポスト冷戦の現在にかけて生じてきた国際関係の構造変化を検討する。</p> <p>米ソ冷戦が終結して十余年を経過した現在、政治・経済・軍事のあらゆる点でアメリカが突出した状況が定着しつつある。しかし、「9・11」テロとその後のアフガン戦争、イラク戦争で明らかになったことは、対テロ戦争の発動によって、アメリカのリーダーシップがヨーロッパや日本、中国、ロシアなどとの協調を必要としているという現実である。かかる状況を踏まえ、冷戦後の国際関係の構造変化をどう捉えるべきか、また現実に起きている国際関係の諸問題への対処の仕方がどう変化してきているか、等の問題について最新の文献をもとに議論する。</p>		◆授業計画 	
<p>成績は「授業への貢献」が評価の基準となる。授業への出席は最低条件。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>アメリカの外交専門誌記事、政府機関・シンクタンクのレポートなどをコピーし配布。</p>			

02年度 01年度以前	国際関係論文献研究 b 国際関係論文献研究 b	担当者	阿部 純一
◆講義目的、講義概要 <p>(国際関係論文献研究 a に同じ)</p>		◆授業計画 	
◆テキスト、参考文献 			

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 200px; width: 100%;"></div>			
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>			

02年度 01年度以前	国際関係論文献研究 b 国際関係論文献研究 b	担当者	竹田 いさみ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この授業では、以下の3つの目標が設定されています。第1の目標は、英語圏の国際関係を、テキスト、雑誌論文、評論などを手がかりに討論することです。</p> <p>第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>第3の目標としては、この授業は参加型であり、全員が積極的に発言する状況が生まれることです。</p> <p>基本的に授業は、英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。</p>		<p>受講生の人数が確定した段階で、プレゼンテーションのテーマを決め、発表者を順次決めていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 テーマごとのプレゼンテーションと討論 3 同上 4 同上 5 同上 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 同上 11 同上 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">出席状況、授業への貢献度、プレゼンテーションの準備などで評価します。</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Joseph Nye, Jr., <i>Understanding International Conflicts 4th ed.</i>, NY: Longman, 2003</div>			

03年度以降 02年度 01年度以前	特別セミナー(CAEL) 特別セミナー(CAEL) 特別セミナー(CAEL)	担当者	(半期)安井美代子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>ネットアカデミーというウェブ教材は(1) 語彙、(2) リーディング、(3) リスニング、(4)ライティングの4つからなる。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて、2ないし3レベルに分け、それぞれのレベルの応じて、週3時間以上の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のPCを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらう。但し、毎週水曜日の昼休み 12:30-13:00 に指定の教室に集まり、レベル毎の単語テストを受験してもらう。水曜日の予定は右の通り。単語テストの範囲は「講義支援システム」上でテスト前の日曜日までに公開する。</p> <p>受講対象は全学部2-4年生。3レベルに分ける場合、TOEIC600点以上、450点以上、350点以上の3レベルを設定する予定である。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は火曜日5限、水曜日3限、木曜日5限中央棟606にて対応する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明 2 ネットアカデミーの説明補足 3 第1回単語テスト 4 第2回単語テスト 5 第3回単語テスト 6 第4回単語テスト 7 第5回単語テスト 8 第6回単語テスト 9 第7回単語テスト 10 第8回単語テスト 11 第9回単語テスト 12 第10回単語テスト 	
◆評価方法			
<p>指定教材の学習修了が単位取得の必須要件である。A-Cの評価は10回の単語テストおよび定期試験による。上位のレベルほどAの割合を多くする。定期試験は、スタンダードコースのリーディング教材に準拠した問題50%、その他の問題5</p>			
◆テキスト、参考文献			
なし			

03年度以降 02年度 01年度以前	特別セミナー(CAEL) 特別セミナー(CAEL) 特別セミナー(CAEL)	担当者	(半期)安井美代子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>春学期と同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導 2 第11回単語テスト 3 第12回単語テスト 4 第13回単語テスト 5 第14回単語テスト 6 第15回単語テスト 7 第16回単語テスト 8 第17回単語テスト 9 第18回単語テスト 10 第19回単語テスト 11 第20回単語テスト 12 学習指導 	
◆評価方法			
春学期と同じ			
◆テキスト、参考文献			
なし			

2004年度

外国語学部共通科目シラバス

獨協大学

外国語学部共通科目 2003年度以降入学者用

目 次

◇ … 春学期開講科目
◆ … 秋学期開講科目

総合講座	◇ 若森榮樹	1
総合講座	◆ 若森榮樹	1
情報科学概論a	◇ 吳浩東	2
情報科学概論b	◆ 吳浩東	2
情報科学各論(入門)	◇ 各担当教員	3
情報科学各論(初級)「表計算入門」	◇・◆ 各担当教員	4
情報科学各論(初級)「プレゼンテーション」	◇・◆ 金井満	5
情報科学各論(初級)「HTML入門」	◇・◆ 各担当教員	6
情報科学各論(中級)「表計算応用1」	◇・◆ 松山恵美子	7
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◇ 東孝博	8
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◆ 金子憲一	9
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◆ 田中雅英	10
情報科学各論(中級)「HTML応用2」	◆ 東孝博	11
情報科学各論(中級)「データベース1」	◇ 長崎等	12
情報科学各論(中級)「データベース1」	◆ 松山恵美子	13
情報科学各論(中級)「データベース2」	◆ 長崎等	12
情報科学各論(中級)「プログラミング論1」	◇ 吳浩東	14
情報科学各論(中級)「プログラミング論2」	◆ 吳浩東	14
経済原論a	◇ 阿部正浩	15
経済原論b	◆ 阿部正浩	15
社会心理学a	◇ 田口正徳	16
社会心理学b	◆ 田口正徳	16

03年度以降 02年度以前	総合講座 総合講座 B	担当者	若森栄樹
<p>◆講義目標</p> <p>日本で「現代思想」と呼ばれている、現代ヨーロッパのもっとも先鋭的な思想への入門的な講座です。特に言語と思想のかかわりを中心に、ソシユールやフロイトから始まり、さまざまな思想家の世界に触れていきます。</p> <p>担当の先生はテーマに従って変わります。その分野の専門の先生が直接授業をされるので、現代思想に興味のある学生諸君にはぜひ聴講いていただきたいと思ひます。</p> <p>◆講義概要</p> <p>いわゆる「現代思想」全体に対して、大まかな展望を与える講座となっています。具体的には、精神分析や言語学、そして構造主義およびポスト構造主義の哲学を解説し、理解していくことが目的です。最近日本では現代思想など「軽薄」で、どうでもよいと考え、そう公言する人が専門家のなかにもいますが、それは間違いで、多くの学ぶべきことがそこにはあります。</p> <p>難解とされる現代思想が実は私たちの現実と深くかかわっていることを理解していただければと思ひます。</p> <p>さらに詳しい授業内容および担当者についての説明を用意しています。興味のある方は教務課まで申し出てください。</p> <p>◆受講生への要望</p> <p>単に知識を得るためではなく、自分でものを考え、自分で判断するためにこそ、私たちはものを学ぶのだということを忘れないこと。 本を読むのをいとわないこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>最初の授業の際指示します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>各担当の先生から指示があります。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>春学期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (若森栄樹) 2. 講座全体へのイントロダクション (若森栄樹) 3. ソシユールの言語学 (渡沼英二) 4. フロイトの精神分析学 1. (大原知子) 5. フロイトの精神分析学 2. (大原知子) 6. ジョルジュ・バタイユ (岩野卓司) 7. ワルター・ベンヤミン (工藤達也) 8. ジャック・デリダと脱構築 (若森栄樹) 9. ミシェル・フーコー (桑田禮彰) 10. アドルノと否定の弁証法 (船戸満之) 11. フランクフルト学派の諸相 (船戸満之) 12. 現代における詩人 (吉田文憲) <p>秋学期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後期ガイダンス (若森栄樹) および現代フェミニズム 1. (井上たか子) 2. 現代フェミニズム 2. (井上たか子) 3. ソシユールの言語理論 (渡沼英二) 4. 精神分析の現在——ジャック・ラカン (大原知子) 5. 精神分析の現在——クライン、クリステヴァ (大原知子) 6. コジェーヴ、ラカンと日本 (若森栄樹) 7. ミシェル・フーコー (桑田禮彰) 8. ワルター・ベンヤミン (工藤達也) 9. アドルノと「ホロコースト」 (船戸満之) 10. フランクフルト学派 (船戸満之) 11. 現代思想の諸問題—まとめ (若森栄樹) 12. 詩とは何か? (吉田文憲) 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学概論 a 情報科学概論	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義では、文系学生のための情報科学とコンピュータリテラシーから着目し、コンピュータの歴史と仕組み、情報のデジタル化・マルチメディア化、コンピュータによるデータの表現や、コンピュータの原理を紹介する。本講義はコンピュータのソフトの使い方ではなく、情報に関する知識を身につく方や情報関係資格を目指している方に役を立つように工夫している。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムとの関係を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、コンピュータ内のデータ表現、プログラム構造、ソフトウェアの開発の手法について述べる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>・レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料を配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標 2 情報とは何か 情報の性質、情報の形態、情報の発達 3 コンピュータの歴史と特徴 計算機の変遷とコンピュータの世代論 4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換、2進数の演算 5 コンピュータの論理回路とデータ表現 6 コンピュータの構成要素(1) 中央処理装置(CPU)とメインメモリ 7 コンピュータの構成要素(2) 2次記憶装置と周辺措置 8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類 9 オペレーティングシステム(OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理 10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 11 基本データ構造 配列構造、木構造、リスト構造、スタック構造 12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学概論 b 情報科学概論	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>・レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料を配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ファイルの構造 ファイルの種類と構造 2 データベース データベースの概要、データベースの種類 3 データベース管理システム(DBMS) DBMSの目的と構成 4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式、サーバー・クライアントモデル 6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約TCP/IP、IPアドレス、DNS 7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8 インターネットと社会 ネットワークセキュリティ、暗号システム、電子認証 9 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10 情報検索 情報検索の方法と演習 11 オンライン・ソフトウェア オンライン・ソフトウェアの使い方と使用 12 まとめ 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(入門) コンピュータ入門	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p>注意</p> <p>第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト</p> <p>『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション 3 日本語入力とタイピング 4 インターネット—ブラウザ・メール・検索 5 情報倫理 6 ワードプロセッサとは 7 文書の作成(1) 8 文書の作成(2) 9 文書の作成(3) 10 文書への画像の挿入 11 レポートの作成 12 総合演習 		

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級-表計算入門) 情報科学各論(初級-表計算入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法 授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト 『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用(1) 7 関数の利用(2) 8 関数の利用(3) 9 プレゼンテーション(1) —作成(MS-Powerpointとは) 10 プレゼンテーション(2) —作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3) —発表 12 総合演習 		

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級-表計算入門) 情報科学各論(初級-表計算入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法 授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト 『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用(1) 7 関数の利用(2) 8 関数の利用(3) 9 プレゼンテーション(1) —作成(MS-Powerpointとは) 10 プレゼンテーション(2) —作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3) —発表 12 総合演習 		

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（初級—プレゼンテーション） 情報科学各論（初級—プレゼンテーション）	担当者	金井満
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標： この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p> <p>◆ 評価方法 授業内での個人プレゼンテーション。</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業で指示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. Powerpoint の基本操作 4 6. Powerpoint の基本操作 5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（初級—プレゼンテーション） 情報科学各論（初級—プレゼンテーション）	担当者	金井満
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標： この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p> <p>◆ 評価方法 授業内での個人プレゼンテーション。</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業で指示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. Powerpoint の基本操作 4 6. Powerpoint の基本操作 5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級－HTML 入門) 情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト</p> <p>『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW と LAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 		

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級－HTML 入門) 情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト</p> <p>『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW と LAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 		

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（中級—表計算応用1） 情報科学各論（中級—表計算応用1）	担当者	松山恵美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel に用意されている機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程で、計算式、関数、書式設定など同じ一連の操作を何度か繰り返す必要が出てくる場合がある。「マクロ」機能とは、そのような一連の操作を登録することで、次回からは登録した「マクロ」を呼び出し実行させるというものである。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で作成されたVBA(Visual Basic for Application)プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>ツールバー上のボタンを利用すると、処理が行われるが、それと同じようなボタンを自分自身で作成できるということを「マクロ」機能を通じて学習する。</p> <p>——（重要）——</p> <p>定員は30名とする。希望者が30名以上の場合は抽選を行う。必ず第1回目の授業に出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席と課題作成。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>第1回目の授業で指示する。必ず出席すること。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成（1） 4 関数と計算式を使ったマクロの作成（2） 5 マクロ用ボタンとマクロの連携（1） 6 第1回目課題作成 7 Visual Basic Editor の利用（1） 8 Visual Basic Editor の利用（2） 9 第2回目課題作成 10 最終課題作成（1） 11 最終課題作成（2） 12 最終課題作成（3） 	

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（中級—表計算応用1） 情報科学各論（中級—表計算応用1）	担当者	松山恵美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel に用意されている機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程で、計算式、関数、書式設定など同じ一連の操作を何度か繰り返す必要が出てくる場合がある。「マクロ」機能とは、そのような一連の操作を登録することで、次回からは登録した「マクロ」を呼び出し実行させるというものである。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で作成されたVBA(Visual Basic for Application)プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>ツールバー上のボタンを利用すると、処理が行われるが、それと同じようなボタンを自分自身で作成できるということを「マクロ」機能を通じて学習する。</p> <p>——（重要）——</p> <p>定員は30名とする。希望者が30名以上の場合は抽選を行う。必ず第1回目の授業に出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席と課題作成。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>第1回目の授業で指示する。必ず出席すること。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成（1） 4 関数と計算式を使ったマクロの作成（2） 5 マクロ用ボタンとマクロの連携（1） 6 第1回目課題作成 7 Visual Basic Editor の利用（1） 8 Visual Basic Editor の利用（2） 9 第2回目課題作成 10 最終課題作成（1） 11 最終課題作成（2） 12 最終課題作成（3） 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(中級－HTML 応用 1) 情報科学各論(中級－HTML 応用 1)	担当者	東 孝博
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語とされている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。</p> <p>最初に、簡単なCGIの利用とJavaスクリプトの埋め込みを通して、HTMLによるWebページ作りの復習をする。次に、Javaアプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文などと、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。</p> <p>注意</p> <p>情報科学各論(初級)「HTML 入門」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p> <p>◆評価方法</p> <p>日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。</p> <p>◆テキスト</p> <p>プリントを配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容説明 2 HTML の復習 (簡単な CGI の利用) 3 HTML の復習 (Java スクリプトの埋め込み) 4 Java アプレットの概要 5 プログラム練習 (グラフィックスイメージの表示) 6 プログラム練習 (定数と変数) 7 プログラム練習 (for 文 1) 8 プログラム練習 (for 文 2) 9 プログラム練習 (if 文) 10 プログラム練習 (配列) 11 プログラム練習 (Math オブジェクト) 12 総合演習 	

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（中級－HTML応用1） 情報科学各論（中級－HTML応用1）	担当者	金子憲一
◆ 講義目的、講義概要		◆ 授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTMLとFTPの復習（1） 3 HTMLとFTPの復習（2） 4 インタラクティブなページ（HTMLとCGI） 5 CUIとGUI 6 JavaScript（1） 7 JavaScript（2） 8 JavaScript（3） 9 JavaScript（4） 10 CGIの利用（1） 11 CGIの利用（2） 12 総合報告会 	
◆ 評価方法			
課題と平常点（宿題含む）で総合評価する。出席は重視する。最低限のルール（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。			
◆ テキスト、参考文献			
授業中に指示する。 プリントの配布も行う。			

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級－HTML 応用 1）	担当者	田中 雅英
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML 入門」に続く中級コースである。HTML 入門を受講済みの学生を対象に、単に HTML 言語の更なる発展を目指すのではなく、CGI や Java Script にまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を深め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なお、この授業計画はあくまで一つの目安であり、途中で更なる発展を目指す変更は当然ありえる。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと復習 2. Web ページのネットへのアップロード等 3. Java Script 1 4. Java Script 2 5. Java Script 3 6. Java Script 4 7. CGI 1 8. CGI 2 9. 情報の収集 1 10. 情報の収集 2 11. 応用 12. その他 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>授業中に指示する課題と平常点で評価する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>授業中に適宜指示する。</p>			

03年度以降 02年度以前	情報科学各論(中級－HTML 応用 2) 情報科学各論(中級－HTML 応用 2)	担当者	東 孝博
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。</p> <p>最初に、Javaの基本構造を説明する。続いて、マウスやキーに対するイベント処理、ボタン等のGUI 部品の使用、スレッド機能を利用したリアルタイム処理を通してJavaアプレットへの理解を深める。</p> <p>注意 情報科学各論(中級)「HTML 応用 1」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p> <p>◆評価方法 日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。</p> <p>◆テキスト プリントを配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Java の基本構造 2 イベント処理 (マウスイベント 1) 3 イベント処理 (マウスイベント 2) 4 イベント処理 (キーイベント 1) 5 イベント処理 (キーイベント 2) 6 GUI 部品の使用 (ボタン・チェックボックス) 7 GUI 部品の使用 (選択ボックス・スクロールバー) 8 GUI 部品の使用 (GUI 部品のレイアウト) 9 スレッドの利用 (イメージの移動) 10 スレッドの利用 (色の変化・時計) 11 スレッドの利用 (スレッドを利用したゲーム) 12 総合演習 	

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（中級－データベース1） 情報科学各論（中級－データベース1）	担当者	長崎 等
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフトウェア（Excel）の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの1 つとしてデータベースがある。</p> <p>データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p><受講者への要望></p> <p>情報科学各論（初級－表計算入門）を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>1 回目の授業で指示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習 2 データベースについての調査 3 データベースの基本概念 4 並べ替え 5 集計 6 レコードの抽出 7 条件検索 1 8 条件検索 2 9 データベース関数 10 クロス集計とピボットテーブル 11 まとめ 12 実習試験 	

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（中級－データベース2） 情報科学各論（中級－データベース2）	担当者	長崎 等
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は「データベース1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、グループごとに与えられた要求をもとにデータベースの設計及び作成をおこなってもらい、グループ単位での演習を通じて、データベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望></p> <p>情報科学各論（中級）「データベース1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席及びレポート課題によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>30H で理解できるアクセス 2000 , 実教出版 図解雑学データベース, ナツメ出版</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 データベースの概念と機能 2 Access の基本操作 3 テーブル 4 テーブルと結合 5 クエリー (1) 6 クエリー (2) 7 グループによるテーブル設計 1 (ハイレベルエンティティ分析) 8 グループによるテーブル設計 2 (関係データ分析) 9 グループによるテーブル設計 3 (テーブル作成) 10 グループによるクエリ設計 1 (外部スキーマの設計) 11 グループによるクエリ設計 1 (クエリの作成) 12 グループによるプレゼンテーション 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—データベース1） 情報科学各論（中級—データベース1）	担当者	松山恵美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものである。データには数値データと文字データがあるが、Excel ではそのどちらも同じように扱うことができる。膨大な量の情報のなかから、自分が必要とするデータを的確に抽出するには、数値データと文字データ両方の処理知識が必要となる。</p> <p>ネット上からデータをダウンロードし、データベースの形式に加工する方法、情報をデータベース機能を利用して処理する方法などを取得することを目標とする。</p> <p>授業の後半では、自分自身でデータベースを構築し、加工、分析、まとめ（発表）という一連の過程を行う。その過程からデータベースの基本的な概念を学習する。</p> <p>——（重要）——</p> <p>定員は30名とする。30名を超える場合には抽選とする。第1回目の授業で行うので、必ず出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席およびレポート課題。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>「Windows による情報活用」 共立出版</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスおよび Excel の復習 2 データベースとは—データの配布 3 並べ替え機能と集計 4 レコードの抽出と検索 5 第1回目課題作成 6 クロス集計（1） 7 クロス集計（2） 8 第2回目課題作成 9 データベースの構築（1） 10 データベースの構築（2）、最終課題作成（1） 11 最終課題作成（2） 12 最終課題作成（3） 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—プログラミング論 1） 情報科学各論（中級—プログラミング論 1）	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼びます。本講義では、プログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにします。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指します。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行います。</p> <p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。 <p>◆テキスト、参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料をファイルで配布する。 		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2 プログラミング言語の発展史 3 開発ツールとしての Visual Basic の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4 Visual Basic の基本操作 コントロール配置、プロパティ設定、コーディング 5 簡単なプログラムの作成 プログラム開発の流れ、プログラムの動作を確認する 6 基本的コントロール 7 オブジェクトと変数 8 選択構造をもつプログラム（1） 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9 選択構造をもつプログラム（2） 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10 繰り返しあるプログラムの作成（1） 11 繰り返しあるプログラムの作成（2） 12 総合練習 アプリケーションの試作 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—プログラミング論 2） 情報科学各論（中級—プログラミング論 2）	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポートの提出および出席状況を加味して評価する。 <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>必要な資料をファイルで配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前期の復習 2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3 ファイル操作（1） シーケンシャルアクセス：データの読み書き 4 ファイル操作（2） ランダムファイルとランダムアクセス 5 個人情報データベースの設計 6 コントロールの活用 7 応用的なテクニック 8 探索 二分探索、併合、逐次探索 9 ソート 選択ソート、挿入ソート 10 文字列の処理 文字列の照合と置き換え 11 再帰というプログラミング手法 12 さまざまなグラフィックスの処理 	

03 年度以降 02 年度以前	経済原論 a 経済原論	担当者	阿部 正浩
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 「経済学の考え方」とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。</p> <p>講義概要 テキストのないように沿って講義は行う。なお、ほとんど毎回課題を課すので、それを自習し、提出すること。詳細については初回の講義で説明する。</p> <p>◆ 評価方法 課題提出および期末テストの成績による</p> <p>◆テキスト、参考文献 「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 経済学の考え方 3. 取引と貿易 4. 需要と供給と価格 5. 予備日 6. 需要・供給分析の応用（その1） 7. 需要・供給分析の応用（その2） 8. 時間とリスク（その1） 9. 時間とリスク（その2） 10. 公共部門（その1） 11. 公共部門（その2） 12. 予備日 	

03 年度以降 02 年度以前	経済原論 b 経済原論	担当者	阿部 正浩
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上</p> <p>◆ 評価方法 *課題提出および期末テストの成績による</p> <p>◆テキスト、参考文献 「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. GNP とは（その1） 3. GNP とは（その2） 4. マクロ経済学と完全雇用（その1） 5. マクロ経済学と完全雇用（その2） 6. 経済成長（その1） 7. 経済成長（その2） 8. 失業と総需要（その1） 9. 失業と総需要（その2） 10. インフレーション（その1） 11. インフレーション（その2） 12. 予備日 	

03 年度以降 02 年度以前	社会心理学 a 社会心理学 (通年)	担当者	田口 雅徳
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>社会心理学とは、社会と個人の関わりという観点から、社会における個人の認知や行動を研究する学問である。個人の行動や認知過程は少なからず、個人をとりまく他者、環境、文化などに影響される。本講義では、こうした点を近年の研究動向を踏まえて概説していく。年間を通じての講義の概要は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会心理学とは 2. 行動の社会化と発達 3. 集団と個人の行動 4. 環境と人間の認知・行動 5. 他者認知と自己認知 6. 現代社会と個人の行動 <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、学期末の試験により評価をおこなう。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 社会心理学とは？ 3. 社会的行動の発達① 4. 社会的行動の発達② 5. 社会的行動の発達③ 6. 社会的行動の発達④ 7. 集団と個人の行動① 8. 集団と個人の行動② 9. 集団と個人の行動③ 10. 集団と個人の行動④ 11. 対人関係の心理① 12. 対人関係の心理② 	

03 年度以降 02 年度以前	社会心理学 b 社会心理学	担当者	田口 雅徳
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的および講義概要は上記を参照。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、学期末の試験により評価をおこなう。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的環境と人間の心理① 2. 社会的環境と人間の心理② 3. 文化と人間の行動① 4. 文化と人間の行動② 5. 文化と人間の行動③ 6. 文化と人間の行動④ 7. 社会的認知① 8. 社会的認知② 9. 社会的認知③ 10. 社会的認知④ 11. 現代社会と心理① 12. 現代社会と心理② 	